TOYO EIWA UNIVERSITY

履修の手引き

（2026年度入学生用）

東洋英和女学院大学

履修の手引き

［２０２６年度入学生用］

東洋英和女学院大学

目　　次

東洋英和女学院大学　個人情報保護基本方針 …… 1
学籍について …… 3
修業年限と在学年限／進級／留学／休学／長期欠席／復学／転科／コース制／卒業／
卒業者発表／卒業延期制度／９月卒業／３月卒業／退学／除籍／アドバイザー／氏名表記について

履修について …… 11
１．カリキュラムの仕組み …… 13
２．単位制度 …… 13
単位の数え方／単位の認定
３．授業 …… 14
授業時間／時間割について／授業科目の種別／集中講義／休講／
特殊な事情で休校となる場合について／授業欠席／補講
４．e-pass …… 17
アドレス／ログイン／トップページ／大学から発信するお知らせ／メニュー機能／クラスプロファイル／
メールの設定方法／e-pass 利用時の注意点
５．履修登録 …… 24
履修登録／履修登録申請上の注意点／履修登録申請期間中の出席について／履修科目開講表の見かた／
卒業見込証明書の発行／オンデマンド科目履修時の注意点／再履修／同一授業科目の再履修／
履修登録上限単位数について／履修登録上限単位数を超えて登録できる科目／履修中止について
６．試験 …… 29
学生証の提示／試験の種類／受験資格／受験上の注意／不正行為／定期試験／追試験／レポート
７．成績 …… 32
成績評価および GPA 制度／成績照会画面・成績証明書への表示／
成績評価のガイドライン／成績照会／成績に関する確認について

学部共通科目 …… 35
キリスト教基礎科目／フレッシュマン・セミナー／ライフデザイン・ウェルネス科目／
情報メディア科目／コミュニケーションスキルズ科目／共通教養科目／
アクティブ・ラーニング科目／教養科目（オープン科目）／共通資格科目

学科別カリキュラム …… 49
総合心理学科 …… 51
学科の概要／コース分け
・臨床心理コース …… 52
コースの特長／卒業に必要な単位／学部共通科目／学科専門科目／自由選択科目／海外留学認定科目／
カリキュラム表／取得できる資格／時間割の作り方／履修モデル
・発達・教育心理コース …… 66
コースの特長／卒業に必要な単位／学部共通科目／学科専門科目／自由選択科目／海外留学認定科目／
カリキュラム表／取得できる資格／時間割の作り方／履修モデル
・文化・社会・心理コース …… 80
コースの特長／卒業に必要な単位／学部共通科目／学科専門科目／自由選択科目／海外留学認定科目／
カリキュラム表／取得できる資格／時間割の作り方／履修モデル

子ども教育学科 ····· 95
学科の概要／コース分け／コースの特長／幼免・保育士課程履修について／卒業に必要な単位／学部共通科目／学科専門科目／自由選択科目／海外留学認定科目／カリキュラム表／取得できる資格／時間割の作り方／履修モデル
国際学科 ····· 111
学科の概要／コース分け
・国際コミュニケーションコース ····· 112
コースの特長／卒業に必要な単位／学部共通科目／学科専門科目／自由選択科目／海外留学認定科目／検定チャレンジ／カリキュラム表／取得できる資格／時間割の作り方／履修モデル
・多文化社会コース ····· 127
コースの特長／卒業に必要な単位／学部共通科目／学科専門科目／自由選択科目／海外留学認定科目／検定チャレンジ／カリキュラム表／取得できる資格／時間割の作り方／履修モデル
・国際協力コース ····· 142
コースの特長／卒業に必要な単位／学部共通科目／学科専門科目／自由選択科目／海外留学認定科目／検定チャレンジ／カリキュラム表／取得できる資格／時間割の作り方／履修モデル

領域横断プログラム ····· 157
・領域横断プログラムについて ····· 159

資格課程 ····· 163
1．資格課程の登録について ····· 165
2．幼稚園教諭一種免許課程（子ども教育学科） ····· 166
3．保育士資格課程（子ども教育学科） ····· 173
4．中学校・高等学校教諭一種免許課程（総合心理学科/国際学科） ····· 182
5．学芸員資格課程（総合心理学科/子ども教育学科/国際学科） ····· 193
6．司書資格課程（総合心理学科/子ども教育学科/国際学科） ····· 196
7．社会調査士資格（総合心理学科/子ども教育学科/国際学科） ····· 199
8．認定心理士資格（総合心理学科/子ども教育学科/国際学科） ····· 200
9．公認心理師資格（総合心理学科） ····· 201
10．准学校心理士資格（総合心理学科/子ども教育学科/国際学科） ····· 204
11．社会福祉主事任用資格（総合心理学科/子ども教育学科/国際学科） ····· 206
12．日本語教育基礎課程 ····· 207
（「登録日本語教員」試験準備課程）（総合心理学科/子ども教育学科/国際学科））

海外留学・研修について ····· 211
1．全学対象の留学制度 ····· 213
留学制度について／単位認定について／学納金および奨学金について
2．海外英語実習 ····· 214
3．国際学科の留学 ····· 215

単位互換制度 ····· 217
・単位互換制度について ····· 219
横浜市内大学間単位互換制度とは／出願手続きについて／単位互換履修生の取扱い
単位の認定について／注意事項

東洋英和女学院大学　個人情報保護基本方針

１．本学は、個人情報保護に取り組むに当たり、個人情報保護が人間に普遍的に保障されている基本的人権と同等な基本的権利であることを認識し、関連法令に従って、個人情報の適正な収集、利用、保存及び管理に努めます。

２．本学は、個人情報保護の重要性を認識し、個人情報の取り扱いに伴う本人の権利の侵害を防止するため、規定類の策定、組織の整備、研修会等、啓発活動の実施に努めます。

３．本学が行う個人情報の収集は、大学の教育研究活動及び大学運営の円滑な遂行に資する範囲に限りこれを行うこととします。

４．本学が個人情報を使用する業務を学外に委託する場合は、厳正な契約に基づき、個人情報の適正な取り扱いについて、委託業者が講ずべき措置を明確にするとともに、本学が求める個人情報の保護に関する処置の遵守を求めることとします。

５．本学は、個人情報を含む情報資産が、外部からの不正な攻撃による改竄、破壊、漏洩されることがないよう努めます。

学籍について

学　　籍

修業年限と在学年限

修業年限とは、本学の教育課程を修了するために必要な期間を言います。これに対して在学年限とは、本学において学生として在学できる期間のことです。本学では修業年限は４年、在学年限は８年と定められています。

編入学、再入学により入学した学生の在学すべき年数は、教授会の議を経て学部長が定めます。この年数の２倍に相当する年数を超えて在学することはできません。

進　級

本学では、セメスター制をとっているため、半期を２回修了し合計１年間の修業期間を終えた段階で次の学年に進級します。

留　学

本学の留学制度〔協定校留学・推薦校留学・認定校留学〕により、学長の許可を得て留学した期間は、在学期間に含めることができます。詳細は国際交流センターに問い合わせてください。

休　学

病気その他やむを得ない事由により引き続き３ヵ月以上修学できない場合、前期または後期の終わりまで休学することができます。休学を希望する者は、その理由を詳しく記入した学生支援課所定の休学願を提出してください。

（１）休学の期間は、１年以内とします。ただし、特別の理由がある場合は、１年を限度として延長することが出来ます。

（２）休学は、通算して４年を超えることができません。

（３）休学期間は、修業年限及び在学年限に算入されません。（休学すると、休学期間に応じて進級や卒業が半期単位で延びます。）

（４）休学期間の在籍料について

休学期間は在籍料を徴収します。必ず納入期限までに当該学期に納入すべき在籍料を全額納入してください。

《休学願届出期間について》

休学を希望する場合は、休学願を下記の期限までに学生支援課へ提出してください。

休学期間	休学願提出期限
当年度後期（または後期から１年間）休学	８月下旬
翌年度前期（または前期から１年間）休学	３月中旬

※詳細な日程は「別冊履修の手引き」または e-pass リンク欄の「【大学】願書類・届書類の提出期限」を参照してください。

長期欠席

欠席の期間が**１ヵ月以上、３ヵ月以内**の場合は、欠席の事由が発生したら速やかに、長期欠席届を学生支援課に提出してください。長期欠席届は、学生支援課にあります。この届は、欠席が出席扱いになるものではなく、欠席の理由を明らかにするためのものです。なお、欠席の理由が病気やケガの場合は、診断書を添付してください。

復　学

休学した者が復学を希望するときは、休学期間満了前に学生支援課所定の復学願を提出してください。

転科

本学に在籍する学生が他学科への転科を希望したときは、教育に支障のない限り、教授会の議を経てこれを許可します。

（1）転科は、願い出により、１年次または２年次修了時に、選考のうえ認めます。

（2）転科の可否は、当該学生の申請書類の審査のほか、入学試験成績、在学中の成績及び転科試験（面接・筆記）等を考慮して、総合的に判定を行います。

詳細は学生支援課に問い合わせてください。

転科のスケジュール（予定）

※希望者は、まず早めにアドバイザーに相談してください

10月～11月中旬　公示（詳細を e-pass に掲示します）

１月初旬　願書締切（学生支援課に提出します）

２月中旬　試験（面接。必要な場合は筆記試験も行うことがあります）

３月上旬　結果発表

コース制

本学では専門的な学びを深める３つの学科に、それぞれコースを設けています。コースごとに目指す方向性やカリキュラムを明確化して、学びの目的を持ち、自分の将来像をイメージしながら進路選択することができます。

（1）コースの登録は、１年次後期に所定の方法により申込みを行い、２年次からコース制が始まります。

（2）コースの変更は、２年次及び３年次後期に希望を受け付け、その翌年度からコースが変更になります。

詳細は各学科または学生支援課に問い合わせてください。

コース制スケジュール（予定）

１年次後期	希望コース申請
２年次前期～	コース制スタート
２年次・３年次12月中	コース変更申請（希望者のみ。必要に応じて面接を実施します）
※コース変更希望者は、早めにアドバイザーに相談してください	
２年次・３年次 1月中	コース変更結果発表
翌年度以降	新コース制スタート（希望者のみ）

卒　業

４年以上在学（２、３年次編入生を除く）し、卒業に必要な授業科目について必要数の単位を修得した者には、卒業を認め、卒業証書・学位記を授与します。

学　位

卒業の認定を得た者には、次の学士号が与えられます。

人間社会学部	総合心理学科　学士（人間科学）
	子ども教育学科　学士（子ども教育学）
	国　際　学　科　学士（国際学）

卒業者発表

卒業が認められた者の学籍番号を掲示によって発表します。

○卒業者発表日：「別冊履修の手引き」または e-pass リンク欄の「【大学】学事暦」を参照してください。

○掲示方法：e-pass

※卒業に支障がある者については、本人及び保護者宛に通知文書を送付します。

卒業延期制度

卒業要件を満たす学生が明確な目的を持ち、引き続き在学を希望する場合に、卒業を延期し、在学を認める制度です。卒業延期を希望する学生は、「卒業延期願」（学生支援課にあります）を学生支援課に提出してください。なお、卒業延期を許可された者（以下、「卒業延期者」という）が卒業延期を取り消す場合は、「卒業延期取消願」を学生支援課に提出してください。

（１）対象学生

①学則第42条に定める卒業資格を有する者

②学則第19条に定める在学年限を超えない者

③授業料等納付金を滞納していない者

（２）延期期間

①原則として１年とする

②引き続き延期を希望する場合は、２回を限度とする

（３）授業料等

学則第58条に基づき、授業料及び教育充実費の２分の１を減額する

＊各学期、減額後の金額を期限までに納入してください。

（４－１）届出期間（**対象：３月卒業見込者**）

① 「卒業延期願」　提出期間：「別冊履修の手引き」または e-pass リンク欄の「【大学】願書類・届書類の提出期限」を参照してください。
卒業延期を許可された者に対しては、卒業延期許可通知を３月初旬に発送します。

② 「卒業延期取消願」　提出期限：「別冊履修の手引き」または e-pass リンク欄の「【大学】願書類・届書類の提出期限」を参照してください。

（４－２）届出期間（**対象：９月卒業見込者・半期休学した学生**）

① 「卒業延期願」　提出期間：「別冊履修の手引き」または e-pass リンク欄の「【大学】願書類・届書類の提出期限」を参照してください。
卒業延期を許可された者に対しては、卒業延期許可通知を９月中旬に発送します。

② 「卒業延期取消願」　提出期限：「別冊履修の手引き」または e-pass リンク欄の「【大学】願書類・届書類の提出期限」を参照してください。

（５－１）授業料等納付期限（**３月卒業延期希望者**）：**４月初旬**

（５－２）授業料等納付期限（**９月卒業延期希望者**）：**10月初旬**

＊卒業延期者が延期期間の授業料等の納付金を所定の期限までに納付しなかった場合は、卒業延期を取り消し、本来卒業すべき年度の卒業となります。

（６）その他

①卒業延期者は、各学科の認める範囲内で授業科目を履修することができます。

②卒業延期期間中は、休学を認めません。

③卒業延期期間中は、本学の留学制度に基づく留学を認めます。

④卒業延期者の卒業時期は、延期後の年度の卒業とします。ただし、半期での卒業を希望する者については、所定の手続きにより、半期での卒業が認められます。

９月卒業

年度末に卒業の認定を得られなかった者が、次年度前期に卒業に必要な単位を修得した場合、前期末の９月に卒業することができます。９月卒業を希望する者は、**年度当初に「９月卒業届」（学生支援課にあります）を提出してください。**

９月卒業の認定を得た者には、９月中旬までにその旨を通知します。なお、学位授与式は、９月中旬に行います。詳細は該当者にお知らせします。

３月卒業（半期休学した学生対象）

半期休学に伴い９月卒業を予定しており、前期末に卒業の認定を得られなかった者が、当年度後期に卒業に必要な単位を修得した場合、年度末の３月に卒業することができます。３月卒業を希望する者は、**「３月卒業届」（学生支援課にあります）を提出してください。**

３月卒業の認定を得た者には、学籍番号の掲示によって発表します。

○提出期限および卒業者氏名発表日：「別冊履修の手引き」または e-pass リンク欄の「【大学】願書類・届書類の提出期限」を参照してください。

退　学

病気その他やむを得ない事由のため退学しようとする者は、その理由を記した学生支援課所定の退学願を学生証とともに提出してください。

なお、**退学を願い出る者は、当該学期分までの学費を納付しなければ退学は認められません。**

退学を希望する学生は、必ず下記の期限までに退学願を学生支援課に提出してください。

《退学願届出期間について》

退　学　日	退学願提出期限
前期退学	８月下旬
後期退学	３月中旬

※詳細な日程は「別冊履修の手引き」または e-pass リンク欄の「【大学】願書類・届書類の提出期限」を参照してください。

その他次の事項のいずれかに該当する者は、本学学則に基づき退学を命じられます。

① 性行不良で改善の見込みがない者
② 正当な理由がなくて出席常でない者
③ 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

除　籍

次の事項のいずれかに該当する者は、本学学則に基づき除籍されます。

（１）学費の滞納が１学期以上に及び督促してもなお納付しない者
（２）在学年限を超えた者
（３）休学期間通算４年を超えてもなお修学することができない者
（４）長期間にわたって行方不明の者

休学・復学・転科・卒業延期・退学をしようとする者は、所定の願い出に必要事項を記入の上、アドバイザーの捺印を得たのち、学生支援課に提出してください。

アドバイザー

本学では、アドバイザー制をとっています。アドバイザー制とは、履修と学習に関するさまざまな問題についてアドバイザー（原則として本学専任の教員）に相談し、指導・助言を受けることができる制度です。アドバイザーは、各学年のゼミナール担当教員がそれぞれ担当します。授業時以外にも各教員がオフィスアワーを設定し、研究室（巻末参照）にて相談を受ける時間を設けています。

〈人間社会学部〉

学年	アドバイザー
1年	フレッシュマン・セミナーⅠ・Ⅱの担当教員
2年	基礎ゼミナールⅠ・Ⅱの担当教員
3年	ゼミナールⅠ・Ⅱの担当教員
4年	ゼミナールⅢ・Ⅳの担当教員

氏名表記について

学生証やその他学内における皆さんの氏名は、コンピュータ処理による漢字（原則としてJIS規格漢字第2水準まで）を使用しています。

履修について

１．カリキュラムの仕組み
２．単位制度
３．授　　業
４．e-pass
５．履修登録
６．試　　験
７．成　　績

1．カリキュラムの仕組み

本学のカリキュラムは、領域横断的な教養を育成する「学部共通科目」と心理、幼児教育、国際の３つの主要領域の専門性を育成する「学科専門科目」から構成されます。「学部共通科目」には、教員免許や各種資格取得に必要な「共通資格科目」が含まれます。

学部共通科目

大学生としての基盤と知性、論理的な思考力を養うために、幅広い分野の科目で構成されています。一人ひとりの興味関心に合わせて、４年間を通して履修することが可能です。

学科専門科目

各学科にはそれぞれ異なる教育目標とカリキュラムがあり、求められる卒業要件も学科・コースにより異なります。学科専門科目は、それぞれの学科における学びを、基礎から上級レベルにまで系統立てて探究できるカリキュラムになっています。４年間での継続的な学びを意識しながら各自で履修計画を立てていきます。

共通資格科目

中学・高等学校教諭免許、司書・学芸員などの資格取得のための科目も設置しています。短期間で取得できるものではありませんので、資格取得を目指す人は、早い段階からどのように科目を履修していくかを計画してください。

2．単位制度

本学における学修課程は、単位制度を基本とします。

大学を卒業するためには、４年以上在学し、所定の授業科目を履修し、授業科目ごとに定められた単位を取得し、卒業に必要な単位数を取得しなければなりません。

単位の数え方

各授業科目の単位数は、１単位を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとします。

（１）講義については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって１単位とします。

（２）演習については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって１単位とします。

（３）実験・実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で本学が定める授業をもって１単位とします。

本学では、大学設置基準に基づき、標準45時間の学修時間を、１単位を修得するために必要な時間数としています。45時間の学修時間とは、授業時間と自学自習時間（予習及び復習の時間）をあわせた時間です。

具体的には、15時間の授業をもって１単位とする講義科目は、授業時間15時間＋自学自習時間30時間＝45時間の学修により、１単位を修得できます。つまり大学では、授業時間のみではなく、授業外の学習が不可欠であることを認識し、担当教員の課題及び自主的な授業外の学習を積極的に行ってください。

単位の認定

授業科目の単位は、履修登録をし、授業の３分の２以上出席し、試験等により合格と認められることにより認定されます。

3．授　業

授業時間

１日の授業時間は下記のとおりです。

時限	時間
Ⅰ	９：００～１０：３０
Ⅱ	１０：４０～１２：１０
昼休み	１２：１０～１２：４５
礼拝	１２：４５～１３：００
Ⅲ	１３：１０～１４：４０
Ⅳ	１４：５０～１６：２０
Ⅴ	１６：３０～１８：００
Ⅵ	１８：１０～１９：４０

時間割について

授業時間割は、年度開始時に e-pass の授業時間割表等で確認してください。
時間割は、履修者数その他の事情により、教室・曜日・時限・担当者などが変更される場合があります。
変更は、e-pass でお知らせしますので、十分に確認をしてください。

授業科目の種別

本学の授業科目には、次のような種別があります。

（１）履修方法による種別

必　修　科　目：卒業までに必ず修得しなければならない科目。
選 択 必 修 科 目：決められた分野・系の中から条件に従って選択し、卒業までに必ず修得しなければならない科目。
選　択　科　目：決められた分野、系の中から自由に選択できる科目。

（２）授業実施時期による種別

通　常　授　業：前期または後期に毎週授業が行われる科目。
集　中　講　義：特別に不定期または一定時期（８月、９月、２月上～中旬、土曜日など）に集中して授業が行われる科目。

（３）授業形態による種別

対　　面：全ての授業を対面で実施する科目。
対面（オンデマンド併用）：対面授業だが、部分的にオンデマンドを活用する科目。
オ ン デ マ ン ド：全ての授業をオンデマンドで実施する科目。

（４）その他の種別

共 通 資 格 科 目：履修制限のない資格課程科目は、自由に選択する授業科目として履修し、学則に定められた範囲で卒業に必要な単位とすることができます。
単 位 互 換 科 目：単位互換に関する協定に基づき横浜市内大学間単位互換生として修得した単位は、本学において修得した単位とみなすことができます。

集中講義

（1）集中講義の日程や、授業時間等を含む詳細については、シラバスや e-pass にて発表します。

（2）集中講義の日程は重複する場合があります。日程の重複した集中講義を複数科目履修することはできません。

休　講

（1）大学または各授業科目の担当教員にやむを得ない事情が発生した場合は、授業を休講することがあります。

（2）休講は、届出または決定があり次第、e-pass にて、休講情報を掲載します。
なお、休講に関する電話での照会には、一切応じません。

（3）e-pass に休講情報の掲載がないにもかかわらず、授業開始30分以上経過しても担当教員が入室しない場合は、学生支援課に連絡し、その指示に従ってください。

特殊な事情で休校となる場合について

特殊な事情で授業実施等が困難であると協議・決定された場合には、休校となる場合があります。休校の際は正規の授業だけでなく、学内における全ての活動が休止となります。

決定内容は大学ホームページおよび e-pass に掲載します。電話照会には応じません。

また、以下のような緊急事態が発生した場合には、休校となることがあります。

【交通機関不通の場合の休校について】

人身事故・車両故障等による運休（運転見合わせ等を含む）・遅延の場合は、原則として平常通り授業を行いますが、ストライキ、災害又は悪天候等に起因する交通機関不通の場合、次の措置をとります。

（1）当日午前6時までに復旧した場合は、平常通り授業を行う。

（2）当日午前10時までに復旧した場合は、午前中を休校とし、午後から授業を行う。

（3）当日午前10時までに復旧しない場合は、終日休校とする。

＜対象となる交通機関＞

・JR 横浜線および東急田園都市線
注）両線の全区間が不通となった場合のみ。いずれかの線が運行している場合は該当しない。

・横浜市営バス23系統「青葉台駅－若葉台中央」（※65系統を除く）および東急バス「青葉台駅－若葉台中央（郵便局前経由）」
注）両路線が不通となった場合のみ。いずれかの路線が運行している場合は該当しない。

【気象警報発表の場合の休校について】

神奈川県全域又は神奈川県東部（「横浜・川崎」「湘南」「三浦半島」）に特別警報または大雪・台風による警報（暴風、暴風雪、大雪のいずれか）が発表されている場合、次の措置をとります。警報は「気象庁」発表のものとします。なお、大雨、洪水、波浪、高潮の各警報は除きます。

（1）当日午前6時までに警報が解除された場合は、平常通り授業を行う。

（2）当日午前10時までに警報が解除された場合は、午前中を休校とし、午後から授業を行う。

（3）当日午前10時までに警報が解除されない場合は、終日休校とする。

なお、授業開始後に警報の発表があった場合、それ以降の休校は協議・決定により大学ホームページ及び e-pass 等で周知します。

また、警報が解除されても交通機関等に大幅な乱れが生じている場合は、状況により休校とすることがあります。

【大規模地震災害特別措置法に基づく「警戒宣言」が発令された場合】

「警戒宣言」が解除になるまで休校とします。

（1）通学途上の場合は、交通機関の責任者の指示を受け、速やかに帰宅してください。

（2）大学構内にいる場合は、大学の指示に従ってください。

（3）「警戒宣言」解除後の授業再開については、上記【交通機関不通の場合の休校について】に準じます。

授業欠席

病気や弔事などで授業を欠席する場合は、大学では担当教員に伝達するなどの措置はとりません。後日、自分で直接担当教員に説明してください。ただし欠席の扱いについては担当教員にゆだねられています。また欠席したという事実には変わりがありません（公欠制度はありません）。１ヵ月以上、３ヵ月以内の欠席の場合は長期欠席の手続きをとってください。課外活動等による欠席届は、「課外活動の手引き」を参照してください。

補　講

（1） 大学または各授業科目の担当教員の都合により休講となった授業については、原則として補講を行います。

（2）実施日時は決定次第、e-pass により通知します。

（3）補講は、大学で定める補講日の他にも行われることがあります。

4．e-pass

大学からのお知らせや呼び出し、休講・補講・時間割変更・試験などの教務情報、アルバイト情報など、大学から学生のみなさんへの連絡は「e-pass」と呼ばれるポータルサイトから行います。

１日１回は必ずログインする習慣をつけて掲示を確認してください。

アドレス

Google Chrome などのブラウザを起動し、下記のアドレスを入力してください。

（1）パソコン用アドレス

https://unipa.toyoeiwa.ac.jp

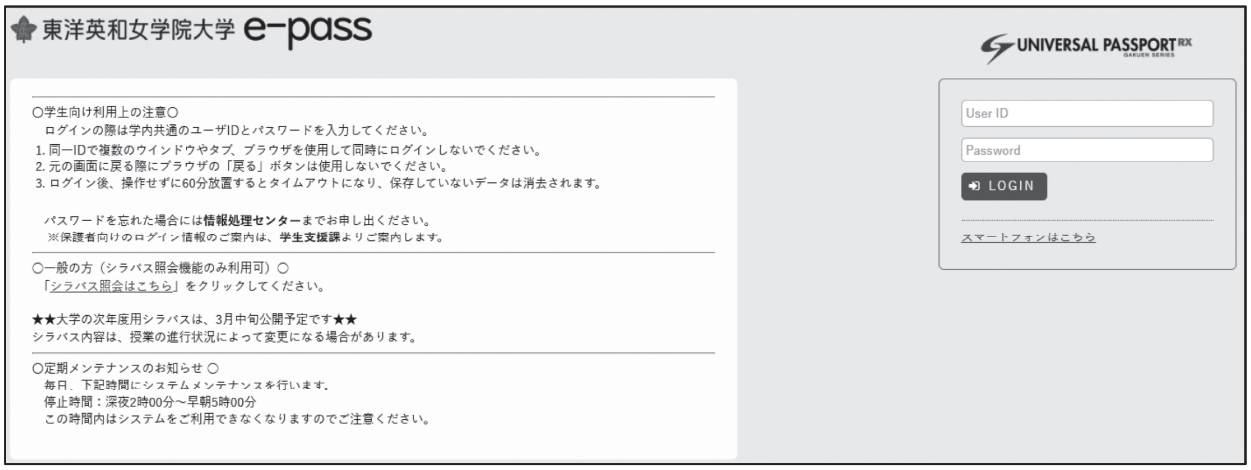
（2）スマートフォン用アドレス

https://unipa.toyoeiwa.ac.jp/uprx/up/pk/pky501/Pky50101.xhtml

ログイン

e-pass にログインするには大学から配付されるユーザーID とパスワードが必要です。（新１年生はオリエンテーション期間中にユーザーID とパスワードを配布します。）

【PC 版ログイン画面】



【スマートフォン版ログイン画面】



トップページ（ポータルホーム画面）

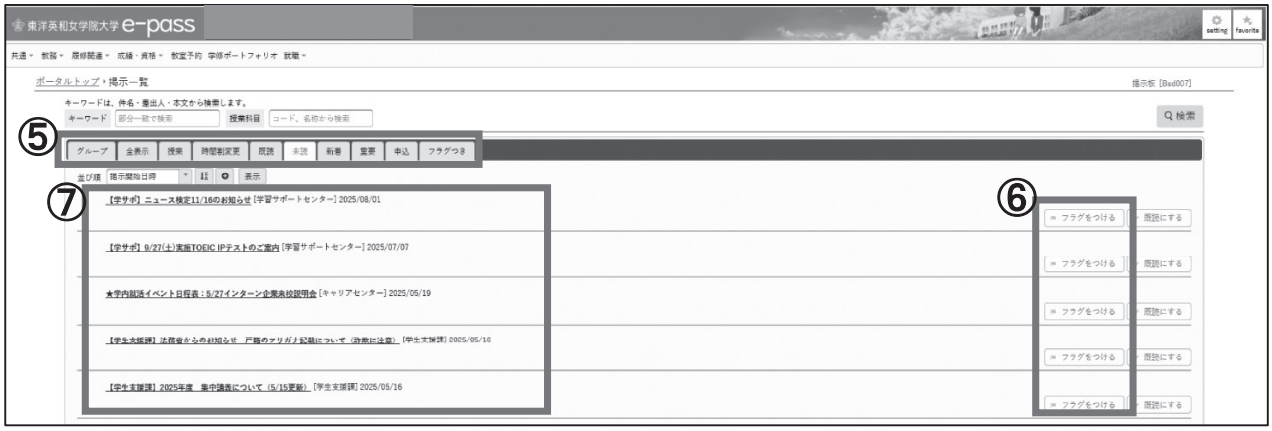
- ◆ 画面中央にスケジュールが表示されます。（画像内①）
  デフォルトは日表示ですが、月表示・履修授業表示に切り替えることができます。（画像内②）
  〈マイスケジュール追加〉をクリックすると編集画面が立ち上がります。タイトル・年月日・メモを入力することで自分の予定を登録することができます。（画像内二重線枠）
  授業ごとに表示される枠に情報を入力し登録ボタンをクリックすることで、簡単なメモを登録することができます。（画像内点線枠）
- ◆ 大学からのお知らせや、休補講・教室変更といった授業に関する情報は、〈掲示〉をクリックすることで確認できます。その他、時間割変更・クラスプロファイルも各ボタンをクリックすることでアクセスできます。（画像内③）
- ◆ 学内 Wi-Fi の設定方法や学事暦、履修の手引き、各種届出書類のダウンロードなど、学生生活で必要な情報はリンク欄からアクセスできます。（画像内④）



大学から発信するお知らせ

◆ トップページの〈掲示〉ボタンをクリックすると画面が切り替わります。最初は〈未読〉のタブが選択されていますが、〈グループ〉〈授業〉〈時間割変更〉〈フラグつき〉などに切り替えることができます。（画像内⑤）
自身で各掲示にフラグをつけることで〈フラグつき〉タブに情報をまとめることができます。（画像内⑥）

◆ 掲示内容を確認するには該当の件名をクリックしてください。（画像内⑦）



◆ 〈グループ〉タブを選択することで、個人向け掲示や授業に関する掲示、休講・補講掲示といったグループごとの表示に切り替わります。グループごとに最新の３件までが表示されるようになっていますが〈すべて表示する〉をクリックすることで全件確認することができます。（画像内⑧）

◆ 休講・補講・教室変更グループの初期表示は〈自分に関する掲示のみ（履修中科目）〉に設定されていますが、〈全授業〉をクリックすることで履修登録していない授業情報も確認することができます。
履修登録期間や修正期間はシステムへの反映に時間を要する場合があるため、この機能を利用して必要な情報を確認してください。（画像内⑨）

◆ ３件ずつの表示に戻したい場合は、画面右上〈検索〉をクリックしてください。

グループ表示画面



メニュー機能

- ◆ 画面上部のタブをクリックすることで、履修登録やシラバス参照、時間割表といった各項目に紐づく情報にアクセスすることができます。（画像内⑩）
- ◆ 履修登録や履修中止などの一部メニューは、指定の期間中のみ表示されます。
  例：履修登録期間以外は、履修登録のメニューは表示されません。
- ◆ 学籍情報照会では、現在大学に登録されている自分の学籍情報（住所や連絡先、保証人情報など）を確認することができます。また、オンデマンド科目修得済単位数（上限６０単位）の状況もここで確認できます。いずれも重要情報のため、e-pass を利用中に席を離れる場合は必ずログアウトし、個人情報の管理に注意してください。



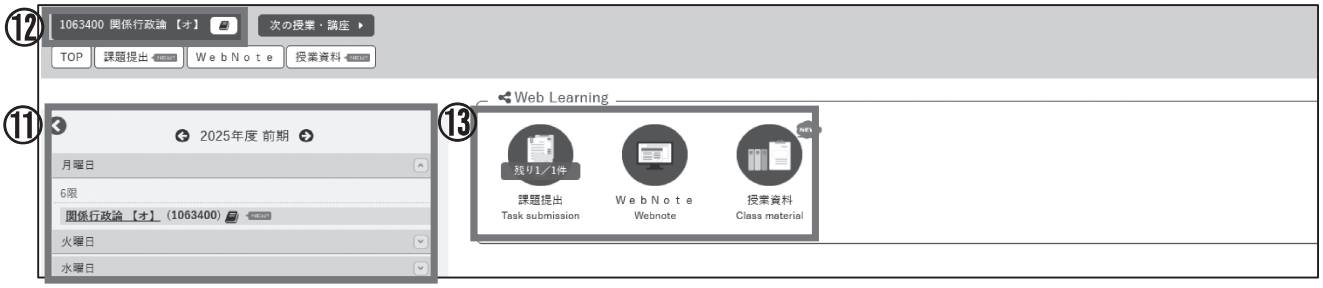
クラスプロファイル

- ◆ 履修中授業の資料ダウンロードや、課題提出などを行うことができます。
- ◆ トップページの〈クラスプロファイル〉をクリック（画像内二重線枠）、もしくは履修授業表示に切り替えて該当授業の〈クラスプロファイル〉をクリックします。（画像内点線枠）



- ◆ 曜日一覧から授業を選択。例として、今回は関係行政論を選択します。（画像内⑪）
  - ・⇦/⇨ボタンをクリックすることで年度/学期を切り替えることができます
  - ・科目名右にある本のマークをクリックすることで当該科目のシラバスを閲覧できます
  - ・授業資料や課題など、担当教員から何らかの配信があった場合 NEW! と表示されます
- ◆ 当該科目が選択されていることを確認（画像内⑫）し、各機能をクリックすることで利用できます。（画像内⑬）

クラスプロファイル画面



課題提出：教員が登録した課題を確認し、WEB 上で提出することができます。コメント入力やファイルを添付することもできますが、提示された条件に従って作成・提出してください。提出は教員が指定した期間内に限り可能です。未提出の課題がある場合 残り〇／〇件 と表示されます。

WebNote：メモや自分で作成した Word などのファイルをアップロードしておくことができます。年度が変わっても過去の内容を参照することができます。

授業資料：教員が登録した資料をダウンロードできます。教員が公開期間を指定した場合、期間内のみダウンロード可能です。新たに資料が配信された場合 NEW! と表示されます。

※本機能は Google クラスルームとは異なります。担当教員の案内（講義連絡等）をよく確認し、その指示に従ってください

◆　当該科目の〈課題提出〉をクリックすると画面が切り替わり、課題名をクリックすると課題内容を確認できます。（画像内⑭）

課題提出画面



◆　課題名、課題提出期間、課題内容、提出方法等を確認します。〈添付資料を確認〉をクリックするとファイルをダウンロードできます。（画像内⑮）

◆　添付ファイルで課題を提出する場合は〈選択してください〉をクリックして、提出するデータを指定します。（画像内⑯）画像の例はデータ提出ですが、画面上に直接打ち込む形式を指定される場合もあります。

◆　担当教員への連絡事項があればコメント欄に入力します。（画像内⑰）

◆　提出データが正しく添付されていることを確認し、〈提出〉をクリックすると提出完了です。（画像内⑱）



◆　課題提出画面のステータスで提出状況を確認（画像内⑲）できるほか、提出日時も確認（画像内⑳）できます。

◆　課題提出期間であれば再提出も可能です。ただし、課題提出期間であっても担当教員が確認済といった処理を実行した場合、以降の提出はできません。提出期間内に、誤りのないデータを提出するように心がけましょう。



メールの設定方法

◆ e-pass には、予め大学が付与している英和メールアドレス（〇〇〇@toyoeiwa.ac.jp）が連絡用メールアドレスとして登録されており、「休講のお知らせ」「学生個人呼び出し」といった通知が届くように設定されています。このアドレスは変更、削除することができず、配信停止設定もできません。

◆ 連絡用メールアドレスとは別に、自分が指定した任意メールアドレスを登録し、通知を受け取ることができます。

◆ 講義連絡や教室変更、試験情報などは、連絡用メールアドレス・任意メールアドレスとも通知が届きません。
また、通知は配信内容の確認はできますが、添付資料までは転送されません。（添付資料がある場合は e-pass で当該掲示を直接確認する必要があります）e-pass には毎日ログインし、配信情報を見落とすことがないように注意しましょう。

◆ メール配信は１日に６回（8:00、10:35、12:15、14:45、16:25、20:00）行われます。

ただし、大学側が緊急性があると判断した場合は即時配信されることがあります。

◆ 〈setting〉をクリックするとメール設定画面に切り替わります。（画像内二重線枠）

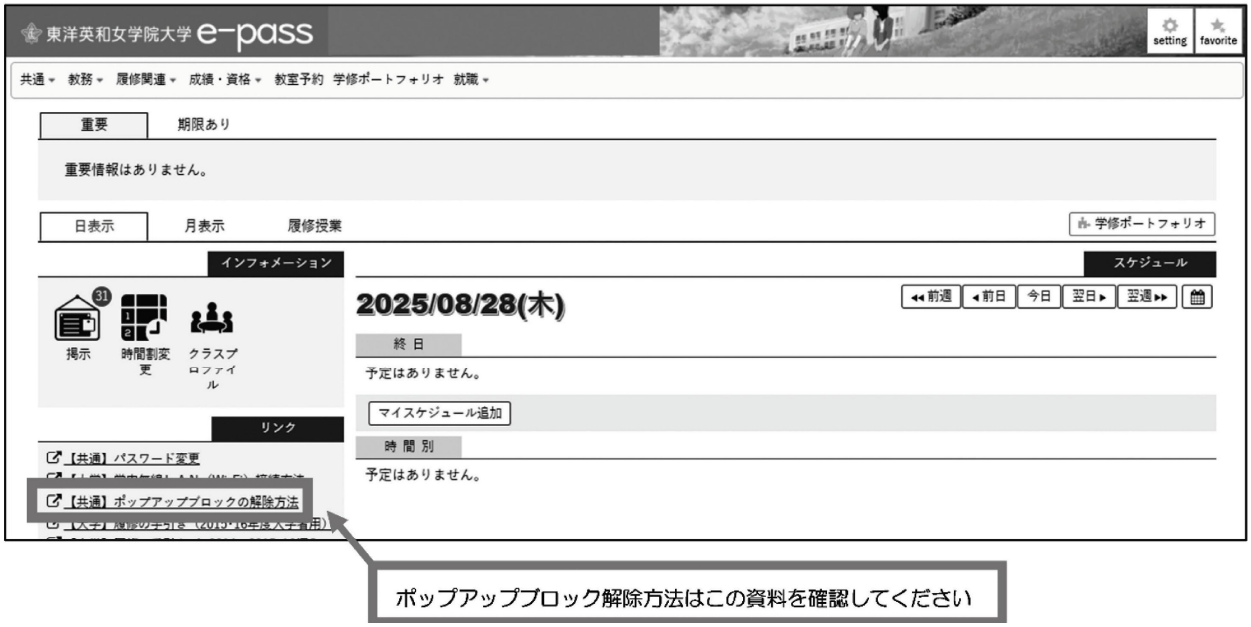
◆ 任意のメールアドレスを入力し追加をクリックすることで転送先のアドレスを設定することができます。（画像内㉑）追加ボタンをクリックすると、設定したメールアドレスに確認メールが送信されます。確認メールが届かない場合は入力アドレスに誤りがあるか、転送先メールアドレス側で受信拒否設定がされている可能性があります。

◆ 〈配信停止設定〉で任意のメールアドレスに不要な通知を届かないように設定することができます。（画像内㉒）



e-pass 利用時の注意点

- ユーザ ID とパスワードは忘れることのないように厳重に管理し、絶対に他の人へ教えないでください。
- e-pass では、大学へ登録している自分の学籍情報や成績情報などの個人情報を見ることができます。画面を表示したままパソコンを離れると個人情報が第三者に悪用される恐れがあります。パソコンから離れる場合は、必ず画面をログアウトして閉じてください。
- e-pass へログイン後、「このパスワードを記録しますか」という内容のメッセージが表示されることがあります。このメッセージを「はい」としてしまうと他人がなりすましてログインすることが可能になります。自分のパソコンではなく大学のパソコンなどを使う時には「いいえ」を押してください。
- ログイン後、何もしないで 60 分以上を経過するとセッションタイムアウトのメッセージが表示されます。その場合は、再度ログインをしてください。
- 毎日深夜 2:00～翌朝 5:00 の間は、システムの保守作業を行うため「e-pass」を利用することができません。履修登録など期間が定められている手続きを行う際には、時間に余裕を持って登録を行うようにしてください。
- e-pass 利用時、画面が切り替わらない（立ち上がらない）という現象が起きる場合があります。その際はポップアップブロック機能を解除してください。端末毎の解除方法は e-pass リンク欄に掲載している〈【共通】ポップアップブロックの解除方法〉を参照してください。



5．履修登録

履修登録

履修登録とは各自が単位修得を希望するすべての科目を大学に届け出て、許可を受け登録する手続きです。

したがって、正しく履修登録をしないと、授業に出席し試験を受けたとしても単位として認定されません。登録不備による不利益はすべて本人の責任となります。「履修の手引き」、「講義内容（シラバス）」、掲示等を参考にして正しく履修登録を行ってください。

本学では GPA 制度を採用していますが、これは修得した成績評価を数値化し、質的な成績レベルを計る指標となるものです。（詳しくは７．成績「成績評価および GPA 制度」参照）

これにより、学生は登録した科目に対して最後まで責任をもって履修することが必要になります。

履修登録申請上の注意点

① 前期の履修登録時に１年間の履修計画を立て、希望する全ての科目を登録申請してください。**全学年とも必ず後期分の科目も前期に履修登録してください。**

② 後期の履修登録「修正期間」には後期科目及び後期集中科目の登録修正が行えます。

③ 登録申請は、e-pass より行ってください。学外からでも e-pass で履修登録ができます。

④ 登録にあたっては、予め科目を決定した上で、時間に余裕を充分もって行ってください。

履修登録申請期間中の出席について

原則、授業開始第１週目より全ての科目で通常の授業が始まります。履修登録が終了していなくても、履修を希望する授業には初回から必ず出席してください。

履修科目開講表の見かた

①　履修年次について

学部共通科目および学科専門科目の履修科目開講表には「履修開始年次」が、資格課程の履修科目開講表には「履修年次」が記載されています。

履修開始年次：表記されている学年以上で履修できることを表します。

履 修 年 次 ：表記されている学年で履修することが望ましいことを表します。

ただし、その学年を超えても履修することが可能です。

＜例（学部共通科目）＞

授　業　科　目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備　考
キリスト教文化史	2	▽	2		

この場合、２年生以上が履修できます。

＜例（学芸員科目）＞

授　業　科　目	単位	必修	履修年次 表記された学年での履修が望ましい	履修制限	備　考
博物館概論	2	◎	2・3	△	

この場合、２年生または３年生での履修が望ましいが、４年生でも履修できます。

② 科目名についている記号について

Ⅰ、Ⅱ	科目名の後に続く文字がローマ数字の場合は、Ⅰ・Ⅱと継続した内容で行われます。したがって、原則としてⅠ・Ⅱの順で履修する必要があります。ただし、シラバスにⅡだけの履修を認める記述があればⅠが未履修でもⅡの履修が可能です（Ⅲ・Ⅳと続くものもあります)。
A、B･･･	科目名の後に続く文字が大文字のアルファベットの場合は、その授業は別のものです。 したがってBから先に履修する、もしくはBのみを単独で履修する事が可能です。
a、b、c･･･	語学等の科目名の末尾についている小文字のアルファベットは、クラス分けを意味します。

③ 必修、選択必修について

◎	この記号の付いている科目は必修ですので、卒業もしくは、資格課程を修了するのに必須の科目です。
▽	この記号の付いている科目は選択必修です。卒業もしくは、資格課程を修了するために、記載された科目の中から指定された科目数もしくは単位数分の科目を選んで取得する必要があります。

④ 履修制限について

×	他学科の学生は履修不可
△	人数制限を行う場合がある科目
☆	各資格課程登録者以外は履修不可
※	「４年生は履修できない場合がある」など備考欄もしくは、表外に履修条件が記載されています。

〈注意〉履修制限に抵触した科目を履修登録しても、無効になります。

卒業見込証明書の発行　重要：４年生対象

４年生が、就職活動、大学院等への進学、留学等のために卒業見込証明書を必要とする場合、卒業に必要な単位を取得する見込のあるときに発行します。

〇発行条件：４年生前期の履修登録期間に、前期科目だけでなく後期科目も履修登録をし、「卒業要件単位」以上の履修登録をすること。３年生までに修得した単位数と４年生の履修登録単位数の合計（前期科目と後期科目の合計）が卒業要件単位数に達していないと卒業見込証明書は発行できません。卒業要件単位については、履修の手引きの各学科の「卒業に必要な単位（卒業要件単位）」で確認してください。

〇発行予定日：４月末予定

〇e-pass での確認：４年次には履修登録時に卒業要件を満たしているかを e-pass の画面上で確認することができます。卒業見込判定の方法は、e-pass トップページの上部メニュー「履修関連」から下記の２通りあります。

① 履修登録画面で、履修する授業を確認し、「最終確認へ」をクリック→「見込判定へ」をクリック→「提出」をクリック

② 学生時間割表画面の「卒業見込判定」をクリック

いずれも、卒業見込判定結果欄に「エラーはありません。」という記載があれば、卒業要件を満たしています。

オンデマンド科目履修時の注意点

一部の授業はオンデマンド形式で開講されます。オンデマンド科目を修得した場合、卒業に必要な単位として算入できるのは**60単位**までです。この上限は、文部科学省が定める「大学設置基準」に基づいています。60単位を超えて修得したオンデマンド科目の単位は、卒業要件に含まれませんので、履修計画を立てる際は十分注意してください。なお、対面（オンデマンド併用）の授業は60単位の上限に含まれません。

オンデマンド科目修得済単位数は、e-pass の学籍情報照会から確認できます。なお、オンデマンド科目には e-pass の学生時間割表と履修登録画面に【オ】が表示されますが、新年度になると、前の学年の時間割は確認できなくなるので、前後期とも必ず印刷（スクリーンショットでも可）しておきましょう。

再履修

再履修とは、履修したにもかかわらず単位を取得できなかった授業科目を再度履修することです。「Freshman English」「Sophomore English」「基礎情報科学」については手続きが必要です。２月または３月に次年度再履修者向けに連絡する場合がありますので、e-pass をよく確認してください。

必修科目の単位が取得できないと翌年度以降の履修計画や卒業の可否に大きな影響が出てしまいます。必修科目は再履修にならないように、しっかりと単位を取得しましょう。

同一授業科目の再履修

すでに一度単位を取得した同一授業科目を再度履修する事ができます。

この場合、e-pass からは履修登録はできません。履修希望科目、授業コード、開講期間、曜日時限、担当教員、一度単位を取得した年度学期を確認の上、履修登録期間中に学生支援課にて申し込みをしてください。

ただし、卒業に必要な単位として算入されるのは１回分だけです。成績照会画面には修得した科目の評価が、すべて表示されます。一度ついた評価が再履修等により消えたり上書きされたりすることはありません。

履修登録上限単位数について

この制度は、履修科目が多すぎて予習・復習の時間がとれず、どの科目も未消化に終わることを避けるための制度です。安易な履修登録をせずに、履修に責任を持ち、充分な量と質の学習を行ってください。

① 履修登録単位数の上限は、**半期２４単位**です（2026年度以降入学生対象）。

② 上限単位数には、卒業に必要な単位に算入されない科目や単位互換科目も含まれます。

履修登録上限単位数を超えて登録できる科目

下記の科目は、上限単位数を超えて履修登録をすることができ、卒業に必要な単位にも含まれます。なお、資格課程登録者以外や一部の学科では履修を認めない科目もあります。詳しくは、学部共通科目「11. 共通資格科目」および各学科のページにある「科目表」を確認してください。

①共通資格科目（全学生が上限単位数を超えて登録可）

共通資格科目	
博物館概論	統計学
博物館資料論	フィールド調査法
博物館資料保存論	社会調査演習Ⅰ
博物館教育論	社会調査演習Ⅱ
博物館情報・メディア論	日本語教育法ＡⅠ
博物館経営論	日本語教育法ＡⅡ
博物館展示論	日本語教育法ＢⅠ
博物館実習Ⅰ	日本語教育法ＢⅡ
博物館実習Ⅱ	日本語教育法ＣⅠ
生涯学習概論	日本語教育法ＣⅡ
生活のなかの図書館	日本語教育法ＤⅠ
図書館情報技術論	日本語教育法ＤⅡ
図書館制度・経営論	日本語教育法ＥⅠ
生涯学習社会と図書館サービス	日本語教育法ＥⅡ
情報サービス論	教職の理解（子ども教育学科は履修不可）
情報資源組織論	教育課程論（子ども教育学科は履修不可）
情報資源組織演習Ⅰ	道徳教育の理論と実践（子ども教育学科は履修不可）
情報資源組織演習Ⅱ	特別活動と総合的な学習の時間（子ども教育学科は履修不可）
子どもの読書支援	教育の方法と技術（子ども教育学科は履修不可）
情報サービス演習Ⅰ	生徒・進路指導の理論と方法（子ども教育学科は履修不可）
情報サービス演習Ⅱ	ICT 演習（子ども教育学科は履修不可）
図書館の比較文化論	学校体験（子ども教育学科は履修不可）
図書館情報資源概論	介護等体験（子ども教育学科は履修不可）
図書・図書館史	教育実習Ⅰ（子ども教育学科は履修不可）
図書館情報資源特論	教育実習Ⅱ（子ども教育学科は履修不可）
社会調査の基礎	教育実習Ⅲ（子ども教育学科は履修不可）
社会調査法	教職実践演習（中・高）（子ども教育学科は履修不可）
データで読む社会	教育社会学（中・高）（子ども教育学科は履修不可）

②学科専門科目のうち、以下の資格関連科目（該当学科の学生のみ上限単位数を超えて登録可）

総合心理学科専門科目	
関係行政論	社会科・地歴科教育法Ⅰ・Ⅱ
公認心理師の職責	社会科・公民科教育法Ⅰ・Ⅱ
子ども教育学科専門科目	
保育者論	子育て支援
社会的養護Ⅰ・Ⅱ	教育実習Ⅰ・Ⅱ
保育内容各論（健康）	教育実習指導Ⅰ・Ⅱ
保育内容各論（人間関係）	保育実習ⅠＡ（保育所）・ⅠＢ（施設）
保育内容各論（環境）	保育実習Ⅱ（保育所）・Ⅲ（施設）
保育内容各論（言葉）	保育実習指導ⅠＡ・ⅠＢ
保育内容各論（表現）	保育実習指導Ⅱ・Ⅲ
乳児保育Ⅰ・Ⅱ	
国際学科専門科目	
社会科・地歴科教育法Ⅰ・Ⅱ	英語科教育法Ⅰ～Ⅳ
社会科・公民科教育法Ⅰ・Ⅱ	

③その他、以下の科目（全学生が上限単位数を超えて登録可）

海外英語実習

履修中止について

履修中止とは、履修登録した科目の履修を途中で取りやめる事ができる制度です。

履修登録科目の単位を修得できなかった場合、「不可」や「放棄」の成績が成績照会画面に表示されます。履修中止した場合、成績は、成績照会画面には表示されず、GPA の算出根拠にも含まれなくなるため、上記による不利益を避けることができます。

履修中止は以下の科目を除く、すべての科目について行えます。以下の科目については、科目の性質上、履修中止が認められません。

① 履修中止を認めない科目

注）下記の一覧に記載されている科目は、学部共通科目、学科専門科目、他学科科目、共通資格科目など、いずれの科目区分で履修する場合も、履修中止は認められません。

学部共通科目	
キリスト教概論 ライフデザイン フレッシュマン・セミナーⅠ・Ⅱ 基礎情報科学Ⅰ・Ⅱ	Freshman English ＡⅠ～ＢⅡ Sophomore English ＡⅠ～ＢⅡ 海外英語実習
総合心理学科専門科目	
基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ ゼミナールⅠ～Ⅳ	総合心理学基礎論
子ども教育学科専門科目	
基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ ゼミナールⅠ～Ⅳ	保育教育原理 子ども家庭福祉
国際学科専門科目	
基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ ゼミナールⅠ～Ⅳ	
共通資格科目	
教育実習Ⅰ～Ⅲ（中高教職）	博物館実習Ⅰ・Ⅱ（実習先が決まらない場合に限り、履修中止を認めます）

② 履修中止申請期間

（１）前期科目の場合：５月中旬～下旬予定

（２）後期科目の場合：10月中旬～下旬予定

③ 詳細な日程は「別冊履修の手引き」にて、申請手続方法は、e-pass でお知らせします（年度により、時期・手続方法等は変わる可能性があります）。

④ 履修中止確認方法

履修中止申請後は、履修中止確認期間に e-pass の学生時間割画面にて該当科目が消えていることを確認してください。

e-pass の上部メニュー「履修関連」→「時間割」→「学生時間割表」

⑤ 履修中止した科目の時間帯に新たに別の科目を登録することはできません。また、前期に後期科目の履修中止は受け付けませんので、後期 e-pass 履修登録修正時に各自で履修登録削除を行ってください。

⑥ ４年生が履修中止を行った結果、卒業要件単位が不足し、卒業見込証明書が発行できなくなる場合があります。総単位数のみならず、科目区分ごとに定められた卒業に必要な単位（卒業要件単位）をよく確認した上で行ってください。

6．試　　験

学生証の提示

試験を受けるには学生証または履修生証が必要です。学生証の紛失に気付いたら、すぐ再発行の手続を学生支援課で行ってください。再発行には、10日～２週間程度を要します。

試験の種類

試験には、定期試験、追試験があります。

受験資格

次のいずれかに該当する場合は、試験を受けることができません。

受験しても無効となります。

（１）履修登録がなされていない授業科目。

（２）履修授業科目について３分の２以上出席していない者。

保育士資格課程科目は、学則に定める授業時間数の３分の２以上出席していない場合。

（３）学生証を所持していない場合（科目等履修生、単位互換履修生は履修生証）。

（４）試験開始後20分以上遅刻した場合。

（５）当該期授業料等が未納の場合。

受験上の注意

（１）試験中は監督者の指示に従ってください。

（２）学生証を忘れた学生は、学生支援課にて仮学生証の交付を受けなければ受験できません。交付された仮学生証は、当日中に返却してください。

（３）机上には筆記用具と許可されたもの以外置かないでください。ペンケースやメガネケース等も置いてはいけません。

（４）机周辺に書き込みやメモがある場合は申し出てください。

（５）座席指定がある場合は、座席が間違いないか確認してください。

（６）スマートフォン等を時計として使用することはできません。スマートフォン等の電子機器類は、必ず電源を切って、カバンの中にしまってください。

（７）遅刻は試験開始後20分以内に限り認められます。ただし、試験の時間は延長されません。

（８）試験開始後30分以内は退室できません。また、一度退室した者はその試験が終了するまで再度入室はできません。

不正行為

不正行為は学生と教員および学生相互間の信義と誠実に基づく信頼関係を損なう行為であり、あってはならない行為です。**不正行為を行った学生は、当該試験期間のみならず当該学年の全科目の試験が無効になるとともに、学則に照らし退学、停学、訓告などの処分の対象となりえます。**

不正行為とは、主に次のような行為を指します。

（１）試験における不正行為

① 受験資格のない者の受験。

② カンニング（答案の交換、他人の答案を盗み見る、あらかじめ用意したメモを見る、机やカバンの中の資料を見る）。

③ 他人との相談（口頭、筆談）。

④ 試験終了後の答案記入、変更。

⑤ 問題用紙や答案用紙を許可なく持ち帰ること。

⑥ スマートフォン、タブレット型端末、時計型端末、その他通信機能を有し、試験に関わる情報を不正に取得できるとみなされる電子機器等（以下「スマートフォン等」という。）の使用（時計としても使用不可。必ず電源を切って、カバンの中にしまうこと）。

（２）レポートにおける不正行為

① WEB サイトの盗作（他人の作品や論文の全部または一部をそのまま自分のものとして無断で使うこと）、剽窃（他人の作品や論文を盗んで、自分のものとして発表すること）。

② ChatGPT など生成系ＡＩの不適切な使用。

③ その他既存文献等の盗作、剽窃、無断引用。

④ 代筆。

⑤ 他の学生のレポートを写すこと。

⑥ 他の学生にレポートを見せること（剽窃ほう助となり得る行為）。

⑦ 検査・実験データ等のねつ造。

定期試験

（１）日程等の発表方法など

定期試験の時間割は、基本的には通常の授業の時間割どおりです。ただし、授業科目によっては90分未満の試験時間で行われるものや、試験会場が通常の教室と異なるものがあります。試験の日程、方法は e-pass にて発表します。**なお、この発表内容は試験実施日までに変更される場合があるので、試験当日は再度 e-pass を確認のうえ、十分注意して間違いのないよう受験してください。**

追試験

受験資格を満たしているにもかかわらず、病気、その他やむを得ない理由により定期試験を受けられなかった者、または定期試験レポートを提出できなかった者は、願出により認められた場合、追試験の受験または追試験レポートの提出をすることができます。なお、科目によっては追試験を行わないものがあります。

※定期試験が受験できないと判明した時点で、すみやかに学生支援課へ相談してください。

（１）下記の理由により定期試験を欠席した者は、（　）内の要件を満たした者に限り、追試験を願い出ることができます。ただし、理由により採点方法が異なりますので注意してください（次頁の表を参照）。

① 病気欠席（欠席した試験日当日が治療期間中であると明記された、大学指定フォーマットによる医師作成の診断書を提出）

② 就職試験（欠席した試験当日が自身の就職試験であったと明記された用紙を提出。説明会や研修やインターンシップではなく、選考の場合に限る）

③ 忌引（会葬葉書等の死亡が証明できるものを提出。原則として父母、兄弟姉妹、祖父母、配偶者等の２親等以内の親族の場合とする）

④ 交通機関の遅延（日付・遅延時間の記載がある遅延証明書を提出）。原則として、自宅（大学に登録してある住所および通学経路）からの通学に限る。

⑤ 単位互換提供科目の定期試験の受験（受験の証明書を提出。移動時間に合理性がない場合や、オンデマンドによる受験の場合は不可）

⑥ 保育実習、教育実習などの実習（実習参加証明書を提出。試験期間中の実習は極力避けること）

⑦ 本学公認団体としての全国レベルの大会等への出場、またはそれに準ずる公式試合など（当該大会等のプログラム及び参加を証明する書類を提出すること。ただし試験期間中の出場は極力避けること）

⑧ その他特別な事情により、教務部長が正当と認めた場合

＜追試験の採点方法について＞

追試験受験理由	評価
①　病気欠席（学校感染症以外）	８割評価※
②　就職試験	
③　病気欠席（学校感染症）	１０割評価
④　忌引	
⑤　交通機関の遅延	
⑥　単位互換提供科目の定期試験受験	
⑦　実習	
⑧　公認団体の全国大会	
⑨　その他	受験理由により教務部長判断

※８割評価とは、上限を満点の８割として採点することを意味します。

（２）追試験を希望する場合は、e-pass でお知らせする追試験手続締切日までに、以下の書類を学生支援課に提出してください。

・追試験願

・定期試験を受験できない理由を証明する書類

・e-pass 学生時間割表

（３）追試験の日程は学事暦で確認してください。追試験を許可された者の発表及び追試験時間割は、e-pass によって知らせます。詳細は追試験の手続き時に確認してください。

レポート

試験を筆記試験によらずレポートをもって行う場合は、下記に従うものとします。

（１）レポート提出の資格は受験資格に準じます。

（２）レポートは、前記の「不正行為」に関する規則が適用される対象となります。

（３）定期試験が筆記試験に代えてレポートをもって行われる場合は、レポートの提出は授業担当者へ直接提出することを原則とします。ただし、授業担当者が提出先を学生支援課と指定した場合に限り、学生支援課で受け付けます。

（４）レポートを学生支援課に提出する場合、次の事項を厳守してください。

① 本人が持参し、直接提出することを原則とします。

② レポートには必ず表紙をつけてください。表紙は e-pass の左下リンク「在学生向けページ（学生支援課・国際交流センター）」定期試験レポート表紙からダウンロードすることができます。学生支援課にも置いてありますので、授業曜日時限・科目名・担当教員名・タイトル・学籍番号及び氏名を明記し、ホッチキス留めして提出してください。（担当教員から特別な指示がある場合を除く）

③ 必ずホッチキス等で上部２か所を綴じて提出してください。

④ 提出は定められた期日に、所定のボックスに投入してください。

期日及び時間を過ぎたもの、提出先が学生支援課でないもの、ならびに郵送やメールによるレポート提出は理由のいかんにかかわらず受理しません。また、誤って提出されたレポートは無効となります。

学生支援課提出レポート受付期間	
前期・後期	締切日より１週間前～締切日
受付時間	平日９：００～１７：００　時間厳守

⑤ 一度提出したレポートの変更、訂正は認めません。

（５）レポートは各自コピーをとり、もしくはデータを消さずに、成績の結果が出るまで保管してください。

7．成　　績

成績評価およびＧＰＡ制度

成績は試験、レポート、出席状況その他を総合評価したもので、次のように表示します。

また、本学では学生の勉学上の動機づけを行うため GPA 制度を導入しています。GPA（Grade Point Average）とは、各成績評価に対してそれぞれポイントを定め、１単位あたりの成績の平均値を示すものです。したがって、履修科目を多く登録しても、「不可」や「放棄」が多いと、GPA の値が小さくなります。科目選択および履修に際しては、各自が責任をもって管理してください。各成績評価に対するグレードポイントは次の表のとおりです。

表　　示		点　　数	グレードポイント
AA	秀	100～90	4
A	優	89～80	3
B	良	79～70	2
C	可	69～60	1
F	不可*	59～ 0	0
Z	放棄*		

＊「不可」は試験を受験したが、合格点に達さなかった場合。
「放棄」は欠席過多等により試験の受験要件を満たしていなかった場合、あるいは自ら試験を受験しなかった場合。

この GPA を自分の勉学への取り組みの反省と目安に利用してください。GPA は履修科目の単位数に評価に応じたグレードポイントを掛け、その合計を履修登録単位数の合計で割って求めます。（「認定」は計算対象外です）

＜例＞

科目	評価	単位数	グレードポイント	ポイント数
キリスト教概論	秀	2	4	２×４＝８
フレッシュマン・セミナーⅠ	優	1	3	１×３＝３
フレッシュマン・セミナーⅡ	良	1	2	１×２＝２
基礎情報科学Ⅰ	不可	2	0	２×０＝０
基礎情報科学Ⅱ	放棄	2	0	２×０＝０
ライフデザイン	秀	2	4	２×４＝８
フランス語（ベーシック）Ⅰ	秀	2	4	２×４＝８
フランス語（ベーシック）Ⅱ	可	2	1	２×１＝２
Freshman English ＡⅠ	優	1	3	１×３＝３
Freshman English ＡⅡ	秀	1	4	１×４＝４
Freshman English ＢⅠ	優	1	3	１×３＝３
Freshman English ＢⅡ	秀	1	4	１×４＝４
合計		**18**		**45**

GPA：４５÷１８＝２．５（小数点第６位で四捨五入、表示は小数点第２位まで）

成績照会画面・成績証明書への表示

評　価	秀	優	良	可	不可	放棄	認定	保留	GPA
成績照会画面	表　示								
成績証明書	表　示				×		表示		×

成績評価のガイドライン

１．「秀」評価及び「優」評価を与える学生の割合は以下の通りとする。
　履修者数が30名以上の科目については、履修者数に対して、原則として合計40％を上限とする。

２．次のいずれかに該当する授業科目は、担当教員の判断によりこのガイドラインを適用しないことができる。

（１）履修者数が29名以下の授業科目

（２）全ての語学科目、実習及び演習、資格科目

※基礎英語は別途ガイドラインあり（詳しくは、学部共通科目「５．コミュニケーションスキルズ科目（英語）」参照）

成績照会

成績は e-pass の成績照会にて確認してください。

成績に関する確認について

１．成績確認願が提出できるのは、授業に３分の２以上出席して試験等も受験した場合、かつ成績を確認するにあたり、明確な根拠がある場合に限ります。評価の再考を願い出るものではありません。

＜受理できる事例＞

１）成績の誤記入等、明らかに担当教員の誤りであると思われるもの。

２）シラバスに記載されている「成績評価の方法・基準」に照らして、明らかな誤りがあると思われるもの。

＜受理できない事例＞

１）いわゆる救済目的や懇願的な内容
（「この単位があれば卒業できるのでお願いします」等）

２）他の学生との対比上の不満を訴えるもの
（「友人よりも出席率がいいはずなのに、成績が悪かったのは納得がいかない」等）

３）具体的な根拠がなく、なぜその評価になったのか理由のみを問合せるもの
（「とても頑張ったのに、なぜ不可なのか」等）

※その他、科目に関すること以外の個人的事情を書いたものは受理できません。

２．提出期日

前期科目の成績確認：８月下旬頃を予定

後期科目の成績確認：２月下旬頃を予定

卒業年次生の成績確認：成績発表され次第すぐに

※詳細な日程は e-pass でお知らせします。卒業年次生は特に日程に注意してください。

※期日を過ぎた場合、問い合わせは一切受け付けられません。

※直近の成績公開以外（１年前の成績等）に関する問い合わせは受け付けられません。

学部共通科目

学部共通科目

学部共通科目は、全学科に開かれた「すべての学生が受講できる科目」です。

学部共通科目には、ふたつの目的があります。ひとつは、東洋英和の学生として、あるいは大学生・社会人としての基盤を養うことです。したがって、学科の違いを問わず、すべての英和生が共通して学ぶ科目や、社会人としての基礎力を磨く科目が設置されています。

もうひとつは、大学での学びが専門分野だけに偏らぬよう、幅広い分野の教養を得るという目的です。学科に用意されていない科目や、学科での学びをより多角的なものにする科目が用意されており、知識に幅と広がりを与えるという大切な役割を担っています。

学部共通科目は次の各カテゴリーで成り立っています。

1．キリスト教基礎科目
2．フレッシュマン・セミナー
3．ライフデザイン・ウェルネス科目
4．情報メディア科目
5．コミュニケーションスキルズ科目（英語）
6．コミュニケーションスキルズ科目（第２外国語・手話・日本語）
7．コミュニケーションスキルズ科目（５．６．を除く）
8．共通教養科目
9．アクティブ・ラーニング科目
10．教養科目（オープン科目）
11．共通資格科目

１．履修方法について

学部共通科目には、全員が必ず履修する科目（必修科目）、いくつかの科目の中から必ず選択して履修する科目（選択必修科目）、自由に履修して卒業単位に組み込める科目（選択科目）があります。１年次から履修できる科目も少なくありませんが、上級生にならないと履修できない科目も複数あります。

必修科目や選択必修科目の指定、および卒業に必要な学部共通科目の単位数は各学科・コースで異なります。該当科目の履修年次も確認しながら、４年間で必要な単位を修得するように計画してください。詳しくは各学科カリキュラムのページにある「卒業に必要な単位（卒業要件単位）」を確認してください。

２．必修科目・選択必修科目の再履修について

必修科目・選択必修科目の単位を修得できなかった場合は、翌年以降に同じ科目を履修（再履修）することになります。再履修の方法は、科目によって異なります。再履修の方法については、「別冊 履修の手引き」で確認してください。

１．キリスト教基礎科目

大学のルーツであるキリスト教、さらに学院標語である「敬神奉仕」の理解を通して、自分が生きていることの意味、社会に貢献することの価値を考える精神的基盤を養います。

キリスト教に関する基本的知識を獲得するため、１年次の「キリスト教概論」は全学科で必修科目となっています。キリスト教の歩みや思想、聖書における重要な用語を学びながら、東洋英和女学院の学生としての精神的基盤を身につけてください。その他の科目（キリスト教文化史・旧約聖書・新約聖書・東洋英和の歴史）は、２年次以上で履修します。１年次での学びを基盤として、キリスト教や聖書、あるいはキリスト教と自校史の関わりについて理解を深めていきます。

キリスト教概論
キリスト教文化史
旧約聖書
新約聖書
東洋英和の歴史

２．フレッシュマン・セミナー

大学でのキャンパスライフは高校までのものとは大きく異なります。１年次の必修科目である前期と後期の「フレッシュマン・セミナーⅠ・Ⅱ」では、１年間のゼミ活動を通じて、充実した大学生活を送るための基礎的能力を身につけます。少人数で編成されたゼミの場を活かして、「話す／聞く力」「読む／書く力」「表現・発表する力」「質問する力」「協働する力」といった大学生・社会人に必要なコミュニケーションスキルを身につけ、「東洋英和での学び」「各学科での専門的な学び」の基盤を作ることを目指します。

３．ライフデザイン・ウェルネス科目

本学が伝統的に培ってきた「女性の生き方」を中心に、ライフデザインやキャリア形成に関わる知識、心身ともに健康で豊かな人間性を生涯にわたって発達させる方法を学びます。社会の中で生きる「自分」をデザインする力を養うため、１年次後期の「ライフデザイン」を必ず履修します。「ライフデザイン」では、自分が生きる社会を学問的・実践的に捉えていく視点を形成します。15回を通して獲得する学びが、他の科目のベースとなります。

その他の科目（ジェンダースタディーズＡ、ジェンダースタディーズＢ、ジェンダースタディーズＣ、ビジネスと社会Ａ、ビジネスと社会Ｂ、ビジネスと社会Ｃ、キャリアデザイン）では、就職活動や卒業後のキャリア形成を見据えながら、学問として学んできた「自分をデザインする力」を現実へと結びつける力を養います。

また、心身ともに健康であること、そのための知識や技能を身につけることは、現代人にとって重要な学びのひとつです。ウェルネス科目（健康科学、スポーツ科学Ａ、スポーツ科学Ｂ、スポーツ科学Ｃ）では、健康に関する理論や実践を、講義や実技を通して総合的に学び、生涯にわたってスポーツや運動に親しむ必要性とその方法を身につけていきます。

ライフデザイン
ジェンダースタディーズＡ
ジェンダースタディーズＢ
ジェンダースタディーズＣ
ビジネスと社会Ａ
ビジネスと社会Ｂ
ビジネスと社会Ｃ
キャリアデザイン
健康科学（講義・実技）
スポーツ科学Ａ
スポーツ科学Ｂ
スポーツ科学Ｃ

「スポーツ科学」受講にあたっては、次の点に注意してください。

① 体育館、テニスコート、ゴルフ場等への移動は、できる限り迅速に行ってください。

② 更衣等をする場合、各自で責任を持って貴重品を管理してください。

③ 第１週目の授業の集合場所については、必ず e-pass 等で確認してください。

４．情報メディア科目

大学や社会で必要なコンピュータ操作のスキルに加え、より高度な情報処理技能を修得します。１年次前期と後期の「基礎情報科学Ⅰ・Ⅱ」は全学科の必修科目で、大学や社会における情報の扱い方を学び、コンピュータや AI に関する基礎知識や活用方法を養います。その他の科目（メディア演習Ａ・メディア演習Ｂ・メディア演習Ｃ）では情報の発展的な知識や技能を学びつつ、メディアに関する専門的な知識や技能を、演習を通して修得します。

基礎情報科学Ⅰ・Ⅱ
メディア演習Ａ
メディア演習Ｂ
メディア演習Ｃ

5．コミュニケーションスキルズ科目（英語）

政治・経済や教育・文化など、社会のさまざまな面でのグローバル化、そしてインターネットに代表される情報技術の発達により、国際共通語としての英語の重要性は日に日に高まるばかりです。今や英語は国際語として、世界中で共通のコミュニケーションの手段として用いられ、現代人には英語を介して与えられる情報を正しく理解し、自分の意見を英語で表現する能力が必須となっています。

本学では、４年間を通して英語をコミュニケーションの手段として活用するスキルを身につけると同時に、英語を通して各学科で扱われるテーマやトピックの内容を正しく理解し、英語で自分の考えや意見を発信できる能力を育成する内容重視型の英語教育（Content-based Language Teaching）を展開しています。

各学科の上級学年には学科の学びを英語で行うクラスも設けられており、基礎英語は上級科目への橋渡しの役割も担っています（詳しくは、各学科のページをご覧ください）。

もちろん、授業だけで「使える英語」を習得することはできません。図書館や学習サポートセンター、グローバルコモンズなどの学内施設や利用可能な学習教材を活用して授業外での自学自習に努めましょう。

１．内容重視型の英語教育

各学年・各学期では、以下のテーマに基づいたクラスが展開されます。

総合心理学科	１年次前期（Freshman English Ⅰ） Psychology in Our Daily Lives １年次後期（Freshman English Ⅱ） Education for Human Sciences ２年次前期（Sophomore English Ⅰ） Social Studies ２年次後期（Sophomore English Ⅱ） Religion & Culture
子ども教育学科	１年次前期（Freshman English Ⅰ） Health, Family & the World １年次後期（Freshman English Ⅱ） Children's Education & Society ２年次前期（Sophomore English Ⅰ） English Learning Materials for Young Children ２年次後期（Sophomore English Ⅱ） Children's Human Rights
国際学科	１年次前期（Freshman English Ⅰ） International Relations & Intercultural Communication １年次後期（Freshman English Ⅱ） Language, Literature and Global Issues ２年次前期（Sophomore English Ⅰ） Business, Economy, Japan & the World ２年次後期（Sophomore English Ⅱ） Media & Society and Area Studies

２．授業内容

１年次および２年次は、必修科目として週２回の基礎英語クラスを受講します。

基礎英語クラスは「Speaking/Listening（話す／聞く）」「Reading/Writing（読む／書く）」に分けられています。

外国語の習得には継続的な学習が重要との観点から、基礎英語の授業では出席を重視します。単位取得には原則として各学期の授業日数の３分の２以上の出席が必要になります。

Freshman English
A）Speaking/Listening 海外での日常生活に必要な基本的な口語表現を学び、英語で円滑にコミュニケーションができる能力を身につけることを目標とします。身近なトピックに関する内容を聞いて理解し、日常表現を用いて自分のことについて簡単に会話したり、それについて教員や他の学生と英語（または日本語）でディスカッションできるようになることを目指します。毎回の授業では、ペアワークやグループディスカッション等を行いながら

スピーキング力を養っていきます。また、講義や視聴覚教材を視聴し、大意理解や要約などを行うこともあります。
国際学科のオンライン英会話を取り入れた授業では、学生とフィリピン人教員をインターネットを用いて１対１でつなぎ、個々の学生の英語運用能力に応じた指導を行います。英語を口頭で用いるアクティビティが中心となりますが、読み書きの作業も含まれるため、４技能の向上をめざした授業となっています。

Ｂ）Reading/Writing
１年次では、リーディングとライティングの基礎を築きます。リーディングでは、学科に関連する英文を正確に理解するための「精読」と、多様な文章に触れる「多読」を重視します。その中で、品詞や文法、基本文型、基礎語彙の理解を深めるとともに、主旨の把握、文脈からの語句の推測、必要情報の検索などのスキルを養成します。ライティングでは、まず正確な文を作成する力を身につけ、その後、論理的で一貫性のあるパラグラフ作成へと発展させます。描写、説明、分析、説得といった様々なタイプのパラグラフを学習しながら、下書き作成や修正、意見交換、引用方法などを段階的に習得します。

Sophomore English

Ａ）Speaking/Listening
１年次に習得したスピーキングおよびリスニング力をベースに、より高度なコミュニケーション能力を身につけていきます。身近なトピックに加え、より高度で時事的な内容のパッセージを聞き取り、それについて教員または学生同士でより長く英語で話せることが目標です。授業ではディスカッションやスピーチ、プレゼンテーションなどの様々なトレーニングを通して自分の意見を積極的かつ論理的に述べる力を身につけます。

Ｂ）Reading/Writing
２年次では、リーディングとライティングの統合的な力をさらに高めます。リーディングでは、精読と多読を通して文法や構文、語彙を定着させ、学科分野に関連するトピックへの理解を深めます。より幅広い文章に取り組み、内容を分析・批判・討論する力を養います。ライティングでは、１年次のパラグラフ・ライティングを基盤として、より高度で首尾一貫したエッセイの作成を目指します。アイデアの整理、論点の展開、根拠の統合を練習し、グループディスカッション、レポート作成、下書きや修正、ピア・フィードバックなどの活動を通して、明確かつ正確に意見を表現し、学術的な文章を構築する力を磨きます。

３．クラス編成と到達目標

本学の基礎英語では、学生の能力に合わせたクラス編成が行われます。それぞれの進度に合わせた到達目標が設定されており、授業内容や成績基準も進度に合わせて異なったものとなります。

（１）クラス編成

基礎英語のクラスは、入学時に行われる CASEC を用いた英語力判定試験のスコアをもとに、「Introductory（初級）」「Intermediate（中級）」「Advanced（上級）」の進度別に分けられます。２年次のクラスは、主として１年次後期（12月予定）に行われる CASEC の結果で振り分けられます。通常の英語技能の訓練だけでなく、学生は各学科のテーマについて調査し、批判的な分析を通して自分の視点を磨き、教員や学生同士とのやり取りを通して自分の意見を調整する力を磨きます。批判的かつ自発的に考え、リーダーシップを発揮することができる学生を養成することを目的としています。

国際学科には、特に優秀な学生を選抜したｔクラス（ｔは top の意）を設置しています。他のクラス同様、「Speaking/Listening」「Reading/Writing」という週２回のクラス編成ですが、ｔクラスでは、３・４年次の「英語による専門科目」につながる、より高度なトピック内容を扱う内容重視型教育（および内容言語統合型学習）を展開します。ｔクラスには、１年間優れた成績（「Speaking/Listening」「Reading/Writing」クラス前後期全てにおいて、優（Ａ）以上）をおさめた学生を対象に表彰状を授与する制度があります。

（２）成績評価

基礎英語のクラスでは、所属クラスに応じて取得できる成績評価の割合が異なります。初級、中級クラスの学生は、授業でより優れた成績を取得できるように努め、英語力判定試験で高得点を取ることでより上位のクラスを履修することができます。

（人数割合）	秀	優	良・可
t クラス（国際学科のみ）	制限なし		
Advanced（上級）	40%まで	35%まで	制限なし
Intermediate（中級）	25%まで	30%まで	
Introductory（初級）	15%まで	25%まで	

（３）基礎英語（２年間）の到達目標

基礎英語クラスでは、２年次終了時の学習到達目標が各学科、進度レベル別に設定されています。１年次後期の英語力は CASEC で測定し、２年次後期の英語力到達度テスト（TOEIC L&R）では、以下のスコアを目指します。

なお、右列の CEFR とは、言語を使って何ができるかを「Can-do（～ができる）」の形で示した共通参照枠であり、Ａ１（基礎）～Ｃ２（流暢）に格付けされています。

＜２年次後期に目指すスコア＞

	TOEIC L&R	CASEC（参考）	CEFR
総合心理学科			
Advanced（上級）	580	619 - 621	Ｂ１
Intermediate（中級）	500	571 - 574	Ａ２+
Introductory（初級）	450	537 - 540	Ａ２+
子ども教育学科			
Advanced（上級）	550	602 - 604	Ｂ１
Intermediate（中級）	470	551 - 554	Ａ２+
Introductory（初級）	400	496 - 499	Ａ２+
国際学科			
t クラス	700	685 - 687	Ｂ１+
Advanced（上級）	630	647 - 649	Ｂ１
Intermediate（中級）	550	602 - 604	Ｂ１
Introductory （初級）	470	551 - 554	Ａ２+

６．コミュニケーションスキルズ科目（第２外国語・手話・日本語）

英語以外の言語やその背景にある社会・文化を知ることも、グローバルな社会に生きる多様な人々を理解するために重要な学びとなります。

本学では、第２外国語として、３つのヨーロッパ言語（フランス語・ドイツ語・スペイン語）と２つのアジア言語（中国語・韓国語）のクラスを設けています。各言語のクラスには、ベーシック・アドバンスのレベルがあり、初めてその言語に触れる学生から、学びをさらに深めたい学生まで受け入れる体制をとっています。

また、本学では「手話」のクラスも設置しています。手話は、聴覚に障がいがある人同士の、そしてその人たちと健聴者をつなぐ、共生社会のコミュニケーションツールです。国連の障害者権利条約や日本の障害者基本法でも言語のひとつに位置づけられています。「手話」にもベーシックおよびアドバンスのレベルがあります。

１．第２外国語・手話のベーシッククラスの仕組み

第２外国語（フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、韓国語）と手話のベーシックのクラスは、週に２回行われ、履修者はどちらも受講します（すべて火曜日と金曜日の午後に開講されます)。クラスの組み合わせはあらかじめ決められています。両方のクラスに合格してはじめて２単位を修得することができます。

２．アドバンスクラスの履修について

それぞれの第２外国語および手話について、一定の知識・スキルのある学生は、アドバンスクラスを受講することができます。１年次からアドバンスクラスを受講することも、また１年次にベーシッククラスを終えてから、２、３年次に上位クラスを受講することも可能です。アドバンスクラスの授業も週に２回行われます。両方のクラスに合格してはじめて２単位を修得することができます。

※2026年度はアドバンスクラスの開講はありません。

３．日本語クラス（留学生およびそれに準ずると大学が認めた者が対象）について

本学には、海外から学びに来る学生や、日本に来て間もない外国籍の学生の日本語能力の向上を図るため、それらの学生を対象とした個別指導・少人数指導の日本語のクラスが設置されています。日本語クラスの受講には条件がありますので注意してください。

7．コミュニケーションスキルズ科目（5．6．を除く）

学生の専門やニーズ、興味に合わせたトピックを取り上げ、各分野に関連する語彙・表現、コミュニケーションスタイルを学習します。

コミュニケーション英文法
実生活の素材で基礎文法を学び、理解を深めながら表現力と対話力を養い、実践的コミュニケーション力を身につける。
English for Communication and Discussion
日常や社会のさまざまなテーマについて意見を交換したりディスカッションしたりする活動を通して、英検準1級レベルを目指し、正確さ・流暢さ・自信ある英語表現力を身につける。
Presenting in English
英語でのプレゼンテーション力を養う。発表練習を通して、信頼できる情報を基に内容を構成し、発音・姿勢・ジェスチャーで効果的に伝える力を身につける。発表の要約・批評も行う。
English for World Affairs
現代の世界情勢の基礎を形づくる重要な考え方を扱い、それらが現代社会の形成に果たしてきた役割を考察する。
English for Tourism
観光業界の実務英語を学び、業界特有の表現理解と業務遂行力を養う。併せて日英文化の違いを視覚教材で理解する。
English for Business
グローバルビジネスで通用する英語運用力と実践的コミュニケーション力を養い、専門用語理解、文書作成、会議・交渉・発表力を高める。
English for Journalism
英語の国際報道を読み聴きし、時事英語を習得。記事読解やニュース理解を通して国際的視野と英語力を高める。
Airline English
航空業界の実務英語と文化理解を学び、業務遂行力とポライトネス表現を習得。業界研究を通じ就職にも役立つ知識を得る。
Psychology in Romance Movies
映画の恋愛場面を中心に、登場人物の心の動きや行動を心理学の視点から考察し、感情表現や価値観の違いを議論する。リスニング、スピーキング、ライティングの力を総合的に磨きながら、異文化理解を深める。
Culture and History through Movies
英語圏の歴史や文化を学び、映画・資料を使って理解を深め、ディスカッションや発表を通じて英語コミュニケーション力を養う。
Exploring Novels through Movies
映像化作品を通して英語文学を多角的に考察すると同時に、英語力を高める。映像の視聴、原作の読解や比較検討・議論を通じて、リスニング・リーディング・スピーキング力の向上を目指す。
English in Pop Culture
ポップカルチャーを通じて現代英語と文化を学び、表現力・語彙力・理解力を高め、英語での発信力と議論力を養う。

English through Music
英語の歌詞を通して表現法と文化背景を学び、多義・比喩・イディオムなど言語の深層を探り、意味構築の仕組みを理解する。
コミュニケーションのための韓国語
授業内のアクティビティを通じて、韓国語の実践的なコミュニケーション力を身につける。ペアワーク、ディスカションやプレゼンテーションなどを行いながら、主にリスニングとスピーキング力を磨く。
ポップカルチャーから学ぶ韓国語
ポップカルチャー（大衆文化）の様々なコンテンツ（K-POP、ドラマや映画など）を題材にして多様な角度から韓国語を学ぶことにより、言語の習得のみならず韓国文化の理解を深める。
留学のための韓国語
韓国留学に必要な知識の習得と、韓国語力のスキルアップを目指す。留学準備、留学生活や文化の違いについて学び、4技能を磨きながら、留学生活に応じたコミュニケーション能力を習得する。

8．共通教養科目

本学は、開学以降「リベラルアーツ」を掲げた教育に取り組んできました。「リベラルアーツ」とは、人文科学・社会科学・自然科学などの幅広い教養を意味します。本学の共通教養科目は、哲学、自然科学、歴史学、芸術学領域を中心に、各学科の専門領域に限定されない横断的な科目が展開されています。

全学科に共通で設置されている教養科目は、以下のとおりです。これらの科目はすべての学生が「共通教養科目」として履修することができます。

日本国憲法
哲学概論
倫理と人権
健康心理学
教養のための歴史
生命と人間の歴史
教養のための自然科学
教養のための芸術Ａ
教養のための芸術Ｂ

９．アクティブ・ラーニング科目

フィールドワークや海外研修、インターンシップなど、大学の外に学びの場を広げる演習・実習科目です。実際に現地で行動したり、見る・聞く・人々と関わるといった体験を重視することで、能動的で主体的な学習を行います。問題解決型のクラスも複数用意されています。

授業内容の性質上、科目によっては事前説明会や、事前抽選・事前選抜、履修人数の制限などがあります。履修にあたっては必ずシラバスや e-pass のお知らせをよく確認し、その指示に従ってください。

フィールドワークＡ
フィールドワークＢ
フィールドワークＣ
プロジェクト学習Ａ
プロジェクト学習Ｂ
プロジェクト学習Ｃ
プロジェクト学習Ｄ
プロジェクト学習Ｅ
プロジェクト学習Ｆ
海外研修Ａ
海外研修Ｂ
歴史文化研修Ａ
歴史文化研修Ｂ
インターンシップ

１０．教養科目（オープン科目）

幅広いリベラルアーツ教育を推進し、学際的な学びを可能にするため、各学科の専門科目の一部を「教養科目（オープン科目）」として設定しています。これらの科目は、各学科が専門科目として設けているもので、自分が所属する学科の科目は学科専門科目として履修しますが、他の学科の科目は、「教養科目（オープン科目）」として履修することができます。予備知識を必要としない科目を中心に提供されていますが、受講者が多い場合には抽選が行われたり、科目設置学科の学生が優先されたりする場合があります。

「教養科目（オープン科目）」として履修できる他学科の専門科目のリストについては、自分が所属している学科の科目表のページをご覧ください。「学部共通科目」の中の「教養科目（○○学科オープン科目）」と表記されている科目がこれにあたります（自分が所属する学科以外の２学科のオープン科目が表記されています）。

１１．共通資格科目

学芸員・司書・社会調査士・日本語教育等の資格に関わる科目ですが、資格取得希望者だけでなく教養としての学びの機会を提供することを目的とし、学部共通科目に位置づけています。資格課程登録者のみに履修を認めている科目もあるため、各資格課程のページを確認しましょう。

学部共通科目（共通資格科目）（表記されている学科の学生が「学部共通科目」として履修できます）	
博物館概論	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
博物館資料論	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
博物館資料保存論	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
博物館教育論	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
博物館情報・メディア論	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
博物館経営論	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
博物館展示論	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
博物館実習Ⅰ	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
博物館実習Ⅱ	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
生涯学習概論	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
生活のなかの図書館	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
図書館情報技術論	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
図書館制度・経営論	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
生涯学習社会と図書館サービス	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
情報サービス論	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
情報資源組織論	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
情報資源組織演習Ⅰ	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
情報資源組織演習Ⅱ	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
子どもの読書支援	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
情報サービス演習Ⅰ	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
情報サービス演習Ⅱ	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
図書館の比較文化論	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
図書館情報資源概論	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
図書・図書館史	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
図書館情報資源特論	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
社会調査の基礎	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
社会調査法	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
データで読む社会	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
統計学	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
フィールド調査法	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
社会調査演習Ⅰ	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
社会調査演習Ⅱ	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
日本語教育法ＡⅠ	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
日本語教育法ＡⅡ	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）

日本語教育法ＢⅠ	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
日本語教育法ＢⅡ	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
日本語教育法ＣⅠ	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
日本語教育法ＣⅡ	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
日本語教育法ＤⅠ	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
日本語教育法ＤⅡ	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
日本語教育法ＥⅠ	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
日本語教育法ＥⅡ	（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）
教職の理解	（総合心理学科／国際学科）
教育課程論	（総合心理学科／国際学科）
道徳教育の理論と実践	（総合心理学科／国際学科）
特別活動と総合的な学習の時間	（総合心理学科／国際学科）
教育の方法と技術	（総合心理学科／国際学科）
生徒・進路指導の理論と方法	（総合心理学科／国際学科）
ICT 演習	（総合心理学科／国際学科）
学校体験	（総合心理学科／国際学科）
介護等体験	（総合心理学科／国際学科）
教育実習Ⅰ	（総合心理学科／国際学科）
教育実習Ⅱ	（総合心理学科／国際学科）
教育実習Ⅲ	（総合心理学科／国際学科）
教職実践演習（中・高）	（総合心理学科／国際学科）
教育社会学（中・高）	（総合心理学科／国際学科）

学科別カリキュラム

総合心理学科

総合心理学科では、人間の心理に対する科学的で実践的な力を身につける臨床心理学・発達心理学・教育心理学・社会心理学を中心とした心理学の専門科目とともに、人間理解のための文化や社会、歴史などの科目を心理学の関連領域として設置し、他者との協働的なコミュニケーションを図るための多角的な視点を修得します。

また、少人数制教育やグループワークの積極的活用、支援のための実習・演習などの体験を重視する科目によって、多様で複雑な現実のなかで実践できる能力を修得します。人間の心理に対する科学的で実践的な専門知識と技術の力に基づいて社会に参加し、創造的に活動し、多角的な視点を持ち、自己理解と多様な他者の理解に基づく協働的なコミュニケーションができる力を育てます。

○人間科学の学びを基礎に、心理学を人間と社会の広い視野でとらえる

心理学・社会学・教育学・宗教学などを軸に学び、多様な要素がからみ合った人間と社会について理解を深めます。学問の壁を越えて心理学を学べるカリキュラムで、物事を多角的に考え、提案し、実践する力を養います。

○幅広い「教養」を身につけてから、自らの「専門性」を深めていく

１年次から育んだ豊かな知識と視点は、「人を知りたい」と願う原動力となります。その好奇心を基に、2年次からコースに分かれて専門性を高めます。人を知ることは人を愛すること。人間を科学的に学べば、より人に優しくなれるでしょう。

○公認心理師資格取得を目指すカリキュラムが充実

本学では、指定の科目の単位を修得することで、希望者全員が「心理実習」を履修できます。また、総合心理学科には、本学大学院（公認心理師・臨床心理士対応）への内部推薦制度があります。

○４年間の学び

１年次：概論科目を中心に学科の学びの基礎を習得
心理学・社会学・教育学・宗教学・科学・死生学の概論で専門の学びの基礎を身につけます。

２年次：基礎とともに専門分野の学びがスタート
本格的な専門科目の授業が始まります。コースごとに必要な学科基礎科目は専門的学びの土台となります。

３年次：心理学の視点から深く人間や社会を見つめる
学科専門科目の学びで、心理学の知識と技能を習得。心理学的視点から人間や社会への考えを深めます。

４年次：ゼミで学びの集大成を論文に
３年次から続くゼミで、自らの興味、関心、問題意識を卒業研究・論文にまとめます。

◎臨床心理コース／発達・教育心理コース／文化・社会・心理コースのコース分け

総合心理学科には臨床心理コース、発達・教育心理コース、文化・社会・心理コースがあります。
１年次後期にコース希望票を提出し、希望したコースに２年次から配属されることになります。

臨床心理コース

臨床心理コースの特長

〇公認心理師・臨床心理士の資格取得やこころのケアのエキスパートを目指す

心理学にはさまざまな領域があり、中でも人を心理面で支援する臨床心理学は非常に重要な分野です。本コースでは、人が悩むこと、苦しむことについて、原因と意味を探り、「こころの回復」を支援するための専門知識と技法を実践的に学びます。公認心理師や臨床心理士の資格取得を目指す人だけでなく、こころのケアのエキスパートとして自分らしく人々を支えたい人にも向いています。

１．卒業に必要な単位（卒業要件単位）

総合心理学科臨床心理コースは、学部共通科目30単位、学科専門科目70単位、自由選択科目24単位、合計124単位が卒業に必要な単位です。

	単位	内訳	備　　考
学部共通科目	30	必修　18 選択必修　4 選択　8	※選択科目は共通資格科目を除いて８単位必要
学科専門科目	70	必修　26 選択必修　28 選択　16	
自由選択科目	24	・　学部共通科目、学科専門科目（他学科を含む）、単位互換科目、その他認定科目から選択。 ・　共通資格科目からは14単位まで算入することができます。	
計	124		

※卒業に必要な単位は合計で124単位以上です。そのうち、オンデマンド科目の単位は60単位まで算入できると定められています。なお、合計単位数が124単位を超えていても、必修科目や上記の区分毎の合計単位数が不足している場合は卒業できません。

※同一名称科目の単位を複数回修得した場合は、そのうち１回分の単位のみが卒業に必要な単位（124単位）に含まれます。

2．学部共通科目

総合心理学科臨床心理コースは、以下に記載してある必修科目18単位、選択必修４単位、選択８単位、合計30単位を修得してください。

（１）必修科目

下記の18単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「キリスト教概論」	２単位	１年次以上
「フレッシュマン・セミナーⅠ・Ⅱ」	各１単位、合計２単位	１年次以上
「ライフデザイン」	２単位	１年次以上
「基礎情報科学Ⅰ・Ⅱ」	各２単位、合計４単位	１年次以上
「Freshman English ＡⅠ・ＡⅡ・ＢⅠ・ＢⅡ」	各１単位、合計４単位	１年次以上
「Sophomore English ＡⅠ・ＡⅡ・ＢⅠ・ＢⅡ」	各１単位、合計４単位	２年次以上

（２）選択必修科目

下記の４科目から２単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「キリスト教文化史」「旧約聖書」「新約聖書」「東洋英和の歴史」	各２単位	２年次以上

※２単位を超えて単位を修得した場合、超えた単位は学部共通科目の選択科目８単位に加えることができます。
例えば、「キリスト教文化史」と「新約聖書」と「東洋英和の歴史」を修得した場合、「キリスト教文化史」２単位分は選択必修科目、「新約聖書」と「東洋英和の歴史」計４単位分は選択科目として認定されます。

下記の15科目から２単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「海外英語実習」「English in Pop Culture」「English through Music」	各２単位	１年次以上
「TOEIC 対策講座」	１単位	２年次以上
「コミュニケーション英文法」 「English for Communication and Discussion」 「English for World Affairs」「English for Tourism」 「English for Business」「English for Journalism」「Airline English」 「Psychology in Romance Movies」「Culture and History through Movies」 「Exploring Novels through Movies」	各２単位	２年次以上
「Presenting in English」	２単位	３年次以上

※２単位を超えて単位を修得した場合、超えた単位は学部共通科目の選択科目８単位に加えることができます。

（３）選択科目

上記（１）と（２）の単位を満たすために使用した科目以外の学部共通科目（共通資格科目を除く）から必要単位数（８単位）を修得してください。

（４）その他の学部共通科目

上記（１）～（３）の必要単位を超えて学部共通科目を修得した場合、その単位は「自由選択科目」に加えられます。

3．学科専門科目

（１）必修科目

下記の26単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「総合心理学基礎論」「心理学概論Ⅰ・Ⅱ」「社会学概論Ⅰ」 「宗教学概論Ⅰ」「教育学概論Ⅰ」「科学概論」	各２単位、合計14単位	１年次以上
「基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」	各２単位、合計４単位	２年次以上
「ゼミナールⅠ・Ⅱ」	各２単位、合計４単位	３年次以上
「ゼミナールⅢ・Ⅳ」	各２単位、合計４単位	４年次以上

（２）選択必修科目

下記の４科目（科目群Ａの一部）から４単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「社会学概論Ⅱ」「宗教学概論Ⅱ」「教育学概論Ⅱ」「死生学概論」	各２単位	１年次以上

※４単位を超えて単位を修得した場合、超えた単位は学科専門科目の選択科目16単位に加えることができます。

下記の４科目（科目群Ｂの一部）８単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「臨床心理学概論」	２単位	１年次以上
「心理学研究法」「心理学統計法Ⅰ」「心理学実験Ⅰ」	各２単位	２年次以上

下記の10科目（科目群Ｃまたは科目群Ｈの「心理演習」「心理実習」）から８単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「臨床心理フィールドワークＡ」「臨床心理フィールドワークＢ」 「臨床心理フィールドワークＣ」	各２単位	２年次以上
「心理的アセスメント」	４単位	２年次以上
「心理学実験Ⅱ」「心理学応用実習Ａ」「心理演習」	各２単位	３年次以上
「心理学調査実習」「心理学応用実習Ｂ」	各４単位	３年次以上
「心理実習」	２単位	４年次以上

※８単位を超えて単位を修得した場合、超えた単位は学科専門科目の選択科目16単位に加えることができます。

下記の６科目（科目群Ｄ）から４単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「知覚・認知心理学」	２単位	１年次以上
「感情・人格心理学」「神経・生理心理学」 「社会・集団・家族心理学」「障害者・障害児心理学」 「学習・言語心理学」	各２単位	２年次以上

※４単位を超えて単位を修得した場合、超えた単位は学科専門科目の選択科目16単位に加えることができます。

下記の９科目（科目群Ｅ）から４単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「健康・医療心理学」「福祉心理学」「教育・学校心理学」 「精神疾患とその治療」「臨床心理学各論Ｂ」「臨床心理学各論Ｃ」	各２単位	２年次以上
「心理学的支援法」「臨床心理学各論Ａ」「臨床心理学各論Ｄ」	各２単位	３年次以上

※４単位を超えて単位を修得した場合、超えた単位は学科専門科目の選択科目16単位に加えることができます。

（３）選択科目

卒業のためには、**学科専門科目から合計で16単位を修得する必要があります（必修科目および選択必修科目として算入したものを除く）。**

科目表「社会学概論Ⅱ」から「社会科・地歴科教育法Ⅱ」までの科目の中から16単位を修得してください。ただし、選択必修科目として修得した科目（28単位）を加えることはできません。

16単位を超えて単位を修得した場合は、超えた単位は自由選択科目24単位に加えることができます。

４．自由選択科目

自由選択科目として認定される科目は、下記のとおりです。
① 学部共通科目の選択科目８単位を超えて修得した単位
② 学科専門科目の選択科目16単位を超えて修得した単位
③ 共通資格科目（上限14単位）
④ 海外留学による単位認定
⑤ 単位互換科目
⑥ その他の認定科目

５．海外留学認定科目

本学の留学プログラム（協定校・推薦校・認定校）で留学した場合、留学先で履修した科目は帰国後所定の手続きと審査を経て、合計30単位を上限に本学の単位として認定されます。認定の方法には次の２つがあります。
１．本学の科目に振替える（原則として、留学先の科目と本学の科目が内容的にほぼ一致している必要があります）
２．「海外留学認定科目」という名称で自由選択科目として認定

◎総合心理学科 臨床心理コース

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学部共通科目	キリスト教基礎科目	キリスト教概論	2	◎	1		
		キリスト教文化史	2	▽	2		このうちから2単位を選択
		旧約聖書	2	▽	2		
		新約聖書	2	▽	2		
		東洋英和の歴史	2	▽	2		
	フレッシュマン・セミナー	フレッシュマン・セミナーⅠ	1	◎	1		
		フレッシュマン・セミナーⅡ	1	◎	1		
	ライフデザイン・ウェルネス科目	ライフデザイン	2	◎	1		
		ジェンダースタディーズA	2		2		
		ジェンダースタディーズB	2		2		
		ジェンダースタディーズC	2		2		
		ビジネスと社会A	2		2		
		ビジネスと社会B	2		2		
		ビジネスと社会C	2		2		
		キャリアデザイン	2		2		
		健康科学（講義・実技）	2		1		
		スポーツ科学A	1		1		
		スポーツ科学B	1		1		
		スポーツ科学C	1		1		
	情報メディア科目	基礎情報科学Ⅰ	2	◎	1		
		基礎情報科学Ⅱ	2	◎	1		
		メディア演習A	2		2	△	
		メディア演習B	2		2	△	
		メディア演習C	2		2	△	
	コミュニケーションスキルズ科目	Freshman English AⅠ	1	◎	1		
		Freshman English AⅡ	1	◎	1		
		Freshman English BⅠ	1	◎	1		
		Freshman English BⅡ	1	◎	1		
		Sophomore English AⅠ	1	◎	2		
		Sophomore English AⅡ	1	◎	2		
		Sophomore English BⅠ	1	◎	2		
		Sophomore English BⅡ	1	◎	2		
		フランス語（ベーシック）Ⅰ	2		1		ベーシックについては原則Ⅰ・Ⅱを同一年度に履修すること
		フランス語（ベーシック）Ⅱ	2		1		
		フランス語（アドバンス）	2		1		
		ドイツ語（ベーシック）Ⅰ	2		1		
		ドイツ語（ベーシック）Ⅱ	2		1		
		ドイツ語（アドバンス）	2		1		
		スペイン語（ベーシック）Ⅰ	2		1		
		スペイン語（ベーシック）Ⅱ	2		1		
		スペイン語（アドバンス）	2		1		
		中国語（ベーシック）Ⅰ	2		1		
		中国語（ベーシック）Ⅱ	2		1		
		中国語（アドバンス）	2		1		
		韓国語（ベーシック）Ⅰ	2		1		
		韓国語（ベーシック）Ⅱ	2		1		
		韓国語（アドバンス）	2		1		
		手話（ベーシック）Ⅰ	2		1		
		手話（ベーシック）Ⅱ	2		1		
		手話（アドバンス）	2		1		

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学部共通科目	コミュニケーションスキルズ科目	TOEIC対策講座	1	▽	2		このうちから2単位を選択
		海外英語実習	2	▽	1	△※1	※1 4年生は履修できない場合がある
		コミュニケーション英文法	2	▽	2		このうちから2単位を選択
		English for Communication and Discussion	2	▽	2		
		Presenting in English	2	▽	3		
		English for World Affairs	2	▽	2		
		English for Tourism	2	▽	2		
		English for Business	2	▽	2		
		English for Journalism	2	▽	2		
		Airline English	2	▽	2		
		Psychology in Romance Movies	2	▽	2		
		Culture and History through Movies	2	▽	2		
		Exploring Novels through Movies	2	▽	2		
		English in Pop Culture	2	▽	1		
		English through Music	2	▽	1		
		コミュニケーションのための韓国語	2		2		
		ポップカルチャーから学ぶ韓国語	2		2		
		留学のための韓国語	2		2		
		日本語AⅠ	1		1	※2	※2 留学生およびそれに準ずると大学が認めた者のみ履修可
		日本語AⅡ	1		1	※2	
		日本語BⅠ	1		1	※2	
		日本語BⅡ	1		1	※2	
		日本語CⅠ	1		1	※2	
		日本語CⅡ	1		1	※2	
	共通教養科目	日本国憲法	2		1		
		哲学概論	2		2		
		倫理と人権	2		1		
		健康心理学	2		2		
		教養のための歴史	2		1		
		生命と人間の歴史	2		2		
		教養のための自然科学	2		1		
		教養のための芸術A	2		1		
		教養のための芸術B	2		1		
	アクティブ・ラーニング科目	フィールドワークA	2		2	△	
		フィールドワークB	2		2	△	
		フィールドワークC	2		2	△	
		プロジェクト学習A	2		2	△	
		プロジェクト学習B	2		2	△	
		プロジェクト学習C	2		2	△	
		プロジェクト学習D	2		2	△	
		プロジェクト学習E	2		2	△	
		プロジェクト学習F	2		2	△	
		海外研修A	2		2	△※1	※1 4年生は履修できない場合がある
		海外研修B	2		2	△※1	
		歴史文化研修A	2		2	△	
		歴史文化研修B	2		2	△	
		インターンシップ	2		2	△	

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学部共通科目	教養科目（子ども教育学科オープン科目）	キリスト教人間形成論	2		3		
		キリスト教保育	2		3		
		教育思想史	2		1		
		保育教育原理	2		1		
		保育者論	2		1		
		子ども家庭支援論	2		2		
		社会福祉	2		1		
		社会的養護Ⅰ	2		2		
		子ども家庭支援の心理学	2		3		
		子どもの心理と発達Ⅰ	2		2		
		幼児の理解と教育の方法	2		2		
		乳児保育Ⅰ	2		2		
		子ども家庭福祉	2		1		
		子どもソーシャルワーク	2		3	△	
		インクルーシブ教育	2		3		
		子どもと自然	2		2		
		世界の子ども教育	2		2		
		子どもと国際社会	2		2		
		Speaking English with Children	2		3		
		子どもの感性とアート	2		2		
		子どものアートとサイエンス	2		3		
		子どもと文化	2		2		
		アートプロジェクト論	2		2		
		あそびと創造のデザイン学	2		2		
		子どもとパフォーミングアーツ	2		2		
		子どもフィールドワークA	2		3	△※	※4年生は履修できない場合がある
		子どもフィールドワークB	2		3		
		子どもフィールドワークC	2		2	△※	
	教養科目（国際学科オープン科目）	法学	2		1		
		国際関係入門	2		1		
		政治学	2		1		
		マクロ経済学	2		1		
		ミクロ経済学	2		1		
		ニュースを読む	2		2		
		国際社会学	2		1		
		多様性の社会思想	2		1		
		宗教と国際社会	2		2		
		異文化間コミュニケーション入門	2		1		
		グローバル時代のコミュニケーション	2		2		
		グローバリゼーションと文化	2		2		
		北米入門	2		1		
		現代の北米	2		2		
		ヨーロッパ・EU入門	2		1		
		現代のヨーロッパ・EU	2		2		
		北東アジア入門	2		1		
		東南アジア入門	2		1		
		現代のアジア	2		2		
		オセアニア入門	2		1		
		現代のオセアニア	2		2		
		グローバルサウス論	2		2		
		日本文化入門B	2		1		
		ホスピタリティ論	2		2		
		韓国の社会と文化	2		2		

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学部共通科目	教養科目（国際学科オープン科目）	英語学概論A	2		2		
		英語学概論B	2		2		
		英語文学入門A	2		1		
		英語文学入門B	2		1		
		英語児童文学	2		1		
		英語で紹介する日本A	2		1		
		英語で紹介する日本B	2		1		
		第二言語習得概論Ⅰ	2		2		
		第二言語習得概論Ⅱ	2		2		
		English for Study Abroad A	2		1		
		English for Study Abroad B	2		1		
		English as an International Language	2		2		
		English for Integrated Learning Ⅰ	2		2		
		English for Integrated Learning Ⅱ	2		2		
		Education around the World	2		2		
		English for Intercultural Understanding	2		2		
		留学準備講座	2		2	※	※2年次後期および3年次留学希望者のみ履修可
	共通資格科目	博物館概論	2		2	△	＊ 共通資格科目を修得した場合、自由選択科目として14単位まで加えることが可能（学部共通科目の選択科目8単位に加えることは不可）
		博物館資料論	2		2	△	
		博物館資料保存論	2		2	△	
		博物館教育論	2		2	△	
		博物館情報・メディア論	2		2	△	
		博物館経営論	2		2	△	
		博物館展示論	2		2		
		博物館実習Ⅰ	1		3	☆	
		博物館実習Ⅱ	2		3	☆	
		生涯学習概論	2		2		
		生活のなかの図書館	2		1		
		図書館情報技術論	2		2	☆	
		図書館制度・経営論	2		3	☆	
		生涯学習社会と図書館サービス	2		2		
		情報サービス論	2		3	☆	
		情報資源組織論	2		3	☆	
		情報資源組織演習Ⅰ	1		3	☆	
		情報資源組織演習Ⅱ	1		3	☆	
		子どもの読書支援	2		3		
		情報サービス演習Ⅰ	1		3	☆	
		情報サービス演習Ⅱ	1		3	☆	
		図書館の比較文化論	2		2		
		図書館情報資源概論	2		2		
		図書・図書館史	2		1		
		図書館情報資源特論	2		2		
		社会調査の基礎	2		1		
		社会調査法	2		1		
		データで読む社会	2		2		
		統計学	2		2		
		フィールド調査法	2		2		
		社会調査演習Ⅰ	2		3		
		社会調査演習Ⅱ	2		3		
		日本語教育法AⅠ	2		1		
		日本語教育法AⅡ	2		1		
		日本語教育法BⅠ	2		2		
		日本語教育法BⅡ	2		2		

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
☆ 各資格課程登録者に限る（詳細は、各資格課程の頁を参照）
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学部共通科目	共通資格科目	日本語教育法CⅠ	2		2		＊ 共通資格科目を修得した場合、自由選択科目として14単位まで加えることが可能（学部共通科目の選択科目8単位に加えることは不可）
		日本語教育法CⅡ	2		2		
		日本語教育法DⅠ	2		2	※1	
		日本語教育法DⅡ	2		2	※1	
		日本語教育法EⅠ	2		2		
		日本語教育法EⅡ	2		2		
		教職の理解	2		2	☆※2	
		教育課程論	2		2	☆※2	※1 日本語教育法DⅠ/DⅡは、日本語教育法BⅠ/BⅡの少なくともどちらか一方を履修済み、または同時履修の場合のみ履修可
		道徳教育の理論と実践	2		2	☆※2	
		特別活動と総合的な学習の時間	2		2	☆※2	
		教育の方法と技術	2		2	☆※2	
		生徒・進路指導の理論と方法	2		2	☆※2	
		ICT演習	2		2	☆※2	
		学校体験	1		2	☆※2	
		介護等体験	1		3	☆※2	
		教育実習Ⅰ	1		4	☆※2	
		教育実習Ⅱ	2		4	☆※2	
		教育実習Ⅲ	2		4	☆※2	
		教職実践演習（中・高）	2		4	☆※2	※2 子ども教育学科は履修不可
		教育社会学（中・高）	2		2	☆※2	
学科専門科目	ゼミナール	基礎ゼミナールⅠ	2	◎	2	×	
		基礎ゼミナールⅡ	2	◎	2	×	
		ゼミナールⅠ	2	◎	3	×	
		ゼミナールⅡ	2	◎	3	×	
		ゼミナールⅢ	2	◎	4	×	
		ゼミナールⅣ	2	◎	4	×	
	科目群A（学科基礎科目群）	総合心理学基礎論	2	◎	1	×	
		心理学概論Ⅰ	2	◎	1		
		心理学概論Ⅱ	2	◎	1		
		社会学概論Ⅰ	2	◎	1		
		宗教学概論Ⅰ	2	◎	1		
		教育学概論Ⅰ	2	◎	1		
		科学概論	2	◎	1		
		社会学概論Ⅱ	2	▽	1		このうちから4単位を選択
		宗教学概論Ⅱ	2	▽	1		
		教育学概論Ⅱ	2	▽	1		
		死生学概論	2	▽	1		
	科目群B（専門基礎科目群）	臨床心理学概論	2	▽	1		この8単位を選択
		心理学研究法	2	▽	2		
		心理学統計法Ⅰ	2	▽	2		
		心理学実験Ⅰ	2	▽	2	△	
		心理学統計法Ⅱ	2		2		
		発達心理学	2		1		
		教育心理学	2		2		
		AI概論	2		2		
	科目群C（心理学実習科目群）	心理学実験Ⅱ	2	▽	3	△	科目群Cまたは科目群Hの「心理演習」「心理実習」から8単位を選択
		心理的アセスメント	4	▽	2	×	
		心理学調査実習	4	▽	3	△	
		心理学応用実習A	2	▽	3	△	
		心理学応用実習B	4	▽	3	△	
		臨床心理フィールドワークA	2	▽	2	△	
		臨床心理フィールドワークB	2	▽	2	△	
		臨床心理フィールドワークC	2	▽	2	△	

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
☆ 各資格課程登録者に限る（詳細は、各資格課程の頁を参照）
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学科専門科目	科目群D（心理学基礎科目群）	知覚・認知心理学	2	▽	1		このうちから4単位を選択
		感情・人格心理学	2	▽	2		
		神経・生理心理学	2	▽	2		
		社会・集団・家族心理学	2	▽	2		
		障害者・障害児心理学	2	▽	2		
		学習・言語心理学	2	▽	2		
	科目群E（臨床心理科目群）	心理学的支援法	2	▽	3		このうちから4単位を選択
		健康・医療心理学	2	▽	2		
		福祉心理学	2	▽	2		
		教育・学校心理学	2	▽	2		
		精神疾患とその治療	2	▽	2		
		臨床心理学各論A	2	▽	3		
		臨床心理学各論B	2	▽	2		
		臨床心理学各論C	2	▽	2		
		臨床心理学各論D	2	▽	3		
	科目群F（発達教育心理科目群）	青年心理学	2		2		
		児童発達心理学	2		2		
		教育相談（中・高）	2		3	※	※子ども教育学科は履修不可
		教育心理学各論A	2		2		
		教育心理学各論B	2		2		
		発達心理学各論A	2		2		
		発達心理学各論B	2		2		
		教育工学	2		3		
		女性教育論	2		2		
		特別支援教育	2		3		
	科目群G（心理・社会科目群）	親子の臨床心理学	2		2	※	※子ども教育学科は履修不可
		対人社会心理学	2		2	※	
		メディア心理学	2		2		
		色彩・造形心理学	2		2		
		恋愛心理学	2		3		
		心理学特殊講義	2		2		
		AI演習	2		2		
		家族関係論	2		1		
		家族と社会	2		1		
		宗教社会学	2		2		
		生命倫理	2		2		
		臨床死生学	2		3		
		日本史概説	2		1		
		外国史概説	2		1		
		人文地理学	2		1		
		自然地理学	2		1		
		世界地誌	2		1		
		多文化社会論	2		2		
		文化人類学	2		1		
		比較文化論	2		2		
		日本文化入門A	2		1		
		ポップカルチャー論	2		2		
	科目群H（公認心理師科目群）	司法・犯罪心理学	2		2		
		産業・組織心理学	2		2		
		人体の構造と機能及び疾病	2		1	×	
		公認心理師の職責	2		3	×	科目群Cまたは科目群Hの「心理演習」「心理実習」から8単位を選択
		関係行政論	2		3		
		心理演習	2	▽	3	×※1	
		心理実習	2	▽	4	×※2	

※1　15人以下のクラスの演習である。履修条件あり。公認心理師資格のページを参照。
※2　15人以下のクラスの実習である。保健医療，福祉，教育，司法・犯罪，産業・労働の5分野に関する施設で80時間以上の実習を行う。履修条件あり。公認心理師資格のページを参照。
◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学科専門科目	科目群Ⅰ（教職科目群）	社会科・公民科教育法Ⅰ	2		3	☆	
		社会科・公民科教育法Ⅱ	2		3	☆	
		社会科・地歴科教育法Ⅰ	2		3	☆	
		社会科・地歴科教育法Ⅱ	2		3	☆	

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
☆ 各資格課程登録者に限る（詳細は、各資格課程の頁を参照）
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

6．取得できる資格

（1）中学校・高等学校教諭一種免許課程

総合心理学科の学生は、一定の条件を満たせば、中学校・高等学校教諭一種免許課程に登録することができ、免許取得のための履修・実習ができます。

総合心理学科の学生は中学校教諭一種（社会）、高等学校教諭一種（公民）の免許が取得できます。詳しくは、資格課程「中学校・高等学校教諭一種免許課程」のページを参照してください。

（2）学芸員資格

総合心理学科の学生は、課程登録し、必要な単位を修得することにより、博物館学芸員の資格を取得できます。詳しくは、資格課程「学芸員資格課程」のページを参照してください。

（3）司書資格

総合心理学科の学生は、課程登録し、必要な単位を修得することにより、司書資格を取得できます。詳しくは、資格課程「司書資格課程」のページを参照してください。

（4）社会調査士資格

総合心理学科の学生は、社会調査士資格に必要な単位を修得し、認定のための諸手続きをとることにより、社会調査士資格を得ることができます。詳しくは、資格課程「社会調査士資格」のページを参照してください。

（5）認定心理士資格

総合心理学科の学生は、認定心理士資格に必要な単位を修得し、認定のための諸手続きをとることにより、認定心理士資格を得ることができます。詳しくは、資格課程「認定心理士資格」のページを参照してください。

（6）公認心理師資格

総合心理学科の学生は、公認心理師資格取得のための履修・実習ができます。詳しくは、資格課程「公認心理師資格」のページを参照してください。また、別途行われる説明会にも参加して確認をしてください。

（7）准学校心理士資格

総合心理学科で中学校・高等学校教諭一種免許取得を目指す学生は、上記（1）の中学校・高等学校教諭一種免許を取得し、教職課程に関する単位の内、准学校心理士資格に必要な単位を修得し認定のための諸手続きをとることにより、公認心理師資格取得を目指す学生は、上記（7）の公認心理師資格に関する単位の内、准学校心理士資格取得に必要な単位を修得し認定のための諸手続きをとることにより、准学校心理士資格を得ることができます。詳しくは、資格課程「准学校心理士資格」のページを参照してください。

（8）社会福祉主事任用資格

総合心理学科の学生は、必要な単位を修得することにより、卒業時に社会福祉主事任用資格を得ることができます。詳しくは、資格課程「社会福祉主事任用資格」のページを参照してください。

その他

日本語教育基礎課程

総合心理学科の学生は、課程登録し、必要な単位を修得することにより、日本語教育の基礎を学んだことを示す「課程修了証明書」を取得できます。詳しくは、資格課程「日本語教育基礎課程」のページを参照してください。

時間割の作り方（総合心理学科１年生へアドバイス）

《Step１》e-pass で履修登録を行う前に、オリエンテーション時に配布された資料の中の「e-pass 履修登録用学生時間割計画表」に自分の時間割を作成しましょう。まず、大学側が履修登録をする科目（下記）を指定された曜日・時間に入れます。

□「Freshman English ＡⅠ・Ⅱ、ＢⅠ・Ⅱ」（各１単位 計４単位）
□「基礎情報科学Ⅰ・Ⅱ」（各２単位計４単位）
□「フレッシュマン・セミナーⅠ・Ⅱ」（各１単位 計２単位）

これらの科目は、e-pass でクラス分けが確認できますので、指定されたクラスの曜日・時限を書き入れましょう。

《Step２》次に、学部共通科目の必修科目を入れます。

□「キリスト教概論」（前期科目）（２単位）
□「ライフデザイン」（後期科目）（２単位）

これらの科目は、クラスを指定されていることがありますので、「別冊履修の手引き」を確認しましょう。

《Step３》さらに、学科専門科目の必修科目を入れます。

□「総合心理学基礎論」（前期科目）（２単位）
□「心理学概論Ⅰ・Ⅱ」（各２単位 計４単位）
□「社会学概論Ⅰ」（前期科目）（２単位）
□「宗教学概論Ⅰ」（前期科目）（２単位）
□「教育学概論Ⅰ」（前期科目）（２単位）
□「科学概論」（前期科目）（２単位）

★ここまでが、全員共通の登録科目となります。前期後期合わせて、計28単位が決まりました。

☆ここからは、それぞれの希望や今後の進路にあわせて科目を登録してください。

《Step４》学部共通科目の選択必修科目（４単位）の中から１年生が履修できる科目の履修を考えます。
→１年生が履修できる科目は「海外英語実習」「English in Pop Culture」「English through Music」です。
１年生向けの科目は２年生以降も履修できますので、無理のない範囲で登録してください。

《Step５》「社会学概論Ⅱ」「宗教学概論Ⅱ」「教育学概論Ⅱ」「死生学概論」から履修したい科目を考えます。
→発達・教育心理コースを卒業するためには「教育学概論Ⅱ」を必ず修得する必要があります。

《Step６》学科専門科目の選択必修科目（28単位）の中から１年生が履修できる科目の履修を考えます。
→臨床心理コースを卒業するためには「臨床心理学概論」を必ず修得する必要があります。
発達・教育心理コース卒業するためには「発達心理学」を必ず修得する必要があります。

《Step７》学部共通科目（共通資格科目を除く）の選択科目（８単位）、学科専門科目の選択科目（16単位）の履修を考えます。
→特に学部共通科目の選択科目８単位分はできるだけ１年生での修得をおすすめします。
発達・教育心理コース卒業するためには「共通教養科目」から２単位以上を必ず修得する必要があります。
文化・社会・心理コースを卒業するためには「共通教養科目」から２単位以上、「コミュニケーションスキルズ科目（選択必修科目の15科目を除く）及び「アクティブ・ラーニング科目（※）」から６単位以上を必ず修得する必要があります。
※「アクティブ・ラーニング科目」は、２年次から履修することが可能です。（１年次は履修不可）

《Step８》資格取得を希望する人は、資格科目を選択します。

最終チェック！

- **前期24単位、後期24単位、計48単位以内になりましたか。**
- **共通資格科目と「履修登録上限単位数を超えて登録できる科目」は、各学期24単位（年間48単位）を超えても履修できます。**
- **後期科目については、大学が履修登録した科目以外は、後期履修登録修正期間に登録しなおすことができますが、原則として前期後期全ての科目を前期履修登録期間に登録してください。**

これで、１年生の時間割は完成です！
e-pass で履修登録をしましょう。

総合心理学科 臨床心理コース履修モデル

履修モデルとは、卒業までにどのような知識やスキルを持った人材になるかを明確にし、その目標達成に向けて、履修すべき科目を具体的に例示したものです。この履修モデルどおりでなければならない、ということではありません。皆さんはこの履修モデルを参考に、自らの目標や目的に向けて、卒業要件と照らし合わせながら、履修計画を設計してください。

以下の履修モデルは、臨床心理学を中心に、心理学の専門知識や心理的支援の技能を学ぶ学生を想定したものです。主に公認心理師の資格科目を履修し、フィールドワーク科目によって支援者としての実践力も獲得します。想定される進路は、心理専門職、福祉施設職員、医療施設職員等です。公認心理師を目指すことも可能です。

卒業要件単位	科目区分	1年次		2年次		3年次・4年次		計
		科目名称	単位数	科目名称	単位数	科目名称	単位数	
学部共通科目(30単位以上)	キリスト教基礎科目	**◎キリスト教概論**	2	キリスト教文化史	2			
	フレッシュマン・セミナー	**◎フレッシュマン・セミナーⅠ**	1					
		◎フレッシュマン・セミナーⅡ	1					
	ライフデザイン・ウェルネス科目	**◎ライフデザイン**	2					
	情報メディア科目	**◎基礎情報科学Ⅰ**	2					
		◎基礎情報科学Ⅱ	2					
	コミュニケーションスキルズ科目	**◎Freshman English AⅠ**	1	**◎Sophomore English AⅠ**	1			
		◎Freshman English AⅡ	1	**◎Sophomore English AⅡ**	1			
		◎Freshman English BⅠ	1	**◎Sophomore English BⅠ**	1			
		◎Freshman English BⅡ	1	**◎Sophomore English BⅡ**	1			
		English in Pop Culture	2					
	共通教養科目	倫理と人権	2	健康心理学	2			
		教養のための自然科学	2					
	アクティブ・ラーニング科目							
	教養科目（他学科オープン科目）			ホスピタリティ論	2	あそびと創造のデザイン学	(2)	
	小計		20		10		0	30
学科専門科目(70単位以上)	ゼミナール			**◎基礎ゼミナールⅠ**	2	**◎ゼミナールⅠ**	2	
				◎基礎ゼミナールⅡ	2	**◎ゼミナールⅡ**	2	
						◎ゼミナールⅢ	2	
						◎ゼミナールⅣ	2	
	科目群Ａ（学科基礎科目群）	**◎総合心理学基礎論**	2					
		◎心理学概論Ⅰ	2					
		◎心理学概論Ⅱ	2					
		◎社会学概論Ⅰ	2					
		◎宗教学概論Ⅰ	2					
		◎教育学概論Ⅰ	2					
		◎科学概論	2					
		宗教学概論Ⅱ	2					
		死生学概論	2					
	科目群Ｂ（専門基礎科目群）	**▽臨床心理学概論**	2	**▽心理学研究法**	2	心理学統計法Ⅱ	(2)	
		発達心理学	2	**▽心理学統計法Ⅰ**	2	教育心理学	(2)	
				▽心理学実験Ⅰ	2			
	科目群Ｃ（心理学実習科目群）			心理的アセスメント	4	心理学実験Ⅱ	2	
				臨床心理フィールドワークB	2	臨床心理フィールドワークC	(2)	
	科目群Ｄ（心理学基礎科目群）	知覚・認知心理学	2	感情・人格心理学	2	障害者・障害児心理学	(2)	
				神経・生理心理学	2			
				社会・集団・家族心理学	2			
				学習・言語心理学	2			
	科目群Ｅ（臨床心理科目群）			健康・医療心理学	2	心理学的支援法	(2)	
				福祉心理学	2	教育・学校心理学	(2)	
				精神疾患とその治療	2	臨床心理学各論A	(2)	
						臨床心理学各論B	(2)	
	科目群Ｆ（発達教育心理科目群）					青年心理学	(2)	
						児童発達心理学	(2)	
	科目群Ｇ（心理・社会科目群）					親子の臨床心理学	(2)	
	科目群Ｈ（公認心理師科目群）	人体の構造と機能及び疾病	2	司法・犯罪心理学	2	公認心理師の職責	(2)	
				産業・組織心理学	2	関係行政論	(2)	
						心理演習	(2)	
						心理実習	(2)	
	科目群Ⅰ（教職科目群）							
	小計		26		34		10	70
自由選択科目(24単位以上)	すべて＊他学科科目・共通資格科目を含む					学部共通科目余剰分(カッコの単位数)	2	
						学科専門科目余剰分(カッコの単位数)	30	
	小計		0		0		32	32
124単位以上	計		46		44		42	132

【注意事項】

・学部共通科目、学科専門科目の必修科目・選択必修科目・選択科目の必要単位数を超過した分（単位数カッコ表記）が自由選択科目としてカウントされます。
なお、必修科目◎（および選択必修科目のうち必ず修得すべき科目▽）は**太字**で表記しています。

・時間割は毎年変動するため、時間割の重複等により、この表のとおりに履修できないこともあります。

発達・教育心理コース

発達・教育心理コースの特長

〇発達心理学・教育心理学を中心に広く社会で活かせる心理学の専門知識とスキルを身につける

発達心理学・教育心理学を中心に、広く心理学の専門的な知識とスキルを身につけます。発達障害やジェンダーマイノリティなどの理解を含め、学校や教育場面、企業などでさまざまな悩みを抱える人の心を理解し、ケアのできる専門家を育成します。また、教職課程にも力を入れ、子どもたちの心をしっかりと理解できる教員を育てます。公認心理師を目指すことも可能です。

１．卒業に必要な単位（卒業要件単位）

総合心理学科発達・教育心理コースは、学部共通科目30単位、学科専門科目70単位、自由選択科目24単位、合計124単位が卒業に必要な単位です。

	単位	内訳	備　　考
学部共通科目	30	必修　18 選択必修　4 選択　8	※選択科目は共通資格科目を除いて８単位必要
学科専門科目	70	必修　26 選択必修　28 選択　16	
自由選択科目	24	・　学部共通科目、学科専門科目（他学科を含む）、単位互換科目、その他認定科目から選択。 ・　共通資格科目からは14単位まで算入することができます。	
計	124		

※卒業に必要な単位は合計で124単位以上です。そのうち、オンデマンド科目の単位は60単位まで算入できると定められています。なお、合計単位数が124単位を超えていても、必修科目や上記の区分毎の合計単位数が不足している場合は卒業できません。

※同一名称科目の単位を複数回修得した場合は、そのうち１回分の単位のみが卒業に必要な単位（124単位）に含まれます。

2．学部共通科目

総合心理学科発達・教育心理コースは、以下に記載してある必修科目18単位、選択必修４単位、選択８単位、合計30単位を修得してください。

（１）必修科目

下記の18単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「キリスト教概論」	２単位	１年次以上
「フレッシュマン・セミナーⅠ・Ⅱ」	各１単位、合計２単位	１年次以上
「ライフデザイン」	２単位	１年次以上
「基礎情報科学Ⅰ・Ⅱ」	各２単位、合計４単位	１年次以上
「Freshman English ＡⅠ・ＡⅡ・ＢⅠ・ＢⅡ」	各１単位、合計４単位	１年次以上
「Sophomore English ＡⅠ・ＡⅡ・ＢⅠ・ＢⅡ」	各１単位、合計４単位	２年次以上

（２）選択必修科目

下記の４科目から２単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「キリスト教文化史」「旧約聖書」「新約聖書」「東洋英和の歴史」	各２単位	２年次以上

※２単位を超えて単位を修得した場合、超えた単位は学部共通科目の選択科目８単位に加えることができます。
例えば、「キリスト教文化史」と「新約聖書」と「東洋英和の歴史」を修得した場合、「キリスト教文化史」２単位分は選択必修科目、「新約聖書」と「東洋英和の歴史」計４単位分は選択科目として認定されます。

下記の15科目から２単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「海外英語実習」「English in Pop Culture」「English through Music」	各２単位	１年次以上
「TOEIC 対策講座」	１単位	２年次以上
「コミュニケーション英文法」 「English for Communication and Discussion」 「English for World Affairs」「English for Tourism」 「English for Business」「English for Journalism」「Airline English」 「Psychology in Romance Movies」「Culture and History through Movies」 「Exploring Novels through Movies」	各２単位	２年次以上
「Presenting in English」	２単位	３年次以上

※２単位を超えて単位を修得した場合、超えた単位は学部共通科目の選択科目に６単位まで加えることができます。

（３）選択科目

上記（１）と（２）の単位を満たすために使用した科目以外の学部共通科目（共通資格科目を除く）から必要単位数（８単位）を修得してください。

※８単位の中に下記の「共通教養科目」から２単位以上を必ず含んで修得してください。

科目名（共通教養科目）	単位数	履修年次
「日本国憲法」「倫理と人権」「教養のための歴史」 「教養のための自然科学」「教養のための芸術Ａ」「教養のための芸術Ｂ」	各２単位	１年次以上
「哲学概論」「健康心理学」「生命と人間の歴史」	各２単位	２年次以上

（４）その他の学部共通科目

上記（１）～（３）の必要単位を超えて学部共通科目を修得した場合、その単位は「自由選択科目」に加えられます。

3．学科専門科目

（１）必修科目

下記の26単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「総合心理学基礎論」「心理学概論Ⅰ・Ⅱ」「社会学概論Ⅰ」「宗教学概論Ⅰ」「教育学概論Ⅰ」「科学概論」	各２単位、合計14単位	１年次以上
「基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」	各２単位、合計４単位	２年次以上
「ゼミナールⅠ・Ⅱ」	各２単位、合計４単位	３年次以上
「ゼミナールⅢ・Ⅳ」	各２単位、合計４単位	４年次以上

（２）選択必修科目

下記の４科目（科目群Ａの一部）から「教育学概論Ⅱ」を含む４単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「教育学概論Ⅱ」	２単位	１年次以上
「社会学概論Ⅱ」「宗教学概論Ⅱ」「死生学概論」	各２単位	１年次以上

※４単位を超えて単位を修得した場合、超えた単位は学科専門科目の選択科目16単位に加えることができます。

下記の５科目（科目群Ｂの一部）10単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「発達心理学」	２単位	１年次以上
「心理学研究法」「心理学統計法Ⅰ」「心理学実験Ⅰ」「教育心理学」	各２単位	２年次以上

下記の８科目（科目群Ｃ）から６単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「臨床心理フィールドワークＡ」「臨床心理フィールドワークＢ」「臨床心理フィールドワークＣ」	各２単位	２年次以上
「心理的アセスメント」	４単位	２年次以上
「心理学実験Ⅱ」「心理学応用実習Ａ」	各２単位	３年次以上
「心理学調査実習」「心理学応用実習Ｂ」	各４単位	３年次以上

※６単位を超えて単位を修得した場合、超えた単位は学科専門科目の選択科目16単位に加えることができます。

下記の６科目（科目群Ｄ）から４単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「知覚・認知心理学」	２単位	１年次以上
「感情・人格心理学」「神経・生理心理学」「社会・集団・家族心理学」「障害者・障害児心理学」「学習・言語心理学」	各２単位	２年次以上

※４単位を超えて単位を修得した場合、超えた単位は学科専門科目の選択科目16単位に加えることができます。

下記の10科目（科目群Ｆ）から４単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「青年心理学」「児童発達心理学」「教育心理学各論Ａ」「教育心理学各論Ｂ」「発達心理学各論Ａ」「発達心理学各論Ｂ」「女性教育論」	各２単位	２年次以上
「教育相談（中・高）」「教育工学」「特別支援教育」	各２単位	３年次以上

※４単位を超えて単位を修得した場合、超えた単位は学科専門科目の選択科目16単位に加えることができます。

（３）選択科目

卒業のためには、**学科専門科目から合計で16単位を修得する必要があります（必修科目および選択必修科目として算入したものを除く）。**

科目表「社会学概論Ⅱ」から「社会科・地歴科教育法Ⅱ」までの科目の中から16単位を修得してください。ただし、選択必修科目として修得した科目（28単位）を加えることはできません。

16単位を超えて単位を修得した場合は、超えた単位は自由選択科目24単位に加えることができます。

４．自由選択科目

自由選択科目として認定される科目は、下記のとおりです。
① 学部共通科目の選択科目８単位を超えて修得した単位
② 学科専門科目の選択科目16単位を超えて修得した単位
③ 共通資格科目（上限14単位）
④ 海外留学による単位認定
⑤ 単位互換科目
⑥ その他の認定科目

５．海外留学認定科目

本学の留学プログラム（協定校・推薦校・認定校）で留学した場合、留学先で履修した科目は帰国後所定の手続きと審査を経て、合計30単位を上限に本学の単位として認定されます。認定の方法には次の２つがあります。
１．本学の科目に振替える（原則として、留学先の科目と本学の科目が内容的にほぼ一致している必要があります）
２．「海外留学認定科目」という名称で自由選択科目として認定

◎総合心理学科 発達・教育心理コース

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学部共通科目	キリスト教基礎科目	キリスト教概論	2	◎	1		
		キリスト教文化史	2	▽	2		このうちから2単位を選択
		旧約聖書	2	▽	2		
		新約聖書	2	▽	2		
		東洋英和の歴史	2	▽	2		
	フレッシュマン・セミナー	フレッシュマン・セミナーⅠ	1	◎	1		
		フレッシュマン・セミナーⅡ	1	◎	1		
	ライフデザイン・ウェルネス科目	ライフデザイン	2	◎	1		
		ジェンダースタディーズA	2		2		
		ジェンダースタディーズB	2		2		
		ジェンダースタディーズC	2		2		
		ビジネスと社会A	2		2		
		ビジネスと社会B	2		2		
		ビジネスと社会C	2		2		
		キャリアデザイン	2		2		
		健康科学（講義・実技）	2		1		
		スポーツ科学A	1		1		
		スポーツ科学B	1		1		
		スポーツ科学C	1		1		
	情報メディア科目	基礎情報科学Ⅰ	2	◎	1		
		基礎情報科学Ⅱ	2	◎	1		
		メディア演習A	2		2	△	
		メディア演習B	2		2	△	
		メディア演習C	2		2	△	
	コミュニケーションスキルズ科目	Freshman English AⅠ	1	◎	1		
		Freshman English AⅡ	1	◎	1		
		Freshman English BⅠ	1	◎	1		
		Freshman English BⅡ	1	◎	1		
		Sophomore English AⅠ	1	◎	2		
		Sophomore English AⅡ	1	◎	2		
		Sophomore English BⅠ	1	◎	2		
		Sophomore English BⅡ	1	◎	2		
		フランス語（ベーシック）Ⅰ	2		1		ベーシックについては原則Ⅰ・Ⅱを同一年度に履修すること
		フランス語（ベーシック）Ⅱ	2		1		
		フランス語（アドバンス）	2		1		
		ドイツ語（ベーシック）Ⅰ	2		1		
		ドイツ語（ベーシック）Ⅱ	2		1		
		ドイツ語（アドバンス）	2		1		
		スペイン語（ベーシック）Ⅰ	2		1		
		スペイン語（ベーシック）Ⅱ	2		1		
		スペイン語（アドバンス）	2		1		
		中国語（ベーシック）Ⅰ	2		1		
		中国語（ベーシック）Ⅱ	2		1		
		中国語（アドバンス）	2		1		
		韓国語（ベーシック）Ⅰ	2		1		
		韓国語（ベーシック）Ⅱ	2		1		
		韓国語（アドバンス）	2		1		
		手話（ベーシック）Ⅰ	2		1		
		手話（ベーシック）Ⅱ	2		1		
		手話（アドバンス）	2		1		

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学部共通科目	コミュニケーションスキルズ科目	TOEIC対策講座	1	▽	2		このうちから2単位を選択
		海外英語実習	2	▽	1	△※1	※1 4年生は履修できない場合がある
		コミュニケーション英文法	2	▽	2		
		English for Communication and Discussion	2	▽	2		
		Presenting in English	2	▽	3		
		English for World Affairs	2	▽	2		
		English for Tourism	2	▽	2		
		English for Business	2	▽	2		
		English for Journalism	2	▽	2		
		Airline English	2	▽	2		
		Psychology in Romance Movies	2	▽	2		
		Culture and History through Movies	2	▽	2		
		Exploring Novels through Movies	2	▽	2		
		English in Pop Culture	2	▽	1		
		English through Music	2	▽	1		
		コミュニケーションのための韓国語	2		2		
		ポップカルチャーから学ぶ韓国語	2		2		
		留学のための韓国語	2		2		
		日本語AⅠ	1		1	※2	※2 留学生および それに準ずると 大学が認めた者 のみ履修可
		日本語AⅡ	1		1	※2	
		日本語BⅠ	1		1	※2	
		日本語BⅡ	1		1	※2	
		日本語CⅠ	1		1	※2	
		日本語CⅡ	1		1	※2	
	共通教養科目	日本国憲法	2		1		このうちから2単位以上を選択し、それを含めて学部共通科目（共通資格科目を除く）から8単位を選択
		哲学概論	2		2		
		倫理と人権	2		1		
		健康心理学	2		2		
		教養のための歴史	2		1		
		生命と人間の歴史	2		2		
		教養のための自然科学	2		1		
		教養のための芸術A	2		1		
		教養のための芸術B	2		1		
	アクティブ・ラーニング科目	フィールドワークA	2		2	△	※1 4年生は履修できない場合がある
		フィールドワークB	2		2	△	
		フィールドワークC	2		2	△	
		プロジェクト学習A	2		2	△	
		プロジェクト学習B	2		2	△	
		プロジェクト学習C	2		2	△	
		プロジェクト学習D	2		2	△	
		プロジェクト学習E	2		2	△	
		プロジェクト学習F	2		2	△	
		海外研修A	2		2	△※1	
		海外研修B	2		2	△※1	
		歴史文化研修A	2		2	△	
		歴史文化研修B	2		2	△	
		インターンシップ	2		2	△	

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学部共通科目	教養科目（子ども教育学科オープン科目）	キリスト教人間形成論	2		3		
		キリスト教保育	2		3		
		教育思想史	2		1		
		保育教育原理	2		1		
		保育者論	2		1		
		子ども家庭支援論	2		2		
		社会福祉	2		1		
		社会的養護Ⅰ	2		2		
		子ども家庭支援の心理学	2		3		
		子どもの心理と発達Ⅰ	2		2		
		幼児の理解と教育の方法	2		2		
		乳児保育Ⅰ	2		2		
		子ども家庭福祉	2		1		
		子どもソーシャルワーク	2		3	△	
		インクルーシブ教育	2		3		
		子どもと自然	2		2		
		世界の子ども教育	2		2		
		子どもと国際社会	2		2		
		Speaking English with Children	2		3		
		子どもの感性とアート	2		2		
		子どものアートとサイエンス	2		3		
		子どもと文化	2		2		
		アートプロジェクト論	2		2		
		あそびと創造のデザイン学	2		2		
		子どもとパフォーミングアーツ	2		2		
		子どもフィールドワークA	2		3	△※	※4年生は履修できない場合がある
		子どもフィールドワークB	2		3		
		子どもフィールドワークC	2		2	△※	
	教養科目（国際学科オープン科目）	法学	2		1		
		国際関係入門	2		1		
		政治学	2		1		
		マクロ経済学	2		1		
		ミクロ経済学	2		1		
		ニュースを読む	2		2		
		国際社会学	2		1		
		多様性の社会思想	2		1		
		宗教と国際社会	2		2		
		異文化間コミュニケーション入門	2		1		
		グローバル時代のコミュニケーション	2		2		
		グローバリゼーションと文化	2		2		
		北米入門	2		1		
		現代の北米	2		2		
		ヨーロッパ・EU入門	2		1		
		現代のヨーロッパ・EU	2		2		
		北東アジア入門	2		1		
		東南アジア入門	2		1		
		現代のアジア	2		2		
		オセアニア入門	2		1		
		現代のオセアニア	2		2		
		グローバルサウス論	2		2		
		日本文化入門B	2		1		
		ホスピタリティ論	2		2		
		韓国の社会と文化	2		2		

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学部共通科目	教養科目（国際学科オープン科目）	英語学概論A	2		2		
		英語学概論B	2		2		
		英語文学入門A	2		1		
		英語文学入門B	2		1		
		英語児童文学	2		1		
		英語で紹介する日本A	2		1		
		英語で紹介する日本B	2		1		
		第二言語習得概論Ⅰ	2		2		
		第二言語習得概論Ⅱ	2		2		
		English for Study Abroad A	2		1		
		English for Study Abroad B	2		1		
		English as an International Language	2		2		
		English for Integrated Learning Ⅰ	2		2		
		English for Integrated Learning Ⅱ	2		2		
		Education around the World	2		2		※2年次後期および3年次留学希望者のみ履修可
		English for Intercultural Understanding	2		2		
		留学準備講座	2		2	※	
	共通資格科目	博物館概論	2		2	△	＊ 共通資格科目を修得した場合、自由選択科目として14単位まで加えることが可能（学部共通科目の選択科目8単位に加えることは不可）
		博物館資料論	2		2	△	
		博物館資料保存論	2		2	△	
		博物館教育論	2		2	△	
		博物館情報・メディア論	2		2	△	
		博物館経営論	2		2	△	
		博物館展示論	2		2		
		博物館実習Ⅰ	1		3	☆	
		博物館実習Ⅱ	2		3	☆	
		生涯学習概論	2		2		
		生活のなかの図書館	2		1		
		図書館情報技術論	2		2	☆	
		図書館制度・経営論	2		3	☆	
		生涯学習社会と図書館サービス	2		2		
		情報サービス論	2		3	☆	
		情報資源組織論	2		3	☆	
		情報資源組織演習Ⅰ	1		3	☆	
		情報資源組織演習Ⅱ	1		3	☆	
		子どもの読書支援	2		3		
		情報サービス演習Ⅰ	1		3	☆	
		情報サービス演習Ⅱ	1		3	☆	
		図書館の比較文化論	2		2		
		図書館情報資源概論	2		2		
		図書・図書館史	2		1		
		図書館情報資源特論	2		2		
		社会調査の基礎	2		1		
		社会調査法	2		1		
		データで読む社会	2		2		
		統計学	2		2		
		フィールド調査法	2		2		
		社会調査演習Ⅰ	2		3		
		社会調査演習Ⅱ	2		3		
		日本語教育法AⅠ	2		1		
		日本語教育法AⅡ	2		1		
		日本語教育法BⅠ	2		2		
		日本語教育法BⅡ	2		2		

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
☆ 各資格課程登録者に限る（詳細は、各資格課程の頁を参照）
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学部共通科目	共通資格科目	日本語教育法CⅠ	2		2		＊ 共通資格科目を修得した場合、自由選択科目として14単位まで加えることが可能（学部共通科目の選択科目8単位に加えることは不可）
		日本語教育法CⅡ	2		2		
		日本語教育法DⅠ	2		2	※1	
		日本語教育法DⅡ	2		2	※1	
		日本語教育法EⅠ	2		2		
		日本語教育法EⅡ	2		2		
		教職の理解	2		2	☆※2	
		教育課程論	2		2	☆※2	※1 日本語教育法DⅠ/DⅡは、日本語教育法BⅠ/BⅡの少なくともどちらか一方を履修済み、または同時履修の場合のみ履修可
		道徳教育の理論と実践	2		2	☆※2	
		特別活動と総合的な学習の時間	2		2	☆※2	
		教育の方法と技術	2		2	☆※2	
		生徒・進路指導の理論と方法	2		2	☆※2	
		ICT演習	2		2	☆※2	
		学校体験	1		2	☆※2	
		介護等体験	1		3	☆※2	
		教育実習Ⅰ	1		4	☆※2	
		教育実習Ⅱ	2		4	☆※2	
		教育実習Ⅲ	2		4	☆※2	※2 子ども教育学科は履修不可
		教職実践演習（中・高）	2		4	☆※2	
		教育社会学（中・高）	2		2	☆※2	
学科専門科目	ゼミナール	基礎ゼミナールⅠ	2	◎	2	×	
		基礎ゼミナールⅡ	2	◎	2	×	
		ゼミナールⅠ	2	◎	3	×	
		ゼミナールⅡ	2	◎	3	×	
		ゼミナールⅢ	2	◎	4	×	
		ゼミナールⅣ	2	◎	4	×	
	科目群A（学科基礎科目群）	総合心理学基礎論	2	◎	1	×	
		心理学概論Ⅰ	2	◎	1		
		心理学概論Ⅱ	2	◎	1		
		社会学概論Ⅰ	2	◎	1		
		宗教学概論Ⅰ	2	◎	1		
		教育学概論Ⅰ	2	◎	1		
		科学概論	2	◎	1		
		教育学概論Ⅱ	2	▽	1		このうちから「教育学概論Ⅱ」を含む4単位を選択
		社会学概論Ⅱ	2	▽	1		
		宗教学概論Ⅱ	2	▽	1		
		死生学概論	2	▽	1		
	科目群B（専門基礎科目群）	発達心理学	2	▽	1		この10単位を選択
		心理学研究法	2	▽	2		
		心理学統計法Ⅰ	2	▽	2		
		心理学実験Ⅰ	2	▽	2	△	
		教育心理学	2	▽	2		
		臨床心理学概論	2		1		
		心理学統計法Ⅱ	2		2		
		AI概論	2		2		
	科目群C（心理学実習科目群）	心理学実験Ⅱ	2	▽	3	△	このうちから6単位を選択
		心理的アセスメント	4	▽	2	×	
		心理学調査実習	4	▽	3	△	
		心理学応用実習A	2	▽	3	△	
		心理学応用実習B	4	▽	3	△	
		臨床心理フィールドワークA	2	▽	2	△	
		臨床心理フィールドワークB	2	▽	2	△	
		臨床心理フィールドワークC	2	▽	2	△	

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
☆ 各資格課程登録者に限る（詳細は、各資格課程の頁を参照）
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学科専門科目	科目群D（心理学基礎科目群）	知覚・認知心理学	2	▽	1		このうちから4単位を選択
		感情・人格心理学	2	▽	2		
		神経・生理心理学	2	▽	2		
		社会・集団・家族心理学	2	▽	2		
		障害者・障害児心理学	2	▽	2		
		学習・言語心理学	2	▽	2		
	科目群E（臨床心理科目群）	心理学的支援法	2		3		
		健康・医療心理学	2		2		
		福祉心理学	2		2		
		教育・学校心理学	2		2		
		精神疾患とその治療	2		2		
		臨床心理学各論A	2		3		
		臨床心理学各論B	2		2		
		臨床心理学各論C	2		2		
		臨床心理学各論D	2		3		
	科目群F（発達教育心理科目群）	青年心理学	2	▽	2		※子ども教育学科は履修不可 このうちから4単位を選択
		児童発達心理学	2	▽	2		
		教育相談（中・高）	2	▽	3	※	
		教育心理学各論A	2	▽	2		
		教育心理学各論B	2	▽	2		
		発達心理学各論A	2	▽	2		
		発達心理学各論B	2	▽	2		
		教育工学	2	▽	3		
		女性教育論	2	▽	2		
		特別支援教育	2	▽	3		
	科目群G（心理・社会科目群）	親子の臨床心理学	2		2	※	※子ども教育学科は履修不可
		対人社会心理学	2		2	※	
		メディア心理学	2		2		
		色彩・造形心理学	2		2		
		恋愛心理学	2		3		
		心理学特殊講義	2		2		
		AI演習	2		2		
		家族関係論	2		1		
		家族と社会	2		1		
		宗教社会学	2		2		
		生命倫理	2		2		
		臨床死生学	2		3		
		日本史概説	2		1		
		外国史概説	2		1		
		人文地理学	2		1		
		自然地理学	2		1		
		世界地誌	2		1		
		多文化社会論	2		2		
		文化人類学	2		1		
		比較文化論	2		2		
		日本文化入門A	2		1		
		ポップカルチャー論	2		2		
	科目群H（公認心理師科目群）	司法・犯罪心理学	2		2		
		産業・組織心理学	2		2		
		人体の構造と機能及び疾病	2		1	×	
		公認心理師の職責	2		3	×	
		関係行政論	2		3		
		心理演習	2		3	×※1	
		心理実習	2		4	×※2	

※1　15人以下のクラスの演習である。履修条件あり。公認心理師資格のページを参照。
※2　15人以下のクラスの実習である。保健医療，福祉，教育，司法・犯罪，産業・労働の5分野に関する施設で80時間以上の実習を行う。履修条件あり。公認心理師資格のページを参照。
◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学科専門科目	科目群Ⅰ（教職科目群）	社会科・公民科教育法Ⅰ	2		3	☆	
		社会科・公民科教育法Ⅱ	2		3	☆	
		社会科・地歴科教育法Ⅰ	2		3	☆	
		社会科・地歴科教育法Ⅱ	2		3	☆	

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
☆ 各資格課程登録者に限る（詳細は、各資格課程の頁を参照）
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

6．取得できる資格

（1）中学校・高等学校教諭一種免許課程

総合心理学科の学生は、一定の条件を満たせば、中学校・高等学校教諭一種免許課程に登録することができ、免許取得のための履修・実習ができます。

総合心理学科の学生は中学校教諭一種（社会）、高等学校教諭一種（公民）の免許が取得できます。詳しくは、資格課程「中学校・高等学校教諭一種免許課程」のページを参照してください。

（2）学芸員資格

総合心理学科の学生は、課程登録し、必要な単位を修得すれば、博物館学芸員の資格を取得できます。詳しくは、資格課程「学芸員資格課程」のページを参照してください。

（3）司書資格

総合心理学科の学生は、課程登録し、必要な単位を修得すれば、司書資格を取得できます。詳しくは、資格課程「司書資格課程」のページを参照してください。

（4）社会調査士資格

総合心理学科の学生は、社会調査士資格に必要な単位を修得し、認定のための諸手続きをとることによって社会調査士資格を得ることができます。詳しくは、資格課程「社会調査士資格」のページを参照してください。

（5）認定心理士資格

総合心理学科の学生は、認定心理士資格に必要な単位を修得し、認定のための諸手続きをとることによって認定心理士資格を得ることができます。詳しくは、資格課程「認定心理士資格」のページを参照してください。

（6）公認心理師資格

総合心理学科の学生は、公認心理師資格取得のための履修・実習ができます。詳しくは、資格課程「公認心理師資格」のページを参照してください。また、別途行われる説明会にも参加して確認をしてください。

（7）准学校心理士資格

総合心理学科で中学校・高等学校教諭一種免許取得を目指す学生は、上記（1）の中学校・高等学校教諭一種免許を取得し、教職課程に関する単位の内、准学校心理士資格に必要な単位を修得し認定のための諸手続きをとることにより、公認心理師資格取得を目指す学生は、上記（7）の公認心理師資格に関する単位の内、准学校心理士資格取得に必要な単位を修得し認定のための諸手続きをとることにより、准学校心理士資格を得ることができます。詳しくは、資格課程「准学校心理士資格」のページを参照してください。

（8）社会福祉主事任用資格

総合心理学科の学生は、必要な単位を修得することにより、卒業時に社会福祉主事任用資格を得ることができます。詳しくは、資格課程「社会福祉主事任用資格」のページを参照してください。

その他

日本語教育基礎課程

総合心理学科の学生は、課程登録し、必要な単位を修得すれば、日本語教育の基礎を学んだことを示す「課程修了証明書」を取得できます。詳しくは、資格課程「日本語教育基礎課程」のページを参照してください。

時間割の作り方（総合心理学科１年生へアドバイス）

《Step１》e-pass で履修登録を行う前に、オリエンテーション時に配布された資料の中の「e-pass 履修登録用学生時間割計画表」に自分の時間割を作成しましょう。まず、大学側が履修登録をする科目（下記）を指定された曜日・時間に入れます。

□「Freshman English ＡⅠ・Ⅱ、ＢⅠ・Ⅱ」（各１単位 計４単位）
□「基礎情報科学Ⅰ・Ⅱ」（各２単位計４単位）
□「フレッシュマン・セミナーⅠ・Ⅱ」（各１単位 計２単位）

これらの科目は、e-pass でクラス分けが確認できますので、指定されたクラスの曜日・時限を書き入れましょう。

《Step２》次に、学部共通科目の必修科目を入れます。

□「キリスト教概論」（前期科目）（２単位）
□「ライフデザイン」（後期科目）（２単位）

これらの科目は、クラスを指定されていることがありますので、「別冊履修の手引き」を確認しましょう。

《Step３》さらに、学科専門科目の必修科目を入れます。

□「総合心理学基礎論」（前期科目）（２単位）
□「心理学概論Ⅰ・Ⅱ」（各２単位 計４単位）
□「社会学概論Ⅰ」（前期科目）（２単位）
□「宗教学概論Ⅰ」（前期科目）（２単位）
□「教育学概論Ⅰ」（前期科目）（２単位）
□「科学概論」（前期科目）（２単位）

★ここまでが、全員共通の登録科目となります。前期後期合わせて、計28単位が決まりました。

☆ここからは、それぞれの希望や今後の進路にあわせて科目を登録してください。

《Step４》学部共通科目の選択必修科目（４単位）の中から１年生が履修できる科目の履修を考えます。
→１年生が履修できる科目は「海外英語実習」「English in Pop Culture」「English through Music」です。
１年生向けの科目は２年生以降も履修できますので、無理のない範囲で登録してください。

《Step５》「社会学概論Ⅱ」「宗教学概論Ⅱ」「教育学概論Ⅱ」「死生学概論」から履修したい科目を考えます。
→発達・教育心理コースを卒業するためには「教育学概論Ⅱ」を必ず修得する必要があります。

《Step６》学科専門科目の選択必修科目（28単位）の中から１年生が履修できる科目の履修を考えます。
→臨床心理コースを卒業するためには「臨床心理学概論」を必ず修得する必要があります。
発達・教育心理コース卒業するためには「発達心理学」を必ず修得する必要があります。

《Step７》学部共通科目（共通資格科目を除く）の選択科目（８単位）、学科専門科目の選択科目（16単位）の履修を考えます。
→特に学部共通科目の選択科目８単位分はできるだけ１年生での修得をおすすめします。
発達・教育心理コース卒業するためには「共通教養科目」から２単位以上を必ず修得する必要があります。
文化・社会・心理コースを卒業するためには「共通教養科目」から２単位以上、「コミュニケーションスキルズ科目（選択必修科目の15科目を除く）及び「アクティブ・ラーニング科目（※）」から６単位以上を必ず修得する必要があります。
※「アクティブ・ラーニング科目」は、２年次から履修することが可能です。（１年次は履修不可）

《Step８》資格取得を希望する人は、資格科目を選択します。

最終チェック！

- **前期24単位、後期24単位、計48単位以内になりましたか。**
- **共通資格科目と「履修登録上限単位数を超えて登録できる科目」は、各学期24単位（年間48単位）を超えても履修できます。**
- **後期科目については、大学が履修登録した科目以外は、後期履修登録修正期間に登録しなおすことができますが、原則として前期後期全ての科目を前期履修登録期間に登録してください。**

これで、１年生の時間割は完成です！
e-pass で履修登録をしましょう。

総合心理学科 発達・教育心理コース履修モデル

履修モデルとは、卒業までにどのような知識やスキルを持った人材になるかを明確にし、その目標達成に向けて、履修すべき科目を具体的に例示したものです。この履修モデルどおりでなければならない、ということではありません。皆さんはこの履修モデルを参考に、自らの目標や目的に向けて、卒業要件と照らし合わせながら、履修計画を設計してください。

以下の履修モデルは、発達心理学や教育心理学を中心に学び、教育や社会における様々な問題解決ができる知識と能力を身につけようとする学生を想定したものです。学習、教育、発達支援に関わる科目を幅広く履修します。想定される進路は、中学校や高等学校の教員、公務員、サービス業等です。

卒業要件単位	科目区分	1年次		2年次		3年次・4年次		計
		科目名称	単位数	科目名称	単位数	科目名称	単位数	
学部共通科目(30単位以上)	キリスト教基礎科目	**◎キリスト教概論**	2	キリスト教文化史	2			
	フレッシュマン・セミナー	**◎フレッシュマン・セミナーⅠ**	1					
		◎フレッシュマン・セミナーⅡ	1					
	ライフデザイン・ウェルネス科目	**◎ライフデザイン**	2					
	情報メディア科目	**◎基礎情報科学Ⅰ**	2					
		◎基礎情報科学Ⅱ	2					
	コミュニケーションスキルズ科目	**◎Freshman English AⅠ**	1	**◎Sophomore English AⅠ**	1			
		◎Freshman English AⅡ	1	**◎Sophomore English AⅡ**	1			
		◎Freshman English BⅠ	1	**◎Sophomore English BⅠ**	1			
		◎Freshman English BⅡ	1	**◎Sophomore English BⅡ**	1			
				Psychology in Romance Movies	2			
	共通教養科目	倫理と人権	2	健康心理学	2	哲学概論	(2)	
		教養のための歴史	2					
		教養のための自然科学	2					
	アクティブ・ラーニング科目							
	教養科目（他学科オープン科目）			幼児の理解と教育の方法	(2)			
	小計		20		10		0	30
学科専門科目(70単位以上)	ゼミナール			**◎基礎ゼミナールⅠ**	2	**◎ゼミナールⅠ**	2	
				◎基礎ゼミナールⅡ	2	**◎ゼミナールⅡ**	2	
						◎ゼミナールⅢ	2	
						◎ゼミナールⅣ	2	
	科目群A（学科基礎科目群）	**◎総合心理学基礎論**	2					
		◎心理学概論Ⅰ	2					
		◎心理学概論Ⅱ	2					
		◎社会学概論Ⅰ	2					
		◎宗教学概論Ⅰ	2					
		◎教育学概論Ⅰ	2					
		◎科学概論	2					
		▽教育学概論Ⅱ	2					
		社会学概論Ⅱ	2					
		宗教学概論Ⅱ	2					
	科目群B（専門基礎科目群）	**▽発達心理学**	2	**▽心理学研究法**	2			
				▽心理学統計法Ⅰ	2			
				心理学統計法Ⅱ	2			
				▽心理学実験Ⅰ	2			
				▽教育心理学	2			
				臨床心理学概論	2			
	科目群C（心理学実習科目群）					心理学実験Ⅱ	2	
						心理学調査実習	4	
						心理学応用実習A	(2)	
						臨床心理フィールドワークA	(2)	
	科目群D（心理学基礎科目群）			知覚・認知心理学	2	社会・集団・家族心理学	2	
				感情・人格心理学	2			
				神経・生理心理学	2			
				学習・言語心理学	2			
	科目群E（臨床心理科目群）					健康・医療心理学	2	
						福祉心理学	(2)	
						教育・学校心理学	(2)	
						精神疾患とその治療	(2)	
	科目群F（発達教育心理科目群）			児童発達心理学	2	教育心理学各論A	(2)	
				発達心理学各論A	2	教育心理学各論B	(2)	
						発達心理学各論B	(2)	
	科目群G（心理・社会科目群）			対人社会心理学	2	色彩・造形心理学	(2)	
						恋愛心理学	(2)	
						心理学特殊講義	(2)	
	科目群H（公認心理師科目群）					人体の構造と機能及び疾病	(2)	
	科目群I（教職科目群）							
	小計		22		30		18	70
自由選択科目(24単位以上)	すべて＊他学科目・共通資格科目を含む			学部共通科目余剰分(カッコの単位数)	2	学部共通科目余剰分(カッコの単位数)	2	
						学科専門科目余剰分(カッコの単位数)	24	
	小計		0		2		26	28
124単位以上	計		42		42		44	128

【注意事項】

・学部共通科目、学科専門科目の必修科目・選択必修科目・選択科目の必要単位数を超過した分（単位数カッコ表記）が自由選択科目としてカウントされます。
　なお、必修科目◎（および選択必修科目のうち必ず修得すべき科目▽）は**太字**で表記しています。
・時間割は毎年変動するため、時間割の重複等により、この表のとおりに履修できないこともあります。
・進路として中学校・高等学校の教員を目指す場合は、上記に加え、免許課程に必要な科目を履修してください。

文化・社会・心理コース

文化・社会・心理コースの特長

〇心理学とそれに関連する幅広い学びを通して人間社会の理解に必要な考え方や判断力を養う

文化や社会、さらにAI、メディアといった現代的な問題も含めて、心理学とそれに関連する領域を幅広く学びます。さまざまな視点から人間や社会への理解を深めることで、他者のために自分は何ができるのかを自主的につかみ取る力を養います。文化・社会・心理をトータルに学ぶことで、自己実現に必要な考え方や判断力を身につけてもらうことが狙いです。

１．卒業に必要な単位（卒業要件単位）

総合心理学科文化・社会・心理コースは、学部共通科目30単位、学科専門科目70単位、自由選択科目24単位、合計124単位が卒業に必要な単位です。

	単位	内訳	備　　考
学部共通科目	30	必修　18 選択必修　4 選択　8	※選択科目は共通資格科目を除いて８単位必要
学科専門科目	70	必修　26 選択必修　28 選択　16	
自由選択科目	24	・　学部共通科目、学科専門科目（他学科を含む）、単位互換科目、その他認定科目から選択。 ・　共通資格科目からは14単位まで算入することができます。	
計	124		

※卒業に必要な単位は合計で124単位以上です。そのうち、オンデマンド科目の単位は60単位まで算入できると定められています。なお、合計単位数が124単位を超えていても、必修科目や上記の区分毎の合計単位数が不足している場合は卒業できません。

※同一名称科目の単位を複数回修得した場合は、そのうち１回分の単位のみが卒業に必要な単位（124単位）に含まれます。

２．学部共通科目

総合心理学科文化・社会・心理コースは、以下に記載してある必修科目18単位、選択必修４単位、選択８単位、合計30単位を修得してください。

（１）必修科目

下記の18単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「キリスト教概論」	２単位	１年次以上
「フレッシュマン・セミナーⅠ・Ⅱ」	各１単位、合計２単位	１年次以上
「ライフデザイン」	２単位	１年次以上
「基礎情報科学Ⅰ・Ⅱ」	各２単位、合計４単位	１年次以上
「Freshman English ＡⅠ・ＡⅡ・ＢⅠ・ＢⅡ」	各１単位、合計４単位	１年次以上
「Sophomore English ＡⅠ・ＡⅡ・ＢⅠ・ＢⅡ」	各１単位、合計４単位	２年次以上

（２）選択必修科目

下記の４科目から２単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「キリスト教文化史」「旧約聖書」「新約聖書」「東洋英和の歴史」	各２単位	２年次以上

※２単位を超えて単位を修得した場合、超えた単位は自由選択科目に加えることができます。

下記の15科目から２単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「海外英語実習」「English in Pop Culture」「English through Music」	各２単位	１年次以上
「TOEIC 対策講座」	１単位	２年次以上
「コミュニケーション英文法」 「English for Communication and Discussion」 「English for World Affairs」「English for Tourism」 「English for Business」「English for Journalism」「Airline English」 「Psychology in Romance Movies」「Culture and History through Movies」 「Exploring Novels through Movies」	各２単位	２年次以上
「Presenting in English」	２単位	３年次以上

※２単位を超えて単位を修得した場合、超えた単位は自由選択科目に加えることができます。

（３）選択科目

必要単位数（８単位）を以下のとおり修得してください。

下記の９科目から２単位を修得してください。

科目名（共通教養科目）	単位数	履修年次
「日本国憲法」「倫理と人権」「教養のための歴史」 「教養のための自然科学」「教養のための芸術Ａ」「教養のための芸術Ｂ」	各２単位	１年次以上
「哲学概論」「健康心理学」「生命と人間の歴史」	各２単位	２年次以上

下記の「コミュニケーションスキルズ科目（選択必修科目の15科目を除く）と「アクティブ・ラーニング科目」の中から、合わせて６単位を修得してください。

科目名（コミュニケーションスキルズ科目（選択必修15科目を除く））	単位数	履修年次
「日本語ＡⅠ」「日本語ＡⅡ」「日本語ＢⅠ」「日本語ＢⅡ」「日本語ＣⅠ」 「日本語ＣⅡ」	各１単位	１年次以上
第２外国語・手話	各２単位	１年次以上
「コミュニケーションのための韓国語」 「ポップカルチャーから学ぶ韓国語」、「留学のための韓国語」	各２単位	２年次以上

※「日本語ＡⅠ」「日本語ＡⅡ」「日本語ＢⅠ」「日本語ＢⅡ」「日本語ＣⅠ」「日本語ＣⅡ」は、留学生およびそれに準ずると大学が認めた者のみ履修可

科目名（アクティブ・ラーニング科目）	単位数	履修年次
「フィールドワークＡ～Ｃ」「プロジェクト学習Ａ～Ｆ」 「海外研修Ａ～Ｂ」「歴史文化研修Ａ～Ｂ」「インターンシップ」	各２単位	２年次以上

（４）その他の学部共通科目

上記（１）～（３）の必要単位を超えて学部共通科目を修得した場合、その単位は「自由選択科目」に加えられます。

3．学科専門科目

（１）必修科目

下記の26単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「総合心理学基礎論」「心理学概論Ⅰ・Ⅱ」「社会学概論Ⅰ」 「宗教学概論Ⅰ」「教育学概論Ⅰ」「科学概論」	各２単位、合計14単位	１年次以上
「基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」	各２単位、合計４単位	２年次以上
「ゼミナールⅠ・Ⅱ」	各２単位、合計４単位	３年次以上
「ゼミナールⅢ・Ⅳ」	各２単位、合計４単位	４年次以上

（２）選択必修科目

下記の４科目から４単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「社会学概論Ⅱ」「宗教学概論Ⅱ」「教育学概論Ⅱ」「死生学概論」	各２単位	１年次以上

※４単位を超えて単位を修得した場合、超えた単位は下記の学科専門科目の選択必修科目（科目群Ａの一部・科目群Ｂ）8単位に加えることができます。

下記の12科目（科目群Ａの一部・科目群Ｂ）から８単位を修得してください。ただし、上記４科目のうち修得済みの科目を除きます。

科目名	単位数	履修年次
「社会学概論Ⅱ」「宗教学概論Ⅱ」「教育学概論Ⅱ」「死生学概論」 「臨床心理学概論」「発達心理学」	各２単位	１年次以上
「心理学研究法」「心理学統計法Ⅰ・Ⅱ」「心理学実験Ⅰ」 「教育心理学」「AI 概論」	各２単位	２年次以上

※８単位を超えて単位を修得した場合、超えた単位は学科専門科目の選択科目16単位に加えることができます。

下記の９科目（科目群Ｃ及び「AI 演習」）から４単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「臨床心理フィールドワークＡ」「臨床心理フィールドワークＢ」 「臨床心理フィールドワークＣ」「AI 演習」	各２単位	２年次以上
「心理的アセスメント」	４単位	２年次以上
「心理学実験Ⅱ」「心理学応用実習Ａ」	各２単位	３年次以上
「心理学調査実習」「心理学応用実習Ｂ」	各４単位	３年次以上

※４単位を超えて単位を修得した場合、超えた単位は下記の学科専門科目の選択必修科目（科目群Ｃ～Ｇ）12単位に加えることができます。

下記の55科目（科目群Ｃ～Ｇ）から12単位を修得してください。ただし、上記９科目のうち修得済みの科目を除きます。

科目名	単位数	履修年次
「臨床心理フィールドワークＡ」「臨床心理フィールドワークＢ」 「臨床心理フィールドワークＣ」「知覚・認知心理学」 「家族関係論」「家族と社会」「日本史概説」「外国史概説」 「人文地理学」「自然地理学」「世界地誌」「文化人類学」「日本文化入門Ａ」	各２単位	１年次以上
「感情・人格心理学」「神経・生理心理学」 「社会・集団・家族心理学」「障害者・障害児心理学」 「学習・言語心理学」「青年心理学」「児童発達心理学」 「健康・医療心理学」「福祉心理学」「教育・学校心理学」 「精神疾患とその治療」「親子の臨床心理学」「対人社会心理学」 「メディア心理学」「色彩・造形心理学」「AI 演習」 「心理学特殊講義」「教育心理学各論Ａ」「教育心理学各論Ｂ」 「発達心理学各論Ａ」「発達心理学各論Ｂ」「臨床心理学各論Ｂ」 「臨床心理学各論Ｃ」「女性教育論」「宗教社会学」「生命倫理」 「多文化社会論」「比較文化論」「ポップカルチャー論」	各２単位	２年次以上
「心理的アセスメント」	４単位	２年次以上
「心理学実験Ⅱ」「心理学応用実習Ａ」「教育相談（中・高）」 「心理学的支援法」「臨床心理学各論Ａ」「臨床心理学各論Ｄ」 「恋愛心理学」「教育工学」「特別支援教育」「臨床死生学」	各２単位	３年次以上
「心理学調査実習」「心理学応用実習Ｂ」	各４単位	３年次以上

※12単位を超えて単位を修得した場合、超えた単位は学科専門科目の選択科目16単位に加えることができます。

（３）選択科目

卒業のためには、**学科専門科目から合計で16単位を修得する必要があります（必修科目および選択必修科目として算入したものを除く）。**

科目表「社会学概論Ⅱ」から「社会科・地歴科教育法Ⅱ」までの科目の中から16単位を修得してください。ただし、選択必修科目として修得した科目（28単位）を加えることはできません。

16単位を超えて単位を修得した場合は、超えた単位は自由選択科目24単位に加えることができます。

４．自由選択科目

自由選択科目として認定される科目は、下記のとおりです。

① 学部共通科目の選択科目８単位を超えて修得した単位
② 学科専門科目の選択科目16単位を超えて修得した単位
③ 共通資格科目（上限14単位）
④ 海外留学による単位認定
⑤ 単位互換科目
⑥ その他の認定科目

５．海外留学認定科目

本学の留学プログラム（協定校・推薦校・認定校）で留学した場合、留学先で履修した科目は帰国後所定の手続きと審査を経て、合計30単位を上限に本学の単位として認定されます。認定の方法には次の２つがあります。

１．本学の科目に振替える（原則として、留学先の科目と本学の科目が内容的にほぼ一致している必要があります）
２．「海外留学認定科目」という名称で自由選択科目として認定

◎総合心理学科 文化・社会・心理コース

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学部共通科目	キリスト教基礎科目	キリスト教概論	2	◎	1		
		キリスト教文化史	2	▽	2		このうちから2単位を選択
		旧約聖書	2	▽	2		
		新約聖書	2	▽	2		
		東洋英和の歴史	2	▽	2		
	フレッシュマン・セミナー	フレッシュマン・セミナーⅠ	1	◎	1		
		フレッシュマン・セミナーⅡ	1	◎	1		
	ライフデザイン・ウェルネス科目	ライフデザイン	2	◎	1		
		ジェンダースタディーズA	2		2		
		ジェンダースタディーズB	2		2		
		ジェンダースタディーズC	2		2		
		ビジネスと社会A	2		2		
		ビジネスと社会B	2		2		
		ビジネスと社会C	2		2		
		キャリアデザイン	2		2		
		健康科学（講義・実技）	2		1		
		スポーツ科学A	1		1		
		スポーツ科学B	1		1		
		スポーツ科学C	1		1		
	情報メディア科目	基礎情報科学Ⅰ	2	◎	1		
		基礎情報科学Ⅱ	2	◎	1		
		メディア演習A	2		2	△	
		メディア演習B	2		2	△	
		メディア演習C	2		2	△	
	共通教養科目	日本国憲法	2		1		このうちから2単位を選択
		哲学概論	2		2		
		倫理と人権	2		1		
		健康心理学	2		2		
		教養のための歴史	2		1		
		生命と人間の歴史	2		2		
		教養のための自然科学	2		1		
		教養のための芸術A	2		1		
		教養のための芸術B	2		1		
	コミュニケーションスキルズ科目	Freshman English AⅠ	1	◎	1		
		Freshman English AⅡ	1	◎	1		
		Freshman English BⅠ	1	◎	1		
		Freshman English BⅡ	1	◎	1		
		Sophomore English AⅠ	1	◎	2		
		Sophomore English AⅡ	1	◎	2		
		Sophomore English BⅠ	1	◎	2		
		Sophomore English BⅡ	1	◎	2		
		フランス語（ベーシック）Ⅰ	2		1		ベーシックについては原則Ⅰ・Ⅱを同一年度に履修すること
		フランス語（ベーシック）Ⅱ	2		1		
		フランス語（アドバンス）	2		1		コミュニケーションスキルズ科目（★以外）とアクティブ・ラーニング科目の中から合わせて6単位を選択 （次ページに続く）
		ドイツ語（ベーシック）Ⅰ	2		1		
		ドイツ語（ベーシック）Ⅱ	2		1		
		ドイツ語（アドバンス）	2		1		
		スペイン語（ベーシック）Ⅰ	2		1		
		スペイン語（ベーシック）Ⅱ	2		1		
		スペイン語（アドバンス）	2		1		

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学部共通科目	コミュニケーションスキルズ科目	中国語（ベーシック）Ⅰ	2		1		
		中国語（ベーシック）Ⅱ	2		1		
		中国語（アドバンス）	2		1		
		韓国語（ベーシック）Ⅰ	2		1		
		韓国語（ベーシック）Ⅱ	2		1		
		韓国語（アドバンス）	2		1		
		手話（ベーシック）Ⅰ	2		1		
		手話（ベーシック）Ⅱ	2		1		
		手話（アドバンス）	2		1		
		TOEIC対策講座（★）	1	▽	2		★の科目から2単位を選択
		海外英語実習（★）	2	▽	1	△※1	※1 4年生は履修できない場合がある
		コミュニケーション英文法（★）	2	▽	2		★の科目から2単位を選択
		English for Communication and Discussion（★）	2	▽	2		★の科目から2単位を選択
		Presenting in English（★）	2	▽	3		★の科目から2単位を選択
		English for World Affairs（★）	2	▽	2		★の科目から2単位を選択
		English for Tourism（★）	2	▽	2		★の科目から2単位を選択
		English for Business（★）	2	▽	2		★の科目から2単位を選択
		English for Journalism（★）	2	▽	2		★の科目から2単位を選択
		Airline English（★）	2	▽	2		★の科目から2単位を選択
		Psychology in Romance Movies（★）	2	▽	2		★の科目から2単位を選択
		Culture and History through Movies（★）	2	▽	2		★の科目から2単位を選択
		Exploring Novels through Movies（★）	2	▽	2		★の科目から2単位を選択
		English in Pop Culture（★）	2	▽	1		★の科目から2単位を選択
		English through Music（★）	2	▽	1		★の科目から2単位を選択
		コミュニケーションのための韓国語	2		2		コミュニケーションスキルズ科目（★以外）とアクティブ・ラーニング科目の中から合わせて6単位を選択
		ポップカルチャーから学ぶ韓国語	2		2		コミュニケーションスキルズ科目（★以外）とアクティブ・ラーニング科目の中から合わせて6単位を選択
		留学のための韓国語	2		2		コミュニケーションスキルズ科目（★以外）とアクティブ・ラーニング科目の中から合わせて6単位を選択
		日本語AⅠ	1		1	※2	コミュニケーションスキルズ科目（★以外）とアクティブ・ラーニング科目の中から合わせて6単位を選択
		日本語AⅡ	1		1	※2	コミュニケーションスキルズ科目（★以外）とアクティブ・ラーニング科目の中から合わせて6単位を選択
		日本語BⅠ	1		1	※2	コミュニケーションスキルズ科目（★以外）とアクティブ・ラーニング科目の中から合わせて6単位を選択
		日本語BⅡ	1		1	※2	コミュニケーションスキルズ科目（★以外）とアクティブ・ラーニング科目の中から合わせて6単位を選択
		日本語CⅠ	1		1	※2	コミュニケーションスキルズ科目（★以外）とアクティブ・ラーニング科目の中から合わせて6単位を選択
		日本語CⅡ	1		1	※2	コミュニケーションスキルズ科目（★以外）とアクティブ・ラーニング科目の中から合わせて6単位を選択
							※2 留学生およびそれに準ずると大学が認めた者のみ履修可
	アクティブ・ラーニング科目	フィールドワークA	2		2	△	
		フィールドワークB	2		2	△	
		フィールドワークC	2		2	△	
		プロジェクト学習A	2		2	△	
		プロジェクト学習B	2		2	△	
		プロジェクト学習C	2		2	△	
		プロジェクト学習D	2		2	△	
		プロジェクト学習E	2		2	△	
		プロジェクト学習F	2		2	△	
		海外研修A	2		2	△※1	※1 4年生は履修できない場合がある
		海外研修B	2		2	△※1	※1 4年生は履修できない場合がある
		歴史文化研修A	2		2	△	※1 4年生は履修できない場合がある
		歴史文化研修B	2		2	△	※1 4年生は履修できない場合がある
		インターンシップ	2		2	△	※1 4年生は履修できない場合がある

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学部共通科目	教養科目（子ども教育学科オープン科目）	キリスト教人間形成論	2		3		
		キリスト教保育	2		3		
		教育思想史	2		1		
		保育教育原理	2		1		
		保育者論	2		1		
		子ども家庭支援論	2		2		
		社会福祉	2		1		
		社会的養護Ⅰ	2		2		
		子ども家庭支援の心理学	2		3		
		子どもの心理と発達Ⅰ	2		2		
		幼児の理解と教育の方法	2		2		
		乳児保育Ⅰ	2		2		
		子ども家庭福祉	2		1		
		子どもソーシャルワーク	2		3	△	
		インクルーシブ教育	2		3		
		子どもと自然	2		2		
		世界の子ども教育	2		2		
		子どもと国際社会	2		2		
		Speaking English with Children	2		3		
		子どもの感性とアート	2		2		
		子どものアートとサイエンス	2		3		
		子どもと文化	2		2		
		アートプロジェクト論	2		2		
		あそびと創造のデザイン学	2		2		
		子どもとパフォーミングアーツ	2		2		
		子どもフィールドワークA	2		3	△※	※4年生は履修できない場合がある
		子どもフィールドワークB	2		3		
		子どもフィールドワークC	2		2	△※	
	教養科目（国際学科オープン科目）	法学	2		1		
		国際関係入門	2		1		
		政治学	2		1		
		マクロ経済学	2		1		
		ミクロ経済学	2		1		
		ニュースを読む	2		2		
		国際社会学	2		1		
		多様性の社会思想	2		1		
		宗教と国際社会	2		2		
		異文化間コミュニケーション入門	2		1		
		グローバル時代のコミュニケーション	2		2		
		グローバリゼーションと文化	2		2		
		北米入門	2		1		
		現代の北米	2		2		
		ヨーロッパ・EU入門	2		1		
		現代のヨーロッパ・EU	2		2		
		北東アジア入門	2		1		
		東南アジア入門	2		1		
		現代のアジア	2		2		
		オセアニア入門	2		1		
		現代のオセアニア	2		2		
		グローバルサウス論	2		2		
		日本文化入門B	2		1		
		ホスピタリティ論	2		2		
		韓国の社会と文化	2		2		

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学部共通科目	教養科目（国際学科オープン科目）	英語学概論A	2		2		
		英語学概論B	2		2		
		英語文学入門A	2		1		
		英語文学入門B	2		1		
		英語児童文学	2		1		
		英語で紹介する日本A	2		1		
		英語で紹介する日本B	2		1		
		第二言語習得概論Ⅰ	2		2		
		第二言語習得概論Ⅱ	2		2		
		English for Study Abroad A	2		1		
		English for Study Abroad B	2		1		
		English as an International Language	2		2		
		English for Integrated Learning Ⅰ	2		2		
		English for Integrated Learning Ⅱ	2		2		
		Education around the World	2		2		
		English for Intercultural Understanding	2		2		※2年次後期および3年次留学希望者のみ履修可
		留学準備講座	2		2	※	
	共通資格科目	博物館概論	2		2	△	＊ 共通資格科目を修得した場合、自由選択科目として14単位まで加えることが可能（学部共通科目の選択科目8単位に加えることは不可）
		博物館資料論	2		2	△	
		博物館資料保存論	2		2	△	
		博物館教育論	2		2	△	
		博物館情報・メディア論	2		2	△	
		博物館経営論	2		2	△	
		博物館展示論	2		2		
		博物館実習Ⅰ	1		3	☆	
		博物館実習Ⅱ	2		3	☆	
		生涯学習概論	2		2		
		生活のなかの図書館	2		1		
		図書館情報技術論	2		2	☆	
		図書館制度・経営論	2		3	☆	
		生涯学習社会と図書館サービス	2		2		
		情報サービス論	2		3	☆	
		情報資源組織論	2		3	☆	
		情報資源組織演習Ⅰ	1		3	☆	
		情報資源組織演習Ⅱ	1		3	☆	
		子どもの読書支援	2		3		
		情報サービス演習Ⅰ	1		3	☆	
		情報サービス演習Ⅱ	1		3	☆	
		図書館の比較文化論	2		2		
		図書館情報資源概論	2		2		
		図書・図書館史	2		1		
		図書館情報資源特論	2		2		
		社会調査の基礎	2		1		
		社会調査法	2		1		
		データで読む社会	2		2		
		統計学	2		2		
		フィールド調査法	2		2		
		社会調査演習Ⅰ	2		3		
		社会調査演習Ⅱ	2		3		
		日本語教育法AⅠ	2		1		
		日本語教育法AⅡ	2		1		
		日本語教育法BⅠ	2		2		
		日本語教育法BⅡ	2		2		

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
☆ 各資格課程登録者に限る（詳細は、各資格課程の頁を参照）
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学部共通科目	共通資格科目	日本語教育法CⅠ	2		2		＊ 共通資格科目を修得した場合、自由選択科目として14単位まで加えることが可能（学部共通科目の選択科目8単位に加えることは不可）
		日本語教育法CⅡ	2		2		
		日本語教育法DⅠ	2		2	※1	
		日本語教育法DⅡ	2		2	※1	
		日本語教育法EⅠ	2		2		
		日本語教育法EⅡ	2		2		
		教職の理解	2		2	☆※2	
		教育課程論	2		2	☆※2	※1 日本語教育法DⅠ/DⅡは、日本語教育法BⅠ/BⅡの少なくともどちらか一方を履修済み、または同時履修の場合のみ履修可
		道徳教育の理論と実践	2		2	☆※2	
		特別活動と総合的な学習の時間	2		2	☆※2	
		教育の方法と技術	2		2	☆※2	
		生徒・進路指導の理論と方法	2		2	☆※2	
		ICT演習	2		2	☆※2	
		学校体験	1		2	☆※2	
		介護等体験	1		3	☆※2	
		教育実習Ⅰ	1		4	☆※2	
		教育実習Ⅱ	2		4	☆※2	
		教育実習Ⅲ	2		4	☆※2	※2 子ども教育学科は履修不可
		教職実践演習（中・高）	2		4	☆※2	
		教育社会学（中・高）	2		2	☆※2	
学科専門科目	ゼミナール	基礎ゼミナールⅠ	2	◎	2	×	
		基礎ゼミナールⅡ	2	◎	2	×	
		ゼミナールⅠ	2	◎	3	×	
		ゼミナールⅡ	2	◎	3	×	
		ゼミナールⅢ	2	◎	4	×	
		ゼミナールⅣ	2	◎	4	×	
	科目群A（学科基礎科目群）	総合心理学基礎論	2	◎	1	×	
		心理学概論Ⅰ	2	◎	1		
		心理学概論Ⅱ	2	◎	1		
		社会学概論Ⅰ	2	◎	1		
		宗教学概論Ⅰ	2	◎	1		
		教育学概論Ⅰ	2	◎	1		
		科学概論	2	◎	1		
		社会学概論Ⅱ	2	▽	1		このうちから4単位を選択
		宗教学概論Ⅱ	2	▽	1		
		教育学概論Ⅱ	2	▽	1		
		死生学概論	2	▽	1		
	科目群B（専門基礎科目群）	臨床心理学概論	2	▽	1		科目群Aで選択した4単位以外にこのうちから8単位を選択
		心理学研究法	2	▽	2		
		心理学統計法Ⅰ	2	▽	2		
		心理学実験Ⅰ	2	▽	2	△	
		心理学統計法Ⅱ	2	▽	2		
		発達心理学	2	▽	1		
		教育心理学	2	▽	2		
		AI概論	2	▽	2		
	科目群C（心理学実習科目群）	心理学実験Ⅱ	2	▽	3	△	科目群Cまたは科目群Gの「AI演習」から4単位を選択
		心理的アセスメント	4	▽	2	×	
		心理学調査実習	4	▽	3	△	
		心理学応用実習A	2	▽	3	△	
		心理学応用実習B	4	▽	3	△	
		臨床心理フィールドワークA	2	▽	2	△	
		臨床心理フィールドワークB	2	▽	2	△	
		臨床心理フィールドワークC	2	▽	2	△	

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
☆ 各資格課程登録者に限る（詳細は、各資格課程の頁を参照）
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学科専門科目	科目群D（心理学基礎科目群）	知覚・認知心理学	2	▽	1		
		感情・人格心理学	2	▽	2		
		神経・生理心理学	2	▽	2		
		社会・集団・家族心理学	2	▽	2		
		障害者・障害児心理学	2	▽	2		
		学習・言語心理学	2	▽	2		
	科目群E（臨床心理科目群）	心理学的支援法	2	▽	3		
		健康・医療心理学	2	▽	2		
		福祉心理学	2	▽	2		
		教育・学校心理学	2	▽	2		
		精神疾患とその治療	2	▽	2		
		臨床心理学各論A	2	▽	3		
		臨床心理学各論B	2	▽	2		
		臨床心理学各論C	2	▽	2		
		臨床心理学各論D	2	▽	3		
	科目群F（発達教育心理科目群）	青年心理学	2	▽	2		※子ども教育学科は 履修不可
		児童発達心理学	2	▽	2		
		教育相談（中・高）	2	▽	3	※	
		教育心理学各論A	2	▽	2		科目群Cまたは科目群Gの「AI演習」で選択した4単位以外に科目群C～Gから12単位を選択
		教育心理学各論B	2	▽	2		
		発達心理学各論A	2	▽	2		
		発達心理学各論B	2	▽	2		
		教育工学	2	▽	3		
		女性教育論	2	▽	2		
		特別支援教育	2	▽	3		
	科目群G（心理・社会科目群）	親子の臨床心理学	2	▽	2	※	※子ども教育学科は履修不可
		対人社会心理学	2	▽	2	※	
		メディア心理学	2	▽	2		
		色彩・造形心理学	2	▽	2		
		恋愛心理学	2	▽	3		
		心理学特殊講義	2	▽	2		
		AI演習	2	▽	2		「AI演習」を科目群Cの単位数として使用する場合、科目群C～Gの単位数としてカウントすることは不可
		家族関係論	2	▽	1		
		家族と社会	2	▽	1		
		宗教社会学	2	▽	2		
		生命倫理	2	▽	2		
		臨床死生学	2	▽	3		
		日本史概説	2	▽	1		
		外国史概説	2	▽	1		
		人文地理学	2	▽	1		
		自然地理学	2	▽	1		
		世界地誌	2	▽	1		
		多文化社会論	2	▽	2		
		文化人類学	2	▽	1		
		比較文化論	2	▽	2		
		日本文化入門A	2	▽	1		
		ポップカルチャー論	2	▽	2		
	科目群H（公認心理師科目群）	司法・犯罪心理学	2		2		
		産業・組織心理学	2		2		
		人体の構造と機能及び疾病	2		1	×	
		公認心理師の職責	2		3	×	
		関係行政論	2		3		
		心理演習	2		3	×※1	
		心理実習	2		4	×※2	

※1　15人以下のクラスの演習である。履修条件あり。公認心理師資格のページを参照。
※2　15人以下のクラスの実習である。保健医療，福祉，教育，司法・犯罪，産業・労働の5分野に関する施設で80時間以上の実習を行う。履修条件あり。公認心理師資格のページを参照。

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学科専門科目	科目群Ⅰ（教職科目群）	社会科・公民科教育法Ⅰ	2		3	☆	
		社会科・公民科教育法Ⅱ	2		3	☆	
		社会科・地歴科教育法Ⅰ	2		3	☆	
		社会科・地歴科教育法Ⅱ	2		3	☆	

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
☆ 各資格課程登録者に限る（詳細は、各資格課程の頁を参照）
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

6．取得できる資格

（1）中学校・高等学校教諭一種免許課程

総合心理学科の学生は、一定の条件を満たせば、中学校・高等学校教諭一種免許課程に登録することができ、免許取得のための履修・実習ができます。

総合心理学科の学生は中学校教諭一種（社会）、高等学校教諭一種（公民）の免許が取得できます。詳しくは、資格課程「中学校・高等学校教諭一種免許課程」のページを参照してください。

（2）学芸員資格

総合心理学科の学生は、課程登録し、必要な単位を修得することにより、博物館学芸員の資格を取得できます。詳しくは、資格課程「学芸員資格課程」のページを参照してください。

（3）司書資格

総合心理学科の学生は、課程登録し、必要な単位を修得することにより、司書資格を取得できます。詳しくは、資格課程「司書資格課程」のページを参照してください。

（4）社会調査士資格

総合心理学科の学生は、社会調査士資格に必要な単位を修得し、認定のための諸手続きをとることにより、社会調査士資格を得ることができます。詳しくは、資格課程「社会調査士資格」のページを参照してください。

（5）認定心理士資格

総合心理学科の学生は、認定心理士資格に必要な単位を修得し、認定のための諸手続きをとることにより、認定心理士資格を得ることができます。詳しくは、資格課程「認定心理士資格」のページを参照してください。

（6）公認心理師資格

総合心理学科の学生は、公認心理師資格取得のための履修・実習ができます。詳しくは、資格課程「公認心理師資格」のページを参照してください。また、別途行われる説明会にも参加して確認をしてください。

（7）准学校心理士資格

総合心理学科で中学校・高等学校教諭一種免許取得を目指す学生は、上記（1）の中学校・高等学校教諭一種免許を取得し、教職課程に関する単位の内、准学校心理士資格に必要な単位を修得し認定のための諸手続きをとることにより、公認心理師資格取得を目指す学生は、上記（7）の公認心理師資格に関する単位の内、准学校心理士資格取得に必要な単位を修得し認定のための諸手続きをとることにより、准学校心理士資格を得ることができます。詳しくは、資格課程「准学校心理士資格」のページを参照してください。

（8）社会福祉主事任用資格

総合心理学科の学生は、必要な単位を修得することにより、卒業時に社会福祉主事任用資格を得ることができます。詳しくは、資格課程「社会福祉主事任用資格」のページを参照してください。

その他

日本語教育基礎課程

総合心理学科の学生は、課程登録し、必要な単位を修得することにより、日本語教育の基礎を学んだことを示す「課程修了証明書」を取得できます。詳しくは、資格課程「日本語教育基礎課程」のページを参照してください。

時間割の作り方（総合心理学科１年生へアドバイス）

《Step１》e-pass で履修登録を行う前に、オリエンテーション時に配布された資料の中の「e-pass 履修登録用学生時間割計画表」に自分の時間割を作成しましょう。まず、大学側が履修登録をする科目（下記）を指定された曜日・時間に入れます。

□「Freshman English ＡⅠ・Ⅱ、ＢⅠ・Ⅱ」（各１単位 計４単位）
□「基礎情報科学Ⅰ・Ⅱ」（各２単位計４単位）
□「フレッシュマン・セミナーⅠ・Ⅱ」（各１単位 計２単位）

これらの科目は、e-pass でクラス分けが確認できますので、指定されたクラスの曜日・時限を書き入れましょう。

《Step２》次に、学部共通科目の必修科目を入れます。

□「キリスト教概論」（前期科目）（２単位）
□「ライフデザイン」（後期科目）（２単位）

これらの科目は、クラスが指定されていることがありますので「別冊履修の手引き」を確認しましょう。

《Step３》さらに、学科専門科目の必修科目を入れます。

□「総合心理学基礎論」（前期科目）（２単位）
□「心理学概論Ⅰ・Ⅱ」（各２単位 計４単位）
□「社会学概論Ⅰ」（前期科目）（２単位）
□「宗教学概論Ⅰ」（前期科目）（２単位）
□「教育学概論Ⅰ」（前期科目）（２単位）
□「科学概論」（前期科目）（２単位）

★ここまでが、全員共通の登録科目となります。前期後期合わせて、計28単位が決まりました。

☆ここからは、それぞれの希望や今後の進路にあわせて科目を登録してください。

《Step４》学部共通科目の選択必修科目（４単位）の中から１年生が履修できる科目の履修を考えます。
→１年生が履修できる科目は「海外英語実習」「English in Pop Culture」「English through Music」です。
１年生向けの科目は２年生以降も履修できますので、無理のない範囲で登録してください。

《Step５》「社会学概論Ⅱ」「宗教学概論Ⅱ」「教育学概論Ⅱ」「死生学概論」から履修したい科目を考えます。
→発達・教育心理コースを卒業するためには「教育学概論Ⅱ」を必ず修得する必要があります。

《Step６》学科専門科目の選択必修科目（28単位）の中から１年生が履修できる科目の履修を考えます。
→臨床心理コースを卒業するためには「臨床心理学概論」を必ず修得する必要があります。
発達・教育心理コース卒業するためには「発達心理学」を必ず修得する必要があります。

《Step７》学部共通科目（共通資格科目を除く）の選択科目（８単位）、学科専門科目の選択科目（16単位）の履修を考えます。
→特に学部共通科目の選択科目８単位分はできるだけ１年生での修得をおすすめします。
発達・教育心理コース卒業するためには「共通教養科目」から２単位以上を必ず修得する必要があります。
文化・社会・心理コースを卒業するためには「共通教養科目」から２単位以上、「コミュニケーションスキルズ科目（選択必修科目の15科目を除く）及び「アクティブ・ラーニング科目（※）」から６単位以上を必ず修得する必要があります。
※「アクティブ・ラーニング科目」は、２年次から履修することが可能です。（１年次は履修不可）

《Step８》資格取得を希望する人は、資格科目を選択します。

最終チェック！

- **前期24単位、後期24単位、計48単位以内になりましたか。**
- **共通資格科目と「履修登録上限単位数を超えて登録できる科目」は、各学期24単位（年間48単位）を超えても履修できます。**
- **後期科目については、大学が履修登録した科目以外は、後期履修登録修正期間に登録しなおすことができますが、原則として前期後期全ての科目を前期履修登録期間に登録してください。**

これで、１年生の時間割は完成です！
e-pass で履修登録をしましょう。

総合心理学科 文化・社会・心理コース履修モデル

履修モデルとは、卒業までにどのような知識やスキルを持った人材になるかを明確にし、その目標達成に向けて、履修すべき科目を具体的に例示したものです。この履修モデルどおりでなければならない、ということではありません。皆さんはこの履修モデルを参考に、自らの目標や目的に向けて、卒業要件と照らし合わせながら、履修計画を設計してください。

以下の履修モデルは、心理学及び隣接領域も含む多角的視点から、人の心理・行動、社会、文化について学ぶ学生を想定したものです。宗教や生命倫理から AI までの現代社会における多様な課題を理解する科目を履修します。想定される進路は、情報通信業、出版広告業、サービス業等です。

卒業要件単位	科目区分	1年次		2年次		3年次・4年次		計
		科目名称	単位数	科目名称	単位数	科目名称	単位数	
学部共通科目（30単位以上）	キリスト教基礎科目	**◎キリスト教概論**	2	東洋英和の歴史	2			
	フレッシュマン・セミナー	**◎フレッシュマン・セミナーⅠ**	1					
		◎フレッシュマン・セミナーⅡ	1					
	ライフデザイン・ウェルネス科目	**◎ライフデザイン**	2					
	情報メディア科目	**◎基礎情報科学Ⅰ**	2					
		◎基礎情報科学Ⅱ	2					
	コミュニケーションスキルズ科目	**◎Freshman English AⅠ**	1	**◎Sophomore English AⅠ**	1			
		◎Freshman English AⅡ	1	**◎Sophomore English AⅡ**	1			
		◎Freshman English BⅠ	1	**◎Sophomore English BⅠ**	1			
		◎Freshman English BⅡ	1	**◎Sophomore English BⅡ**	1			
		English in Pop Culture	2					
		フランス語（ベーシック）Ⅰ	2					
		フランス語（ベーシック）Ⅱ	2					
	共通教養科目	倫理と人権	2	哲学概論	(2)	健康心理学	(2)	
				教養のための自然科学	(2)	生命と人間の歴史	(2)	
	アクティブ・ラーニング科目			フィールドワークB	2			
				プロジェクト学習A	(2)			
	教養科目（他学科オープン科目）							
	小計		22		8		0	30
学科専門科目（70単位以上）	ゼミナール			**◎基礎ゼミナールⅠ**	2	**◎ゼミナールⅠ**	2	
				◎基礎ゼミナールⅡ	2	**◎ゼミナールⅡ**	2	
						◎ゼミナールⅢ	2	
						◎ゼミナールⅣ	2	
	科目群A（学科基礎科目群）	**◎総合心理学基礎論**	2					
		◎心理学概論Ⅰ	2					
		◎心理学概論Ⅱ	2					
		◎社会学概論Ⅰ	2					
		◎宗教学概論Ⅰ	2					
		◎教育学概論Ⅰ	2					
		◎科学概論	2					
		社会学概論Ⅱ	2					
		宗教学概論Ⅱ	2					
		死生学概論	2					
	科目群B（専門基礎科目群）			心理学研究法	2	臨床心理学概論	2	
				心理学統計法Ⅰ	2	発達心理学	2	
				AI概論	2			
	科目群C（心理学実習科目群）					心理学応用実習A	2	
	科目群D（心理学基礎科目群）			知覚・認知心理学	2			
				感情・人格心理学	2			
				社会・集団・家族心理学	2			
	科目群E（臨床心理科目群）							
	科目群F（発達教育心理科目群）			女性教育論	2	教育工学	2	
	科目群G（心理・社会科目群）			対人社会心理学	2	色彩・造形心理学	2	
				メディア心理学	2	恋愛心理学	2	
				AI演習	2	心理学特殊講義	(2)	
				家族と社会	2	家族関係論	(2)	
				宗教社会学	2	生命倫理	(2)	
				文化人類学	2	臨床死生学	(2)	
						多文化社会論	(2)	
						比較文化論	(2)	
						ポップカルチャー論	(2)	
	科目群H（公認心理師科目群）					司法・犯罪心理学	(2)	
						産業・組織心理学	(2)	
	科目群I（教職科目群）							
	小計		20		30		20	70
自由選択科目（24単位以上）	すべて＊他学科目・共通資格科目を含む			学部共通科目余剰分（カッコの単位数）	6	学部共通科目余剰分（カッコの単位数）	4	
						学科専門科目余剰分（カッコの単位数）	18	
	小計		0		6		22	28
124単位以上	計		42		44		42	128

【注意事項】

・学部共通科目、学科専門科目の必修科目・選択必修科目・選択科目の必要単位数を超過した分（単位数カッコ表記）が自由選択科目としてカウントされます。
なお、必修科目◎は**太字**で表記しています。

・時間割は毎年変動するため、時間割の重複等により、この表のとおりに履修できないこともあります。

子ども教育学科

子ども教育学科は、子どもと家族を取り巻く環境の変化に対応し、子どもの個性や意思、それぞれの家族の在り方に合わせて支援ができるよう、幅広い知識と豊かな感性の醸成による総合的人間力を基礎として、キリスト教の人間観と子ども理解に立った保育者としての能力を修得します。

また、保育士や幼稚園教諭の資格・免許取得という枠組みに留まらず、子どものウェルビーイングを保障する教育とケアについて総合的に学び、外国籍等多様なルーツを持つ子どもと家庭の支援、子どもの表現技術や子どもが活動できる環境の創出について学び、子どもの育成を支援できる広く深い視野と実践力を修得します。未来の社会を担う子どもたちのより良い育ちを保障する保育・教育について多角的に考える能力、乳幼児の育ちを基礎とした子どもの育ちを支える専門性を身につけ、深い子ども理解と確かな実践力を持って社会に貢献できることを目指します。

○子どもに寄り添う保育者に必要な、人間力と倫理性を身につける

キリスト教の人間観を軸に、子どものための教育とケアを総合的に学びます。専門知識や実践力はもとより社会・教育・宗教・心理など幅広い分野を学習し、豊かな人間力を備えた乳幼児期の子どもに求められる教育と家庭を支える保育者を目指します。

○国内外での実習やフィールドワークで、教育・福祉を体験的に学ぶ

１年次の付属幼稚園見学に始まり、４年間を通じて体験的な学びや実習で実践力を養う機会を用意しています。カナダやヨーロッパを訪れ海外の幼児教育にふれるなど国内外のフィールドワークを通して見聞を広め、学びを深める貴重な経験ができます。

○「子ども」について専門性を深める、３つのコース

２年次からは、自分の適性や興味に応じた専門知識・スキルを身につけます。「保育子どもコース」はインクルーシブな子ども支援の在り方を、「国際子どもコース」は英語を含む国際理解と世界の保育を、「子どもアートコース」は表現遊びや子どもを取り巻くアート・文化を学びます。

○４年間の学び

１年次：学科基礎で保育の入門を学ぶ
人間科学の知識を身につけながら、学科基礎科目を学び、保育の専門性を考えながらコースを決めていきます。

２年次：実習を見据えて、理論と実践を統合する
後期には保育所実習が始まります。実践的な学びに向けて、各コースで専門知識の習得を目指します。

３年次：３コースでの学びを深め、保育者としての専門性を高める
指導法や実践科目を学びながら、各自が選択したコースでそれぞれの専門科目を学びます。

４年次：知識と実習の成果を卒業論文にまとめる
ゼミごとに分かれて専門的な学びを探究し、教員の指導を受けながら、卒業論文を執筆します。

◎保育子どもコース／国際子どもコース／子どもアートコースのコース分け

子ども教育学科には保育子どもコース、国際子どもコース、子どもアートコースがあります。
１年次後期にコース希望票を提出し、希望したコースに２年次から配属されることになります。

保育子どもコースの特長

○個々の子どもの個性やニーズをくみ取り自主性を育むことのできる人材を育成

学院標語「敬神奉仕」に基づいた人間教育と、子どもの理解に立った保育者養成の伝統を生かしつつ、子どものための教育とケアを総合的に学びます。保育者が一人ひとりの子どもの個性やニーズをくみ取り、それぞれの遊びや育ちのペースを守りながら、子どもたちの自主性を育むことのできる人材を育成します。

国際子どもコースの特長

○国際的な基準や視野で保育・教育を体現できる専門家を目指す

日本の国際化に伴い、外国にルーツを持つ家庭や子どもたちが増えています。本コースでは、外国籍の子どもをはじめ、さまざまな文化・言語を背景に持つなど、多様性を理解しながら子どもたちの健やかな成長を支援するための力を養います。また、国内のみならず海外でも活躍できるよう、国際的な基準や視野で保育・教育を体現できる専門家を育成します。

子どもアートコースの特長

○豊かな感性を育むための表現活動を支援できるようアートから学ぶ

物事を深く感じ取る心や、子どもの豊かな感性を育むための表現活動を支援できるよう、多様な技術をアートから学びます。指導に携わる教員は、社会資源と連携しながら、音楽や芸術活動を日常的に行っており、保育現場だけでなく、さまざまな場所や環境で創造的な活動を実践できるようになります。

幼稚園教諭一種免許課程（以下幼免課程）、保育士資格課程（以下保育士課程）履修について

子ども教育学科は幼稚園教諭と保育士の養成を主たる目的としていますが、それぞれの課程履修については、所定の履修ガイダンスを受け、免許・資格を取得する意味・目的を十分に理解したうえで、個々に登録をすることになります。

○ガイダンスから課程履修登録まで

①第１回子ども教育学科幼稚園教諭一種免許課程・保育士資格課程ガイダンス（以下幼保ガイダンス）は１年次の４月のオリエンテーション期間に開催されます。
②第１回幼保ガイダンスの中で、２回目以降のガイダンス予定、幼免・保育士課程に必要な登録カードや課程履修に関する資料を配布しますので必ず出席してください。
③幼稚園教諭一種免許課程・保育士資格課程登録カードは、所定の期日に必ず提出してください。
④ピアノの技術は多くの保育現場で必要とされ、３・４年次の実習でもピアノを弾くことが求められます。そのため本学では、１年次の「保育の基礎技能」の授業と連動してピアノの個人レッスン時間が設けられています。このレッスンを受けなければ、免許・資格必修である「保育の基礎技能」の単位を取得することができません。また、各段階終了後に確認テストが行われ、ピアノ技術の向上が必要な学生は、追加でのレッスンを受けることになります。各自のレッスン時間や受け方については、**オリエンテーション期間の学年の履修説明において行いますので、必ず出席してください。**

○その他

子ども教育学科の幼保ガイダンスは、授業時間外に行われることもありますので、その場合はスケジュールを調整して必ず参加してください。

子ども教育学科　幼稚園教諭一種免許課程、保育士資格課程　年間予定表

	子ども教育学科１年生	子ども教育学科２年生	子ども教育学科３年生	子ども教育学科４年生
４月	・第1回子ども教育学科 幼稚園教諭一種免許課程・保育士資格課程ガイダンス（以下、幼保ガイダンス） ・登録カード提出	・修得単位調査用紙提出	・修得単位調査用紙提出	・修得単位調査用紙提出
	中旬～下旬　プレイデー			
５月				
６月	・第２回幼保ガイダンス		・保育実習ＩＢ（施設） ６月 （12日間以上・90時間以上）	・教育実習Ⅱ総合実習
７月	・第３回幼保ガイダンス		・幼稚園教諭一種免許 課程履修費納付	
８月				・保育実習Ⅱ（保育所） 夏季休業中 （12日間以上・90時間以上） ・保育実習Ⅲ（施設） ８月～９月 （12日間以上・90時間以上）
９月		・２年次幼免ガイダンス		
10月	・第４回幼保ガイダンス	・保育士資格 課程履修費納付		・幼稚園教諭一種免許/ 保育士資格一括申請手続
11月			・教育実習Ｉ 観察参加実習	
12月			・幼保就職ガイダンス	
１月	・第５回幼保ガイダンス			
２月	・付属幼稚園見学	・保育実習ＩＡ（保育所） 春季休業中 （12日間以上・90時間以上）		
３月				

教育実習日程
・教育実習Ｉ（３年次：観察参加実習）11月（２週間）
・教育実習Ⅱ（４年次：総合実習）　６月（２週間）
保育実習日程
・保育実習ＩＡ（保育所）（２年次）春季休業中２月（12日間以上・90時間以上）
・保育実習ＩＢ（施　設）（３年次）６月（12日間以上・90時間以上）
・保育実習Ⅱ（保育所）　（４年次）夏季休業中８月～９月（12日間以上・90時間以上）
・保育実習Ⅲ（施　設）　（４年次）８月～９月（12日間以上・90時間以上）

１．卒業に必要な単位（卒業要件単位）

子ども教育学科は、学部共通科目28単位、学科専門科目70単位、自由選択科目26単位、合計124単位が卒業に必要な単位です。

	単位	内訳	備　　考
学部共通科目	28	必修　　20 選択必修　8	
学科専門科目	70	必修　　22 選択必修　22 選択　　26	
自由選択科目	26	・　学部共通科目、学科専門科目（他学科を含む）、単位互換科目、その他認定科目から選択。 ・　共通資格科目からは14単位まで算入することができます。	
計	124		

※卒業に必要な単位は合計で124単位以上です。そのうち、オンデマンド科目の単位は60単位まで算入できると定められています。なお、合計単位数が124単位を超えていても、必修科目や上記の区分毎の合計単位数が不足している場合は卒業できません。

※同一名称科目の単位を複数回修得した場合は、そのうち１回分の単位のみが卒業に必要な単位（124単位）に含まれます。

2．学部共通科目

子ども教育学科は、以下に記載してある必修科目20単位、選択必修８単位、合計28単位を修得してください。

（１）必修科目

下記の20単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「キリスト教概論」	２単位	１年次以上
「フレッシュマン・セミナーⅠ・Ⅱ」	各１単位、合計２単位	１年次以上
「ライフデザイン」	２単位	１年次以上
「健康科学（講義・実技）」	２単位	１年次以上
「基礎情報科学Ⅰ・Ⅱ」	各２単位、合計４単位	１年次以上
「Freshman English ＡⅠ・ＡⅡ・ＢⅠ・ＢⅡ」	各１単位、合計４単位	１年次以上
「Sophomore English ＡⅠ・ＡⅡ・ＢⅠ・ＢⅡ」	各１単位、合計４単位	２年次以上

（２）選択必修科目

下記の４科目から６単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「心理学概論Ⅰ」「社会学概論Ⅰ」「宗教学概論Ⅰ」「教育学概論Ⅰ」	各２単位	１年次以上

※６単位を超えて単位を修得した場合、超えた単位は自由選択科目26単位に加えることができます。

下記の２科目から２単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「家族関係論」「家族と社会」	各２単位	１年次以上

※２単位を超えて単位を修得した場合、超えた単位は自由選択科目26単位に加えることができます。

（３）その他の学部共通科目

上記（１）～（２）の必要単位を超えて学部共通科目を修得した場合、その単位は「自由選択科目」に加えられます。

※幼稚園教諭一種免許状取得を希望する学生は、「日本国憲法」を修得する必要があります。

※保育士資格取得を希望する学生は、「スポーツ科学Ａ」・「スポーツ科学Ｂ」・「スポーツ科学Ｃ」のうちから１科目を修得する必要があります。

3．学科専門科目

（１）必修科目

下記の22単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「子ども家庭福祉」「保育教育原理」「教育思想史」	各２単位、合計６単位	１年次以上
「基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」「特別支援保育論」	各２単位、合計６単位	２年次以上
「ゼミナールⅠ・Ⅱ」	各２単位、合計４単位	３年次以上
「ゼミナールⅢ・Ⅳ」「保育・教育課程論」	各２単位、合計６単位	４年次以上

（２）選択必修科目

下記の２科目（学科基礎）から２単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「キリスト教人間形成論」「キリスト教保育」	各２単位	３年次以上

※２単位を超えて単位を修得した場合、超えた単位は学科専門科目の選択科目26単位に加えることができます。

下記の５科目（保育内容各論）から６単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「保育内容各論（人間関係）」「保育内容各論（環境）」	各２単位	１年次以上
「保育内容各論（健康）」「保育内容各論（言葉）」 「保育内容各論（表現）」	各２単位	２年次以上

※６単位を超えて単位を修得した場合、超えた単位は学科専門科目の選択科目26単位に加えることができます。
※幼稚園教諭一種免許状または保育士資格取得を希望する学生は、上記全ての単位を修得する必要があります。

下記の４科目（保育内容の指導法）から４単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「保育内容（人間関係）の指導法」「保育内容（環境）の指導法」	各２単位	２年次以上
「保育内容（健康）の指導法」「保育内容（言葉）の指導法」	各２単位	３年次以上

※４単位を超えて単位を修得した場合、超えた単位は学科専門科目の選択科目26単位に加えることができます。
※幼稚園教諭一種免許状または保育士資格取得を希望する学生は、上記全ての単位を修得する必要があります。

下記の３科目（表現の指導法）から２単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「保育内容（音楽表現）の指導法」 「保育内容（造形表現）の指導法」 「保育内容（身体表現）の指導法」	各２単位	３年次以上

※２単位を超えて単位を修得した場合、超えた単位は学科専門科目の選択科目26単位に加えることができます。
※幼稚園教諭一種免許状取得を希望する学生は、上記全ての単位を修得する必要があります。

学びの専門性を深めるため、コースによって指定科目（子ども教育基幹科目）がそれぞれ異なります。卒業要件を満たすためには「保育子どもコース」「国際子どもコース」「子どもアートコース」の３つの中から必ず１つのコースを選択し、コースで指定された７科目から８単位を修得してください。

「保育子どもコース」

科目名	単位数	履修年次
「子どもの臨床心理学」「感情とコミュニケーションの心理学」 「子どもと自然」「児童発達心理学」「子どもフィールドワークＣ」	各２単位	２年次以上
「子どもソーシャルワーク」「インクルーシブ教育」	各２単位	３年次以上

「国際子どもコース」

科目名	単位数	履修年次
「異文化間コミュニケーション入門」	２単位	１年次以上
「世界の子ども教育」「子どもと国際社会」「多文化社会論」 「Education around the World」	各２単位	２年次以上
「Speaking English with Children」 「子どもフィールドワークＡ」	各２単位	３年次以上

「子どもアートコース」

科目名	単位数	履修年次
「子どもの感性とアート」「子どもと文化」 「アートプロジェクト論」「あそびと創造のデザイン学」 「子どもとパフォーミングアーツ」	各２単位	２年次以上
「子どものアートとサイエンス」「子どもフィールドワークＢ」	各２単位	３年次以上

※選択したコース以外の科目も履修することができます。８単位を超えて単位を修得した場合、超えた単位は学科専門科目の選択科目26単位に加えることができます。

（３）選択科目

卒業のためには、学科専門科目から合計で26単位を修得する必要があります（必修科目および選択必修科目として算入したものを除く）。

科目表「キリスト教人間形成論」から「保育・教職実践演習（幼稚園）」までの科目の中から26単位を修得してください。ただし、選択必修科目として修得した科目（22単位）を加えることはできません。

26単位を超えて単位を修得した場合、超えた単位は自由選択科目26単位に加えることができます。

４．自由選択科目

自由選択科目として認定される科目は、下記のとおりです。

① 学部共通科目の選択必修科目８単位を超えて修得した単位
② 学科専門科目の選択科目26単位を超えて修得した単位
③ 共通資格科目（上限14単位）
④ 海外留学による単位認定
⑤ 単位互換科目
⑥ その他の認定科目

５．海外留学認定科目

本学の留学プログラム（協定校・推薦校・認定校）で留学した場合、留学先で履修した科目は帰国後所定の手続きと審査を経て、合計30単位を上限に本学の単位として認定されます。認定の方法には次の２つがあります。

１．本学の科目に振替える（原則として、留学先の科目と本学の科目が内容的にほぼ一致している必要があります）
２．「海外留学認定科目」という名称で自由選択科目として認定

◎子ども教育学科

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学部共通科目	キリスト教基礎科目	キリスト教概論	2	◎	1		
		キリスト教文化史	2		2		
		旧約聖書	2		2		
		新約聖書	2		2		
		東洋英和の歴史	2		2		
	フレッシュマン・セミナー	フレッシュマン・セミナーⅠ	1	◎	1		
		フレッシュマン・セミナーⅡ	1	◎	1		
	ライフデザイン・ウェルネス科目	ライフデザイン	2	◎	1		
		ジェンダースタディーズA	2		2		
		ジェンダースタディーズB	2		2		
		ジェンダースタディーズC	2		2		
		ビジネスと社会A	2		2		
		ビジネスと社会B	2		2		
		ビジネスと社会C	2		2		
		キャリアデザイン	2		2		
		健康科学（講義・実技）	2	◎	1		
		スポーツ科学A	1		1		
		スポーツ科学B	1		1		
		スポーツ科学C	1		1		
	情報メディア科目	基礎情報科学Ⅰ	2	◎	1		
		基礎情報科学Ⅱ	2	◎	1		
		メディア演習A	2		2	△	
		メディア演習B	2		2	△	
		メディア演習C	2		2	△	
	コミュニケーションスキルズ科目	Freshman English AⅠ	1	◎	1		
		Freshman English AⅡ	1	◎	1		
		Freshman English BⅠ	1	◎	1		
		Freshman English BⅡ	1	◎	1		
		Sophomore English AⅠ	1	◎	2		
		Sophomore English AⅡ	1	◎	2		
		Sophomore English BⅠ	1	◎	2		
		Sophomore English BⅡ	1	◎	2		
		フランス語（ベーシック）Ⅰ	2		1		ベーシックについては原則Ⅰ・Ⅱを同一年度に履修すること
		フランス語（ベーシック）Ⅱ	2		1		
		フランス語（アドバンス）	2		1		
		ドイツ語（ベーシック）Ⅰ	2		1		
		ドイツ語（ベーシック）Ⅱ	2		1		
		ドイツ語（アドバンス）	2		1		
		スペイン語（ベーシック）Ⅰ	2		1		
		スペイン語（ベーシック）Ⅱ	2		1		
		スペイン語（アドバンス）	2		1		
		中国語（ベーシック）Ⅰ	2		1		
		中国語（ベーシック）Ⅱ	2		1		
		中国語（アドバンス）	2		1		
		韓国語（ベーシック）Ⅰ	2		1		
		韓国語（ベーシック）Ⅱ	2		1		
		韓国語（アドバンス）	2		1		
		手話（ベーシック）Ⅰ	2		1		
		手話（ベーシック）Ⅱ	2		1		
		手話（アドバンス）	2		1		

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学部共通科目	コミュニケーションスキルズ科目	TOEIC対策講座	1		2		
		海外英語実習	2		1	△※1	※1 4年生は履修 できない場合がある
		コミュニケーション英文法	2		2		
		English for Communication and Discussion	2		2		
		Presenting in English	2		3		
		English for World Affairs	2		2		
		English for Tourism	2		2		
		English for Business	2		2		
		English for Journalism	2		2		
		Airline English	2		2		
		Psychology in Romance Movies	2		2		
		Culture and History through Movies	2		2		
		Exploring Novels through Movies	2		2		
		English in Pop Culture	2		1		
		English through Music	2		1		
		コミュニケーションのための韓国語	2		2		
		ポップカルチャーから学ぶ韓国語	2		2		
		留学のための韓国語	2		2		
		日本語AⅠ	1		1	※2	
		日本語AⅡ	1		1	※2	※2
		日本語BⅠ	1		1	※2	留学生および
		日本語BⅡ	1		1	※2	それに準ずると
		日本語CⅠ	1		1	※2	大学が認めた者
		日本語CⅡ	1		1	※2	のみ履修可
	共通教養科目	日本国憲法	2		1		
		哲学概論	2		2		
		倫理と人権	2		1		
		健康心理学	2		2		
		教養のための歴史	2		1		
		生命と人間の歴史	2		2		
		教養のための自然科学	2		1		
		教養のための芸術A	2		1		
		教養のための芸術B	2		1		
	アクティブ・ラーニング科目	フィールドワークA	2		2	△	
		フィールドワークB	2		2	△	
		フィールドワークC	2		2	△	
		プロジェクト学習A	2		2	△	
		プロジェクト学習B	2		2	△	
		プロジェクト学習C	2		2	△	
		プロジェクト学習D	2		2	△	
		プロジェクト学習E	2		2	△	
		プロジェクト学習F	2		2	△	
		海外研修A	2		2	△※1	※1 4年生は履修 できない場合がある
		海外研修B	2		2	△※1	
		歴史文化研修A	2		2	△	
		歴史文化研修B	2		2	△	
		インターンシップ	2		2	△	

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学部共通科目	教養科目（総合心理学科オープン科目）	心理学概論Ⅰ	2	▽	1		このうちから6単位を選択
		社会学概論Ⅰ	2	▽	1		
		宗教学概論Ⅰ	2	▽	1		
		教育学概論Ⅰ	2	▽	1		
		心理学概論Ⅱ	2		1		
		社会学概論Ⅱ	2		1		
		宗教学概論Ⅱ	2		1		
		教育学概論Ⅱ	2		1		
		科学概論	2		1		
		臨床心理学概論	2		1		
		発達心理学	2		1		
		教育心理学	2		2		
		青年心理学	2		2		
		メディア心理学	2		2		
		恋愛心理学	2		3		
		感情・人格心理学	2		2		
		神経・生理心理学	2		2		
		障害者・障害児心理学	2		2		
		学習・言語心理学	2		2		
		知覚・認知心理学	2		1		
		社会・集団・家族心理学	2		2		
		色彩・造形心理学	2		2		
		発達心理学各論A	2		2		
		心理学特殊講義	2		2		
		臨床心理学各論A	2		3		
		臨床心理学各論B	2		2		
		臨床心理学各論C	2		2		
		家族関係論	2	▽	1		このうちから2単位を選択
		家族と社会	2	▽	1		
		宗教社会学	2		2		
		死生学概論	2		1		
		生命倫理	2		2		
		女性教育論	2		2		
		特別支援教育	2		3		
		教育工学	2		3		
		AI概論	2		2		
		AI演習	2		2		
	教養科目（国際学科オープン科目）	外国史概説	2		1		
		日本史概説	2		1		
		人文地理学	2		1		
		自然地理学	2		1		
		世界地誌	2		1		
		法学	2		1		
		国際関係入門	2		1		
		政治学	2		1		
		マクロ経済学	2		1		
		ミクロ経済学	2		1		
		ニュースを読む	2		2		
		国際社会学	2		1		
		多様性の社会思想	2		1		
		宗教と国際社会	2		2		
		文化人類学	2		1		

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学部共通科目	教養科目（国際学科オープン科目）	比較文化論	2		2		
		グローバル時代のコミュニケーション	2		2		
		グローバリゼーションと文化	2		2		
		北米入門	2		1		
		現代の北米	2		2		
		ヨーロッパ・EU入門	2		1		
		現代のヨーロッパ・EU	2		2		
		北東アジア入門	2		1		
		東南アジア入門	2		1		
		現代のアジア	2		2		
		オセアニア入門	2		1		
		現代のオセアニア	2		2		
		グローバルサウス論	2		2		
		日本文化入門A	2		1		
		日本文化入門B	2		1		
		ホスピタリティ論	2		2		
		ポップカルチャー論	2		2		
		韓国の社会と文化	2		2		
		英語学概論A	2		2		
		英語学概論B	2		2		
		英語文学入門A	2		1		
		英語文学入門B	2		1		
		英語児童文学	2		1		
		英語で紹介する日本A	2		1		
		英語で紹介する日本B	2		1		
		第二言語習得概論Ⅰ	2		2		
		第二言語習得概論Ⅱ	2		2		
		English for Study Abroad A	2		1		
		English for Study Abroad B	2		1		
		English as an International Language	2		2		
		English for Integrated Learning Ⅰ	2		2		
		English for Integrated Learning Ⅱ	2		2		
		English for Intercultural Understanding	2		2		※2年次後期および3年次留学希望者のみ履修可
		留学準備講座	2		2	※	
	共通資格科目	博物館概論	2		2	△	＊ 共通資格科目を修得した場合、自由選択科目として14単位まで加えることが可能
		博物館資料論	2		2	△	
		博物館資料保存論	2		2	△	
		博物館教育論	2		2	△	
		博物館情報・メディア論	2		2	△	
		博物館経営論	2		2	△	
		博物館展示論	2		2		
		博物館実習Ⅰ	1		3	☆	
		博物館実習Ⅱ	2		3	☆	
		生涯学習概論	2		2		
		生活のなかの図書館	2		1		
		図書館情報技術論	2		2	☆	
		図書館制度・経営論	2		3	☆	
		生涯学習社会と図書館サービス	2		2		
		情報サービス論	2		3	☆	
		情報資源組織論	2		3	☆	
		情報資源組織演習Ⅰ	1		3	☆	
		情報資源組織演習Ⅱ	1		3	☆	

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
☆ 各資格課程登録者に限る（詳細は、各資格課程の頁を参照）
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学部共通科目	共通資格科目	子どもの読書支援	2		3		＊ 共通資格科目を修得した場合、自由選択科目14単位に加えることが可能
		情報サービス演習Ⅰ	1		3	☆	
		情報サービス演習Ⅱ	1		3	☆	
		図書館の比較文化論	2		2		
		図書館情報資源概論	2		2		
		図書・図書館史	2		1		※ 日本語教育法DⅠ/DⅡは、日本語教育法BⅠ/BⅡの少なくともどちらか一方を履修済み、または同時履修の場合のみ履修可
		図書館情報資源特論	2		2		
		社会調査の基礎	2		1		
		社会調査法	2		1		
		データで読む社会	2		2		
		統計学	2		2		
		フィールド調査法	2		2		
		社会調査演習Ⅰ	2		3		
		社会調査演習Ⅱ	2		3		
		日本語教育法AⅠ	2		1		
		日本語教育法AⅡ	2		1		
		日本語教育法BⅠ	2		2		
		日本語教育法BⅡ	2		2		
		日本語教育法CⅠ	2		2		
		日本語教育法CⅡ	2		2		
		日本語教育法DⅠ	2		2	※	
		日本語教育法DⅡ	2		2	※	
		日本語教育法EⅠ	2		2		
		日本語教育法EⅡ	2		2		
学科専門科目	ゼミナール	基礎ゼミナールⅠ	2	◎	2	×	
		基礎ゼミナールⅡ	2	◎	2	×	
		ゼミナールⅠ	2	◎	3	×	
		ゼミナールⅡ	2	◎	3	×	
		ゼミナールⅢ	2	◎	4	×	
		ゼミナールⅣ	2	◎	4	×	
	学科基礎科目	子ども家庭福祉	2	◎	1		
		保育教育原理	2	◎	1		
		教育思想史	2	◎	1		
		キリスト教人間形成論	2	▽	3		このうちから2単位を選択
		キリスト教保育	2	▽	3		
	子ども教育基幹科目	子どもソーシャルワーク	2	▽	3	△	【保育子どもコース】 このうちから8単位を選択 ※4年生は履修できない場合がある
		子どもの臨床心理学	2	▽	2	×	
		感情とコミュニケーションの心理学	2	▽	2	×	
		インクルーシブ教育	2	▽	3		
		子どもと自然	2	▽	2		
		児童発達心理学	2	▽	2		
		子どもフィールドワークC	2	▽	2	△※	
		世界の子ども教育	2	▽	2		【国際子どもコース】 このうちから8単位を選択
		子どもと国際社会	2	▽	2		
		Speaking English with Children	2	▽	3		
		多文化社会論	2	▽	2		
		異文化間コミュニケーション入門	2	▽	1		
		Education around the World	2	▽	2		【子どもアートコース】 このうちから8単位を選択
		子どもフィールドワークA	2	▽	3	△※	
		子どもの感性とアート	2	▽	2		
		子どものアートとサイエンス	2	▽	3		（次ページに続く）

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
☆ 各資格課程登録者に限る（詳細は、各資格課程の頁を参照）
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学科専門科目	子ども教育基幹科目	子どもと文化	2	▽	2		（前ページからの続き） 【子どもアートコース】 このうちから 8単位を選択
		アートプロジェクト論	2	▽	2		
		あそびと創造のデザイン学	2	▽	2		
		子どもとパフォーミングアーツ	2	▽	2		
		子どもフィールドワークB	2	▽	3	△	
	本質・目的の理解科目	保育者論	2		1		
		子ども家庭支援論	2		2		
		社会的養護Ⅰ	2		2		
		社会福祉	2		1		
	対象の理解科目	教育社会学（子ども）	2		2	×	
		子どもの心理と発達Ⅰ	2		2		
		子どもの心理と発達Ⅱ	2		2	×	
		子ども家庭支援の心理学	2		3		
		教育相談（子ども）	2		3		
		子どもの保健	2		2	×	
		子どもの食と栄養	2		2	×	
	内容・方法及び指導法の科目	保育・教育課程論	2	◎	4		
		保育内容総論	2		1	×	
		保育内容各論（健康）	2	▽	2	×	このうちから 6単位を選択
		保育内容各論（人間関係）	2	▽	1	×	
		保育内容各論（環境）	2	▽	1	×	
		保育内容各論（言葉）	2	▽	2	×	
		保育内容各論（表現）	2	▽	2	×	
		幼児の理解と教育の方法	2		2		
		乳児保育Ⅰ	2		2		
		乳児保育Ⅱ	2		3	×	
		子どもの健康と安全	2		2	×	
		特別支援保育論	2	◎	2	×	
		社会的養護Ⅱ	2		3	×	
		子育て支援	2		3		
		保育の基礎技能	2		1	×	
		保育内容（健康）の指導法	2	▽	3	△×	このうちから 4単位を選択
		保育内容（人間関係）の指導法	2	▽	2	△×	
		保育内容（環境）の指導法	2	▽	2	△×	
		保育内容（言葉）の指導法	2	▽	3	△×	
		保育内容（音楽表現）の指導法	2	▽	3	△×	このうちから 2単位を選択
		保育内容（造形表現）の指導法	2	▽	3	△×	
		保育内容（身体表現）の指導法	2	▽	3	△×	
	専門実習・演習	教育実習Ⅰ	2		3	×	
		教育実習Ⅱ	2		4	×	
		教育実習指導Ⅰ	1		3	×	
		教育実習指導Ⅱ	1		4	×	
		保育実習ⅠA（保育所）	2		2	×	
		保育実習ⅠB（施設）	2		3	×	
		保育実習Ⅱ（保育所）	2		4	×	
		保育実習Ⅲ（施設）	2		4	×	
		保育実習指導ⅠA	1		2	×	
		保育実習指導ⅠB	1		2	×	
		保育実習指導Ⅱ	1		4	×	
		保育実習指導Ⅲ	1		4	×	
		保育・教職実践演習（幼稚園）	2		4	×	

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

６．取得できる資格

（１）幼稚園教諭一種免許

子ども教育学科の学生は、課程登録し、必要な単位を修得することにより、卒業時に幼稚園教諭一種免許状を取得することができます。詳しくは、資格課程「幼稚園教諭一種免許課程」のページを参照してください。

（２）保育士資格

子ども教育学科の学生は、課程登録し、必要な単位を修得することにより、卒業時に保育士資格を取得することができます。詳しくは、資格課程「保育士資格課程」のページを参照してください。

（３）学芸員資格

子ども教育学科の学生は、課程登録し、必要な単位を修得することにより、博物館学芸員の資格を取得できます。詳しくは、資格課程「学芸員資格課程」のページを参照してください。

（４）司書資格

子ども教育学科の学生は、課程登録し、必要な単位を修得することにより、司書資格を取得できます。詳しくは、資格課程「司書資格課程」のページを参照してください。

（５）社会調査士資格

子ども教育学科の学生は、社会調査士資格に必要な単位を修得し、認定のための諸手続きをとることにより、社会調査士資格を得ることができます。詳しくは、資格課程「社会調査士資格」のページを参照してください。

（６）認定心理士資格

子ども教育学科の学生は、認定心理士資格に必要な単位を修得し、認定のための諸手続きをとることにより、認定心理士資格を得ることができます。詳しくは、資格課程「認定心理士資格」のページを参照してください。

（７）准学校心理士資格

子ども教育学科の学生は、上記（１）（２）の幼稚園免許あるいは保育士資格を取得し、かつそれらの課程に含まれる准学校心理士資格に必要な単位を修得し、認定のための諸手続きをとることにより、准学校心理士資格を取得することができます。詳しくは、資格課程「准学校心理士資格」のページを参照してください。

（８）社会福祉主事任用資格

子ども教育学科の学生は、必要な単位を修得することにより、卒業時に社会福祉主事任用資格を得ることができます。詳しくは、資格課程「社会福祉主事任用資格」のページを参照してください。

その他

日本語教育基礎課程

子ども教育学科の学生は、課程登録し、必要な単位を修得することにより、日本語教育の基礎を学んだことを示す「課程修了証明書」を取得できます。詳しくは、資格課程「日本語教育基礎課程」のページを参照してください。

時間割の作り方（子ども教育学科１年生へアドバイス）

《Step１》e-pass で履修登録を行う前に、オリエンテーション時に配布された資料の中の「e-pass 履修登録用学生時間割計画表」に自分の時間割を作成しましょう。まず、大学側が履修登録をする科目（下記）を指定された曜日・時間に入れます。

□「Freshman English ＡⅠ・Ⅱ、ＢⅠ・Ⅱ」（各１単位 計４単位）
□「基礎情報科学Ⅰ・Ⅱ」（各２単位計４単位）
□「フレッシュマン・セミナーⅠ・Ⅱ」（各１単位 計２単位）

これらの科目は、e-pass でクラス分けが確認できますので、指定されたクラスの曜日・時限を書き入れましょう。

《Step２》次に、学部共通科目の必修科目を入れます。

□「キリスト教概論」（前期科目）（２単位）
□「ライフデザイン」（後期科目）（２単位）
□「健康科学（講義・実技）」（前期科目）（２単位）

これらの科目は、クラスを指定されていることがありますので「別冊履修の手引き」や配布資料を確認しましょう。

《Step３》さらに、学科専門科目の必修科目を入れます。

□「子ども家庭福祉」（後期科目）（２単位）
□「保育教育原理」（前期科目）（２単位）
□「教育思想史」（前期科目）（２単位）

★ここまでが、全員共通の登録科目となります。前期後期合わせて、計22単位が決まりました。

☆ここからは、それぞれの希望や今後の進路にあわせて科目を登録してください。

《Step４》学部共通科目の選択必修科目を選択します。

□「心理学概論Ⅰ」「社会学概論Ⅰ」「宗教学概論Ⅰ」「教育学概論Ⅰ」から履修したい科目を選びましょう。
（前期科目）（各２単位） ※卒業までに３科目を修得する必要があります。
□「家族関係論」（後期科目）（２単位）、「家族と社会」（前期科目）（２単位）から履修したい科目を選びましょう。
※卒業までに１科目を修得する必要があります。

《Step５》幼稚園教諭一種免許課程科目または保育士資格課程の必修科目を入れます。

→Step５は、幼稚園一種免許課程と保育士資格課程科目が中心の履修アドバイスです。免許･資格課程を履修しない学生は、卒業に必要な単位数に従い、アドバイザーの助言も求め、各自、履修計画を立ててみましょう。

□「保育者論」（後期科目）（２単位）（幼免および保育士必修）
□「社会福祉」（前期科目）（２単位）（保育士必修）
□「保育内容総論」（後期科目）（２単位）（保育士必修）
□「保育内容各論（人間関係）」（後期科目）（２単位）（幼免および保育士必修）
□「保育内容各論（環境）」（後期科目）（２単位）（幼免および保育士必修）
□「保育の基礎技能」（後期科目）（２単位）（幼免必修）
□「日本国憲法」（前期科目）（２単位）（幼免必修） ※幼免履修者は、原則として１年次に履修してください。

《Step６》

□学部共通科目および学科専門科目の中から１年生が履修できる科目の履修を考えます。
※保育士資格取得を希望する人は、「スポーツ科学Ａ」（１単位）、「スポーツ科学Ｂ」（１単位）、「スポーツ科学Ｃ」（１単位）のうちから１科目を修得する必要があります。できるだけ１年次に履修しましょう。
□資格取得を希望する人は、資格科目を選択します。

最終チェック！

- **前期24単位、後期24単位、計48単位以内になりましたか。**
- **共通資格科目と「履修登録上限単位数を超えて登録できる科目」は、各学期24単位（年間48単位）を超えても履修できます。**
- **後期科目については、大学が履修登録した科目以外は、後期履修登録修正期間に登録しなおすことができますが、原則として前期後期全ての科目を前期履修登録期間に登録してください。**

これで、１年生の時間割は完成です！
e-pass で履修登録をしましょう。

子ども教育学科 履修モデル

履修モデルとは、卒業までにどのような知識やスキルを持った人材になるかを明確にし、その目標達成に向けて、履修すべき科目を具体的に例示したものです。この履修モデルどおりでなければならない、ということではありません。皆さんはこの履修モデルを参考に、自らの目標や目的に向けて、卒業要件と照らし合わせながら、履修計画を設計してください。

以下の履修モデルは、幼稚園教諭一種免許および保育士資格の両方を取得する学生を想定したものです。

卒業要件単位	科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		計
		科目名称	単位数	科目名称	単位数	科目名称	単位数	科目名称	単位数	
学部共通科目（28単位以上）	キリスト教基礎科目	**◎キリスト教概論**	2							
	フレッシュマン・セミナー	**◎フレッシュマン・セミナーⅠ**	1							
		◎フレッシュマン・セミナーⅡ	1							
	ライフデザイン・ウェルネス科目	**◎ライフデザイン**	2							
		◎健康科学（講義・実技）	2							
		スポーツ科学A	(1)							
	情報メディア科目	**◎基礎情報科学Ⅰ**	2							
		◎基礎情報科学Ⅱ	2							
	コミュニケーションスキルズ科目	**◎Freshman English AⅠ**	1	**◎Sophomore English AⅠ**	1					
		◎Freshman English AⅡ	1	**◎Sophomore English AⅡ**	1					
		◎Freshman English BⅠ	1	**◎Sophomore English BⅠ**	1					
		◎Freshman English BⅡ	1	**◎Sophomore English BⅡ**	1					
	共通教養科目	Ｈ本国憲法	(2)							
	アクティブ・ラーニング科目									
	教養科目（他学科オープン科目）	心理学概論Ⅰ	2							
		社会学概論Ⅰ	2							
		教育学概論Ⅰ	2							
		家族と社会	2							
	小計		24		4		0		0	28
学科専門科目（70単位以上）	ゼミナール			**◎基礎ゼミナールⅠ**	2	**◎ゼミナールⅠ**	2	**◎ゼミナールⅢ**	2	
				◎基礎ゼミナールⅡ	2	**◎ゼミナールⅡ**	2	**◎ゼミナールⅣ**	2	
	学科基礎科目	**◎子ども家庭福祉**	2					キリスト教人間形成論	2	
		◎保育教育原理	2							
		◎教育思想史	2							
	子ども教育基幹科目			子ども教育基幹科目①	2	子ども教育基幹科目②	2			
						子ども教育基幹科目③	2			
						子ども教育基幹科目④	2			
		3つのコースのうち、いずれかを選び、その中で4科目（8単位）を選択して履修。2年次に1科目、3年次に3科目を履修することが望ましい。								
	本質・目的の理解科目	保育者論	2	子ども家庭支援論	2					
		社会福祉	2	社会的養護Ⅰ	2					
	対象の理解科目			教育社会学（子ども）	2	子ども家庭支援の心理学	(2)			
				子どもの心理と発達Ⅰ	2	教育相談（子ども）	(2)			
				子どもの心理と発達Ⅱ	2					
				子どもの保健	2					
				子どもの食と栄養	2					
	内容・方法及び指導法の科目	保育内容総論	2	保育内容各論（健康）	2	乳児保育Ⅱ	(2)	**◎保育・教育課程論**	2	
		保育内容各論（人間関係）	2	保育内容各論（言葉）	2	子どもの健康と安全	(2)			
		保育内容各論（環境）	2	保育内容各論（表現）	2	社会的養護Ⅱ	(2)			
		保育の基礎技能	2	幼児の理解と教育の方法	(2)	子育て支援	(2)			
				乳児保育Ⅰ	(2)	保育内容（健康）の指導法	2			
				◎特別支援保育論	2	保育内容（人間関係）の指導法	2			
						保育内容（環境）の指導法	(2)			
						保育内容（言葉）の指導法	(2)			
						保育内容（音楽表現）の指導法	2			
						保育内容（造形表現）の指導法	(2)			
						保育内容（身体表現）の指導法	(2)			
	専門実習・演習			保育実習指導ⅠA	(1)	教育実習指導Ⅰ	(1)	教育実習指導Ⅱ	(1)	
				保育実習指導ⅠB	(1)	教育実習Ⅰ	(2)	教育実習Ⅱ	(2)	
				保育実習ⅠA（保育所）	(2)	保育実習ⅠB（施設）	(2)	保育実習Ⅱ（保育所）	(2)	
								保育実習指導Ⅱ	(1)	
								保育・教職実践演習（幼稚園）	(2)	
	小計		18		28		16		8	70
自由選択科目（26単位以上）	すべて※他学科目・共通資格科目を含む	学部共通科目余剰分（カッコの単位数）	3	学科専門科目余剰分（カッコの単位数）	8	学科専門科目余剰分（カッコの単位数）	25	学科専門科目余剰分（カッコの単位数）	8	
	小計		3		8		25		8	44
124単位以上	計		45		40		41		16	142

【注意事項】

・学部共通科目、学科専門科目の必修科目・選択必修科目・選択科目の必要単位数を超過した分（単位数カッコ表記）が自由選択科目としてカウントされます。
なお、卒業要件の必修科目◎は**太字**で表記しています。

・時間割は毎年変動するため、時間割の重複等により、この表のとおりに履修できないこともあります。

国際学科

国際学科

国際学科は、多様化する日本および国際社会の現状と課題を理解し、さまざまな背景をもつ人々との共生と協働のために、日本と海外双方の政治、経済、社会、文化、言語などの専門科目により多角的な視座を修得します。

また、少人数の演習形式のゼミナール科目を通して、主体的に行動するための課題探究力や問題解決能力、倫理的思考能力を修得し、英語やその他の外国語による情報の伝達や、文献やメディア媒体から情報を収集し活用するための語学力を修得します。日本および国際社会の一員として他者を思いやり、多様な価値観や習慣をもつ人々との共生社会の創造に向けて、主体的に行動できる力を育てます。

○世界と日本を対話で結ぶ

世界の国々と日本の社会や文化、コミュニケーションスタイルを比較することで、多様な価値観や社会の在り方を理解し、物事を広い視野で考える力を養います。互いの違いや共通点を認め合いながら対話を深めることで、誤解や偏見を減らし、グローバルな課題解決に貢献できる力を育みます。

○３つの視点から国際人を育てるコース制

国際人に必要な知識や語学力、異文化理解力、そして国際社会の仕組みをバランスよく学びます。さらに、「国際コミュニケーション」「多文化社会」「国際協力」の３つのコースから自分の関心や目標に合わせて選択することで、学びの方向性を明確にし、専門性を高めることができます。

○留学を通して真の国際感覚を身につける

希望者には実際に海外へ飛び出し、学科の専門分野を実地で学べる機会が設けられています。自分の目で現地を確かめる。日本を外の視点から見つめ直す。外国語を使って異文化間コミュニケーションを取る。こうした経験を通して、世界でも日本でも通用するバランスの取れた国際人へと成長できます。

○４年間の学び

１年次：基礎・入門科目を中心に学ぶ

学部共通の語学科目やフレッシュマン・セミナーなどを中心に大学での学びの基礎を固め、学科の入門科目で専門分野の基礎的知識を身につけます。

２年次：基本科目を中心に学ぶ

専門分野の基本を身につけます。希望者は２年次後期に海外留学をし、専門の学びを実地で深めます。

３年次：発展科目を中心に学ぶ

より発展的な内容を積み上げていきます。また、３・４年次を通して行われるゼミナールで興味のあるテーマを主体的に研究します。

４年次：卒業論文や実践的活動を中心に学ぶ

卒業論文やインターンシップなどの実践的な学びを重ねます。コースや資格課程修了に必要な科目を取りきり、卒業に向けて４年間の仕上げを行います。

◎国際コミュニケーションコース／多文化社会コース／国際協力コースのコース分け

国際学科には国際コミュニケーションコース、多文化社会コース、国際協力コースがあります。

１年次後期にコース希望票を提出し、希望したコースに２年次から配属されることになります。

国際コミュニケーションコース

国際コミュニケーションコースの特長

〇外国語を学びながら異文化への理解を深め国内外で活躍できる力を養う

国際共通語としての英語を学び、異文化間コミュニケーションの方法を習得することで、世界中で通用するコミュニケーション能力を身につけます。また、英語で日本の文化や社会を紹介したり、英語の文学作品を読み解いたり、言語の仕組みを学んだりすることで、発信力・表現力・分析力を磨きます。さらに、韓国語などの第２外国語や、英語圏以外の地域の文化や社会について学ぶことで、多文化理解を深め、活躍の場を広げることを目指します。

１．卒業に必要な単位（卒業要件単位）

国際学科国際コミュニケーションコースは、学部共通科目36単位、学科専門科目58単位、自由選択科目30単位、合計124単位が卒業に必要な単位です。

	単位	内訳	備　　考
学部共通科目	36	必修　18 選択必修　８ 選択　10	※選択科目は共通資格科目を除いて10単位必要
学科専門科目	58	必修　16 選択必修　16 選択　26	
自由選択科目	30	・　学部共通科目、学科専門科目（他学科を含む）、単位互換科目、その他認定科目から選択。 ・　共通資格科目からは14単位まで算入することができます。 ・　各種技能検定試験に合格し認定された単位を４単位まで自由選択科目の単位に算入することができます。	
計	124		

※卒業に必要な単位は合計で124単位以上です。そのうち、オンデマンド科目の単位は60単位まで算入できると定められています。なお、合計単位数が124単位を超えていても、必修科目や上記の区分毎の合計単位数が不足している場合は卒業できません。

※同一名称科目の単位を複数回修得した場合は、そのうち１回分の単位のみが卒業に必要な単位（124単位）に含まれます。

2．学部共通科目

国際学科国際コミュニケーションコースは、以下に記載してある必修科目18単位、選択必修８単位、選択10単位、合計36単位を修得してください。

（１）必修科目

下記の18単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「キリスト教概論」	２単位	１年次以上
「フレッシュマン・セミナーⅠ・Ⅱ」	各１単位、合計２単位	１年次以上
「ライフデザイン」	２単位	１年次以上
「基礎情報科学Ⅰ・Ⅱ」	各２単位、合計４単位	１年次以上
「Freshman English ＡⅠ・ＡⅡ・ＢⅠ・ＢⅡ」	各１単位、合計４単位	１年次以上
「Sophomore English ＡⅠ・ＡⅡ・ＢⅠ・ＢⅡ」	各１単位、合計４単位	２年次以上

（２）選択必修科目

下記の５科目から２単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「キリスト教文化史」「旧約聖書」「新約聖書」「東洋英和の歴史」 「プロジェクト学習Ｃ」	各２単位	２年次以上

※２単位を超えて単位を修得した場合、超えた単位は学部共通科目の選択科目10単位に加えることができます。
例えば、「キリスト教文化史」と「新約聖書」と「東洋英和の歴史」を修得した場合、「キリスト教文化史」２単位分は選択必修科目、「新約聖書」と「東洋英和の歴史」計４単位分は選択科目として認定されます。

下記の36科目（コミュニケーションスキルズ科目（「Freshman English」「Sophomore English」「日本語」を除く））から６単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「海外英語実習」「English in Pop Culture」「English through Music」」 「フランス語（ベーシック）Ⅰ・Ⅱ」「フランス語（アドバンス）」 「ドイツ語（ベーシック）Ⅰ・Ⅱ」「ドイツ語（アドバンス）」 「スペイン語（ベーシック）Ⅰ・Ⅱ」「スペイン語（アドバンス）」 「中国語（ベーシック）Ⅰ・Ⅱ」「中国語（アドバンス）」 「韓国語（ベーシック）Ⅰ・Ⅱ」「韓国語（アドバンス）」 「手話（ベーシック）Ⅰ・Ⅱ」「手話（アドバンス）」	各２単位	１年次以上
「TOEIC 対策講座」	１単位	２年次以上
「コミュニケーション英文法」 「English for Communication and Discussion」 「English for World Affairs」「English for Tourism」 「English for Business」「English for Journalism」「Airline English」 「Psychology in Romance Movies」「Culture and History through Movies」 「Exploring Novels through Movies」 「コミュニケーションのための韓国語」「ポップカルチャーから学ぶ韓国語」 「留学のための韓国語」	各２単位	２年次以上
「Presenting in English」	２単位	３年次以上

※６単位を超えて単位を修得した場合、超えた単位は学部共通科目の選択科目10単位に加えることができます。

（３）選択科目

上記（１）と（２）の単位を満たすために使用した科目以外の学部共通科目（共通資格科目を除く）から必要単位数（10単位）を修得してください。

（４）その他の学部共通科目

上記（１）～（３）の必要単位を超えて学部共通科目を修得した場合、その単位は「自由選択科目」に加えられます。

3．学科専門科目

（１）必修科目

下記の16単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「21世紀の国際社会をみる視点」「国際社会学」	各２単位、合計４単位	１年次以上
「基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」	各２単位、合計４単位	２年次以上
「ゼミナールⅠ・Ⅱ」	各２単位、合計４単位	３年次以上
「ゼミナールⅢ・Ⅳ」	各２単位、合計４単位	４年次以上

留学をする学生は、下表のとおりにゼミナールを履修してください。**留学期間が３年次以降におよぶ場合（すなわち２年次後期のみの留学以外）は、必ず留学前にゼミ担当教員に相談し、具体的な授業の受け方について指示を受けてください。**

【２年後期に留学した場合】

	前期	後期
２年	「基礎ゼミナールⅠ」	【留学中】 留学先で修得した単位を帰国後「基礎ゼミナールⅡ」に振替えます
３年	「ゼミナールⅠ」	「ゼミナールⅡ」
４年	「ゼミナールⅢ」	「ゼミナールⅣ」

【２年後期から３年前期にかけて留学した場合】

	前期	後期
２年	「基礎ゼミナールⅠ」	【留学中】 留学先で修得した単位を帰国後「基礎ゼミナールⅡ」に振替えます
３年	【留学中】	「ゼミナールⅡ」
４年	「ゼミナールⅠ」と「ゼミナールⅢ」を同時履修	「ゼミナールⅣ」

【３年前期に留学した場合】

	前期	後期
２年	「基礎ゼミナールⅠ」	「基礎ゼミナールⅡ」
３年	【留学中】	「ゼミナールⅡ」
４年	「ゼミナールⅠ」と「ゼミナールⅢ」を同時履修	「ゼミナールⅣ」

【３年前期から３年後期にかけて留学した場合】

	前期	後期
２年	「基礎ゼミナールⅠ」	「基礎ゼミナールⅡ」
３年	【留学中】	【留学中】
４年	「ゼミナールⅠ」と「ゼミナールⅢ」を同時履修	「ゼミナールⅡ」と「ゼミナールⅣ」を同時履修

【３年後期に留学した場合】

	前期	後期
２年	「基礎ゼミナールⅠ」	「基礎ゼミナールⅡ」
３年	「ゼミナールⅠ」	【留学中】
４年	「ゼミナールⅢ」	「ゼミナールⅡ」と「ゼミナールⅣ」を同時履修

【３年後期から４年前期にかけて留学した場合】

	前期	後期
２年	「基礎ゼミナールⅠ」	「基礎ゼミナールⅡ」
３年	「ゼミナールⅠ」	【留学中】
４年	【留学中】	「ゼミナールⅡ」、「ゼミナールⅢ」、「ゼミナールⅣ」を同時履修

【４年前期に留学した場合】

	前期	後期
２年	「基礎ゼミナールⅠ」	「基礎ゼミナールⅡ」
３年	「ゼミナールⅠ」	「ゼミナールⅡ」
４年	【留学中】	「ゼミナールⅢ」と「ゼミナールⅣ」を同時履修

【４年後期に留学した場合】

	前期	後期
２年	「基礎ゼミナールⅠ」	「基礎ゼミナールⅡ」
３年	「ゼミナールⅠ」	「ゼミナールⅡ」
４年	「ゼミナールⅢ」と「ゼミナールⅣ」を同時履修	【留学中】

（２）選択必修科目

下記の13科目から「英語で紹介する日本Ａ」を含む16単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「英語で紹介する日本Ａ」	２単位	１年次以上
「異文化間コミュニケーション入門」「英語文学入門Ａ」 「英語児童文学」「English for Study Abroad Ｂ」	各２単位	１年次以上
「比較文化論」「グローバル時代のコミュニケーション」 「英語学概論Ａ」「English as an International Language」 「English for Integrated Learning Ⅰ」 「English for Intercultural Understanding」 「ホスピタリティ論」「韓国の社会と文化」	各２単位	２年次以上

※16単位を超えて単位を修得した場合、超えた単位は学科専門科目の選択科目26単位に加えることができます。

（３）選択科目

卒業のためには、**学科専門科目から合計で26単位を修得する必要があります（必修科目および選択必修科目として算入したものを除く）。**

科目表「外国史概説」から「英語科教育法Ⅳ」までの科目の中から26単位を修得してください。ただし、選択必修科目として修得した科目（16単位）を加えることはできません。

26単位を超えて単位を修得した場合は、超えた単位は自由選択科目30単位に加えることができます。

４．自由選択科目

国際コミュニケーションコースでは、自由選択科目（30単位）を修得する必要があります。自由選択科目として認定されるのは下記の科目です。

① 学部共通科目の選択必修科目８単位を超えて修得した単位
② 学部共通科目の選択科目10単位を超えて修得した単位
③ 学科専門科目の選択必修科目16単位を超えて修得した単位
④ 学科専門科目の選択科目26単位を超えて修得した単位
⑤ 共通資格科目（上限14単位）
⑥ 検定チャレンジによる単位認定（上限４単位）
⑦ 海外留学による単位認定
⑧ 単位互換科目
⑨ その他の認定科目

５．海外留学認定科目

本学の留学プログラム（協定校・推薦校・認定校・語学留学）で留学した場合、留学先で履修した科目は帰国後所定の手続きと審査を経て、合計30単位を上限に本学の単位として認定されます。認定の方法には次の２つがあります。

１．本学の科目に振替える（原則として、留学先の科目と本学の科目が内容的にほぼ一致している必要があります）
２．「海外留学認定科目」という名称で自由選択科目として認定

6．検定チャレンジ

国際学科では、皆さんの学習意欲とチャレンジ精神を応援するため、漢字検定やTOEICなどの検定試験において一定の級やスコアを獲得した場合に単位を与えます。

（1）単位が認定される検定

該当する検定試験と与えられる単位数は以下の通りです。

（英語）

認定単位数	1	2	3	4
英検	2級	2級A	準1級	1級
TOEIC（TOEIC IP含む★）	550	670	785	945
TOEFL iBT	45	61	80	100
TOEFL ITP	450	500	550	600
IELTS	5	6	6．5	7

＊それぞれの言語を母語とする学生は単位認定の対象外。

★2年生全員がSophomore Englishで受験するTOEIC IP（12月予定／語学留学している場合は帰国後）は、単位認定の対象外。

（第2外国語）

認定単位数	1	2	3	4
ハングル能力検定	準2級	2級	1級	－
韓国語能力検定	3級	4級	5級	6級
中国語検定（HSK）	3級	4級	5級	6級
中国語検定試験（日本中国語検定協会）	4級	3級	2級	準1級
ドイツ語技能検定試験（独検）	4級	3級	2級	準1級
ドイツ語検定試験（ゲーテ･インスティトゥート）	A2	B1	B2	C1
実用フランス語技能検定試験（仏検）	準2級	2級	準1級	1級
スペイン語技能検定（西検）	4級	3級	2級	1級
スペイン語検定試験（DELE）	A2	B1	B2	C1
実用イタリア語検定	3級	準2級	2級	1級
PLIDAイタリア語検定	A2	B1	B2	C1
実用タイ語検定試験	4級	3級	準2級	2級

＊それぞれの言語を母語とする学生は単位認定の対象外。

（日本語）

認定単位数	1	2	3	4
漢字能力検定	2級	準1級	－	1級
日本語検定	2級	1級	－	－
文章読解・作成能力検定	2級	＊	＊	＊
語彙・読解力検定	2級	準1級	1級	－

＊文章読解・作成能力検定の準1級以上はまだ実施されていない。（2020年4月現在）

（その他）

認定単位数	1	2	3	4
ニュース時事能力検定	準2級	2級	1級	－
日本語教育能力検定試験	－	－	合格	－
日本商工会議所主催簿記検定	3級	2級	1級	－
実用数学技能検定	準1級	1級	－	－

（２）単位認定の方法

「英語」「第２外国語」「日本語」「その他」の**４分野ごと**に、取得した級・スコアのうち、**最も高いレベルのものを認定します（各分野でそれぞれ１つ。合計４つの検定まで可能）**。例えば、２年次に TOEIC で550点、４年次に785点を取得した場合、785点に該当する単位（３単位）のみを認定します（単位は積み上げません）。また、TOEIC と英検の両方を受検したような場合も、どちらか一方のみが認定されます。

申請手続きは学生各自が証明書をもって学生支援課で行います。申請期間は年に１回（７月予定）です。詳しい日程は e-pass でお知らせします。さらに高い級やスコアを取得した場合は、再度申請手続きを行い、以前に認定された単位を更新します。合計で４単位までを卒業に必要な単位に含めることができます。

認定される単位は各学期の履修上限単位数に含めません。また、試験日が入学前年の10月１日以降のもの、および入学後に取得した検定を認定の対象とします。

①申請書類

１．検定チャレンジ科目　単位認定申請書

２．合格証書等（正本）　※コピー後返却します。

②申請期間

７月（予定）

変更の可能性もありますので、詳しい日程は e-pass でお知らせします。

③提出先

学生支援課

④注意事項

１．合格証明書等を申請期間に用意できない場合、申込みできません。申請は次年度に見送ってください。

２．認定された単位が成績証明書等に反映されるのは、９月中旬頃です。

３．４年生のうち、本制度での認定単位数を見込んで卒業見込を得ようとする学生は、就職活動等で必要な卒業見込証明書を９月中旬ごろまで受け取れませんので注意してください。

◎国際学科 国際コミュニケーションコース

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学部共通科目	キリスト教基礎科目	キリスト教概論	2	◎	1		このうちまたは「プロジェクト学習C」から2単位を選択
		キリスト教文化史	2	▽	2		
		旧約聖書	2	▽	2		
		新約聖書	2	▽	2		
		東洋英和の歴史	2	▽	2		
	フレッシュマン・セミナー	フレッシュマン・セミナーⅠ	1	◎	1		
		フレッシュマン・セミナーⅡ	1	◎	1		
	ライフデザイン・ウェルネス科目	ライフデザイン	2	◎	1		
		ジェンダースタディーズA	2		2		
		ジェンダースタディーズB	2		2		
		ジェンダースタディーズC	2		2		
		ビジネスと社会A	2		2		
		ビジネスと社会B	2		2		
		ビジネスと社会C	2		2		
		キャリアデザイン	2		2		
		健康科学（講義・実技）	2		1		
		スポーツ科学A	1		1		
		スポーツ科学B	1		1		
		スポーツ科学C	1		1		
	情報メディア科目	基礎情報科学Ⅰ	2	◎	1		
		基礎情報科学Ⅱ	2	◎	1		
		メディア演習A	2		2	△	
		メディア演習B	2		2	△	
		メディア演習C	2		2	△	
	コミュニケーションスキルズ科目	Freshman English AⅠ	1	◎	1		このうちから6単位を選択（次ページに続く） ベーシックについては原則Ⅰ・Ⅱを同一年度に履修すること
		Freshman English AⅡ	1	◎	1		
		Freshman English BⅠ	1	◎	1		
		Freshman English BⅡ	1	◎	1		
		Sophomore English AⅠ	1	◎	2		
		Sophomore English AⅡ	1	◎	2		
		Sophomore English BⅠ	1	◎	2		
		Sophomore English BⅡ	1	◎	2		
		フランス語（ベーシック）Ⅰ	2	▽	1		
		フランス語（ベーシック）Ⅱ	2	▽	1		
		フランス語（アドバンス）	2	▽	1		
		ドイツ語（ベーシック）Ⅰ	2	▽	1		
		ドイツ語（ベーシック）Ⅱ	2	▽	1		
		ドイツ語（アドバンス）	2	▽	1		
		スペイン語（ベーシック）Ⅰ	2	▽	1		
		スペイン語（ベーシック）Ⅱ	2	▽	1		
		スペイン語（アドバンス）	2	▽	1		
		中国語（ベーシック）Ⅰ	2	▽	1		
		中国語（ベーシック）Ⅱ	2	▽	1		
		中国語（アドバンス）	2	▽	1		
		韓国語（ベーシック）Ⅰ	2	▽	1		
		韓国語（ベーシック）Ⅱ	2	▽	1		
		韓国語（アドバンス）	2	▽	1		
		手話（ベーシック）Ⅰ	2	▽	1		
		手話（ベーシック）Ⅱ	2	▽	1		
		手話（アドバンス）	2	▽	1		

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学部共通科目	コミュニケーションスキルズ科目	TOEIC対策講座	1	▽	2		
		海外英語実習	2	▽	1	△※1	※1 4年生は履修できない場合がある
		コミュニケーション英文法	2	▽	2		
		English for Communication and Discussion	2	▽	2		
		Presenting in English	2	▽	3		
		English for World Affairs	2	▽	2		
		English for Tourism	2	▽	2		
		English for Business	2	▽	2		（前ページからの続き） このうちから 6単位を選択
		English for Journalism	2	▽	2		
		Airline English	2	▽	2		
		Psychology in Romance Movies	2	▽	2		
		Culture and History through Movies	2	▽	2		
		Exploring Novels through Movies	2	▽	2		
		English in Pop Culture	2	▽	1		
		English through Music	2	▽	1		
		コミュニケーションのための韓国語	2	▽	2		
		ポップカルチャーから学ぶ韓国語	2	▽	2		
		留学のための韓国語	2	▽	2		
		日本語AⅠ	1		1	※2	
		日本語AⅡ	1		1	※2	※2
		日本語BⅠ	1		1	※2	留学生および
		日本語BⅡ	1		1	※2	それに準ずると
		日本語CⅠ	1		1	※2	大学が認めた者
		日本語CⅡ	1		1	※2	のみ履修可
	共通教養科目	日本国憲法	2		1		
		哲学概論	2		2		
		倫理と人権	2		1		
		健康心理学	2		2		
		教養のための歴史	2		1		
		生命と人間の歴史	2		2		
		教養のための自然科学	2		1		
		教養のための芸術A	2		1		
		教養のための芸術B	2		1		
	アクティブ・ラーニング科目	フィールドワークA	2		2	△	
		フィールドワークB	2		2	△	
		フィールドワークC	2		2	△	
		プロジェクト学習A	2		2	△	
		プロジェクト学習B	2		2	△	
		プロジェクト学習C	2	▽	2	△	「プロジェクト学習C」またはキリスト教基礎科目（「キリスト教概論」を除く）から2単位を選択
		プロジェクト学習D	2		2	△	
		プロジェクト学習E	2		2	△	
		プロジェクト学習F	2		2	△	
		海外研修A	2		2	△※1	※1 4年生は履修できない場合がある
		海外研修B	2		2	△※1	
		歴史文化研修A	2		2	△	
		歴史文化研修B	2		2	△	
		インターンシップ	2		2	△	

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学部共通科目	教養科目（総合心理学科オープン科目）	心理学概論Ⅰ	2		1		
		心理学概論Ⅱ	2		1		
		社会学概論Ⅰ	2		1		
		社会学概論Ⅱ	2		1		
		宗教学概論Ⅰ	2		1		
		宗教学概論Ⅱ	2		1		
		教育学概論Ⅰ	2		1		
		教育学概論Ⅱ	2		1		
		科学概論	2		1		
		臨床心理学概論	2		1		
		発達心理学	2		1		
		教育心理学	2		2		
		青年心理学	2		2		
		メディア心理学	2		2		
		恋愛心理学	2		3		
		児童発達心理学	2		2		
		感情・人格心理学	2		2		
		神経・生理心理学	2		2		
		障害者・障害児心理学	2		2		
		学習・言語心理学	2		2		
		知覚・認知心理学	2		1		
		社会・集団・家族心理学	2		2		
		色彩・造形心理学	2		2		
		親子の臨床心理学	2		2	※	※子ども教育学科は履修不可
		発達心理学各論A	2		2		
		心理学特殊講義	2		2		
		対人社会心理学	2		2	※	※子ども教育学科は履修不可
		臨床心理学各論A	2		3		
		臨床心理学各論B	2		2		
		臨床心理学各論C	2		2		
		家族関係論	2		1		
		家族と社会	2		1		
		宗教社会学	2		2		
		死生学概論	2		1		
		生命倫理	2		2		
		女性教育論	2		2		
		教育相談（中・高）	2		3	※	※子ども教育学科は履修不可
		特別支援教育	2		3		
		教育工学	2		3		
		AI概論	2		2		
		AI演習	2		2		
	教養科目（子ども教育学科オープン科目）	キリスト教人間形成論	2		3		
		キリスト教保育	2		3		
		教育思想史	2		1		
		保育教育原理	2		1		
		保育者論	2		1		
		子ども家庭支援論	2		2		
		社会的養護Ⅰ	2		2		
		子ども家庭支援の心理学	2		3		
		子どもの心理と発達Ⅰ	2		2		
		幼児の理解と教育の方法	2		2		

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学部共通科目	教養科目（子ども教育学科オープン科目）	乳児保育Ⅰ	2		2		
		子ども家庭福祉	2		1		
		社会福祉	2		1		
		子どもソーシャルワーク	2		3	△	
		インクルーシブ教育	2		3		
		子どもと自然	2		2		
		世界の子ども教育	2		2		
		子どもと国際社会	2		2		
		Speaking English with Children	2		3		
		子どもの感性とアート	2		2		
		子どものアートとサイエンス	2		3		
		子どもと文化	2		2		
		アートプロジェクト論	2		2		
		あそびと創造のデザイン学	2		2		
		子どもとパフォーミングアーツ	2		2		
		子どもフィールドワークA	2		3	△※	※4年生は履修できない場合がある
		子どもフィールドワークB	2		3		
		子どもフィールドワークC	2		2	△※	
	共通資格科目	博物館概論	2		2	△	＊ 共通資格科目を修得した場合、自由選択科目として14単位まで加えることが可能（学部共通科目の選択科目10単位に加えることは不可）
		博物館資料論	2		2	△	
		博物館資料保存論	2		2	△	
		博物館教育論	2		2	△	
		博物館情報・メディア論	2		2	△	
		博物館経営論	2		2	△	
		博物館展示論	2		2		
		博物館実習Ⅰ	1		3	☆	
		博物館実習Ⅱ	2		3	☆	
		生涯学習概論	2		2		
		生活のなかの図書館	2		1		
		図書館情報技術論	2		2	☆	
		図書館制度・経営論	2		3	☆	
		生涯学習社会と図書館サービス	2		2		
		情報サービス論	2		3	☆	
		情報資源組織論	2		3	☆	
		情報資源組織演習Ⅰ	1		3	☆	
		情報資源組織演習Ⅱ	1		3	☆	
		子どもの読書支援	2		3		
		情報サービス演習Ⅰ	1		3	☆	
		情報サービス演習Ⅱ	1		3	☆	
		図書館の比較文化論	2		2		
		図書館情報資源概論	2		2		
		図書・図書館史	2		1		
		図書館情報資源特論	2		2		
		社会調査の基礎	2		1		
		社会調査法	2		1		
		データで読む社会	2		2		
		統計学	2		2		
		フィールド調査法	2		2		
		社会調査演習Ⅰ	2		3		
		社会調査演習Ⅱ	2		3		

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
☆ 各資格課程登録者に限る（詳細は、各資格課程の頁を参照）
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学部共通科目	共通資格科目	日本語教育法ＡⅠ	2		1		＊ 共通資格科目を修得した場合、自由選択科目として14単位まで加えることが可能（学部共通科目の選択科目10単位に加えることは不可）
		日本語教育法ＡⅡ	2		1		
		日本語教育法ＢⅠ	2		2		
		日本語教育法ＢⅡ	2		2		
		日本語教育法ＣⅠ	2		2		
		日本語教育法ＣⅡ	2		2		
		日本語教育法ＤⅠ	2		2	※1	※1 日本語教育法ＤⅠ/ＤⅡは、日本語教育法ＢⅠ/ＢⅡの少なくともどちらか一方を履修済み、または同時履修の場合のみ履修可
		日本語教育法ＤⅡ	2		2	※1	
		日本語教育法ＥⅠ	2		2		
		日本語教育法ＥⅡ	2		2		
		教職の理解	2		2	☆※2	
		教育課程論	2		2	☆※2	
		道徳教育の理論と実践	2		2	☆※2	
		特別活動と総合的な学習の時間	2		2	☆※2	
		教育の方法と技術	2		2	☆※2	
		生徒・進路指導の理論と方法	2		2	☆※2	
		ICT演習	2		2	☆※2	
		学校体験	1		2	☆※2	
		介護等体験	1		3	☆※2	
		教育実習Ⅰ	1		4	☆※2	
		教育実習Ⅱ	2		4	☆※2	
		教育実習Ⅲ	2		4	☆※2	※2 子ども教育学科は履修不可
		教職実践演習（中・高）	2		4	☆※2	
		教育社会学（中・高）	2		2	☆※2	
学科専門科目	ゼミナール	基礎ゼミナールⅠ	2	◎	2	×	
		基礎ゼミナールⅡ	2	◎	2	×	
		ゼミナールⅠ	2	◎	3	×	
		ゼミナールⅡ	2	◎	3	×	
		ゼミナールⅢ	2	◎	4	×	
		ゼミナールⅣ	2	◎	4	×	
	学科基礎科目	21世紀の国際社会をみる視点	2	◎	1	×	
		国際社会学	2	◎	1		
		外国史概説	2		1		
		日本史概説	2		1		
		人文地理学	2		1		
		自然地理学	2		1		
		世界地誌	2		1		
	国際関係関連科目	法学	2		1		
		国際関係入門	2		1		
		政治学	2		1		
		マクロ経済学	2		1		
		ミクロ経済学	2		1		
		ニュースを読む	2		2		
		国際協力論	2		2		
		国際関係史	2		2		
		国際関係論	2		2		
		国際機構論	2		2		
		国際経済論	2		2		
		国際法	2		2		
		地球規模問題	2		3		
		安全保障論	2		3		
		公共政策論	2		3		

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
☆ 各資格課程登録者に限る（詳細は、各資格課程の頁を参照）
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学科専門科目	異文化理解関連科目	異文化間コミュニケーション入門	2	▽	1		このページの▽から「英語で紹介する日本A」を含む16単位を選択
		比較文化論	2	▽	2		
		グローバル時代のコミュニケーション	2	▽	2		
		観光と社会	2		2		
		多様性の社会思想	2		1		
		多文化社会論	2		2		
		宗教と国際社会	2		2		
		文化人類学	2		1		
		グローバリゼーションと文化	2		2		
	外国語コミュニケーション関連科目	英語学概論A	2	▽	2		このページの▽から「英語で紹介する日本A」を含む16単位を選択
		英語文学入門A	2	▽	1		
		英語児童文学	2	▽	1		
		英語で紹介する日本A	2	▽	1		
		English for Study Abroad B	2	▽	1		
		English as an International Language	2	▽	2		
		English for Integrated Learning Ⅰ	2	▽	2		
		English for Intercultural Understanding	2	▽	2		
		英語学概論B	2		2		
		英語文学入門B	2		1		
		英語で紹介する日本B	2		1		
		第二言語習得概論Ⅰ	2		2		
		第二言語習得概論Ⅱ	2		2		
		通訳トレーニング	2		3		
		翻訳トレーニング	2		3		
		English for Study Abroad A	2		1		
		English for Integrated Learning Ⅱ	2		2		
		Education around the World	2		2		※2年次後期および3年次留学希望者のみ履修可
		留学準備講座	2		2	※	
	エリアスタディーズ科目	ホスピタリティ論	2	▽	2		このページの▽から「英語で紹介する日本A」を含む16単位を選択
		韓国の社会と文化	2	▽	2		
		北米入門	2		1		
		現代の北米	2		2		
		ヨーロッパ・EU入門	2		1		
		現代のヨーロッパ・EU	2		2		
		北東アジア入門	2		1		
		東南アジア入門	2		1		
		現代のアジア	2		2		
		オセアニア入門	2		1		
		現代のオセアニア	2		2		
		グローバルサウス論	2		2		
		日本文化入門A	2		1		
		日本文化入門B	2		1		
		ポップカルチャー論	2		2		
	学科教職科目	社会科・公民科教育法Ⅰ	2		3	☆	
		社会科・公民科教育法Ⅱ	2		3	☆	
		社会科・地歴科教育法Ⅰ	2		3	☆	
		社会科・地歴科教育法Ⅱ	2		3	☆	
		英語科教育法Ⅰ	2		3	☆	
		英語科教育法Ⅱ	2		3	☆	
		英語科教育法Ⅲ	2		3	☆	
		英語科教育法Ⅳ	2		3	☆	

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
☆ 各資格課程登録者に限る（詳細は、各資格課程の頁を参照）
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

7．取得できる資格

（１）中学校・高等学校教諭一種免許課程

国際学科の学生は、一定の条件を満たせば、中学校・高等学校教諭一種免許課程に登録することができ、免許取得のための履修・実習ができます。

国際学科の学生は中学校教諭一種（社会、英語）、高等学校教諭一種（地歴、公民、英語）の免許が取得できます。詳しくは、資格課程「中学校・高等学校教諭一種免許課程」のページを参照してください。

（２）学芸員資格

国際学科の学生は、課程登録し、必要な単位を修得することにより、博物館学芸員の資格を取得できます。詳しくは、資格課程「学芸員資格課程」のページを参照してください。

（３）司書資格

国際学科の学生は、課程登録し、必要な単位を修得することにより、司書資格を取得できます。詳しくは、資格課程「司書資格課程」のページを参照してください。

（４）社会調査士資格

国際学科の学生は、社会調査士資格に必要な単位を修得し、認定のための諸手続きをとることにより、社会調査士資格を得ることができます。詳しくは、資格課程「社会調査士資格」のページを参照してください。

（５）認定心理士資格

国際学科の学生は、認定心理士資格に必要な単位を修得し、認定のための諸手続きをとることにより、認定心理士資格を得ることができます。詳しくは、資格課程「認定心理士資格」のページを参照してください。

（６）准学校心理士資格

国際学科で中学校・高等学校教諭一種免許取得を目指す学生は、上記（１）の中学校・高等学校教諭一種免許を取得し、教職課程に関する単位のうち、準学校心理士資格に必要な単位を修得し認定のための諸手続きをとることにより、準学校心理士資格を得ることができます。詳しくは、資格課程「准学校心理士資格」のページを参照してください。

（７）社会福祉主事任用資格

国際学科の学生は、必要な単位を修得することにより、卒業時に社会福祉主事任用資格を得ることができます。詳しくは、資格課程「社会福祉主事任用資格」のページを参照してください。

その他

日本語教育基礎課程

国際学科の学生は、課程登録し、必要な単位を修得することにより、日本語教育の基礎を学んだことを示す「課程修了証明書」を取得できます。詳しくは、資格課程「日本語教育基礎課程」のページを参照してください。

時間割の作り方（国際学科１年生へアドバイス）

《Step１》e-pass で履修登録を行う前に、オリエンテーション時に配布された資料の中の「e-pass 履修登録用学生時間割計画表」に自分の時間割を作成しましょう。まず、大学側が履修登録をする科目（下記）を指定された曜日・時間に入れます。

□「Freshman English ＡⅠ・Ⅱ、ＢⅠ・Ⅱ」（各１単位 計４単位）
□「基礎情報科学Ⅰ・Ⅱ」（各２単位計４単位）
□「フレッシュマン・セミナーⅠ・Ⅱ」（各１単位 計２単位）

これらの科目は、e-pass でクラス分けが確認できますので、指定されたクラスの曜日・時限を書き入れましょう。

《Step２》次に、学部共通科目の必修科目を入れます。

□「キリスト教概論」（前期科目）（２単位）
□「ライフデザイン」（後期科目）（２単位）

これらの科目は、クラスを指定されていることがありますので、「別冊履修の手引き」を確認しましょう。

《Step３》さらに、学科専門科目の必修科目を入れます。

□「21世紀の国際社会をみる視点」（前期科目）（２単位）
□「国際社会学」（後期科目）（２単位）

★ここまでが、全員共通の登録科目となります。前期後期合わせて、計18単位が決まりました。

☆ここからは、それぞれの希望や今後の進路にあわせて科目を登録してください。

《Step４》学部共通科目の選択必修科目（８単位）の中から１年生が履修できる科目の履修を考えます。
→「第２外国語（ベーシック）」を履修する場合、Ⅰ・Ⅱを同一年度に履修してください。

《Step５》学科専門科目の選択必修科目（16単位）の中から１年生が履修できる科目の履修を考えます。
→国際コミュニケーションコースを卒業するためには「英語で紹介する日本Ａ」を必ず修得する必要があります。
多文化社会コースを卒業するためには「異文化間コミュニケーション入門」を必ず修得する必要があります。
国際協力コースを卒業するためには「国際関係入門」を必ず修得する必要があります。

《Step６》学部共通科目（共通資格科目を除く）の選択科目（10単位）、学科専門科目の選択科目（26単位）の履修を考えます。
→特に学部共通科目の選択科目10単位分はできるだけ１年生での修得をおすすめします。

《Step７》資格取得を希望する人は、資格科目を選択します。

最終チェック！

- **前期24単位、後期24単位、計48単位以内になりましたか。**
- **共通資格科目と「履修登録上限単位数を超えて登録できる科目」は、各学期24単位（年間48単位）を超えても履修できます。**
- **後期科目については、大学が履修登録した科目以外は、後期履修登録修正期間に登録しなおすことができますが、原則として前期後期全ての科目を前期履修登録期間に登録してください。**

これで、１年生の時間割は完成です！
e-pass で履修登録をしましょう。

国際学科 国際コミュニケーションコース履修モデル

履修モデルとは、卒業までにどのような知識やスキルを持った人材になるかを明確にし、その目標達成に向けて、履修すべき科目を具体的に例示したものです。この履修モデルどおりでなければならない、ということではありません。皆さんはこの履修モデルを参考に、自らの目標や目的に向けて、卒業要件と照らし合わせながら、履修計画を設計してください。

以下の履修モデルは、外国語を通して意思疎通をとることができる高度な語学運用能力を身につけようとする学生を想定したものです。外国語コミュニケーション科目を中心に履修し、日本文化を含む多様な文化を理解するための科目も学びます。想定される進路は、航空業界、観光・旅行業界、サービス業等です。

卒業要件単位	科目区分	1年次		2年次		3年次・4年次		計
		科目名称	単位数	科目名称	単位数	科目名称	単位数	
学部共通科目(36単位以上)	キリスト教基礎科目	**◎キリスト教概論**	2	キリスト教文化史	2			
	フレッシュマン・セミナー	**◎フレッシュマン・セミナーⅠ**	1					
		◎フレッシュマン・セミナーⅡ	1					
	ライフデザイン・ウェルネス科目	**◎ライフデザイン**	2	ジェンダースタディーズA	2			
	情報メディア科目	**◎基礎情報科学Ⅰ**	2					
		◎基礎情報科学Ⅱ	2					
	コミュニケーションスキルズ科目	**◎Freshman English AⅠ**	1	**◎Sophomore English AⅠ**	1	Presenting in English	(2)	
		◎Freshman English AⅡ	1	**◎Sophomore English AⅡ**	1	Airline English	(2)	
		◎Freshman English BⅠ	1	**◎Sophomore English BⅠ**	1	Exploring Novels through Movies	(2)	
		◎Freshman English BⅡ	1	**◎Sophomore English BⅡ**	1			
		韓国語（ベーシック）Ⅰ	2	韓国語（アドバンス）	2			
		韓国語（ベーシック）Ⅱ	2	海外英語実習	(2)			
		English in Pop Culture	2	コミュニケーション英文法	(2)			
				コミュニケーションのための韓国語	(2)			
				ポップカルチャーから学ぶ韓国語	(2)			
				留学のための韓国語	(2)			
	共通教養科目	教養のための歴史	2					
	アクティブ・ラーニング科目			歴史文化研修A	2	フィールドワークC	(2)	
	教養科目（他学科オープン科目）			メディア心理学	2	Speaking English with Children	(2)	
	小計		22		14		0	36
学科専門科目(58単位以上)	ゼミナール			**◎基礎ゼミナールⅠ**	2	**◎ゼミナールⅠ**	2	
				◎基礎ゼミナールⅡ	2	**◎ゼミナールⅡ**	2	
						◎ゼミナールⅢ	2	
						◎ゼミナールⅣ	2	
	学科基礎科目	**◎21世紀の国際社会をみる視点**	2					
		◎国際社会学	2					
		世界地誌	2					
	国際関係関連科目	国際関係入門	2	ニュースを読む	2			
	異文化理解関連科目	異文化間コミュニケーション入門	2	グローバル時代のコミュニケーション	2	比較文化論	2	
		多様性の社会思想	2			多文化社会論	2	
	外国語コミュニケーション関連科目	**▽英語で紹介する日本A**	2	英語学概論A	2	英語児童文学	2	
		英語で紹介する日本B	2	英語文学入門A	2	第二言語習得概論Ⅰ	(2)	
		English for Study Abroad B	2	English as an International Language	2	第二言語習得概論Ⅱ	(2)	
		英語文学入門B	2	English for Integrated Learning Ⅰ	2	通訳トレーニング	(2)	
				English for Intercultural Understanding	2	翻訳トレーニング	(2)	
	エリアスタディーズ科目	北米入門	2	韓国の社会と文化	2	ホスピタリティ論	(2)	
		日本文化入門B	2					
	学科教職科目							
	小計		24		20		14	58
自由選択科目(30単位以上)	すべて＊他学科目・共通資格科目を含む			学部共通科目余剰分(カッコの単位数)	10	学部共通科目余剰分(カッコの単位数)	10	
						学科専門科目余剰分(カッコの単位数)	10	
	小計		0		10		20	30
124単位以上	計		46		44		34	124

【注意事項】

・学部共通科目、学科専門科目の必修科目・選択必修科目・選択科目の必要単位数を超過した分（単位数カッコ表記）が自由選択科目としてカウントされます。
なお、必修科目◎（および選択必修科目のうち必ず修得すべき科目▽）は**太字**で表記しています。

・時間割は毎年変動するため、時間割の重複等により、この表のとおりに履修できないこともあります。

多文化社会コース

多文化社会コースの特長

〇多文化が共存する社会の課題を学び、誰もが暮らしやすい社会の実現を目指す

異なる文化的背景を持つ人々が一つの社会で共に暮らすために必要な仕組みや、人々の意識について学びます。日本に定住する外国人が増える中、住居の確保、言語サポート、教育や子育て支援、さらに医療や災害時の対応など、解決すべき課題は多岐にわたります。このコースでは、これらの現状を理解し、多文化共生社会を実現するために必要な知識や行動力を養います。

１．卒業に必要な単位（卒業要件単位）

国際学科多文化社会コースは、学部共通科目36単位、学科専門科目58単位、自由選択科目30単位、合計124単位が卒業に必要な単位です。

	単位	内訳	備　　考
学部共通科目	36	必修　18 選択必修　8 選択　10	※選択科目は共通資格科目を除いて10単位必要
学科専門科目	58	必修　16 選択必修　16 選択　26	
自由選択科目	30	・　学部共通科目、学科専門科目（他学科を含む）、単位互換科目、その他認定科目から選択。 ・　共通資格科目からは14単位まで算入することができます。 ・　各種技能検定試験に合格し認定された単位を４単位まで自由選択科目の単位に算入することができます。	
計	124		

※卒業に必要な単位は合計で124単位以上です。そのうち、オンデマンド科目の単位は60単位まで算入できると定められています。なお、合計単位数が124単位を超えていても、必修科目や上記の区分毎の合計単位数が不足している場合は卒業できません。

※同一名称科目の単位を複数回修得した場合は、そのうち１回分の単位のみが卒業に必要な単位（124単位）に含まれます。

2．学部共通科目

国際学科多文化社会コースは、以下に記載してある必修科目18単位、選択必修８単位、選択10単位、合計36単位を修得してください。

（１）必修科目

下記の18単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「キリスト教概論」	２単位	１年次以上
「フレッシュマン・セミナーⅠ・Ⅱ」	各１単位、合計２単位	１年次以上
「ライフデザイン」	２単位	１年次以上
「基礎情報科学Ⅰ・Ⅱ」	各２単位、合計４単位	１年次以上
「Freshman English ＡⅠ・ＡⅡ・ＢⅠ・ＢⅡ」	各１単位、合計４単位	１年次以上
「Sophomore English ＡⅠ・ＡⅡ・ＢⅠ・ＢⅡ」	各１単位、合計４単位	２年次以上

（２）選択必修科目

下記の５科目から２単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「キリスト教文化史」「旧約聖書」「新約聖書」「東洋英和の歴史」 「プロジェクト学習Ｃ」	各２単位	２年次以上

※２単位を超えて単位を修得した場合、超えた単位は学部共通科目の選択科目10単位に加えることができます。
例えば、「キリスト教文化史」と「新約聖書」と「東洋英和の歴史」を修得した場合、「キリスト教文化史」２単位分は選択必修科目、「新約聖書」と「東洋英和の歴史」計４単位分は選択科目として認定されます。

下記の36科目（コミュニケーションスキルズ科目（「Freshman English」「Sophomore English」「日本語」を除く））から６単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「海外英語実習」「English in Pop Culture」「English through Music」」 「フランス語（ベーシック）Ⅰ・Ⅱ」「フランス語（アドバンス）」 「ドイツ語（ベーシック）Ⅰ・Ⅱ」「ドイツ語（アドバンス）」 「スペイン語（ベーシック）Ⅰ・Ⅱ」「スペイン語（アドバンス）」 「中国語（ベーシック）Ⅰ・Ⅱ」「中国語（アドバンス）」 「韓国語（ベーシック）Ⅰ・Ⅱ」「韓国語（アドバンス）」 「手話（ベーシック）Ⅰ・Ⅱ」「手話（アドバンス）」	各２単位	１年次以上
「TOEIC 対策講座」	１単位	２年次以上
「コミュニケーション英文法」 「English for Communication and Discussion」 「English for World Affairs」「English for Tourism」 「English for Business」「English for Journalism」「Airline English」 「Psychology in Romance Movies」「Culture and History through Movies」 「Exploring Novels through Movies」 「コミュニケーションのための韓国語」「ポップカルチャーから学ぶ韓国語」 「留学のための韓国語」	各２単位	２年次以上
「Presenting in English」	２単位	３年次以上

※６単位を超えて単位を修得した場合、超えた単位は学部共通科目の選択科目10単位に加えることができます。

（３）選択科目

上記（１）と（２）の単位を満たすために使用した科目以外の学部共通科目（共通資格科目を除く）から必要単位数（10単位）を修得してください。

（４）その他の学部共通科目

上記（１）～（３）の必要単位を超えて学部共通科目を修得した場合、その単位は「自由選択科目」に加えられます。

3．学科専門科目

（１）必修科目

下記の16単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「21世紀の国際社会をみる視点」「国際社会学」	各２単位、合計４単位	１年次以上
「基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」	各２単位、合計４単位	２年次以上
「ゼミナールⅠ・Ⅱ」	各２単位、合計４単位	３年次以上
「ゼミナールⅢ・Ⅳ」	各２単位、合計４単位	４年次以上

留学をする学生は、下表のとおりにゼミナールを履修してください。**留学期間が３年次以降におよぶ場合（すなわち２年次後期のみの留学以外）は、必ず留学前にゼミ担当教員に相談し、具体的な授業の受け方について指示を受けてください。**

【２年後期に留学した場合】

	前期	後期
２年	「基礎ゼミナールⅠ」	【留学中】 留学先で修得した単位を帰国後「基礎ゼミナールⅡ」に振替えます
３年	「ゼミナールⅠ」	「ゼミナールⅡ」
４年	「ゼミナールⅢ」	「ゼミナールⅣ」

【２年後期から３年前期にかけて留学した場合】

	前期	後期
２年	「基礎ゼミナールⅠ」	【留学中】 留学先で修得した単位を帰国後「基礎ゼミナールⅡ」に振替えます
３年	【留学中】	「ゼミナールⅡ」
４年	「ゼミナールⅠ」と「ゼミナールⅢ」を同時履修	「ゼミナールⅣ」

【３年前期に留学した場合】

	前期	後期
２年	「基礎ゼミナールⅠ」	「基礎ゼミナールⅡ」
３年	【留学中】	「ゼミナールⅡ」
４年	「ゼミナールⅠ」と「ゼミナールⅢ」を同時履修	「ゼミナールⅣ」

【３年前期から３年後期にかけて留学した場合】

	前期	後期
２年	「基礎ゼミナールⅠ」	「基礎ゼミナールⅡ」
３年	【留学中】	【留学中】
４年	「ゼミナールⅠ」と「ゼミナールⅢ」を同時履修	「ゼミナールⅡ」と「ゼミナールⅣ」を同時履修

【３年後期に留学した場合】

	前期	後期
２年	「基礎ゼミナールⅠ」	「基礎ゼミナールⅡ」
３年	「ゼミナールⅠ」	【留学中】
４年	「ゼミナールⅢ」	「ゼミナールⅡ」と「ゼミナールⅣ」を同時履修

【３年後期から４年前期にかけて留学した場合】

	前期	後期
２年	「基礎ゼミナールⅠ」	「基礎ゼミナールⅡ」
３年	「ゼミナールⅠ」	【留学中】
４年	【留学中】	「ゼミナールⅡ」、「ゼミナールⅢ」、「ゼミナールⅣ」を同時履修

【４年前期に留学した場合】

	前期	後期
２年	「基礎ゼミナールⅠ」	「基礎ゼミナールⅡ」
３年	「ゼミナールⅠ」	「ゼミナールⅡ」
４年	【留学中】	「ゼミナールⅢ」と「ゼミナールⅣ」を同時履修

【４年後期に留学した場合】

	前期	後期
２年	「基礎ゼミナールⅠ」	「基礎ゼミナールⅡ」
３年	「ゼミナールⅠ」	「ゼミナールⅡ」
４年	「ゼミナールⅢ」と「ゼミナールⅣ」を同時履修	【留学中】

（２）選択必修科目

下記の13科目から「異文化間コミュニケーション入門」を含む16単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「異文化間コミュニケーション入門」	２単位	１年次以上
「人文地理学」「多様性の社会思想」「文化人類学」「英語で紹介する日本Ａ」「日本文化入門Ａ」	各２単位	１年次以上
「国際関係史」「多文化社会論」「宗教と国際社会」「比較文化論」「グローバル時代のコミュニケーション」「グローバリゼーションと文化」「ホスピタリティ論」	各２単位	２年次以上

※16単位を超えて単位を修得した場合、超えた単位は学科専門科目の選択科目26単位に加えることができます。

（３）選択科目

卒業のためには、**学科専門科目から合計で26単位を修得する必要があります（必修科目および選択必修科目として算入したものを除く）。**

科目表「人文地理学」から「英語科教育法Ⅳ」までの科目の中から26単位を修得してください。ただし、選択必修科目として修得した科目（16単位）を加えることはできません。

26単位を超えて単位を修得した場合は、超えた単位は自由選択科目30単位に加えることができます。

４．自由選択科目

多文化社会コースでは、自由選択科目（30単位）を修得する必要があります。自由選択科目として認定されるのは下記の科目です。

① 学部共通科目の選択必修科目８単位を超えて修得した単位
② 学部共通科目の選択科目10単位を超えて修得した単位
③ 学科専門科目の選択必修科目16単位を超えて修得した単位
④ 学科専門科目の選択科目26単位を超えて修得した単位
⑤ 共通資格科目（上限14単位）
⑥ 検定チャレンジによる単位認定（上限４単位）
⑦ 海外留学による単位認定
⑧ 単位互換科目
⑨ その他の認定科目

５．海外留学認定科目

本学の留学プログラム（協定校・推薦校・認定校・語学留学）で留学した場合、留学先で履修した科目は帰国後所定の手続きと審査を経て、合計30単位を上限に本学の単位として認定されます。認定の方法には次の２つがあります。

１．本学の科目に振替える（原則として、留学先の科目と本学の科目が内容的にほぼ一致している必要があります）
２．「海外留学認定科目」という名称で自由選択科目として認定

6．検定チャレンジ

国際学科では、皆さんの学習意欲とチャレンジ精神を応援するため、漢字検定やTOEICなどの検定試験において一定の級やスコアを獲得した場合に単位を与えます。

（1）単位が認定される検定

該当する検定試験と与えられる単位数は以下の通りです。

（英語）

認定単位数	1	2	3	4
英検	2級	2級A	準1級	1級
TOEIC（TOEIC IP含む★）	550	670	785	945
TOEFL iBT	45	61	80	100
TOEFL ITP	450	500	550	600
IELTS	5	6	6．5	7

＊それぞれの言語を母語とする学生は単位認定の対象外。

★2年生全員がSophomore Englishで受験するTOEIC IP（12月予定／語学留学している場合は帰国後）は、単位認定の対象外。

（第2外国語）

認定単位数	1	2	3	4
ハングル能力検定	準2級	2級	1級	－
韓国語能力検定	3級	4級	5級	6級
中国語検定（HSK）	3級	4級	5級	6級
中国語検定試験（日本中国語検定協会）	4級	3級	2級	準1級
ドイツ語技能検定試験（独検）	4級	3級	2級	準1級
ドイツ語検定試験（ゲーテ･インスティトゥート）	A2	B1	B2	C1
実用フランス語技能検定試験（仏検）	準2級	2級	準1級	1級
スペイン語技能検定（西検）	4級	3級	2級	1級
スペイン語検定試験（DELE）	A2	B1	B2	C1
実用イタリア語検定	3級	準2級	2級	1級
PLIDAイタリア語検定	A2	B1	B2	C1
実用タイ語検定試験	4級	3級	準2級	2級

＊それぞれの言語を母語とする学生は単位認定の対象外。

（日本語）

認定単位数	1	2	3	4
漢字能力検定	2級	準1級	－	1級
日本語検定	2級	1級	－	－
文章読解・作成能力検定	2級	＊	＊	＊
語彙・読解力検定	2級	準1級	1級	－

＊文章読解・作成能力検定の準1級以上はまだ実施されていない。（2020年4月現在）

（その他）

認定単位数	1	2	3	4
ニュース時事能力検定	準2級	2級	1級	－
日本語教育能力検定試験	－	－	合格	－
日本商工会議所主催簿記検定	3級	2級	1級	－
実用数学技能検定	準1級	1級	－	－

（２）単位認定の方法

「英語」「第２外国語」「日本語」「その他」の**４分野ごと**に、取得した級・スコアのうち、**最も高いレベルのものを認定します（各分野でそれぞれ１つ。合計４つの検定まで可能）**。例えば、２年次に TOEIC で550点、４年次に785点を取得した場合、785点に該当する単位（３単位）のみを認定します（単位は積み上げません）。また、TOEIC と英検の両方を受検したような場合も、どちらか一方のみが認定されます。

申請手続きは学生各自が証明書をもって学生支援課で行います。申請期間は年に１回（７月予定）です。詳しい日程は e-pass でお知らせします。さらに高い級やスコアを取得した場合は、再度申請手続きを行い、以前に認定された単位を更新します。合計で４単位までを卒業に必要な単位に含めることができます。

認定される単位は各学期の履修上限単位数に含めません。また、試験日が入学前年の10月１日以降のもの、および入学後に取得した検定を認定の対象とします。

①申請書類

１．検定チャレンジ科目　単位認定申請書

２．合格証書等（正本）　※コピー後返却します。

②申請期間

７月（予定）

変更の可能性もありますので、詳しい日程は e-pass でお知らせします。

③提出先

学生支援課

④注意事項

１．合格証明書等を申請期間に用意できない場合、申込みできません。申請は次年度に見送ってください。

２．認定された単位が成績証明書等に反映されるのは、９月中旬頃です。

３．４年生のうち、本制度での認定単位数を見込んで卒業見込を得ようとする学生は、就職活動等で必要な卒業見込証明書を９月中旬ごろまで受け取れませんので注意してください。

◎国際学科 多文化社会コース

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学部共通科目	キリスト教基礎科目	キリスト教概論	2	◎	1		このうちまたは「プロジェクト学習C」から2単位を選択
		キリスト教文化史	2	▽	2		
		旧約聖書	2	▽	2		
		新約聖書	2	▽	2		
		東洋英和の歴史	2	▽	2		
	フレッシュマン・セミナー	フレッシュマン・セミナーⅠ	1	◎	1		
		フレッシュマン・セミナーⅡ	1	◎	1		
	ライフデザイン・ウェルネス科目	ライフデザイン	2	◎	1		
		ジェンダースタディーズA	2		2		
		ジェンダースタディーズB	2		2		
		ジェンダースタディーズC	2		2		
		ビジネスと社会A	2		2		
		ビジネスと社会B	2		2		
		ビジネスと社会C	2		2		
		キャリアデザイン	2		2		
		健康科学（講義・実技）	2		1		
		スポーツ科学A	1		1		
		スポーツ科学B	1		1		
		スポーツ科学C	1		1		
	情報メディア科目	基礎情報科学Ⅰ	2	◎	1		
		基礎情報科学Ⅱ	2	◎	1		
		メディア演習A	2		2	△	
		メディア演習B	2		2	△	
		メディア演習C	2		2	△	
	コミュニケーションスキルズ科目	Freshman English AⅠ	1	◎	1		このうちから6単位を選択（次ページに続く） ベーシックについては原則Ⅰ・Ⅱを同一年度に履修すること
		Freshman English AⅡ	1	◎	1		
		Freshman English BⅠ	1	◎	1		
		Freshman English BⅡ	1	◎	1		
		Sophomore English AⅠ	1	◎	2		
		Sophomore English AⅡ	1	◎	2		
		Sophomore English BⅠ	1	◎	2		
		Sophomore English BⅡ	1	◎	2		
		フランス語（ベーシック）Ⅰ	2	▽	1		
		フランス語（ベーシック）Ⅱ	2	▽	1		
		フランス語（アドバンス）	2	▽	1		
		ドイツ語（ベーシック）Ⅰ	2	▽	1		
		ドイツ語（ベーシック）Ⅱ	2	▽	1		
		ドイツ語（アドバンス）	2	▽	1		
		スペイン語（ベーシック）Ⅰ	2	▽	1		
		スペイン語（ベーシック）Ⅱ	2	▽	1		
		スペイン語（アドバンス）	2	▽	1		
		中国語（ベーシック）Ⅰ	2	▽	1		
		中国語（ベーシック）Ⅱ	2	▽	1		
		中国語（アドバンス）	2	▽	1		
		韓国語（ベーシック）Ⅰ	2	▽	1		
		韓国語（ベーシック）Ⅱ	2	▽	1		
		韓国語（アドバンス）	2	▽	1		
		手話（ベーシック）Ⅰ	2	▽	1		
		手話（ベーシック）Ⅱ	2	▽	1		
		手話（アドバンス）	2	▽	1		

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学部共通科目	コミュニケーションスキルズ科目	TOEIC対策講座	1	▽	2		
		海外英語実習	2	▽	1	△※1	※1 4年生は履修できない場合がある
		コミュニケーション英文法	2	▽	2		
		English for Communication and Discussion	2	▽	2		
		Presenting in English	2	▽	3		
		English for World Affairs	2	▽	2		
		English for Tourism	2	▽	2		
		English for Business	2	▽	2		（前ページからの続き） このうちから 6単位を選択
		English for Journalism	2	▽	2		
		Airline English	2	▽	2		
		Psychology in Romance Movies	2	▽	2		
		Culture and History through Movies	2	▽	2		
		Exploring Novels through Movies	2	▽	2		
		English in Pop Culture	2	▽	1		
		English through Music	2	▽	1		
		コミュニケーションのための韓国語	2	▽	2		
		ポップカルチャーから学ぶ韓国語	2	▽	2		
		留学のための韓国語	2	▽	2		
		日本語AⅠ	1		1	※2	
		日本語AⅡ	1		1	※2	※2
		日本語BⅠ	1		1	※2	留学生および
		日本語BⅡ	1		1	※2	それに準ずると
		日本語CⅠ	1		1	※2	大学が認めた者
		日本語CⅡ	1		1	※2	のみ履修可
	共通教養科目	日本国憲法	2		1		
		哲学概論	2		2		
		倫理と人権	2		1		
		健康心理学	2		2		
		教養のための歴史	2		1		
		生命と人間の歴史	2		2		
		教養のための自然科学	2		1		
		教養のための芸術A	2		1		
		教養のための芸術B	2		1		
	アクティブ・ラーニング科目	フィールドワークA	2		2	△	
		フィールドワークB	2		2	△	
		フィールドワークC	2		2	△	
		プロジェクト学習A	2		2	△	
		プロジェクト学習B	2		2	△	
		プロジェクト学習C	2	▽	2	△	「プロジェクト学習C」またはキリスト教基礎科目（「キリスト教概論」を除く）から2単位を選択
		プロジェクト学習D	2		2	△	
		プロジェクト学習E	2		2	△	
		プロジェクト学習F	2		2	△	
		海外研修A	2		2	△※1	※1 4年生は履修できない場合がある
		海外研修B	2		2	△※1	
		歴史文化研修A	2		2	△	
		歴史文化研修B	2		2	△	
		インターンシップ	2		2	△	

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学部共通科目	教養科目（総合心理学科オープン科目）	心理学概論Ⅰ	2		1		
		心理学概論Ⅱ	2		1		
		社会学概論Ⅰ	2		1		
		社会学概論Ⅱ	2		1		
		宗教学概論Ⅰ	2		1		
		宗教学概論Ⅱ	2		1		
		教育学概論Ⅰ	2		1		
		教育学概論Ⅱ	2		1		
		科学概論	2		1		
		臨床心理学概論	2		1		
		発達心理学	2		1		
		教育心理学	2		2		
		青年心理学	2		2		
		メディア心理学	2		2		
		恋愛心理学	2		3		
		児童発達心理学	2		2		
		感情・人格心理学	2		2		
		神経・生理心理学	2		2		
		障害者・障害児心理学	2		2		
		学習・言語心理学	2		2		
		知覚・認知心理学	2		1		
		社会・集団・家族心理学	2		2		
		色彩・造形心理学	2		2		
		親子の臨床心理学	2		2	※	※子ども教育学科は履修不可
		発達心理学各論A	2		2		
		心理学特殊講義	2		2		
		対人社会心理学	2		2	※	※子ども教育学科は履修不可
		臨床心理学各論A	2		3		
		臨床心理学各論B	2		2		
		臨床心理学各論C	2		2		
		家族関係論	2		1		
		家族と社会	2		1		
		宗教社会学	2		2		
		死生学概論	2		1		
		生命倫理	2		2		
		女性教育論	2		2		
		教育相談（中・高）	2		3	※	※子ども教育学科は履修不可
		特別支援教育	2		3		
		教育工学	2		3		
		AI概論	2		2		
		AI演習	2		2		
	教養科目（子ども教育学科オープン科目）	キリスト教人間形成論	2		3		
		キリスト教保育	2		3		
		教育思想史	2		1		
		保育教育原理	2		1		
		保育者論	2		1		
		子ども家庭支援論	2		2		
		社会的養護Ⅰ	2		2		
		子ども家庭支援の心理学	2		3		
		子どもの心理と発達Ⅰ	2		2		
		幼児の理解と教育の方法	2		2		

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学部共通科目	教養科目（子ども教育学科オープン科目）	乳児保育Ⅰ	2		2		
		子ども家庭福祉	2		1		
		社会福祉	2		1		
		子どもソーシャルワーク	2		3	△	
		インクルーシブ教育	2		3		
		子どもと自然	2		2		
		世界の子ども教育	2		2		
		子どもと国際社会	2		2		
		Speaking English with Children	2		3		
		子どもの感性とアート	2		2		
		子どものアートとサイエンス	2		3		
		子どもと文化	2		2		
		アートプロジェクト論	2		2		
		あそびと創造のデザイン学	2		2		
		子どもとパフォーミングアーツ	2		2		
		子どもフィールドワークA	2		3	△※	※4年生は履修できない場合がある
		子どもフィールドワークB	2		3		
		子どもフィールドワークC	2		2	△※	
	共通資格科目	博物館概論	2		2	△	＊ 共通資格科目を修得した場合、自由選択科目として14単位まで加えることが可能（学部共通科目の選択科目10単位に加えることは不可）
		博物館資料論	2		2	△	
		博物館資料保存論	2		2	△	
		博物館教育論	2		2	△	
		博物館情報・メディア論	2		2	△	
		博物館経営論	2		2	△	
		博物館展示論	2		2		
		博物館実習Ⅰ	1		3	☆	
		博物館実習Ⅱ	2		3	☆	
		生涯学習概論	2		2		
		生活のなかの図書館	2		1		
		図書館情報技術論	2		2	☆	
		図書館制度・経営論	2		3	☆	
		生涯学習社会と図書館サービス	2		2		
		情報サービス論	2		3	☆	
		情報資源組織論	2		3	☆	
		情報資源組織演習Ⅰ	1		3	☆	
		情報資源組織演習Ⅱ	1		3	☆	
		子どもの読書支援	2		3		
		情報サービス演習Ⅰ	1		3	☆	
		情報サービス演習Ⅱ	1		3	☆	
		図書館の比較文化論	2		2		
		図書館情報資源概論	2		2		
		図書・図書館史	2		1		
		図書館情報資源特論	2		2		
		社会調査の基礎	2		1		
		社会調査法	2		1		
		データで読む社会	2		2		
		統計学	2		2		
		フィールド調査法	2		2		
		社会調査演習Ⅰ	2		3		
		社会調査演習Ⅱ	2		3		

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
☆ 各資格課程登録者に限る（詳細は、各資格課程の頁を参照）
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学部共通科目	共通資格科目	日本語教育法AⅠ	2		1		＊ 共通資格科目を修得した場合、自由選択科目として14単位まで加えることが可能（学部共通科目の選択科目10単位に加えることは不可）
		日本語教育法AⅡ	2		1		
		日本語教育法BⅠ	2		2		
		日本語教育法BⅡ	2		2		
		日本語教育法CⅠ	2		2		
		日本語教育法CⅡ	2		2		
		日本語教育法DⅠ	2		2	※1	※1 日本語教育法DⅠ/DⅡは、日本語教育法BⅠ/BⅡの少なくともどちらか一方を履修済み、または同時履修の場合のみ履修可
		日本語教育法DⅡ	2		2	※1	
		日本語教育法EⅠ	2		2		
		日本語教育法EⅡ	2		2		
		教職の理解	2		2	☆※2	
		教育課程論	2		2	☆※2	
		道徳教育の理論と実践	2		2	☆※2	
		特別活動と総合的な学習の時間	2		2	☆※2	
		教育の方法と技術	2		2	☆※2	
		生徒・進路指導の理論と方法	2		2	☆※2	
		ICT演習	2		2	☆※2	
		学校体験	1		2	☆※2	
		介護等体験	1		3	☆※2	
		教育実習Ⅰ	1		4	☆※2	
		教育実習Ⅱ	2		4	☆※2	
		教育実習Ⅲ	2		4	☆※2	※2 子ども教育学科は履修不可
		教職実践演習（中・高）	2		4	☆※2	
		教育社会学（中・高）	2		2	☆※2	
学科専門科目	ゼミナール	基礎ゼミナールⅠ	2	◎	2	×	
		基礎ゼミナールⅡ	2	◎	2	×	
		ゼミナールⅠ	2	◎	3	×	
		ゼミナールⅡ	2	◎	3	×	
		ゼミナールⅢ	2	◎	4	×	
		ゼミナールⅣ	2	◎	4	×	
	学科基礎科目	21世紀の国際社会をみる視点	2	◎	1	×	このページと次のページの▽から「異文化間コミュニケーション入門」を含む16単位を選択
		国際社会学	2	◎	1		
		人文地理学	2	▽	1		
		外国史概説	2		1		
		日本史概説	2		1		
		自然地理学	2		1		
		世界地誌	2		1		
	国際関係関連科目	国際関係史	2	▽	2		このページと次のページの▽から「異文化間コミュニケーション入門」を含む16単位を選択
		法学	2		1		
		国際関係入門	2		1		
		政治学	2		1		
		マクロ経済学	2		1		
		ミクロ経済学	2		1		
		ニュースを読む	2		2		
		国際協力論	2		2		
		国際関係論	2		2		
		国際機構論	2		2		
		国際経済論	2		2		
		国際法	2		2		
		地球規模問題	2		3		
		安全保障論	2		3		
		公共政策論	2		3		

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
☆ 各資格課程登録者に限る（詳細は、各資格課程の頁を参照）
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学科専門科目	異文化理解関連科目	多様性の社会思想	2	▽	1		このページと前のページの▽から「異文化間コミュニケーション入門」を含む16単位を選択
		多文化社会論	2	▽	2		
		宗教と国際社会	2	▽	2		
		異文化間コミュニケーション入門	2	▽	1		
		文化人類学	2	▽	1		
		比較文化論	2	▽	2		
		グローバル時代のコミュニケーション	2	▽	2		
		グローバリゼーションと文化	2	▽	2		
		観光と社会	2		2		
	外国語コミュニケーション関連科目	英語で紹介する日本A	2	▽	1		このページと前のページの▽から「異文化間コミュニケーション入門」を含む16単位を選択
		英語学概論A	2		2		
		英語学概論B	2		2		
		英語文学入門A	2		1		
		英語文学入門B	2		1		
		英語児童文学	2		1		
		英語で紹介する日本B	2		1		
		第二言語習得概論Ⅰ	2		2		
		第二言語習得概論Ⅱ	2		2		
		通訳トレーニング	2		3		
		翻訳トレーニング	2		3		
		English for Study Abroad A	2		1		
		English for Study Abroad B	2		1		
		English as an International Language	2		2		
		English for Integrated Learning Ⅰ	2		2		
		English for Integrated Learning Ⅱ	2		2		
		Education around the World	2		2		
		English for Intercultural Understanding	2		2		※2年次後期および3年次留学希望者のみ履修可
		留学準備講座	2		2	※	
	エリアスタディーズ科目	日本文化入門A	2	▽	1		このページと前のページの▽から「異文化間コミュニケーション入門」を含む16単位を選択
		ホスピタリティ論	2	▽	2		
		北米入門	2		1		
		現代の北米	2		2		
		ヨーロッパ・EU入門	2		1		
		現代のヨーロッパ・EU	2		2		
		北東アジア入門	2		1		
		東南アジア入門	2		1		
		現代のアジア	2		2		
		オセアニア入門	2		1		
		現代のオセアニア	2		2		
		グローバルサウス論	2		2		
		日本文化入門B	2		1		
		ポップカルチャー論	2		2		
		韓国の社会と文化	2		2		
	学科教職科目	社会科・公民科教育法Ⅰ	2		3	☆	
		社会科・公民科教育法Ⅱ	2		3	☆	
		社会科・地歴科教育法Ⅰ	2		3	☆	
		社会科・地歴科教育法Ⅱ	2		3	☆	
		英語科教育法Ⅰ	2		3	☆	
		英語科教育法Ⅱ	2		3	☆	
		英語科教育法Ⅲ	2		3	☆	
		英語科教育法Ⅳ	2		3	☆	

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
☆ 各資格課程登録者に限る（詳細は、各資格課程の頁を参照）
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

7．取得できる資格

（１）中学校・高等学校教諭一種免許課程

国際学科の学生は、一定の条件を満たせば、中学校・高等学校教諭一種免許課程に登録することができ、免許取得のための履修・実習ができます。

国際学科の学生は中学校教諭一種（社会、英語）、高等学校教諭一種（地歴、公民、英語）の免許が取得できます。詳しくは、資格課程「中学校・高等学校教諭一種免許課程」のページを参照してください。

（２）学芸員資格

国際学科の学生は、課程登録し、必要な単位を修得することにより、博物館学芸員の資格を取得できます。詳しくは、資格課程「学芸員資格課程」のページを参照してください。

（３）司書資格

国際学科の学生は、課程登録し、必要な単位を修得することにより、司書資格を取得できます。詳しくは、資格課程「司書資格課程」のページを参照してください。

（４）社会調査士資格

国際学科の学生は、社会調査士資格に必要な単位を修得し、認定のための諸手続きをとることにより、社会調査士資格を得ることができます。詳しくは、資格課程「社会調査士資格」のページを参照してください。

（５）認定心理士資格

国際学科の学生は、認定心理士資格に必要な単位を修得し、認定のための諸手続きをとることにより、認定心理士資格を得ることができます。詳しくは、資格課程「認定心理士資格」のページを参照してください。

（６）准学校心理士資格

国際学科で中学校・高等学校教諭一種免許取得を目指す学生は、上記（１）の中学校・高等学校教諭一種免許を取得し、教職課程に関する単位のうち、準学校心理士資格に必要な単位を修得し認定のための諸手続きをとることにより、準学校心理士資格を得ることができます。詳しくは、資格課程「准学校心理士資格」のページを参照してください。

（７）社会福祉主事任用資格

国際学科の学生は、必要な単位を修得することにより、卒業時に社会福祉主事任用資格を得ることができます。詳しくは、資格課程「社会福祉主事任用資格」のページを参照してください。

その他

日本語教育基礎課程

国際学科の学生は、課程登録し、必要な単位を修得することにより、日本語教育の基礎を学んだことを示す「課程修了証明書」を取得できます。詳しくは、資格課程「日本語教育基礎課程」のページを参照してください。

時間割の作り方（国際学科１年生へアドバイス）

《Step１》e-pass で履修登録を行う前に、オリエンテーション時に配布された資料の中の「e-pass 履修登録用学生時間割計画表」に自分の時間割を作成しましょう。まず、大学側が履修登録をする科目（下記）を指定された曜日・時間に入れます。

□「Freshman English ＡⅠ・Ⅱ、ＢⅠ・Ⅱ」（各１単位 計４単位）
□「基礎情報科学Ⅰ・Ⅱ」（各２単位計４単位）
□「フレッシュマン・セミナーⅠ・Ⅱ」（各１単位 計２単位）

これらの科目は、e-pass でクラス分けが確認できますので、指定されたクラスの曜日・時限を書き入れましょう。

《Step２》次に、学部共通科目の必修科目を入れます。

□「キリスト教概論」（前期科目）（２単位）
□「ライフデザイン」（後期科目）（２単位）

これらの科目は、クラスを指定されていることがありますので、「別冊履修の手引き」を確認しましょう。

《Step３》さらに、学科専門科目の必修科目を入れます。

□「21世紀の国際社会をみる視点」（前期科目）（２単位）
□「国際社会学」（後期科目）（２単位）

★ここまでが、全員共通の登録科目となります。前期後期合わせて、計18単位が決まりました。

☆ここからは、それぞれの希望や今後の進路にあわせて科目を登録してください。

《Step４》学部共通科目の選択必修科目（８単位）の中から１年生が履修できる科目の履修を考えます。
→「第２外国語（ベーシック）」を履修する場合、Ⅰ・Ⅱを同一年度に履修してください。

《Step５》学科専門科目の選択必修科目（16単位）の中から１年生が履修できる科目の履修を考えます。
→国際コミュニケーションコースを卒業するためには「英語で紹介する日本Ａ」を必ず修得する必要があります。
多文化社会コースを卒業するためには「異文化間コミュニケーション入門」を必ず修得する必要があります。
国際協力コースを卒業するためには「国際関係入門」を必ず修得する必要があります。

《Step６》学部共通科目（共通資格科目を除く）の選択科目（10単位）、学科専門科目の選択科目（26単位）の履修を考えます。
→特に学部共通科目の選択科目10単位分はできるだけ１年生での修得をおすすめします。

《Step７》資格取得を希望する人は、資格科目を選択します。

最終チェック！
・前期24単位、後期24単位、計48単位以内になりましたか。
・共通資格科目と「履修登録上限単位数を超えて登録できる科目」は、各学期24単位（年間48単位）を超えても履修できます。
・後期科目については、大学が履修登録した科目以外は、後期履修登録修正期間に登録しなおすことができますが、原則として前期後期全ての科目を前期履修登録期間に登録してください。

これで、１年生の時間割は完成です！
e-pass で履修登録をしましょう。

国際学科 多文化社会コース履修モデル

履修モデルとは、卒業までにどのような知識やスキルを持った人材になるかを明確にし、その目標達成に向けて、履修すべき科目を具体的に例示したものです。この履修モデルどおりでなければならない、ということではありません。皆さんはこの履修モデルを参考に、自らの目標や目的に向けて、卒業要件と照らし合わせながら、履修計画を設計してください。

以下の履修モデルは、国内外の多文化社会の背景や課題を理解し、異なる価値観や習慣をもつ人々との共生のための知識を身につけようとする学生を想定したものです。多文化社会の背景や課題を理解するための科目を中心に履修します。想定される進路は、公務員、観光・旅行業、教育業等です。

卒業要件単位	科目区分	1年次		2年次		3年次・4年次		計
		科目名称	単位数	科目名称	単位数	科目名称	単位数	
学部共通科目（36単位以上）	キリスト教基礎科目	**◎キリスト教概論**	2	旧約聖書	2			
	フレッシュマン・セミナー	**◎フレッシュマン・セミナーⅠ**	1					
		◎フレッシュマン・セミナーⅡ	1					
	ライフデザイン・ウェルネス科目	**◎ライフデザイン**	2					
	情報メディア科目	**◎基礎情報科学Ⅰ**	2					
		◎基礎情報科学Ⅱ	2					
	コミュニケーションスキルズ科目	**◎Freshman English AⅠ**	1	**◎Sophomore English AⅠ**	1	English for Tourism	(2)	
		◎Freshman English AⅡ	1	**◎Sophomore English AⅡ**	1	English for Business	(2)	
		◎Freshman English BⅠ	1	**◎Sophomore English BⅠ**	1	English for Journalism	(2)	
		◎Freshman English BⅡ	1	**◎Sophomore English BⅡ**	1	Airline English	(2)	
		スペイン語（ベーシック）Ⅰ	2	スペイン語（アドバンス）	2			
		スペイン語（ベーシック）Ⅱ	2					
		English in Pop Culture	2					
	共通教養科目	教養のための歴史	2			倫理と人権	(2)	
		教養のための芸術A	2					
	アクティブ・ラーニング科目			プロジェクト学習A	(2)	フィールドワークB	(2)	
						海外研修A	(2)	
	教養科目（他学科オープン科目）	社会学概論Ⅰ	2	家族関係論	2	子ども家庭福祉	(2)	
	小計		26		10		0	36
学科専門科目（58単位以上）	ゼミナール			**◎基礎ゼミナールⅠ**	2	**◎ゼミナールⅠ**	2	
				◎基礎ゼミナールⅡ	2	**◎ゼミナールⅡ**	2	
						◎ゼミナールⅢ	2	
						◎ゼミナールⅣ	2	
	学科基礎科目	**◎21世紀の国際社会をみる視点**	2	外国史概説	2			
		◎国際社会学	2	世界地誌	2			
		人文地理学	2					
	国際関係関連科目			国際関係史	2	地球規模問題	2	
				ニュースを読む	2	公共政策論	2	
	異文化理解関連科目	多様性の社会思想	2	多文化社会論	2	宗教と国際社会	(2)	
		▽異文化間コミュニケーション入門	2	文化人類学	2	観光と社会	(2)	
				比較文化論	2			
				グローバル時代のコミュニケーション	2			
				グローバリゼーションと文化	2			
	外国語コミュニケーション関連科目	English for Study Abroad B	2	英語で紹介する日本A	2	English as an International Language	(2)	
				英語で紹介する日本B	2			
	エリアスタディーズ科目	日本文化入門A	2	ホスピタリティ論	2	ポップカルチャー論	(2)	
		東南アジア入門	2	現代のアジア	2			
	学科教職科目							
	小計		16		30		12	58
自由選択科目（30単位以上）	すべて＊他学科目・共通資格科目を含む	日本語教育法AⅠ	2	学部共通科目余剰分(カッコの単位数)	2	学部共通科目余剰分(カッコの単位数)	16	
		日本語教育法AⅡ	2			学科専門科目余剰分(カッコの単位数)	8	
	小計		4		2		24	30
124単位以上	計		46		42		36	124

【注意事項】

・学部共通科目、学科専門科目の必修科目・選択必修科目・選択科目の必要単位数を超過した分（単位数カッコ表記）が自由選択科目としてカウントされます。
なお、必修科目◎（および選択必修科目のうち必ず修得すべき科目▽）は**太字**で表記しています。

・時間割は毎年変動するため、時間割の重複等により、この表のとおりに履修できないこともあります。

国際協力コース

国際協力コースの特長

○国際社会の仕組みを学び、自分たちができる国際協力を考える

災害や戦争で困っている人々を支援する活動、貧しい地域の生活を改善する取り組み、自然環境を守るための行動など、国際協力にはさまざまな形があります。こうした取り組みを成功させるためには、問題の背景や原因を正しく理解し、世界の動きや仕組みを知ることが重要です。このコースでは、国際関係や国際社会の仕組みを学び、自分たちにもできる国際協力の方法を考え、行動に移す力を育てます。

1．国際協力コース 卒業に必要な単位（卒業要件単位）

国際学科国際協力コースは、学部共通科目36単位、学科専門科目58単位、自由選択科目30単位、合計124単位が卒業に必要な単位です。

	単位	内訳	備　　考
学部共通科目	36	必修　18 選択必修　8 選択　10	※選択科目は共通資格科目を除いて10単位必要
学科専門科目	58	必修　16 選択必修　16 選択　26	
自由選択科目	30	・　学部共通科目、学科専門科目（他学科を含む）、単位互換科目、その他認定科目から選択。 ・　共通資格科目からは14単位まで算入することができます。 ・　各種技能検定試験に合格し認定された単位を４単位まで自由選択科目の単位に算入することができます。	
計	124		

※卒業に必要な単位は合計で124単位以上です。そのうち、オンデマンド科目の単位は60単位まで算入できると定められています。なお、合計単位数が124単位を超えていても、必修科目や上記の区分毎の合計単位数が不足している場合は卒業できません。

※同一名称科目の単位を複数回修得した場合は、そのうち１回分の単位のみが卒業に必要な単位（124単位）に含まれます。

2．学部共通科目

国際学科国際協力コースは、以下に記載してある必修科目18単位、選択必修８単位、選択10単位、合計36単位を修得してください。

（１）必修科目

下記の18単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「キリスト教概論」	２単位	１年次以上
「フレッシュマン・セミナーⅠ・Ⅱ」	各１単位、合計２単位	１年次以上
「ライフデザイン」	２単位	１年次以上
「基礎情報科学Ⅰ・Ⅱ」	各２単位、合計４単位	１年次以上
「Freshman English ＡⅠ・ＡⅡ・ＢⅠ・ＢⅡ」	各１単位、合計４単位	１年次以上
「Sophomore English ＡⅠ・ＡⅡ・ＢⅠ・ＢⅡ」	各１単位、合計４単位	２年次以上

（２）選択必修科目

下記の５科目から２単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「キリスト教文化史」「旧約聖書」「新約聖書」「東洋英和の歴史」 「プロジェクト学習Ｃ」	各２単位	２年次以上

※２単位を超えて単位を修得した場合、超えた単位は学部共通科目の選択科目10単位に加えることができます。
例えば、「キリスト教文化史」と「新約聖書」と「東洋英和の歴史」を修得した場合、「キリスト教文化史」２単位分は選択必修科目、「新約聖書」と「東洋英和の歴史」計４単位分は選択科目として認定されます。

下記の36科目（コミュニケーションスキルズ科目（「Freshman English」「Sophomore English」「日本語」を除く））から６単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「海外英語実習」「English in Pop Culture」「English through Music」」 「フランス語（ベーシック）Ⅰ・Ⅱ」「フランス語（アドバンス）」 「ドイツ語（ベーシック）Ⅰ・Ⅱ」「ドイツ語（アドバンス）」 「スペイン語（ベーシック）Ⅰ・Ⅱ」「スペイン語（アドバンス）」 「中国語（ベーシック）Ⅰ・Ⅱ」「中国語（アドバンス）」 「韓国語（ベーシック）Ⅰ・Ⅱ」「韓国語（アドバンス）」 「手話（ベーシック）Ⅰ・Ⅱ」「手話（アドバンス）」	各２単位	１年次以上
「TOEIC 対策講座」	１単位	２年次以上
「コミュニケーション英文法」 「English for Communication and Discussion」 「English for World Affairs」「English for Tourism」 「English for Business」「English for Journalism」「Airline English」 「Psychology in Romance Movies」「Culture and History through Movies」 「Exploring Novels through Movies」 「コミュニケーションのための韓国語」「ポップカルチャーから学ぶ韓国語」 「留学のための韓国語」	各２単位	２年次以上
「Presenting in English」	２単位	３年次以上

※６単位を超えて単位を修得した場合、超えた単位は学部共通科目の選択科目10単位に加えることができます。

（３）選択科目

上記（１）と（２）の単位を満たすために使用した科目以外の学部共通科目（共通資格科目を除く）から必要単位数（10単位）を修得してください。

（４）その他の学部共通科目

上記（１）～（３）の必要単位を超えて学部共通科目を修得した場合、その単位は「自由選択科目」に加えられます。

3．学科専門科目

（１）必修科目

下記の16単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「21世紀の国際社会をみる視点」「国際社会学」	各２単位、合計４単位	１年次以上
「基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」	各２単位、合計４単位	２年次以上
「ゼミナールⅠ・Ⅱ」	各２単位、合計４単位	３年次以上
「ゼミナールⅢ・Ⅳ」	各２単位、合計４単位	４年次以上

留学をする学生は、下表のとおりにゼミナールを履修してください。**留学期間が３年次以降におよぶ場合（すなわち２年次後期のみの留学以外）は、必ず留学前にゼミ担当教員に相談し、具体的な授業の受け方について指示を受けてください。**

【２年後期に留学した場合】

	前期	後期
２年	「基礎ゼミナールⅠ」	【留学中】 留学先で修得した単位を帰国後「基礎ゼミナールⅡ」に振替えます
３年	「ゼミナールⅠ」	「ゼミナールⅡ」
４年	「ゼミナールⅢ」	「ゼミナールⅣ」

【２年後期から３年前期にかけて留学した場合】

	前期	後期
２年	「基礎ゼミナールⅠ」	【留学中】 留学先で修得した単位を帰国後「基礎ゼミナールⅡ」に振替えます
３年	【留学中】	「ゼミナールⅡ」
４年	「ゼミナールⅠ」と「ゼミナールⅢ」を同時履修	「ゼミナールⅣ」

【３年前期に留学した場合】

	前期	後期
２年	「基礎ゼミナールⅠ」	「基礎ゼミナールⅡ」
３年	【留学中】	「ゼミナールⅡ」
４年	「ゼミナールⅠ」と「ゼミナールⅢ」を同時履修	「ゼミナールⅣ」

【３年前期から３年後期にかけて留学した場合】

	前期	後期
２年	「基礎ゼミナールⅠ」	「基礎ゼミナールⅡ」
３年	【留学中】	【留学中】
４年	「ゼミナールⅠ」と「ゼミナールⅢ」を同時履修	「ゼミナールⅡ」と「ゼミナールⅣ」を同時履修

【３年後期に留学した場合】

	前期	後期
２年	「基礎ゼミナールⅠ」	「基礎ゼミナールⅡ」
３年	「ゼミナールⅠ」	【留学中】
４年	「ゼミナールⅢ」	「ゼミナールⅡ」と「ゼミナールⅣ」を同時履修

【３年後期から４年前期にかけて留学した場合】

	前期	後期
２年	「基礎ゼミナールⅠ」	「基礎ゼミナールⅡ」
３年	「ゼミナールⅠ」	【留学中】
４年	【留学中】	「ゼミナールⅡ」、「ゼミナールⅢ」、「ゼミナールⅣ」を同時履修

【４年前期に留学した場合】

	前期	後期
２年	「基礎ゼミナールⅠ」	「基礎ゼミナールⅡ」
３年	「ゼミナールⅠ」	「ゼミナールⅡ」
４年	【留学中】	「ゼミナールⅢ」と「ゼミナールⅣ」を同時履修

【４年後期に留学した場合】

	前期	後期
２年	「基礎ゼミナールⅠ」	「基礎ゼミナールⅡ」
３年	「ゼミナールⅠ」	「ゼミナールⅡ」
４年	「ゼミナールⅢ」と「ゼミナールⅣ」を同時履修	【留学中】

（２）選択必修科目

下記の15科目から「国際関係入門」を含む16単位を修得してください。

科目名	単位数	履修年次
「国際関係入門」	２単位	１年次以上
「世界地誌」「政治学」「マクロ経済学」「ミクロ経済学」	各２単位	１年次以上
「ニュースを読む」「国際協力論」「国際関係史」「国際関係論」「国際機構論」「国際経済論」「国際法」「宗教と国際社会」	各２単位	２年次以上
「地球規模問題」「公共政策論」	各２単位	３年次以上

※16単位を超えて単位を修得した場合、超えた単位は学科専門科目の選択科目26単位に加えることができます。

（３）選択科目

卒業のためには、**学科専門科目から合計で26単位を修得する必要があります（必修科目および選択必修科目として算入したものを除く）。**

科目表「世界地誌」から「英語科教育法Ⅳ」までの科目の中から26単位を修得してください。ただし、選択必修科目として修得した科目（16単位）を加えることはできません。

26単位を超えて単位を修得した場合は、超えた単位は自由選択科目30単位に加えることができます。

４．自由選択科目

国際協力コースでは、自由選択科目（30単位）を取得する必要があります。自由選択科目として認定されるのは下記の科目です。

① 学部共通科目の選択必修科目８単位を超えて修得した単位
② 学部共通科目の選択科目10単位を超えて修得した単位
③ 学科専門科目の選択必修科目16単位を超えて修得した単位
④ 学科専門科目の選択科目26単位を超えて修得した単位
⑤ 共通資格科目（上限14単位）
⑥ 検定チャレンジによる単位認定（上限４単位）
⑦ 海外留学による単位認定
⑧ 単位互換科目
⑨ その他の認定科目

５．海外留学認定科目

本学の留学プログラム（協定校・推薦校・認定校・語学留学）で留学した場合、留学先で履修した科目は帰国後所定の手続きと審査を経て、合計30単位を上限に本学の単位として認定されます。認定の方法には次の２つがあります。

１．本学の科目に振替える（原則として、留学先の科目と本学の科目が内容的にほぼ一致している必要があります）
２．「海外留学認定科目」という名称で自由選択科目として認定

6．検定チャレンジ

国際学科では、皆さんの学習意欲とチャレンジ精神を応援するため、漢字検定やTOEICなどの検定試験において一定の級やスコアを獲得した場合に単位を与えます。

（1）単位が認定される検定

該当する検定試験と与えられる単位数は以下の通りです。

（英語）

認定単位数	1	2	3	4
英検	2級	2級A	準1級	1級
TOEIC（TOEIC IP含む★）	550	670	785	945
TOEFL iBT	45	61	80	100
TOEFL ITP	450	500	550	600
IELTS	5	6	6．5	7

＊それぞれの言語を母語とする学生は単位認定の対象外。

★2年生全員がSophomore Englishで受験するTOEIC IP（12月予定／語学留学している場合は帰国後）は、単位認定の対象外。

（第2外国語）

認定単位数	1	2	3	4
ハングル能力検定	準2級	2級	1級	－
韓国語能力検定	3級	4級	5級	6級
中国語検定（HSK）	3級	4級	5級	6級
中国語検定試験（日本中国語検定協会）	4級	3級	2級	準1級
ドイツ語技能検定試験（独検）	4級	3級	2級	準1級
ドイツ語検定試験（ゲーテ･インスティトゥート）	A2	B1	B2	C1
実用フランス語技能検定試験（仏検）	準2級	2級	準1級	1級
スペイン語技能検定（西検）	4級	3級	2級	1級
スペイン語検定試験（DELE）	A2	B1	B2	C1
実用イタリア語検定	3級	準2級	2級	1級
PLIDAイタリア語検定	A2	B1	B2	C1
実用タイ語検定試験	4級	3級	準2級	2級

＊それぞれの言語を母語とする学生は単位認定の対象外。

（日本語）

認定単位数	1	2	3	4
漢字能力検定	2級	準1級	－	1級
日本語検定	2級	1級	－	－
文章読解・作成能力検定	2級	＊	＊	＊
語彙・読解力検定	2級	準1級	1級	－

＊文章読解・作成能力検定の準1級以上はまだ実施されていない。（2020年4月現在）

（その他）

認定単位数	1	2	3	4
ニュース時事能力検定	準2級	2級	1級	－
日本語教育能力検定試験	－	－	合格	－
日本商工会議所主催簿記検定	3級	2級	1級	－
実用数学技能検定	準1級	1級	－	－

（２）単位認定の方法

「英語」「第２外国語」「日本語」「その他」の**４分野ごと**に、取得した級・スコアのうち、**最も高いレベルのものを認定します（各分野でそれぞれ１つ。合計４つの検定まで可能）**。例えば、２年次に TOEIC で550点、４年次に785点を取得した場合、785点に該当する単位（３単位）のみを認定します（単位は積み上げません）。また、TOEIC と英検の両方を受検したような場合も、どちらか一方のみが認定されます。

申請手続きは学生各自が証明書をもって学生支援課で行います。申請期間は年に１回（７月予定）です。詳しい日程は e-pass でお知らせします。さらに高い級やスコアを取得した場合は、再度申請手続きを行い、以前に認定された単位を更新します。合計で４単位までを卒業に必要な単位に含めることができます。

認定される単位は各学期の履修上限単位数に含めません。また、試験日が入学前年の10月１日以降のもの、および入学後に取得した検定を認定の対象とします。

①申請書類

１．検定チャレンジ科目　単位認定申請書

２．合格証書等（正本）　※コピー後返却します。

②申請期間

７月（予定）

変更の可能性もありますので、詳しい日程は e-pass でお知らせします。

③提出先

学生支援課

④注意事項

１．合格証明書等を申請期間に用意できない場合、申込みできません。申請は次年度に見送ってください。

２．認定された単位が成績証明書等に反映されるのは、９月中旬頃です。

３．４年生のうち、本制度での認定単位数を見込んで卒業見込を得ようとする学生は、就職活動等で必要な卒業見込証明書を９月中旬ごろまで受け取れませんので注意してください。

◎国際学科 国際協力コース

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学部共通科目	キリスト教基礎科目	キリスト教概論	2	◎	1		このうちまたは「プロジェクト学習C」から2単位を選択
		キリスト教文化史	2	▽	2		
		旧約聖書	2	▽	2		
		新約聖書	2	▽	2		
		東洋英和の歴史	2	▽	2		
	フレッシュマン・セミナー	フレッシュマン・セミナーⅠ	1	◎	1		
		フレッシュマン・セミナーⅡ	1	◎	1		
	ライフデザイン・ウェルネス科目	ライフデザイン	2	◎	1		
		ジェンダースタディーズA	2		2		
		ジェンダースタディーズB	2		2		
		ジェンダースタディーズC	2		2		
		ビジネスと社会A	2		2		
		ビジネスと社会B	2		2		
		ビジネスと社会C	2		2		
		キャリアデザイン	2		2		
		健康科学（講義・実技）	2		1		
		スポーツ科学A	1		1		
		スポーツ科学B	1		1		
		スポーツ科学C	1		1		
	情報メディア科目	基礎情報科学Ⅰ	2	◎	1		
		基礎情報科学Ⅱ	2	◎	1		
		メディア演習A	2		2		
		メディア演習B	2		2		
		メディア演習C	2		2		
	コミュニケーションスキルズ科目	Freshman English AⅠ	1	◎	1		このうちから6単位を選択 （次ページに続く） ベーシックについては原則Ⅰ・Ⅱを同一年度に履修すること
		Freshman English AⅡ	1	◎	1		
		Freshman English BⅠ	1	◎	1		
		Freshman English BⅡ	1	◎	1		
		Sophomore English AⅠ	1	◎	2		
		Sophomore English AⅡ	1	◎	2		
		Sophomore English BⅠ	1	◎	2		
		Sophomore English BⅡ	1	◎	2		
		フランス語（ベーシック）Ⅰ	2	▽	1		
		フランス語（ベーシック）Ⅱ	2	▽	1		
		フランス語（アドバンス）	2	▽	1		
		ドイツ語（ベーシック）Ⅰ	2	▽	1		
		ドイツ語（ベーシック）Ⅱ	2	▽	1		
		ドイツ語（アドバンス）	2	▽	1		
		スペイン語（ベーシック）Ⅰ	2	▽	1		
		スペイン語（ベーシック）Ⅱ	2	▽	1		
		スペイン語（アドバンス）	2	▽	1		
		中国語（ベーシック）Ⅰ	2	▽	1		
		中国語（ベーシック）Ⅱ	2	▽	1		
		中国語（アドバンス）	2	▽	1		
		韓国語（ベーシック）Ⅰ	2	▽	1		
		韓国語（ベーシック）Ⅱ	2	▽	1		
		韓国語（アドバンス）	2	▽	1		
		手話（ベーシック）Ⅰ	2	▽	1		
		手話（ベーシック）Ⅱ	2	▽	1		
		手話（アドバンス）	2	▽	1		

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学部共通科目	コミュニケーションスキルズ科目	TOEIC対策講座	1	▽	2		
		海外英語実習	2	▽	1	△※1	※1 4年生は履修できない場合がある
		コミュニケーション英文法	2	▽	2		
		English for Communication and Discussion	2	▽	2		
		Presenting in English	2	▽	3		
		English for World Affairs	2	▽	2		
		English for Tourism	2	▽	2		
		English for Business	2	▽	2		（前ページからの続き） このうちから 6単位を選択
		English for Journalism	2	▽	2		
		Airline English	2	▽	2		
		Psychology in Romance Movies	2	▽	2		
		Culture and History through Movies	2	▽	2		
		Exploring Novels through Movies	2	▽	2		
		English in Pop Culture	2	▽	1		
		English through Music	2	▽	1		
		コミュニケーションのための韓国語	2	▽	2		
		ポップカルチャーから学ぶ韓国語	2	▽	2		
		留学のための韓国語	2	▽	2		
		日本語AⅠ	1		1	※2	
		日本語AⅡ	1		1	※2	※2 留学生および それに準ずると 大学が認めた者 のみ履修可
		日本語BⅠ	1		1	※2	
		日本語BⅡ	1		1	※2	
		日本語CⅠ	1		1	※2	
		日本語CⅡ	1		1	※2	
	共通教養科目	日本国憲法	2		1		
		哲学概論	2		2		
		倫理と人権	2		1		
		健康心理学	2		2		
		教養のための歴史	2		1		
		生命と人間の歴史	2		2		
		教養のための自然科学	2		1		
		教養のための芸術A	2		1		
		教養のための芸術B	2		1		
	アクティブ・ラーニング科目	フィールドワークA	2		2	△	
		フィールドワークB	2		2	△	
		フィールドワークC	2		2	△	
		プロジェクト学習A	2		2	△	
		プロジェクト学習B	2		2	△	
		プロジェクト学習C	2	▽	2	△	「プロジェクト学習C」またはキリスト教基礎科目（「キリスト教概論」を除く）から2単位を選択
		プロジェクト学習D	2		2	△	
		プロジェクト学習E	2		2	△	
		プロジェクト学習F	2		2	△	
		海外研修A	2		2	△※1	※1 4年生は履修できない場合がある
		海外研修B	2		2	△※1	
		歴史文化研修A	2		2	△	
		歴史文化研修B	2		2	△	
		インターンシップ	2		2	△	

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学部共通科目	教養科目（総合心理学科オープン科目）	心理学概論Ⅰ	2		1		
		心理学概論Ⅱ	2		1		
		社会学概論Ⅰ	2		1		
		社会学概論Ⅱ	2		1		
		宗教学概論Ⅰ	2		1		
		宗教学概論Ⅱ	2		1		
		教育学概論Ⅰ	2		1		
		教育学概論Ⅱ	2		1		
		科学概論	2		1		
		臨床心理学概論	2		1		
		発達心理学	2		1		
		教育心理学	2		2		
		青年心理学	2		2		
		メディア心理学	2		2		
		恋愛心理学	2		3		
		児童発達心理学	2		2		
		感情・人格心理学	2		2		
		神経・生理心理学	2		2		
		障害者・障害児心理学	2		2		
		学習・言語心理学	2		2		
		知覚・認知心理学	2		1		
		社会・集団・家族心理学	2		2		
		色彩・造形心理学	2		2		
		親子の臨床心理学	2		2	※	※子ども教育学科は履修不可
		発達心理学各論A	2		2		
		心理学特殊講義	2		2		
		対人社会心理学	2		2	※	※子ども教育学科は履修不可
		臨床心理学各論A	2		3		
		臨床心理学各論B	2		2		
		臨床心理学各論C	2		2		
		家族関係論	2		1		
		家族と社会	2		1		
		宗教社会学	2		2		
		死生学概論	2		1		
		生命倫理	2		2		
		女性教育論	2		2		
		教育相談（中・高）	2		3	※	※子ども教育学科は履修不可
		特別支援教育	2		3		
		教育工学	2		3		
		AI概論	2		2		
		AI演習	2		2		
	教養科目（子ども教育学科オープン科目）	キリスト教人間形成論	2		3		
		キリスト教保育	2		3		
		教育思想史	2		1		
		保育教育原理	2		1		
		保育者論	2		1		
		子ども家庭支援論	2		2		
		社会的養護Ⅰ	2		2		
		子ども家庭支援の心理学	2		3		
		子どもの心理と発達Ⅰ	2		2		
		幼児の理解と教育の方法	2		2		

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学部共通科目	教養科目（子ども教育学科オープン科目）	乳児保育Ⅰ	2		2		
		子ども家庭福祉	2		1		
		社会福祉	2		1		
		子どもソーシャルワーク	2		3	△	
		インクルーシブ教育	2		3		
		子どもと自然	2		2		
		世界の子ども教育	2		2		
		子どもと国際社会	2		2		
		Speaking English with Children	2		3		
		子どもの感性とアート	2		2		
		子どものアートとサイエンス	2		3		
		子どもと文化	2		2		
		アートプロジェクト論	2		2		
		あそびと創造のデザイン学	2		2		
		子どもとパフォーミングアーツ	2		2		
		子どもフィールドワークA	2		3	△※	※4年生は履修できない場合がある
		子どもフィールドワークB	2		3		
		子どもフィールドワークC	2		2	△※	
	共通資格科目	博物館概論	2		2	△	＊ 共通資格科目を修得した場合、自由選択科目として14単位まで加えることが可能（学部共通科目の選択科目10単位に加えることは不可）
		博物館資料論	2		2	△	
		博物館資料保存論	2		2	△	
		博物館教育論	2		2	△	
		博物館情報・メディア論	2		2	△	
		博物館経営論	2		2	△	
		博物館展示論	2		2		
		博物館実習Ⅰ	1		3	☆	
		博物館実習Ⅱ	2		3	☆	
		生涯学習概論	2		2		
		生活のなかの図書館	2		1		
		図書館情報技術論	2		2	☆	
		図書館制度・経営論	2		3	☆	
		生涯学習社会と図書館サービス	2		2		
		情報サービス論	2		3	☆	
		情報資源組織論	2		3	☆	
		情報資源組織演習Ⅰ	1		3	☆	
		情報資源組織演習Ⅱ	1		3	☆	
		子どもの読書支援	2		3		
		情報サービス演習Ⅰ	1		3	☆	
		情報サービス演習Ⅱ	1		3	☆	
		図書館の比較文化論	2		2		
		図書館情報資源概論	2		2		
		図書・図書館史	2		1		
		図書館情報資源特論	2		2		
		社会調査の基礎	2		1		
		社会調査法	2		1		
		データで読む社会	2		2		
		統計学	2		2		
		フィールド調査法	2		2		
		社会調査演習Ⅰ	2		3		
		社会調査演習Ⅱ	2		3		

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
☆ 各資格課程登録者に限る（詳細は、各資格課程の頁を参照）
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学部共通科目	共通資格科目	日本語教育法AⅠ	2		1		＊ 共通資格科目を修得した場合、自由選択科目として14単位まで加えることが可能（学部共通科目の選択科目10単位に加えることは不可）
		日本語教育法AⅡ	2		1		
		日本語教育法BⅠ	2		2		
		日本語教育法BⅡ	2		2		
		日本語教育法CⅠ	2		2		
		日本語教育法CⅡ	2		2		
		日本語教育法DⅠ	2		2	※1	
		日本語教育法DⅡ	2		2	※1	※1 日本語教育法DⅠ/DⅡは、日本語教育法BⅠ/BⅡの少なくともどちらか一方を履修済み、または同時履修の場合のみ履修可
		日本語教育法EⅠ	2		2		
		日本語教育法EⅡ	2		2		
		教職の理解	2		2	☆※2	
		教育課程論	2		2	☆※2	
		道徳教育の理論と実践	2		2	☆※2	
		特別活動と総合的な学習の時間	2		2	☆※2	
		教育の方法と技術	2		2	☆※2	
		生徒・進路指導の理論と方法	2		2	☆※2	
		ICT演習	2		2	☆※2	
		学校体験	1		2	☆※2	
		介護等体験	1		3	☆※2	
		教育実習Ⅰ	1		4	☆※2	
		教育実習Ⅱ	2		4	☆※2	
		教育実習Ⅲ	2		4	☆※2	※2 子ども教育学科は履修不可
		教職実践演習（中・高）	2		4	☆※2	
		教育社会学（中・高）	2		2	☆※2	
学科専門科目	ゼミナール	基礎ゼミナールⅠ	2	◎	2	×	
		基礎ゼミナールⅡ	2	◎	2	×	
		ゼミナールⅠ	2	◎	3	×	
		ゼミナールⅡ	2	◎	3	×	
		ゼミナールⅢ	2	◎	4	×	
		ゼミナールⅣ	2	◎	4	×	
	学科基礎科目	21世紀の国際社会をみる視点	2	◎	1	×	
		国際社会学	2	◎	1		
		世界地誌	2	▽	1		このページと次のページの▽から「国際関係入門」を含む16単位を選択
		外国史概説	2		1		
		日本史概説	2		1		
		人文地理学	2		1		
		自然地理学	2		1		
	国際関係関連科目	国際関係入門	2	▽	1		このページと次のページの▽から「国際関係入門」を含む16単位を選択
		政治学	2	▽	1		
		マクロ経済学	2	▽	1		
		ミクロ経済学	2	▽	1		
		ニュースを読む	2	▽	2		
		国際協力論	2	▽	2		
		国際関係史	2	▽	2		
		国際関係論	2	▽	2		
		国際機構論	2	▽	2		
		国際経済論	2	▽	2		
		国際法	2	▽	2		
		地球規模問題	2	▽	3		
		公共政策論	2	▽	3		
		法学	2		1		
		安全保障論	2		3		

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
☆ 各資格課程登録者に限る（詳細は、各資格課程の頁を参照）
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

科目区分		授業科目	単位	必修	履修開始年次 表記された学年以上で履修可能	履修制限	備考
学科専門科目	異文化理解関連科目	宗教と国際社会	2	▽	2		このページと前のページの▽から「国際関係入門」を含む16単位を選択
		観光と社会	2		2		
		多様性の社会思想	2		1		
		多文化社会論	2		2		
		異文化間コミュニケーション入門	2		1		
		文化人類学	2		1		
		比較文化論	2		2		
		グローバル時代のコミュニケーション	2		2		
		グローバリゼーションと文化	2		2		
	外国語コミュニケーション関連科目	英語学概論A	2		2		
		英語学概論B	2		2		
		英語文学入門A	2		1		
		英語文学入門B	2		1		
		英語児童文学	2		1		
		英語で紹介する日本A	2		1		
		英語で紹介する日本B	2		1		
		第二言語習得概論Ⅰ	2		2		
		第二言語習得概論Ⅱ	2		2		
		通訳トレーニング	2		3		
		翻訳トレーニング	2		3		
		English for Study Abroad A	2		1		
		English for Study Abroad B	2		1		
		English as an International Language	2		2		
		English for Integrated Learning Ⅰ	2		2		
		English for Integrated Learning Ⅱ	2		2		
		Education around the World	2		2		
		English for Intercultural Understanding	2		2		※2年次後期および3年次留学希望者のみ履修可
		留学準備講座	2		2	※	
	エリアスタディーズ科目	北米入門	2		1		
		現代の北米	2		2		
		ヨーロッパ・EU入門	2		1		
		現代のヨーロッパ・EU	2		2		
		北東アジア入門	2		1		
		東南アジア入門	2		1		
		現代のアジア	2		2		
		オセアニア入門	2		1		
		現代のオセアニア	2		2		
		グローバルサウス論	2		2		
		日本文化入門A	2		1		
		日本文化入門B	2		1		
		ホスピタリティ論	2		2		
		ポップカルチャー論	2		2		
		韓国の社会と文化	2		2		
	学科教職科目	社会科・公民科教育法Ⅰ	2		3	☆	
		社会科・公民科教育法Ⅱ	2		3	☆	
		社会科・地歴科教育法Ⅰ	2		3	☆	
		社会科・地歴科教育法Ⅱ	2		3	☆	
		英語科教育法Ⅰ	2		3	☆	
		英語科教育法Ⅱ	2		3	☆	
		英語科教育法Ⅲ	2		3	☆	
		英語科教育法Ⅳ	2		3	☆	

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
☆ 各資格課程登録者に限る（詳細は、各資格課程の頁を参照）
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

7．取得できる資格

（１）中学校・高等学校教諭一種免許課程

国際学科の学生は、一定の条件を満たせば、中学校・高等学校教諭一種免許課程に登録することができ、免許取得のための履修・実習ができます。

国際学科の学生は中学校教諭一種（社会、英語）、高等学校教諭一種（地歴、公民、英語）の免許が取得できます。詳しくは、資格課程「中学校・高等学校教諭一種免許課程」のページを参照してください。

（２）学芸員資格

国際学科の学生は、課程登録し、必要な単位を修得することにより、博物館学芸員の資格を取得できます。詳しくは、資格課程「学芸員資格課程」のページを参照してください。

（３）司書資格

国際学科の学生は、課程登録し、必要な単位を修得することにより、司書資格を取得できます。詳しくは、資格課程「司書資格課程」のページを参照してください。

（４）社会調査士資格

国際学科の学生は、社会調査士資格に必要な単位を修得し、認定のための諸手続きをとることにより、社会調査士資格を得ることができます。詳しくは、資格課程「社会調査士資格」のページを参照してください。

（５）認定心理士資格

国際学科の学生は、認定心理士資格に必要な単位を修得し、認定のための諸手続きをとることにより、認定心理士資格を得ることができます。詳しくは、資格課程「認定心理士資格」のページを参照してください。

（６）准学校心理士資格

国際学科で中学校・高等学校教諭一種免許取得を目指す学生は、上記（１）の中学校・高等学校教諭一種免許を取得し、教職課程に関する単位のうち、準学校心理士資格に必要な単位を修得し認定のための諸手続きをとることにより、準学校心理士資格を得ることができます。詳しくは、資格課程「准学校心理士資格」のページを参照してください。

（７）社会福祉主事任用資格

国際学科の学生は、必要な単位を修得することにより、卒業時に社会福祉主事任用資格を得ることができます。詳しくは、資格課程「社会福祉主事任用資格」のページを参照してください。

その他

日本語教育基礎課程

国際学科の学生は、課程登録し、必要な単位を修得することにより、日本語教育の基礎を学んだことを示す「課程修了証明書」を取得できます。詳しくは、資格課程「日本語教育基礎課程」のページを参照してください。

時間割の作り方（国際学科１年生へアドバイス）

《Step１》e-pass で履修登録を行う前に、オリエンテーション時に配布された資料の中の「e-pass 履修登録用学生時間割計画表」に自分の時間割を作成しましょう。まず、大学側が履修登録をする科目（下記）を指定された曜日・時間に入れます。

□「Freshman English ＡⅠ・Ⅱ、ＢⅠ・Ⅱ」（各１単位 計４単位）
□「基礎情報科学Ⅰ・Ⅱ」（各２単位計４単位）
□「フレッシュマン・セミナーⅠ・Ⅱ」（各１単位 計２単位）

これらの科目は、e-pass でクラス分けが確認できますので、指定されたクラスの曜日・時限を書き入れましょう。

《Step２》次に、学部共通科目の必修科目を入れます。

□「キリスト教概論」（前期科目）（２単位）
□「ライフデザイン」（後期科目）（２単位）

これらの科目は、クラスを指定されていることがありますので、「別冊履修の手引き」を確認しましょう。

《Step３》さらに、学科専門科目の必修科目を入れます。

□「21世紀の国際社会をみる視点」（前期科目）（２単位）
□「国際社会学」（後期科目）（２単位）

★ここまでが、全員共通の登録科目となります。前期後期合わせて、計18単位が決まりました。

☆ここからは、それぞれの希望や今後の進路にあわせて科目を登録してください。

《Step４》学部共通科目の選択必修科目（８単位）の中から１年生が履修できる科目の履修を考えます。
→「第２外国語（ベーシック）」を履修する場合、Ⅰ・Ⅱを同一年度に履修してください。

《Step５》学科専門科目の選択必修科目（16単位）の中から１年生が履修できる科目の履修を考えます。
→国際コミュニケーションコースを卒業するためには「英語で紹介する日本Ａ」を必ず修得する必要があります。
多文化社会コースを卒業するためには「異文化間コミュニケーション入門」を必ず修得する必要があります。
国際協力コースを卒業するためには「国際関係入門」を必ず修得する必要があります。

《Step６》学部共通科目（共通資格科目を除く）の選択科目（10単位）、学科専門科目の選択科目（26単位）の履修を考えます。
→特に学部共通科目の選択科目10単位分はできるだけ１年生での修得をおすすめします。

《Step７》資格取得を希望する人は、資格科目を選択します。

最終チェック！
・前期24単位、後期24単位、計48単位以内になりましたか。
・共通資格科目と「履修登録上限単位数を超えて登録できる科目」は、各学期24単位（年間48単位）を超えても履修できます。
・後期科目については、大学が履修登録した科目以外は、後期履修登録修正期間に登録しなおすことができますが、原則として前期後期全ての科目を前期履修登録期間に登録してください。

これで、１年生の時間割は完成です！
e-pass で履修登録をしましょう。

国際学科 国際協力コース履修モデル

履修モデルとは、卒業までにどのような知識やスキルを持った人材になるかを明確にし、その目標達成に向けて、履修すべき科目を具体的に例示したものです。この履修モデルどおりでなければならない、ということではありません。皆さんはこの履修モデルを参考に、自らの目標や目的に向けて、卒業要件と照らし合わせながら、履修計画を設計してください。

以下の履修モデルは、伝統的な政治経済分野に立脚して国際関係学やエリアスタディーズを中心に学ぶ学生を想定したものです。国際関係や国際協力の現状を学び、国際社会の課題解決のための知識を身につける科目を履修します。想定される進路は、公務員、国際機関、金融業、商社等です。

卒業要件単位	科目区分	1年次		2年次		3年次・4年次		計
		科目名称	単位数	科目名称	単位数	科目名称	単位数	
学部共通科目(36単位以上)	キリスト教基礎科目	**◎キリスト教概論**	2	新約聖書	2			
	フレッシュマン・セミナー	**◎フレッシュマン・セミナーⅠ**	1					
		◎フレッシュマン・セミナーⅡ	1					
	ライフデザイン・ウェルネス科目	**◎ライフデザイン**	2					
	情報メディア科目	**◎基礎情報科学Ⅰ**	2					
		◎基礎情報科学Ⅱ	2					
	コミュニケーションスキルズ科目	**◎Freshman English AⅠ**	1	**◎Sophomore English AⅠ**	1			
		◎Freshman English AⅡ	1	**◎Sophomore English AⅡ**	1			
		◎Freshman English BⅠ	1	**◎Sophomore English BⅠ**	1			
		◎Freshman English BⅡ	1	**◎Sophomore English BⅡ**	1			
		フランス語（ベーシック）Ⅰ	2	フランス語（アドバンス）	2			
		フランス語（ベーシック）Ⅱ	2	English for Journalism	2			
	共通教養科目	日本国憲法	2					
	アクティブ・ラーニング科目			プロジェクト学習A	2			
	教養科目（他学科オープン科目）	社会学概論Ⅰ	2	子どもと国際社会	2			
	小計		22		14		0	36
学科専門科目(58単位以上)	ゼミナール			**◎基礎ゼミナールⅠ**	2	**◎ゼミナールⅠ**	2	
				◎基礎ゼミナールⅡ	2	**◎ゼミナールⅡ**	2	
						◎ゼミナールⅢ	2	
						◎ゼミナールⅣ	2	
	学科基礎科目	**◎21世紀の国際社会をみる視点**	2	人文地理学	2			
		◎国際社会学	2	自然地理学	2			
		世界地誌	2					
		外国史概説	2					
	国際関係関連科目	**▽国際関係入門**	2	マクロ経済学	2	国際経済論	(2)	
		政治学	2	ニュースを読む	2	地球規模問題	(2)	
		法学	2	国際協力論	2	公共政策論	(2)	
				国際関係史	2	安全保障論	(2)	
				国際機構論	2			
				国際法	2			
	異文化理解関連科目	異文化間コミュニケーション入門	2			宗教と国際社会	(2)	
						文化人類学	(2)	
						グローバリゼーションと文化	(2)	
	外国語コミュニケーション関連科目	English for Study Abroad B	2	English as an International Language	2	Education around the World	(2)	
	エリアスタディーズ科目	北米入門	2	現代の北米	2	現代のヨーロッパ・EU	(2)	
		北東アジア入門	2	ヨーロッパ・EU入門	2	現代のアジア	(2)	
		日本文化入門B	(2)	東南アジア入門	2	現代のオセアニア	(2)	
				オセアニア入門	(2)	韓国の社会と文化	(2)	
				グローバルサウス論	(2)			
	学科教職科目							
	小計		22		28		8	58
自由選択科目(30単位以上)	すべて＊他学科目・共通資格科目を含む	学科専門科目余剰分(カッコの単位数)	2	学科専門科目余剰分(カッコの単位数)	4	学科専門科目余剰分(カッコの単位数)	24	
	小計		2		4		24	30
124単位以上	計		46		46		32	124

【注意事項】

・学部共通科目、学科専門科目の必修科目・選択必修科目・選択科目の必要単位数を超過した分（単位数カッコ表記）が自由選択科目としてカウントされます。
なお、必修科目◎（および選択必修科目のうち必ず修得すべき科目▽）は**太字**で表記しています。

・時間割は毎年変動するため、時間割の重複等により、この表のとおりに履修できないこともあります。

領域横断プログラム

領域横断プログラムについて

「領域横断プログラム」は、現代社会における学際的なテーマのもと、自身の学科・コースにとどまらない新たな学びを提供するものです。

各プログラムは、学部共通科目や学科専門科目の組み合わせで構成されており、どのプログラムもすべての学生が受講することができます。各プログラムは、それぞれの構成科目から４科目以上を修得することで修了認定され、卒業時には修了証が発行されます。

各プログラムと構成科目については、次頁の一覧を参照してください。

【プログラムの登録】

① 領域横断プログラムを修了するためには登録が必要です。登録期間は毎年７月を予定しています。詳しい日程は e-pass で案内します。
② 登録したプログラムは、e-pass の［履修関連］→［学生時間割表］の希望資格の欄に表示されます。
③ プログラムの修得見込状況については、e-pass の［履修登録］→［資格取得見込判定］で確認できます。
④ プログラム構成科目となっている科目は、自分の学科・コースの卒業に必要な単位に含めることができます。
⑤ プログラム登録前に単位を修得した科目も認定対象になりますので、４月の履修登録の段階から計画を立てて履修してください。

【履修上の注意】

① 領域横断プログラムは自由な学びの選択肢のひとつです。卒業には各学科・コースの卒業要件を満たすことが必要であり、プログラムの修了のみで卒業することはできません。プログラムの修了は卒業要件でもありません。
② プログラム登録は１年次から可能ですが、構成科目の中には２年次以降でないと履修できない科目が含まれることもあります。
③ プログラムは複数登録することも可能ですが、時間割によっては４年間でプログラムに必要な科目すべてを履修できない可能性があります。
④ プログラムの登録手続きについての質問や相談は学生支援課へ問い合わせてください。

【開講プログラム一覧】右列はプログラム構成科目、（　　）内は科目区分

※プログラム修了要件：それぞれの構成科目から４科目以上を修得

実践で学ぶキリスト教プログラム	
キリスト教が導く生き方を知り、新しい自分を発見しましょう。学院標語「敬神奉仕」とは何かといった探求を通じ、自己と他者の理解を深め、誰かのために自らが奉仕する力を身につけます。	東洋英和の歴史（学部共通） 旧約聖書（学部共通） 新約聖書（学部共通） プロジェクト学習Ｃ（学部共通） キリスト教保育（子ども教育） キリスト教人間形成論（子ども教育）

ジェンダーから考える現代社会プログラム	
歴史や文化、家族など多角的な視点から、現代社会のジェンダーに関わる問題を探究します。多様性と平等が認められる社会、誰もが自分らしく生きられる社会の実現を考えます。	ジェンダースタディーズＡ（学部共通） ジェンダースタディーズＢ（学部共通） ジェンダースタディーズＣ（学部共通） 女性教育論（総合心理） 家族と社会（総合心理） 多様性の社会思想（総合心理／国際）

「持続可能な世界」のためのシティズンシッププログラム	
持続可能な開発の達成に向け、気候変動や環境破壊、戦争や貧困といった人類が直面する重要な課題について理解し、どのように行動すべきか考えます。	教養のための自然科学（学部共通） プロジェクト学習Ｂ（学部共通） English for World Affairs（学部共通） 自然地理学（総合心理／国際） 子どもと国際社会（子ども教育） 国際協力論（国際） グローバルサウス論（国際）

グローバルコミュニケーション実践プログラム	
航空会社や外資系企業をはじめとするグローバルな企業で活躍することを目指し、国際感覚にくわえて、高度で実践的な語学力とプレゼンテーション力を修得します。	English for Business（学部共通） English for Journalism（学部共通） Airline English（学部共通） Presenting in English（学部共通） English for Communication and Discussion（学部共通） インターンシップ（学部共通） グローバル時代のコミュニケーション（国際）

アートとデザインのための実践プログラム	
「教養のための芸術（音楽・美術）」や「色彩・造形心理学」など多彩な芸術系授業と体験を通じ、自分自身を高め感性を磨きながら、他者や社会とつながる手段となる表現力や創造力を身につけます。	教養のための芸術Ａ（学部共通） 教養のための芸術Ｂ（学部共通） 色彩・造形心理学（総合心理） アートプロジェクト論（子ども教育） 子どもとパフォーミングアーツ（子ども教育） あそびと創造のデザイン学（子ども教育） ポップカルチャー論（総合心理／国際）

インクルーシブ社会実践プログラム	
多様な人種や信仰、社会の中でさまざまな困難を抱える人、生きづらさを感じる人など、誰もが取り残されることのない社会、排除されることのない共生社会の実現に向けた国内外の課題について考え、行動します。	手話（アドバンス）（学部共通） フィールドワークC（学部共通） 社会福祉（子ども教育） 多様性の社会思想（国際） 多文化社会論（総合心理／子ども教育／国際） 子どもソーシャルワーク（子ども教育） インクルーシブ教育（子ども教育）

ソーシャル・ビジネス入門プログラム	
環境問題、貧困、教育格差などの社会問題を学びながら、社会にイノベーションをもたらす新しい価値を創出し、社会課題の解決に向けたビジネスの考え方、手法をつかんでいきます。	キャリアデザイン（学部共通） プロジェクト学習E（学部共通） ビジネスと社会A（学部共通） English for Business（学部共通） 地球規模問題（国際） ミクロ経済学（国際） マクロ経済学（国際）

観光ホスピタリティプログラム	
日本文化への理解や異文化間コミュニケーションの学びを通して、観光・旅行産業で役に立つホスピタリティマインドを身につけます。	フィールドワークA（学部共通） English for Tourism（学部共通） インターンシップ（学部共通） ホスピタリティ論（国際） 日本文化入門A（総合心理／国際） 観光と社会（国際）

テクノロジー時代の人間学プログラム	
絶えず変化する情報化社会でより重要となる宗教学・倫理学・死生学などの学問と、人工知能（AI）などのテクノロジーへの理解を深め、「人間」の本質や人生の価値を考えます。	倫理と人権（学部共通） 生命と人間の歴史（学部共通） 哲学概論（学部共通） 死生学概論（総合心理） 宗教学概論Ⅱ（総合心理） AI概論（総合心理）

メディアスタディーズプログラム	
私たちの身の回りにある多様なメディア文化やメディアの役割を理解するとともに、最新のデジタルメディアを活用するスキルを身につけていきます。	生活のなかの図書館（学部共通） 博物館情報・メディア論（学部共通） メディア演習A（学部共通） メディア演習B（学部共通） メディア演習C（学部共通） メディア心理学（総合心理） AI演習（総合心理）

資格課程

１．資格課程の登録について
２．幼稚園教諭一種免許課程
３．保育士資格課程
４．中学校・高等学校教諭一種免許課程
５．学芸員資格課程
６．司書資格課程
７．社会調査士資格
８．認定心理士資格
９．公認心理師資格
10．准学校心理士資格
11．社会福祉主事任用資格
12．日本語教育基礎課程（「登録日本語教員」試験準備課程）

1．資格課程の登録について

各種課程の登録については、以下のことに注意してください。

① 学生への通知はe-passによって行いますので、注意して必ず確認するようにしてください。

② 課程によっては、登録にあたり別途「課程履修費」が必要となります。課程ごとに「課程履修費」の納入期間が決められていますので、期間内に手続きを済ませてください。

③ 各課程に関する説明会は次の通りです。希望する課程の日程等をしっかりと確認し説明会には必ず出席してください。

資格名	資格課程説明会等名称	説明会等対象者	説明会等 日時・場所	書類等提出期間	課程履修費納入期間
幼免・保育士	子ども教育学科 幼保ガイダンス	幼免課程・保育士資格課程の履修を希望する１年生	４月上旬～		幼免３年生：７月 保育士２年生：10月
中・高教職	中学校・高等学校教職課程 ガイダンスⅠ	総合心理学科・国際学科で中学校・高等学校教職課程の履修を希望する１年生	４月上旬、後期。決定次第お知らせします。		
	中学校・高等学校教職課程 ガイダンスⅡ	総合心理学科・国際学科で中学校・高等学校教職課程の履修を希望する２年生	４月上旬		２～４年生：４月
学芸員	学芸員資格課程 ガイダンスⅠ	・希望する１年生 ・希望し、昨年度課程登録をしていない２年生	４月上旬 11月中旬	学芸員資格課程登録 ４月上旬 11月中旬	
	学芸員資格課程 ガイダンスⅡ	来年度「博物館実習」を履修予定の２年生以上	11月中旬	「博物館実習」申込 11月下旬	
	学芸員資格課程 課程履修費の納入と「博物館実習」の履修登録	学芸員資格課程登録者で３年生以上			「博物館実習」履修登録者：10月
司　書	司書資格課程 ガイダンス	・希望する１年生 ・希望し、昨年度課程登録をしていない２年生以上	４月上旬	司書資格課程登録 ４月上旬	
社会調査士	社会調査士資格説明会	社会調査士資格取得希望者	４月上旬	「社会調査士」の申請は卒業時。「キャンディデイト」の申請は６月と10月。詳細は掲示でお知らせします。	
認定心理士	認定心理士資格説明会	認定心理士取得希望者 （総合心理学科以外の学生も取得可）	４月上旬		
公認心理師	公認心理師資格説明会	公認心理師取得希望者 （総合心理学科のみ）	４月上旬		「心理実習」履修登録者：４月
准学校心理士	准学校心理士資格説明会	・准学校心理士取得希望者 ・卒業年次（４年生）の取得希望者は必ず出席すること	４月上旬		
日本語教育	日本語教育基礎課程 ガイダンス	・希望する１年生 ・希望し、昨年度課程登録をしていない２年生以上	４月上旬	日本語教育基礎課程登録 ４月上旬	

＊ここに記載されていない説明会や情報等もありますので、e-passで必ず確認してください。

２．幼稚園教諭一種免許課程（子ども教育学科）

１．幼稚園教諭一種免許について

幼稚園教諭は国公立・私立幼稚園・認定こども園等において、幼児の保育と教育に従事します。将来幼稚園教諭になるためには、教育職員免許法に基づき教育職員免許状を取得しなければなりません。本学子ども教育学科の学生は、幼稚園教諭一種免許課程に登録し所定の単位を修得することにより、卒業時に幼稚園教諭一種免許状を取得することができます。幼稚園教諭一種免許状は園長としての資格も有することとなります。本課程への登録はこの免許状の取得を目的とするものです。

２．取得方法について

幼稚園教諭一種免許状取得を希望する学生は以下の説明を熟読のうえ、履修ガイダンスに必ず出席するとともに、必要な科目の履修を計画的に開始してください。所定のガイダンス終了後、必要な書類を提出し、正式に幼免課程に登録します。単に免許状取得のためだけに履修することなく、堅い教員志望の意思を持ち、その目的達成のために真摯に学び努力して履修の実をあげることが肝要です。

３．免許状の申請について

免許状は免許法に定める単位を修得し、卒業に必要な単位を満たした学生が各都道府県教育委員会へ申請することによって初めて授与されます。

【一括申請】

教育職員免許状は本人が（代理不可）居住地の都道府県の教育委員会に授与を申請するものですが、特別な措置として大学は３月卒業時に免許状を必要とする学生のために各人の申請を代行し、一括して免許状申請を行っています。一括申請による免許状は卒業式当日交付します。

一括申請の取り扱いを希望する場合は４年次後期の手続きを必ず行ってください。手続きを行わない場合は一括申請の取り扱いはできません。

【個人申請】

一括申請説明会を欠席、もしくは所定の手続きを行わなかった場合、９月卒業の学生または卒業後に科目等履修生制度等によって所定単位を修得した場合は、原則として個人で申請手続をすることになります。

個人申請者は居住する都道府県の教育委員会で所定の授与願用紙の交付を受け、証明書を添えて、各自で申請します。ただし、教育委員会によって申請方法や申請書類が異なるので、よく確認のうえ手続をしてください。

個人申請は卒業後いつでもできますが、多くの教育委員会では２月頃から４月頃の繁忙期には個人申請の受付を停止しています。（申請が遅れることで不利益をこうむることのないよう、４月から教職に就く場合は必ず一括申請の手続をしてください。）　個人申請の受付期間は各自所管の教育委員会へ問い合わせてください。

（注意）授与された免許状は再交付されないので、紛失しないよう厳重に注意してください。

４．課程登録について

（１）１年次４月、６月、７月、10月、１月の幼保ガイダンスに出席。４月に登録カードを配布・提出します。

（２）幼稚園教諭一種免許課程の科目の履修を開始します。

（３）３年次７月課程履修費の納入（※６　課程履修費について参照）

５．実習について

本学では、教育実習は以下のとおり実施します。

（１）教育実習の受講資格

①　幼稚園教諭一種免許課程の登録者であること。

②　原則として１年次より、学科が指定する科目を履修すること。

③　幼稚園教諭（保育者）として働く意志が明確であること。

④　学年初めに実施する健康診断を受けていること。

※注意　その他詳細については、後述の「子ども教育学科　実習についての申し合わせ事項」によります。

（２）教育実習の時期と期間

教育実習は「教育実習指導（実習の事前・事後指導)」「教育実習」からなっています。

※実習の事前・事後指導を受講してはじめて単位を修得できます。

必修

①　３年次	後期	「教育実習指導Ⅰ」〔１単位〕		
	11月	「教育実習Ⅰ」	〔２単位〕観察参加実習	２週間
②　４年次	前期	「教育実習指導Ⅱ」〔１単位〕		
	６月	「教育実習Ⅱ」	〔２単位〕総合実習	２週間

６．課程履修費について

教育実習に要する諸経費として、幼稚園教諭一種免許課程履修費30,000円（2025年度現在）を３年次７月に納入してください（詳細は e-pass でお知らせします)。途中で課程登録を取り消した場合でも課程履修費は返還しません。

７．課程科目一覧表

後述の課程科目一覧表により幼稚園教諭一種免許を取得するために必要な科目・単位を修得してください。

８．その他

ガイダンスの詳細や幼稚園教諭一種免許課程登録学生への連絡はすべて e-pass でお知らせします。必ず自分で確認してください。

別表１

2026年度以降入学生　子ども教育学科　適用〔幼稚園教諭一種免許課程科目〕

免許法上の科目区分		本学での開講科目					
		開講科目名	履修年次	単位数 必修	単位数 選択	授業方法	備考
領域及び保育内容の指導法に関する科目	・領域に関する専門的事項	保育内容各論（健康）	2	2		演習	
		保育内容各論（人間関係）	1	2		〃	
		保育内容各論（環境）	1	2		〃	
		保育内容各論（言葉）	2	2		〃	
		保育内容各論（表現）	2	2		〃	
	・保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育内容（健康）の指導法	3	2		演習	
		保育内容（人間関係）の指導法	2	2		〃	
		保育内容（環境）の指導法	2	2		〃	
		保育内容（言葉）の指導法	3	2		〃	
		保育内容（音楽表現）の指導法	3	2		〃	
		保育内容（造形表現）の指導法	3	2		〃	
		保育内容（身体表現）の指導法	3	2		〃	
大学が独自に設定する科目		保育の基礎技能	1	2		演習	
		子ども家庭福祉	1	2		講義	
教育の基礎理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育思想史	1	2		講義	
		保育教育原理	1	2		〃	
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	保育者論	1	2		講義	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育社会学（子ども）	2	2		講義	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	子どもの心理と発達Ⅰ	2	2		講義	
		子どもの心理と発達Ⅱ	2	2		演習	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援保育論	2	2		演習	
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	保育・教育課程論	4	2		講義	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） ・幼児理解の理論及び方法	幼児の理解と教育の方法	2	2		講義	
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談（子ども）	3	2		講義	

免許法上の科目区分		本学での開講科目					
		開講科目名	履修年次	単位数		授業方法	備考
				必修	選択		
教育実践に関する科目	・教育実習	教育実習指導Ⅰ 教育実習指導Ⅱ 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	3 4 3 4	1 1 2 2		演習 〃 実習 〃	
	教育実践演習	保育・教職実践演習（幼稚園）	4	2		演習	

教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目（全ての免許状に必要な文部科学省令科目）
本学での必要修得単位数：12単位

免許法上の科目区分	本学での開講科目				
	開講科目名	履修年次	単位数		備考
			必修	選択	
日本国憲法	日本国憲法 ＊学部共通科目	1	2		
体　育	健康科学（講義・実技） ＊学部共通科目	1	2		
外国語コミュニケーション	Sophomore English　ＡⅠ・ＡⅡ、ＢⅠ・ＢⅡ ＊学部共通科目	2	4		
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	基礎情報科学Ⅰ・Ⅱ ＊学部共通科目	1	4		

子ども教育学科　実習についての申し合わせ事項

（目的）

第1条　本「申し合わせ事項」（以下「事項」とする）は、幼稚園教諭一種免許状及び保育士資格取得に必要な実習科目を履修する際に、大学と実習施設との良好な協力関係を維持し、学生の学習効果を高めていく指導体制を確立するために定めるものである。

（対象）

第2条　本「事項」の対象となる実習は、幼稚園教諭一種免許状取得に必要な「教育実習」及び保育士資格取得に必要な「保育実習」とする。

（実習基準）

第3条　幼稚園教諭一種免許状取得に必要な教育実習及び保育士資格取得に必要な保育実習を履修する者は、次の基準を満たすものでなければならない。

一　入学時から実施される幼稚園教諭一種免許状及び保育士資格取得のために必要な課程ガイダンスに出席し、提出を求められる書類を期間内に全て提出していること。

二　実習科目の履修登録に必要なオリエンテーションを受けた上でその手続きを完了し、必要とされる履修登録を行っていること。

三　平常授業への取り組みが積極的であり、各実習前に必要な単位を修得済みであること（別表）。

四　事前指導で受ける留意事項を遵守し、実習先の指導に従いながら実習を行うこと。

五　実習期間終了後は、事後指導を受け、決められた提出物などを期間内に提出すること。

六　実習に関わる授業は５分の４以上出席すること。

七　実習の参加・遂行にあたって、困難が予想される場合、各実習担当者会議における協議の結果決定する。

（実習の開始、中止、再開、再実習[注1]、補講実習[注2]、再履修[注3]）

第4条　何らかの理由で実習が実施されなかった場合、あるいは中止となった場合、実習の開始、再開、再実習、補講実習、再履修に関しては、教育実習及び保育実習の実習担当者会での協議により決定される。なお、再実習は実習ごとに１回を上限とする。

２　実習事前

一　事前指導を欠席なく受講していること。（やむをえない欠席の場合は、届出が事前に担当教員までなされていること。）

二　事前指導において、課題として定められたものを期間内に提出していること。

三　実習に必要な書類（健康診断証明書、腸内検査報告書など）を実習開始前に準備していること。

四　平常授業への取り組みが積極的であり、それぞれの実習前に必要であると定められた免許、資格関連科目を履修できていること。

五　守秘義務遵守の重要性を理解し、誓約書を提出していること。

３　実習期間中

一　事前指導で受けた留意事項を遵守し、実習施設の指導に従いながら実習を行うことができていること。

二　実習期間中の体調不良による欠席、遅刻などの連絡等を実習施設と大学に対し、すみやかに行い、事後の対応が検討されるようにしていること。

三　実習機関・施設及び子ども・利用者の名誉を傷つけることや守秘義務違反をしないこと。

４　実習事後

一　事後指導を受け、決められた提出物などを期間内に提出すること。これをもって実習は完了となる。

二　実習の成績評価は、実習施設の実習評価票、実習日誌、実習レポートなどを総合的に判断し、各実習担当者会の協議により決定される。

注１）：再実習とは、実習の単位が「保留」となっている学生が再度実習を行うことをいう。

注２）：補講実習とは、実習を終了したが実習園の評価基準を満たさず、追加の実習を行うことによって単位の習得を目指すことをいう。

注３）：再履修とは、実習の単位が「不可」または「放棄」となった学生が再度実習科目を履修登録し、実習を行うことをいう。

2025 年 11 月 26 日作成

別表）実習参加のための単位履修要件

・それぞれの実習参加にあたっては、次の要件を満たす必要がある。

【教育実習】

教育実習指導Ⅰ・教育実習Ⅰ

「日本国憲法」 「保育者論」 「保育教育原理」	左記の５科目のうち、 ４科目以上の単位修得	幼稚園教諭一種免許課程 １年次必修科目
「子どもの心理と発達Ⅰ」 「子どもの心理と発達Ⅱ」		幼稚園教諭一種免許課程 ２年次必修科目
「保育内容総論」 「保育内容各論（健康）」 「保育内容各論（人間関係）」 「保育内容各論（言葉）」 「保育内容各論（表現）」	左記の５科目のうち、 ４科目以上の単位修得	幼稚園教諭一種免許課程 １・２年次必修科目

※教育実習指導Ⅰ・教育実習Ⅰを履修するものは、上記科目の単位を２年後期までに修得していること。

※総取得単位数が３年前期終了時点で、80 以下である場合や、必修科目（フレッシュマン・セミナー、Freshman English 等）が未修得である等の場合には、実習にかかわる科目の履修が認められない場合がある。

教育実習指導Ⅱ・教育実習Ⅱ

「教育実習指導Ⅰ」 「教育実習Ⅰ」	左記の２科目の単位修得	
「特別支援保育論」 「保育内容（健康）の指導法」 「保育内容（人間関係）の指導法」 「保育内容（環境）の指導法」 「保育内容（言葉）の指導法」 「保育内容（音楽表現）の指導法」 「保育内容（造形表現）の指導法」 「保育内容（身体表現）の指導法」	左記の８科目のうち、 ７科目以上の単位修得	幼稚園教諭一種免許課程 ２・３年次必修科目

※教育実習指導Ⅱ・教育実習Ⅱを履修するものは、上記科目の単位を３年後期までに修得していること。

2025.11.26　子ども教育学科

◇幼稚園教諭一種免許課程科目（子ども教育学科適用）

区分	分野・系	共通資格科目	授業科目	単位	必修	履修年次 表記された学年での履修が望ましい	履修制限	備考
領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項	―	保育内容各論（健康）	2	◎	2	×	
		―	保育内容各論（人間関係）	2	◎	1	×	
		―	保育内容各論（環境）	2	◎	1	×	
		―	保育内容各論（言葉）	2	◎	2	×	
		―	保育内容各論（表現）	2	◎	2	×	
	保育内容の指導法	―	保育内容（健康）の指導法	2	◎	3	△×	
		―	保育内容（人間関係）の指導法	2	◎	2	△×	
		―	保育内容（環境）の指導法	2	◎	2	△×	
		―	保育内容（言葉）の指導法	2	◎	3	△×	
		―	保育内容（音楽表現）の指導法	2	◎	3	△×	
		―	保育内容（造形表現）の指導法	2	◎	3	△×	
		―	保育内容（身体表現）の指導法	2	◎	3	△×	
大学が独自に設定する科目		―	保育の基礎技能	2	◎	1	×	
		―	子ども家庭福祉	2	◎	1		
教育の基礎理解に関する科目		―	教育思想史	2	◎	1		
		―	保育教育原理	2	◎	1		
		―	保育者論	2	◎	1		
		―	教育社会学（子ども）	2	◎	2	×	
		―	子どもの心理と発達Ⅰ	2	◎	2		
		―	子どもの心理と発達Ⅱ	2	◎	2	×	
		―	特別支援保育論	2	◎	2	×	
		―	保育・教育課程論	2	◎	4		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		―	幼児の理解と教育の方法	2	◎	2		
		―	教育相談（子ども）	2	◎	3		
教育実践に関する科目		―	教育実習指導Ⅰ	1	◎	3	※	※ 幼稚園教諭免許課程登録者のみ履修可
		―	教育実習指導Ⅱ	1	◎	4	※	
		―	教育実習Ⅰ	2	◎	3	※	
		―	教育実習Ⅱ	2	◎	4	※	
		―	保育・教職実践演習（幼稚園）	2	◎	4	※	

（注）上表の科目のほかに、学部共通科目において「日本国憲法」2単位、「健康科学（講義・実技）」2単位、「Sophomore EnglishA Ⅰ・Ⅱ、B Ⅰ・Ⅱ」4単位、「基礎情報科学 Ⅰ・Ⅱ」4単位を履修すること。

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

共通資格科目およびp.26に掲載されている科目は、上限単位数を超えて履修登録できます。

３．保育士資格課程（子ども教育学科）

１．保育士資格について

保育士とは、登録を受け保育士の名称を用いて、専門的知識および技術をもって児童の保育および児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者と児童福祉法に定義されています。保育士は公立・私立保育所や乳児院、児童養護施設、心身に障がいのある児童のための施設等の児童福祉施設において、児童の保育および子育て支援等に従事します。将来、保育士になるためには厚生労働省で定めている所定の単位を指定保育士養成施設（養成校・本学子ども教育学科は指定保育士養成施設です）において、修得しなければなりません。

２．保育士資格取得方法および保育士登録の申請について

子ども教育学科の保育士資格課程に登録した学生で、厚生労働省により定められている必要な単位を修得し卒業要件を満たした学生は、卒業時に保育士資格を取得することができます。保育士として働くためには、都道府県の備える保育士登録簿に登録をしなければなりません。登録のための一括申請手続きは４年次後期に行います。

保育士資格取得を希望する学生は以下の説明を熟読のうえ、履修ガイダンスに出席し、必要な単位修得のための履修計画を立ててください。

３．履修方法について

子ども教育学科では別表２のとおり厚生労働省告示の教科目と単位に対応する該当科目を開講しています。これによって、所定の単位を修得しなければなりません。

４．課程登録について

（１）１年次４月、６月、７月、10月、１月の幼保ガイダンスに出席。４月に登録カードを配布・提出します。
（２）保育士課程の科目の履修を開始します。
（３）２年次10月課程履修費納入（※６　課程履修費について参照）。

５．実習について

本学では、保育実習は以下のとおり実施します。

（１）保育実習のねらいと内容

保育実習および、その指導のねらいと内容は、およそ以下のようになります。

① 対象者および施設への理解：乳幼児、および施設入所者の生活実態、社会福祉施設の内容、機能等を実践現場での体験を通して理解する。

② 理論と実践の理解、および実践に伴う技術の習得：教科全体の知識・技能を基礎とし、保育士として必要な資質・能力・技術を習得し、これらを総合的に実践する応用力を養う。

③ 保育士職務の体験的理解：保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化等、現代社会のニーズを踏まえた保育士の役割、職務について学ぶ。

（２）保育実習の受講資格等

① 保育士資格課程登録者であること。

② 保育実習指導を受講していること。

③ 原則として1年次より学科が指定する科目を履修すること。

④ 保育士として働く意志が明確であること。

⑤ 学年初めに実施する健康診断を受けていること。

※注意　その他詳細については、「子ども教育学科　実習についての申し合わせ事項」によります。

（３）保育実習の時期と期間

保育実習は「保育実習指導」「保育実習」からなっています。

「保育実習指導（実習の事前・事後指導）」は、履修登録年度以外の学年でも実施されます。

※実習の事前・事後指導を受講してはじめて単位を修得できます。

必修

① 「保育実習指導ＩＡ」「保育実習指導ＩＢ」〔１単位〕
保育所および施設実習の事前・事後指導を行います。

② 「保育実習ＩＡ（保育所）」〔２単位〕
保育所において２年次春休み期間中に12日間以上・90時間以上の実習を行います。

③ 「保育実習ＩＢ（施設）」〔２単位〕
社会福祉施設において３年次６月に12日間以上・90時間以上の実習を行います。

選択必修　④⑤のうちいずれかを必ず履修してください。

④ 「保育実習Ⅱ（保育所）」〔２単位〕・「保育実習指導Ⅱ」〔１単位〕
保育所において４年次夏休み期間中に12日間以上・90時間以上の実習を行います。

⑤ 「保育実習Ⅲ（施設）」〔２単位〕・「保育実習指導Ⅲ」〔１単位〕
社会福祉施設において４年次８月から９月に12日間以上・90時間以上の実習を行います。

（４）保育実習の履修登録時期について

保育実習の履修登録は下記の通りに行います。

実習指導授業	実　習	履修登録年次
保育実習指導ＩＡ 保育実習指導ＩＢ	保育実習ＩＡ（保育所）	２年次に履修登録
	保育実習ＩＢ（施設）	３年次に履修登録
保育実習指導Ⅱ 保育実習指導Ⅲ	保育実習Ⅱ（保育所） 保育実習Ⅲ（施設）	４年次に履修登録

６．課程履修費について

保育実習に要する諸経費として、保育士資格課程履修費54,000円（2025年度現在）を２年次10月に納入してください（詳細はe-passで確認のこと）。途中で課程登録を取り消した場合でも課程履修費は返還しません。

７．課程科目一覧表

後述の課程科目一覧表により保育士資格を取得するために必要な科目・単位を修得してください。

８．その他

ガイダンスの詳細や保育士資格課程登録学生への連絡はすべて e-pass でお知らせします。必ず自分で確認してください。

子ども教育学科　実習についての申し合わせ事項

（目的）

第1条　本「申し合わせ事項」（以下「事項」とする）は、幼稚園教諭一種免許状及び保育士資格取得に必要な実習科目を履修する際に、大学と実習施設との良好な協力関係を維持し、学生の学習効果を高めていく指導体制を確立するために定めるものである。

（対象）

第2条　本「事項」の対象となる実習は、幼稚園教諭一種免許状取得に必要な「教育実習」及び保育士資格取得に必要な「保育実習」とする。

（実習基準）

第3条　幼稚園教諭一種免許状取得に必要な教育実習及び保育士資格取得に必要な保育実習を履修する者は、次の基準を満たすものでなければならない。

一　入学時から実施される幼稚園教諭一種免許状及び保育士資格取得のために必要な課程ガイダンスに出席し、提出を求められる書類を期間内に全て提出していること。

二　実習科目の履修登録に必要なオリエンテーションを受けた上でその手続きを完了し、必要とされる履修登録を行っていること。

三　平常授業への取り組みが積極的であり、各実習前に必要な単位を修得済みであること（別表）。

四　事前指導で受ける留意事項を遵守し、実習先の指導に従いながら実習を行うこと。

五　実習期間終了後は、事後指導を受け、決められた提出物などを期間内に提出すること。

六　実習に関わる授業は５分の４以上出席すること。

七　実習の参加・遂行にあたって、困難が予想される場合、各実習担当者会議における協議の結果決定する。

（実習の開始、中止、再開、再実習[注1]、補講実習[注2]、再履修[注3]）

第4条　何らかの理由で実習が実施されなかった場合、あるいは中止となった場合、実習の開始、再開、再実習、補講実習、再履修に関しては、教育実習及び保育実習の実習担当者会での協議により決定される。なお、再実習は実習ごとに１回を上限とする。

２　実習事前

一　事前指導を欠席なく受講していること。（やむをえない欠席の場合は、届出が事前に担当教員までなされていること。）

二　事前指導において、課題として定められたものを期間内に提出していること。

三　実習に必要な書類（健康診断証明書、腸内検査報告書など）を実習開始前に準備していること。

四　平常授業への取り組みが積極的であり、それぞれの実習前に必要であると定められた免許、資格関連科目を履修できていること。

五　守秘義務遵守の重要性を理解し、誓約書を提出していること。

３　実習期間中

一　事前指導で受けた留意事項を遵守し、実習施設の指導に従いながら実習を行うことができていること。

二　実習期間中の体調不良による欠席、遅刻などの連絡等を実習施設と大学に対し、すみやかに行い、事後の対応が検討されるようにしていること。

三　実習機関・施設及び子ども・利用者の名誉を傷つけることや守秘義務違反をしないこと。

４　実習事後

一　事後指導を受け、決められた提出物などを期間内に提出すること。これをもって実習は完了となる。

二　実習の成績評価は、実習施設の実習評価票、実習日誌、実習レポートなどを総合的に判断し、各実習担当者会の協議により決定される。

注１）：再実習とは、実習の単位が「保留」となっている学生が再度実習を行うことをいう。

注２）：補講実習とは、実習を終了したが実習園の評価基準を満たさず、追加の実習を行うことによって単位の習得を目指すことをいう。

注３）：再履修とは、実習の単位が「不可」または「放棄」となった学生が再度実習科目を履修登録し、実習を行うことをいう。

2025 年 11 月 26 日作成

別表）実習参加のための単位履修要件

・それぞれの実習参加にあたっては、次の要件を満たす必要がある。

【保育実習】

保育実習指導ＩＡ、保育実習ＩＡ、保育実習指導ＩＢ

「子ども家庭福祉」 「社会福祉」 「保育教育原理」 「保育内容総論」	左記の４科目のうち、 ３科目以上を単位修得していること	＊保育士資格課程１年次必修科目
「社会的養護Ⅰ」 「子どもの心理と発達Ⅰ」 「乳児保育Ⅰ」	左記の３科目のうち、 ２科目以上を単位修得していること	＊保育士資格課程２年次前期必修科目

※保育実習指導ＩＡ・保育実習ＩＡ・保育実習指導ＩＢを履修する者は、上記科目の単位を２年前期までに修得していること。

保育実習ＩＢ

「保育実習指導ＩＡ」 「保育実習ＩＡ」 「保育実習指導ＩＢ」	左記３科目を履修し、保育実習指導ＩＡを単位修得していること	＊但し、保育実習ＩＢは、保育実習ＩＡを終えていなければ行うことはできない。

保育実習指導Ⅱ・Ⅲ、保育実習Ⅱ・Ⅲ

「保育実習指導ＩＢ」 「保育実習ＩＢ」	左記２科目を履修し、保育実習指導ＩＢを単位修得していること	

※総取得単位数が３年前期終了時点で、80 以下である場合や、必修科目（フレッシュマン・セミナー、Freshman English 等）が未修得である等の場合には、実習にかかわる科目の履修が認められない場合がある。

2025.11.26　子ども教育学科

別表２

2026年度以降入学生　子ども教育学科　適用〔保育士資格課程科目〕

必修科目　本学での最低修得単位数：68単位

告示別表第１による教科目		本学での開講科目					
系列	教科目(単位数※)	科目名	履修年次	単位数 必修	単位数 選択	授業方法	備考
保育の本質・目的に関する科目	保育原理(２)	保育教育原理	1	2		講義	
	教育原理(２)	教育思想史	1	2		〃	
	子ども家庭福祉(２)	子ども家庭福祉	1	2		〃	
	社会福祉(２)	社会福祉	1	2		〃	
	子ども家庭支援論(２)	子ども家庭支援論	2	2		〃	
	社会的養護Ⅰ(２)	社会的養護Ⅰ	2	2		〃	
	保育者論(２)	保育者論	1	2		〃	
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学(２)	子どもの心理と発達Ⅰ	2	2		講義	
	子ども理解と援助(１)	子どもの心理と発達Ⅱ	2	2		演習	
	子ども家庭支援の心理学(２)	子ども家庭支援の心理学	3	2		講義	
	子どもの保健(２)	子どもの保健	2	2		〃	
	子どもの食と栄養(２)	子どもの食と栄養	2	2		演習	
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価(２)	保育・教育課程論	4	2		講義	
	保育内容総論(１)	保育内容総論	1	2		演習	
	保育内容演習(５)	保育内容各論（健康）	2	2		〃	
		保育内容各論（人間関係）	1	2		〃	
		保育内容各論（環境）	1	2		〃	
		保育内容各論（言葉）	2	2		〃	
		保育内容各論（表現）	2	2		〃	
	保育内容の理解と方法(４)	保育内容（健康）の指導法	3	2		〃	
		保育内容（人間関係）の指導法	2	2		〃	
		保育内容（環境）の指導法	2	2		〃	
		保育内容（言葉）の指導法	3	2		〃	
		保育内容（音楽表現）の指導法	3		2	〃	このうちから２単位以上選択
		保育内容（造形表現）の指導法	3		2	〃	
		保育内容（身体表現）の指導法	3		2	〃	
	乳児保育Ⅰ(２)	乳児保育Ⅰ	2	2		講義	
	乳児保育Ⅱ(１)	乳児保育Ⅱ	3	2		演習	
	子どもの健康と安全(１)	子どもの健康と安全	2	2		〃	
	障害児保育(２)	特別支援保育論	2	2		〃	
	社会的養護Ⅱ(１)	社会的養護Ⅱ	3	2		〃	
	子育て支援(１)	子育て支援	3	2		〃	
保育実習	保育実習Ⅰ(４)	保育実習ⅠA（保育所）	2	2		実習	
		保育実習ⅠB（施設）	3	2		〃	
	保育実習指導Ⅰ(２)	保育実習指導ⅠA	2	1		演習	
		保育実習指導ⅠB	2	1		〃	
総合演習	保育実践演習(２)	保育・教職実践演習（幼稚園）	4	2		演習	

（　）内の数字は告示による単位数

選択必修科目　本学での最低修得単位数：９単位

告示別表第２による系列（系列のうちから保育実習３単位を含む９単位以上を修得のこと）	本学での開講科目					
	科目名	履修年次	単位数 必修	単位数 選択	授業方法	備考
保育の本質・目的に関する科目	子どもと国際社会	2		2	講義	このうちから６単位以上選択
	世界の子ども教育	2		2	〃	
	子どもの感性とアート	2		2	〃	
保育の対象の理解に関する科目	教育社会学（子ども）	2		2	講義	
	子どもの臨床心理学	2		2	〃	
	子どもフィールドワークＡ	3		2	演習	
	子どもフィールドワークＢ	3		2	〃	
	子どもフィールドワークＣ	2		2	〃	
保育の内容・方法に関する科目	Speaking English with Children	3		2	講義	
	子どもソーシャルワーク	3		2	〃	
	子どものアートとサイエンス	3		2	〃	
	子どもと文化	2		2	〃	
	キリスト教保育	3		2	〃	
保育実習	保育実習Ⅱ（保育所）	4		2	実習	保育実習Ⅱ及び保育実習指導Ⅱ又は保育実習Ⅲ及び保育実習指導Ⅲを選択
	保育実習指導Ⅱ	4		1	演習	
	保育実習Ⅲ（施設）	4		2	実習	
	保育実習指導Ⅲ	4		1	演習	

（注）本学では上表のとおり９単位を選択履修すること。

教養科目　本学での最低修得単位数：９単位　　（注）前表以外に修得しなければならない単位

告示による教科目（体育講義・実技の各１単位を含む８単位以上を修得のこと）	本学開講授業科目		
	開講科目	単位数	備考
外国語、体育以外の基礎科目	本学の卒業に必要な学部共通科目に含まれる	6	履修年次は、各履修科目開講表で確認のこと。
外国語・演習	Freshman English		
体育・講義	健康科学（講義・実技）	2	
体育・実技			
	スポーツ科学ＡまたはＢまたはＣ	1	

◇保育士資格課程科目（子ども教育学科適用）

科目区分		共通資格科目	授業科目	単位	必修	履修年次 表記された学年での履修が望ましい	履修制限	備考
保育士資格課程科目	必修科目	―	保育教育原理	2	◎	1		
		―	教育思想史	2	◎	1		
		―	子ども家庭福祉	2	◎	1		
		―	社会福祉	2	◎	1		
		―	子ども家庭支援論	2	◎	2		
		―	社会的養護Ⅰ	2	◎	2		
		―	保育者論	2	◎	1		
		―	子どもの心理と発達Ⅰ	2	◎	2		
		―	子どもの心理と発達Ⅱ	2	◎	2	×	
		―	子ども家庭支援の心理学	2	◎	3		
		―	子どもの保健	2	◎	2	×	
		―	子どもの食と栄養	2	◎	2	×	
		―	保育・教育課程論	2	◎	4		
		―	保育内容総論	2	◎	1	×	
		―	保育内容各論(健康)	2	◎	2	×	
		―	保育内容各論(人間関係)	2	◎	1	×	
		―	保育内容各論(環境)	2	◎	1	×	
		―	保育内容各論(言葉)	2	◎	2	×	
		―	保育内容各論(表現)	2	◎	2	×	
		―	乳児保育Ⅰ	2	◎	2		
		―	乳児保育Ⅱ	2	◎	3	×	
		―	子どもの健康と安全	2	◎	2	×	
		―	特別支援保育論	2	◎	2	×	
		―	社会的養護Ⅱ	2	◎	3	×	
		―	子育て支援	2	◎	3		
		―	保育内容(健康)の指導法	2	◎	3	△×	
		―	保育内容(人間関係)の指導法	2	◎	2	△×	
		―	保育内容(環境)の指導法	2	◎	2	△×	
		―	保育内容(言葉)の指導法	2	◎	3	△×	
		―	保育内容(音楽表現)の指導法	2	▽	3	△×	このうちから2単位以上を選択
		―	保育内容(造形表現)の指導法	2	▽	3	△×	
		―	保育内容(身体表現)の指導法	2	▽	3	△×	
		―	保育実習ⅠA(保育所)	2	◎	2	※	
		―	保育実習ⅠB(施設)	2	◎	3	※	※ 保育士資格登録者のみ履修可
		―	保育実習指導ⅠA	1	◎	2	※	
		―	保育実習指導ⅠB	1	◎	2	※	
		―	保育・教職実践演習(幼稚園)	2	◎	4	※	

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

共通資格科目およびp.26に掲載されている科目は、上限単位数を超えて履修登録できます。

科目区分		共通資格科目	授業科目	単位	必修	履修年次 表記された学年での履修が望ましい	履修制限	備考
保育士資格課程科目	選択必修科目	―	子どもと国際社会	2	▽	2		このうちから6単位以上を選択
		―	世界の子ども教育	2	▽	2		
		―	子どもの感性とアート	2	▽	2		
		―	教育社会学（子ども）	2	▽	2	×	
		―	子どもの臨床心理学	2	▽	2	×	
		―	子どもフィールドワークA	2	▽	3	△	
		―	子どもフィールドワークB	2	▽	3	△	
		―	子どもフィールドワークC	2	▽	2	△	
		―	Speaking English with Children	2	▽	3		
		―	子どもソーシャルワーク	2	▽	3	△	
		―	子どものアートとサイエンス	2	▽	3	△	
		―	子どもと文化	2	▽	2		
		―	キリスト教保育	2	▽	3		
		―	保育実習Ⅱ（保育所）	2	▽	4	※	※ 保育士資格登録者のみ履修可 保育実習Ⅱ及び保育実習指導Ⅱ又は保育実習Ⅲ及び保育実習指導Ⅲを選択
		―	保育実習指導Ⅱ	1	▽	4	※	
		―	保育実習Ⅲ（施設）	2	▽	4	※	
		―	保育実習指導Ⅲ	1	▽	4	※	

（注）本学では上表のとおり9単位を選択履修すること
（注）上表のほかに、学部共通科目において「健康科学（講義・実技）」2単位、「スポーツ科学AまたはBまたはC」から1単位を履修すること
◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
× 他学科の学生は履修不可
△ 人数制限する場合あり
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

共通資格科目およびp.26に掲載されている科目は、上限単位数を超えて履修登録できます。

4．中学校・高等学校教諭一種免許課程（総合心理学科／国際学科）

1．中学校・高等学校教諭一種免許状について

学校教育法第一条に規定する幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の教員になるためには**教員免許状**が必要です。

本学で、教育職員免許法に基づき所定の履修課程を修了して大学を卒業した場合、**中学校・高等学校の一種免許状**を取得することができます。

> **教育基本法**の第一条で教育の目的を次のように定めています。
> **「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない」**
> そして教員については同法第九条で、次のように定めています。
> **「法律に定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない」**
> このように、教職課程を履修する学生は、将来教員の資格を得る者としてその使命を自覚して、研究と修養に励むことが求められています。また、皆さんが取得する免許の教科の目標も、**学習指導要領**に明記されているので必ず目を通してください。

2．東洋英和女学院大学の中高教職課程で取得できる教員免許状

本学で取得できる免許教科は学科により次の通り決められています。

学　　科	免許状の種類	免許教科
総合心理学科	中学校教諭一種免許状	社　会
	高等学校教諭一種免許状	公　民
国際学科	中学校教諭一種免許状	社　会
	中学校教諭一種免許状	外国語（英　語）
	高等学校教諭一種免許状	地理歴史
	高等学校教諭一種免許状	公　民
	高等学校教諭一種免許状	外国語（英　語）

※　国際学科では、以下のいずれかの組み合わせで教員免許状を取得することができます。

・中学校社会と高等学校地理歴史
・中学校社会と高等学校公民
・中学校社会と高等学校地理歴史と高等学校公民（※計画的履修と努力次第で４年間での取得が可能）
・中学校英語と高等学校英語

履修計画に関わる重要事項がありますので、必ずp.187以降のＱ＆Ａを参照してください。

※　総合心理学科で高等学校地理歴史の免許状の取得を併せて希望する場合は、教職・実習センターまで相談に来てください。

※　国際学科《教科及び教科の指導法に関する科目》の必修科目である「コミュニケーション英文法」と「English for Study Abroad B」は、教職課程希望者用の指定教員クラスがあります（p.191参照）。教職課程希望者は、その指定教員クラスを登録・履修してください。不明点は教職・実習センターまで問い合わせてください。

本学では中学校と高等学校の教員免許状の同時取得を原則とします。

教職・実習センター
カルテットホール1階奥にある教職課程等を扱う部署です。
教員免許（幼稚園・中学・高等学校教諭）など、各種免許取得に必要な事務手続、および実習をサポートします。常駐する講師や職員が相談に応じるほか、先輩からのメッセージや実習先の資料を閲覧できます。

３．教職課程手続きについて

中学校及び高等学校の教員免許状取得を希望する学生は、本書**『履修の手引き』**をよく読んで教職課程について理解し、各学年で行われる**教職課程ガイダンス**に必ず出席してください。

正規の教職課程は２年生より開始しますが、卒業に必要な学科の単位に加えて、教員免許状を取るために必要な科目の単位を１年次より計画的に取得する必要があります。

１年次

・**教職課程ガイダンスへの参加**（入学オリエンテーション期間と後期にも実施します。）
・２年次に登録を行う教職課程について、興味がある方は参加してください。
・教職課程に登録する可能性がある場合は p. 189～191の自分が所属する学科の表の中から可能な範囲で１年次に履修のできる教職科目の履修登録をお勧めします。（「教科及び教科の指導法に関する科目」は、学科の専門科目の中から選ばれています。
※１年生から前倒しで履修することで、教職課程に登録した場合に必要となる単位取得に余裕ができます。また、仮に教職課程を履修しなくても卒業に必要な学科専門科目の単位として認められます。

２年次

・**教職課程ガイダンスの参加及び教職課程への登録**（①から③までの手続きが終わった段階で登録完了となります。）
　① 前期の履修登録前に**「中高教職課程申込書」**を教職・実習センターに提出
　② 履修登録期間内に**「教職の理解」**を履修登録
　③ **２年次分課程履修費納入**（期間等は e-pass にて掲示）
・２年生で履修できる教職関連科目を可能な範囲で履修（国際学科で外国語（英語）の取得を希望する学生のみ「コミュニケーション英文法」と「English for Study Abroad B」の指定クラスに注意【p. 191の表を参照】）

３年次

・**３年次分課程履修費納入**（期間等は e-pass にて掲示）
・**「介護等体験」の実施**
・**「教育実習」（４年次）の申し込み**（４月頃から受付開始。申し込み期限は、実習先により異なります。）
・３年生までに履修できる教職関連科目を履修し、必要単位を修得

４年次

・**４年次分課程履修費納入**（期間は e-pass にて掲示）
・**「教育実習」の実施**（通常は５月～７月または９月から１１月の間の３週間。）
・**免許一括申請登録手続き**（10月上旬。大学を通じて神奈川県教育委員会に免許状を申請するので、e-pass 掲示を必ず確認すること。）
・３月の卒業式にて**教員免許状の授与**

※　**履修のカルテ**（２年次ガイダンスにて説明、e-pass にて配信）を管理し、４年生後期の「教職実践演習」受講の際に提出（不備があると履修不可）。

※　**学校インターンシップ、学校ボランティア**などは奨励されています。希望の人は、教職・実習センターに相談してぜひ積極的に参加してください。

４．教職課程履修費について

教職課程の諸経費として、中学校・高等学校教諭一種免許状**課程履修費30,000円**（2025年度現在）を徴収しています。

２年生以降毎年10,000円ずつ３回に分けて納入してください。（詳細は e-pass にてお知らせします。）

※納入しない場合、教職課程を辞退したものとみなされ登録から抹消されます。

※途中で教職課程を放棄した場合でも納入された教職課程履修費は返還しません。

※教育実習費・介護等体験費を別途徴収することはありません。

５．履修方法について

『履修の手引き』を参照し、e-pass で配信される「履修状況確認シート」「履修のカルテ」を作成することで、間違いの無いように履修します。

演習や必修科目など必要な科目同士が重なるなど、履修上の問題が発生した際は、判明した時点ですぐに教職・実習センターに相談してください。３年終了時点で、４年次に履修する「教育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」及び「教職実践演習」以外を取り終えている状態が理想です。

（１）「教科及び教科の指導法に関する科目」

主に学部共通科目や自分が所属する学科の専門科目の中から免許教科に関係する科目が設定されています。

（２）「大学が独自に設定する科目」

必修の「ICT 演習」と「介護等体験」を履修してください。

この区分は「大学が独自に設定する科目」だけでなく、「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」の最低必要単位を超えて取得した単位を含めて必要単位を取得することになっています。

詳しい履修方法は、p.188の表で確認してください。

（３）「教育の基礎的理解に関する科目等」

教員となるために必要な知識やスキルを学ぶ科目が配当されています。

共通資格科目（後ろのカリキュラム表に○印のあるもの）のみ履修上限単位を越えて履修することができます。

※　必要な単位数は後半にある科目表で確認してください。また「履修状況確認シート」で自分の単位修得状況をチェックすることができます。

６．実習について（介護等体験【３年】と教育実習【４年】）

（１）介護等体験

特別支援学校（連続２日間：６月～１月頃）と社会福祉施設（連続５日間：８月～２月頃）の合計７日間の体験日程が実習先より指定されます。この日程は、個人の都合では変更できません。また、各施設への実習依頼を個人で直接行うことはできません。

介護等体験は大学のある神奈川県内のみで行われます。

本学では、原則、介護等体験前年度までに以下の科目の単位を修得済みであることが履修条件として定められています。

総合心理学科・国際学科共通

必要科目	配当年次	必要科目	配当年次
キリスト教概論	1	Sophomore English AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ	2
ライフデザイン	1	教職の理解	2
基礎情報科学Ⅰ・Ⅱ	1	学校体験	2
フレッシュマン・セミナー	1	教育学概論Ⅰ	1
基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ	2	特別活動と総合的な学習の時間	2
Freshman English AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ	1	日本国憲法	1

総合心理学科

必要科目	配当年次
総合心理学基礎論	1

国際学科

必要科目	配当年次
21世紀の国際社会をみる視点	1

（2）教育実習

中学校・高等学校の教員免許状を取得するには、４年で「教育実習」を履修する必要があります。

本学では、「教育実習」を履修する条件を次の①から⑤を満たすように定めています。

① 原則として以下の科目を教育実習前年度までに履修し単位を修得済みであること。

必要科目	配当年次	備考
教育学概論Ⅰ	1	
教職の理解	2	
教育心理学	2	
教育社会学（中・高）	2	
道徳教育の理論と実践	2	
生徒・進路指導の理論と方法	2	
教育の方法と技術	2	
学校体験	2	
ICT 演習	2	
介護等体験	3	
特別支援教育	3	
社会科・公民科教育法Ⅰ・Ⅱ	3	該当免許教科の８単位を修得
社会科・地歴科教育法Ⅰ・Ⅱ	3	
英語科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	3	

② ３年生で「特別支援教育」を履修し、介護等体験を原則修了していること。

③ ３年生４月から実施する「教育実習事前指導」に必ず出席すること。

④ 検定試験などを受験し、教育実習に必要な教科の知識や技能を身につけること。

(1) 中学校社会・高等学校地理歴史・高等学校公民の免許を希望する学生

・ニュース時事能力検定（２級以上合格程度）

・歴史能力検定（歴史能力検定３級（日本史）または、歴史能力検定３級（世界史）合格程度）

(2) 中学校英語・高等学校英語の免許を希望する学生

・CEFR のＢ２程度（実用英語検定、TOEIC, TOEFL, IELTS などを受験）

⑤ 教育実習を行う年度末に卒業見込および免許状取得見込である者

本学は横浜市教育委員会と連携しており、教育実習は横浜市立中学校に一括申請をすることが原則です。しかし、その他の自治体や私立中学校・高校の教員を志望する場合に限り、学生の希望に応じて実習申請をすることも認めています。なお、母校実習はできるだけ避けるべきとの答申が文部科学省へ提出されているので、できる限り母校以外で実習を行うのが適当です。詳細は教育実習担当教員に問い合せてください。

横浜市立中学校での教育実習を希望する場合（横浜市との連携協定による教育実習方式）

教育実習の申請には内諾方式と一括方式があり、一括方式の対象者は横浜市の教員を目指すことを原則とします。

※本学では「一括方式」を原則としています。

・内諾方式・・・横浜市立の特定の中学校におけるボランティア等で、その学校との間に一定の信頼関係がある場合などに申請可能です。（３年次の４月～６月）。

・一括方式・・・３年次の７月に学内で手続きを行います。（内諾方式に応募し受入不可となった後でも申し込むことが可能です）。

神奈川県公立学校（横浜市立・川崎市立・相模原市立学校を除く）**での教育実習を希望する場合**

神奈川県外の学校を卒業し、神奈川県公立学校教員採用候補者選考試験を受験予定の者は神奈川県公立学校に一括申請ができます。３年生の４月～５月に大学から受入依頼の申請を行います。

東京都公立学校での教育実習を希望する場合

東京都出身者（高校卒業時まで東京都内在住）かつ、東京都公立学校教員採用候補者選考試験を受験予定の者は東京都公立学校に一括申請ができます。３年生の９月～10月に大学から依頼申請書を東京都教育委員会に提出します。

上記以外での教育実習を希望する場合

２年生のうちに教育実習担当教員と相談してください。実習先は学生自身で探し、内諾が取れたら教育実習担当教員と教職・実習センターに連絡してください。

その後、正式な手続きを行う必要があります。

早めに準備して個人の責任で行う必要があり、大学は支援するだけです。

７．教員免許状の申請について

教員免許状は、教育職員免許法を基に本学の定めた所定の単位を修得し、卒業に必要な単位を満たした者を神奈川県教育委員会へ申請することによって授与されます。

４年生は、10月に学内で一括申請手続きを行うことにより、３月の卒業式で教員免許状を受け取ることができます。

８．その他

（１）横浜市などの各自治体や学校で、公開授業、学校ボランティアなどが提供されています。授業でもその機会を紹介していますので随時授業に影響のないように参加しましょう。教職・実習センターに相談してください。

（２）教育実習や介護等体験の際、教職・実習センターで**『実習参加証明書』**の発行を受けることができます。事前に欠席する授業の担当教員へ提出し、実習参加による欠席であることを説明してください。ただし、欠席の扱いの判断は授業担当教員にゆだねられています。

（３）教育実習の実習先に通うための通学定期を購入することができます。通学証明書発行には１ヶ月以上かかるので、早めに学生支援課に申込みを行う必要があります。

＜Q＆A＞

質問

「社会科に関する教員免許状は、「中学校社会」「高等学校地理歴史」「高等学校公民」の３教科を取っておいた方がよいでしょうか。」

答え

原則として中学校教員になる場合は「中学校社会」、高等学校教員になる場合は「高等学校地理歴史」か「高等学校公民」のいずれかの教員免許状を取得していればよいことになります。しかし、**現実には「中学校社会」、「高等学校地理歴史」、「高等学校公民」の３教科を取得していることが望ましいとする傾向はあります。**特に私学では採用の段階でそのことを条件とする場合も増えてきています。また、公立学校でも東京都は中学・高校両方取得していることが、神奈川県（高校）は地歴・公民両方取得していることが採用の条件になっています。本学の国際学科で取得を目指すのは、「中学校社会」に加え「高等学校地理歴史」または「高等学校公民」のいずれかが原則です。しかしながら教育が多様化し中高一貫校も増えており、可能な範囲で３教科の免許状取得を目指すことは必要かもしれません。もしも４年間で取得できなくても必要単位を少しでも多く取得しておけば、卒業延期や卒業後の科目等履修生など様々な方法で免許教科を追加する方法があります。

質問

「留学や短期の語学研修等を希望していますが、２年生後期に実施される語学留学をしても、４年生の卒業式の日に教員免許状を手にすること可能でしょうか。」

答え

２年生後期の語学留学をしても、４年生の卒業式の日に教員免許状を手にすることは可能です。

ただし３年生の後期に、留学のため取得出来ない２年後期の教職科目（「教育心理学」「教育の方法と技術」など）を同時履修する必要があるため大変ではありますが、留学は貴重な経験となります。

しかしながら、**２年生以降に１年間留学した場合は、４年間で教職の必要単位を満たすことができなくなる**ため、**卒業延期制度**や**科目等履修生制度**を利用することになります。

「英語」教職の学生に限らず、中学校「社会」や高等学校「公民」「地理歴史」を教える場合も、国際交流センターの留学（短期研修）プログラムにも積極的に参加しましょう。

質問

「一般企業に就職するかどうか迷い、途中で教員免許状を取得するのに必要な科目の履修を辞めてしまったが、卒業後に教員免許状を取得するにはどうすれば良いか。」

答え

卒業してから、通信制や他大学で必要な科目を履修して必要な単位を満たすことが必要です。

介護等体験、教育実習、教職実践演習などは、どこかの大学に所属しないとできません。

その場合、本学又は外部からの実習生の受け入れを行っている大学の科目等履修生となり、必要な手続きを行う必要があります。

科目等履修生の登録には、別途手続きが定められています。必ず事前にゆとりを持って志望する大学に問い合わせてください。

法律で定められた必要単位を満たし、個人で都道府県教育委員会に申請をすれば、教員免許状が授与されます。

この表は、免許法上の最低必要単位数と本学での必要単位数の比較です（参考として掲載）。
本学における免許取得のための必要単位数は、次頁以降の科目表ページで分かるようになっていますので、よく確認してください。
（免許法上の最低必要単位数を取得していても、本学での必要単位数を満たしていないと、本学卒業時に免許を受け取ることはできません。）

総合心理学科〈中学校教諭一種（社会）〉

免許法上の最低必要単位数		本学での必要単位数
①教科及び教科の指導法に関する科目	28単位	**必修26単位・選択2単位（合計28単位）**
②教育の基礎的理解に関する科目	10単位	**必修12単位**
③道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10単位	**必修10単位**
④教育実践に関する科目	7単位	**必修8単位**
⑤大学が独自に設定する科目 （①～④ の免許法上の最低必要単位数を超えた単位も含む。）	4単位	**必修3単位** ②教育の基礎的理解に関する科目で2単位、 ④教育実践に関する科目で1単位、 合計3単位の余剰を含め6単位となり、免許法上の必要単位を満たす
合計	59単位	**61単位**

総合心理学科〈高等学校教諭一種（公民）〉

免許法上の最低必要単位数		本学での必要単位数
①教科及び教科の指導法に関する科目	24単位	**必修12単位・選択12単位（合計24単位）**
②教育の基礎的理解に関する科目	10単位	**必修12単位**
③道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	8単位	**必修8単位**
④教育実践に関する科目	5単位	**必修6単位**
⑤大学が独自に設定する科目 （①～④ の免許法上の最低必要単位数を超えた単位も含む。）	12単位	**合計10単位** 必修2単位【⑤大学が独自に設定する科目区分】 選択8単位【①区分から8単位（ただし、①区分として取得する24単位とは別枠）】 ②教育の基礎的理解に関する科目で2単位、 ④教育実践に関する科目で1単位、 合計3単位の余剰を含め13単位となり、免許法上の必要単位を満たす
合計	59単位	**60単位**

国際学科〈中学校教諭一種（社会）〉

免許法上の最低必要単位数		本学での必要単位数
①教科及び教科の指導法に関する科目	28単位	**必修26単位・選択2単位（合計28単位）**
②教育の基礎的理解に関する科目	10単位	**必修12単位**
③道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10単位	**必修10単位**
④教育実践に関する科目	7単位	**必修8単位**
⑤大学が独自に設定する科目 （①～④ の免許法上の最低必要単位数を超えた単位も含む。）	4単位	**必修3単位** ②教育の基礎的理解に関する科目で2単位、 ④教育実践に関する科目で1単位、 合計3単位の余剰を含めて6単位となり、免許法上の必要単位を満たす
合計	59単位	**61単位**

国際学科〈高等学校教諭一種（地歴・公民）〉

免許法上の最低必要単位数		本学での必要単位数
①教科及び教科の指導法に関する科目	24単位	**〈地歴〉必修14単位・選択10単位（合計24単位）** **〈公民〉必修12単位・選択12単位（合計24単位）**
②教育の基礎的理解に関する科目	10単位	**必修12単位**
③道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	8単位	**必修8単位**
④教育実践に関する科目	5単位	**必修6単位**
⑤大学が独自に設定する科目 （①～④ の免許法上の最低必要単位数を超えた単位も含む。）	12単位	**合計10単位** 必修2単位【⑤大学が独自に設定する科目区分】 選択8単位【①区分から8単位（ただし、①区分として取得する24単位とは別枠）】 ②教育の基礎的理解に関する科目で2単位、 ④教育実践に関する科目で1単位、 合計3単位の余剰を含めて13単位となり、免許法上の必要単位を満たす
合計	59単位	**60単位**

国際学科〈中学校教諭一種（英語）〉

免許法上の最低必要単位数		本学での必要単位数
①教科及び教科の指導法に関する科目	28単位	**必修20単位・選択8単位（合計28単位）**
②教育の基礎的理解に関する科目	10単位	**必修12単位**
③道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10単位	**必修10単位**
④教育実践に関する科目	7単位	**必修8単位**
⑤大学が独自に設定する科目 （①～④ の免許法上の最低必要単位数を超えた単位も含む。）	4単位	**必修3単位** ②教育の基礎的理解に関する科目で2単位、 ④教育実践に関する科目で1単位、 合計3単位の余剰を含めて6単位となり、免許法上の必要単位を満たす
合計	59単位	**61単位**

国際学科〈高等学校教諭一種（英語）〉

免許法上の最低必要単位数		本学での必要単位数
①教科及び教科の指導法に関する科目	24単位	**必修16単位・選択8単位（合計24単位）**
②教育の基礎的理解に関する科目	10単位	**必修12単位**
③道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	8単位	**必修8単位**
④教育実践に関する科目	5単位	**必修6単位**
⑤大学が独自に設定する科目 （①～④ の免許法上の最低必要単位数を超えた単位も含む。）	12単位	**合計10単位** 必修2単位【⑤大学が独自に設定する科目区分】 選択8単位【①区分及び⑤区分の選択科目から8単位（ただし、①区分として取得する24単位とは別枠）】 ②教育の基礎的理解に関する科目で2単位、 ④教育実践に関する科目で1単位、 合計3単位の余剰を含めて13単位となり、免許法上の必要単位を満たす
合計	59単位	**60単位**

く教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 で定める科目＞全ての免許課程共通

免許法上（第 66 条の 6）		本学での必要単位数
日本国憲法	2単位	**日本国憲法 2単位**
体育	2単位	**①健康科学（講義・実技）、②スポーツ科学A･B･C** **→ ①または②の中から合計2単位**
外国語コミュニケーション	2単位	**Sophomore English AⅠ･AⅡ・BⅠ･BⅡ** **→ 各1単位　合計4単位**
数理、データ活用　及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2単位	**基礎情報科学Ⅰ･Ⅱ → 各2単位　合計4単位**
合計	8単位	**12単位**

◇中学校教諭一種（社会）・高等学校教諭一種（公民）免許課程科目（総合心理学科適用）

中学校教諭一種（社会）免許課程

①p.192の≪教職免許法施行規則第66条の6で定める科目≫を12単位修得すること。（全ての免許課程共通）
②下の表≪**教科及び教科の指導法に関する科目**≫および≪**大学が独自に設定する科目**≫の中学（社会）科目から、
必修の15科目（29単位）を修得、更に**選択必修科目**から**1科目（2単位）**を修得すること。
③p.192の≪教育の基礎的理解に関する科目等≫を30単位修得すること。

高等学校教諭一種（公民）免許課程

①p.192の≪教職免許法施行規則第66条の6で定める科目≫を12単位修得すること。（全ての免許課程共通）
②下の表≪**教科及び教科の指導法に関する科目**≫および≪**大学が独自に設定する科目**≫の高校（公民）科目から、
必修の7科目（14単位）を修得、更に**選択必修科目**から**10科目（20単位）**を修得すること。
③p.192の≪教育の基礎的理解に関する科目等≫を26単位修得すること。

≪教科及び教科の指導法に関する科目≫

免許法上の科目区分		本学での開講科目						
		共通科目資格	科目名	履修年次（表記された学年での履修が望ましい）	必修◎		履修制限	単位
中学	高校				中学（社会）	高校（公民）		
日本史・外国史		—	日本史概説	1	◎			2
		—	外国史概説	1	◎			2
地理学（地誌を含む。）		—	人文地理学	1	◎			2
		—	自然地理学	1	◎			2
		—	世界地誌	1	◎			2
法律学、政治学	法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）	—	法学	1	◎	◎		2
		—	政治学	1	▽	▽		2
社会学、経済学	社会学、経済学（国際経済を含む。）	—	社会調査演習Ⅰ	3	▽	▽		2
		—	社会調査演習Ⅱ	3	▽	▽		2
		—	社会調査法	1	▽	▽		2
		—	社会学概論Ⅰ	1	◎	◎		2
		—	社会学概論Ⅱ	1	▽	▽		2
		—	ジェンダースタディーズB	2	▽	▽		2
		—	家族と社会	1	▽	▽		2
		—	家族関係論	1	▽	▽		2
		—	文化人類学	1	▽	▽		2
哲学、倫理学、宗教学	哲学、倫理学、宗教学、心理学	—	哲学概論	2	◎	◎		2
		—	生命倫理	2	▽	▽		2
		—	宗教学概論Ⅰ	1	◎	◎		2
		—	宗教学概論Ⅱ	1	▽	▽		2
		—	宗教社会学	2	▽	▽		2
		—	死生学概論	1	▽	▽		2
		—	臨床死生学	3	▽	▽		2
		—	発達心理学	1		▽		2
		—	メディア心理学	2		▽		2
		—	社会・集団・家族心理学	2		▽		2
		—	知覚・認知心理学	1		▽		2
		—	対人社会心理学	2		▽		2
		—	臨床心理学概論	1		▽		2
		—	臨床心理学各論B	2		▽		2
		—	臨床心理学各論C	2		▽		2
		—	親子の臨床心理学	2		▽		2
		—	司法・犯罪心理学	2		▽		2
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	—	社会科・地歴科教育法Ⅰ	3	◎		※1	2
		—	社会科・地歴科教育法Ⅱ	3	◎		※1	2
		—	社会科・公民科教育法Ⅰ	3	◎	◎	※1	2
		—	社会科・公民科教育法Ⅱ	3	◎	◎	※1	2

≪大学が独自に設定する科目≫

免許法上の科目区分	本学での開講科目						
	共通科目資格	科目名	履修年次（表記された学年での履修が望ましい）	必修◎		履修制限	単位
				中学（社会）	高校（公民）		
大学が独自に設定する科目	○	介護等体験	3	◎		※1	1
	○	ICT演習	2	◎	◎	※1	2

※1 教職課程履修登録者のみ履修可能。（人数制限をする場合がある）

◇中学校教諭一種（社会）・高等学校教諭一種（地歴・公民）免許課程科目（国際学科適用）

中学校教諭一種（社会）免許課程

①p.192の≪教職免許法施行規則第66条の6で定める科目≫を12単位修得すること。（全ての免許課程共通）
②下の表≪**教科及び教科の指導法に関する科目**≫および≪**大学が独自に設定する科目**≫の中学（社会）科目から、
必修の15科目（29単位）を修得、更に**選択必修科目**から**1科目（2単位）**を修得すること。
③p.192の≪教育の基礎的理解に関する科目等≫を30単位修得すること。

高等学校教諭一種（地歴）免許課程

①p.192の≪教職免許法施行規則第66条の6で定める科目≫を12単位修得すること。（全ての免許課程共通）
②下の表≪**教科及び教科の指導法に関する科目**≫および≪**大学が独自に設定する科目**≫の高校（地歴）科目から、
必修の8科目（16単位）を修得、更に**選択必修科目**から**9科目（18単位）**を修得すること。
③p.192の≪教育の基礎的理解に関する科目等≫を26単位修得すること。

高等学校教諭一種（公民）免許課程

①p.192の≪教職免許法施行規則第66条の6で定める科目≫を12単位修得すること。（全ての免許課程共通）
②下の表≪**教科及び教科の指導法に関する科目**≫および≪**大学が独自に設定する科目**≫の高校（公民）科目から、
必修の7科目（14単位）を修得、更に**選択必修科目**から**10科目（20単位）**を修得すること。
③p.192の≪教育の基礎的理解に関する科目等≫を26単位修得すること。

≪教科及び教科の指導法に関する科目≫

免許法上の科目区分		本学での開講科目							
		共通資格科目	科目名	履修年次（表記された学年での履修が望ましい）	必修◎			履修制限	単位
中学	高校				中学（社会）	高校（地歴）	高校（公民）		
日本史・外国史	日本史	ー	日本史概説	1	◎	◎			2
	外国史	ー	外国史概説	1	◎	◎			2
		ー	国際関係史	2	▽	▽			2
地理学（地誌を含む。）	人文地理学、自然地理学	ー	人文地理学	1	◎	◎			2
		ー	自然地理学	1	◎	◎			2
		ー	北米入門	1	▽	▽			2
		ー	現代の北米	2	▽	▽			2
		ー	ヨーロッパ・EU入門	1	▽	▽			2
		ー	現代のヨーロッパ・EU	2	▽	▽			2
		ー	北東アジア入門	1	▽	▽			2
		ー	韓国の社会と文化	2	▽	▽			2
		ー	東南アジア入門	1	▽	▽			2
		ー	現代のアジア	2	▽	▽			2
		ー	グローバルサウス論	2	▽	▽			2
		ー	オセアニア入門	1	▽	▽			2
		ー	現代のオセアニア	2	▽	▽			2
	地誌	ー	世界地誌	1	◎	◎			2
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		ー	社会科・地歴科教育法Ⅰ	3	◎	◎		※1	2
		ー	社会科・地歴科教育法Ⅱ	3	◎	◎		※1	2
法律学、政治学	法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）	ー	法学	1	◎		◎		2
		ー	政治学	1	▽		▽		2
		ー	国際関係入門	1	▽		▽		2
		ー	国際関係論	2	▽		▽		2
		ー	安全保障論	3	▽		▽		2
		ー	国際機構論	2	▽		▽		2
		ー	国際協力論	2	▽		▽		2
		ー	国際法	2	▽		▽		2
		ー	公共政策論	3	▽		▽		2
社会学、経済学	社会学、経済学（国際経済を含む。）	ー	マクロ経済学	1	◎		◎		2
		ー	ミクロ経済学	1	◎		◎		2
		ー	国際経済論	2	▽		▽		2
		ー	地球規模問題	3	▽		▽		2
		ー	国際社会学	1	▽		▽		2
		ー	データで読む社会	2	▽		▽		2
		ー	多様性の社会思想	1	▽		▽		2
		ー	多文化社会論	2	▽		▽		2
		ー	社会調査法	1	▽		▽		2
		ー	フィールド調査法	2	▽		▽		2
哲学、倫理学、宗教学	哲学、倫理学、宗教学、心理学	ー	哲学概論	2	◎		◎		2
		ー	宗教と国際社会	2	▽		▽		2
		ー	宗教社会学	2	▽		▽		2
		ー	倫理と人権	1	▽		▽		2
		ー	メディア心理学	2			▽		2
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		ー	社会科・公民科教育法Ⅰ	3	◎		◎	※1	2
		ー	社会科・公民科教育法Ⅱ	3	◎		◎	※1	2

≪大学が独自に設定する科目≫

免許法上の科目区分	本学での開講科目							
	資格共通科目	科目名	履修年次（表記された学年での履修が望ましい）	必修◎			履修制限	単位
				中学（社会）	高校（地歴）	高校（公民）		
大学が独自に設定する科目	○	介護等体験	3	◎			※1	1
	○	ICT演習	2	◎	◎	◎	※1	2

※1 教職課程履修登録者のみ履修可能。（人数制限をする場合がある）

◇中学校教諭一種（英語）・高等学校教諭一種（英語）免許課程科目（国際学科適用）

中学校教諭一種（英語）免許課程

①p.192の≪教職免許法施行規則第66条の6で定める科目≫を12単位修得すること。（全ての免許課程共通）
②下の表**≪教科及び教科の指導法に関する科目≫**および**≪大学が独自に設定する科目≫**の中学（英語）科目から、
必修の12科目（23単位）を修得、更にいずれかの**選択必修科目から4科目（8単位）**を修得すること。
③更に、p.192の≪教育の基礎的理解に関する科目等≫を30単位を修得すること。

高等学校教諭一種（英語）免許課程

①p.192の≪教職免許法施行規則第66条の6で定める科目≫を12単位修得すること。（全ての免許課程共通）
②下の表**≪教科及び教科の指導法に関する科目≫および≪大学が独自に設定する科目≫**の高校（英語）科目から、
必修の9科目（18単位）を修得、更にいずれかの**選択必修科目から8科目（16単位）**を修得すること。
③更に、p.192の≪教育の基礎的理解に関する科目等≫を26単位を修得すること。

≪教科及び教科の指導法に関する科目≫

免許法上の科目区分		本学での開講科目						
中学	高校	資格共通科目	科目名	履修年次（表記された学年での履修が望ましい）	必修◎ 中学（英語）	必修◎ 高校（英語）	履修制限	単位
英語学		―	英語学概論A	2	◎	◎		2
		―	英語学概論B	2	▽	▽		2
英語文学		―	英語文学入門A	1	◎	◎		2
		―	英語文学入門B	1	▽	▽		2
英語コミュニケーション		―	コミュニケーション英文法〈武藤クラスを履修すること〉	2	▽	▽		2
		―	English for Study Abroad A	1	▽	▽		2
		―	English for Study Abroad B〈武藤クラスを履修すること〉	1	▽	▽		2
		―	English for Integrated Learning Ⅰ	2	◎	◎		2
		―	English for Integrated Learning Ⅱ	2	▽	▽		2
		―	English as an International Language	2	▽	▽		2
		―	通訳トレーニング	3	▽	▽		2
		―	翻訳トレーニング	3	▽	▽		2
		―	English for Communication and Discussion	2	▽	▽		2
		―	Presenting in English	3	▽	▽		2
異文化理解		―	English for Intercultural Understanding	2	▽	▽		2
		―	Education around the World	2	▽	▽		2
		―	異文化間コミュニケーション入門	1	◎	◎		2
		―	グローバル時代のコミュニケーション	2	▽	▽		2
		―	グローバリゼーションと文化	2	▽	▽		2
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		―	第二言語習得概論Ⅰ	2	◎	◎		2
		―	第二言語習得概論Ⅱ	2	◎	◎		2
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		―	英語科教育法Ⅰ	3	◎	◎	※1	2
		―	英語科教育法Ⅱ	3	◎		※1	2
		―	英語科教育法Ⅲ	3	◎	◎	※1	2
		―	英語科教育法Ⅳ	3	◎		※1	2

≪大学が独自に設定する科目≫

免許法上の科目区分		本学での開講科目						
中学	高校	資格共通科目	科目名	履修年次（表記された学年での履修が望ましい）	必修◎ 中学（英語）	必修◎ 高校（英語）	履修制限	単位
大学が独自に設定する科目		○	介護等体験	3	◎		※1	1
		○	ICT演習	2	◎	◎	※1	2
		―	英語で紹介する日本A	1	▽	▽		2
		―	英語で紹介する日本B	1	▽	▽		2

※1 教職課程履修登録者のみ履修可能。（人数制限をする場合がある）

◇中学校教諭一種（社会）（英語）・高等学校教諭一種（公民）（地歴）（英語）免許課程科目

≪教育の基礎的理解に関する科目等≫全ての免許課程共通

免許法上の科目区分		本学での開講科目							備考
		資格共通科目	科目名	履修年次 表記された学年での履修が望ましい	必修◎ 中学	必修◎ 高校	履修制限	単位	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	―	教育学概論Ⅰ	1	◎	◎		2	
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	○	教職の理解	2	◎	◎	※1	2	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	○	教育社会学（中・高）	2	◎	◎	※1	2	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	―	教育心理学	2	◎	◎		2	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	―	特別支援教育	3	◎	◎		2	
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	○	教育課程論	2	◎	◎		2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	○	道徳教育の理論と実践	2	◎		※1	2	
	・総合的な学習（探求）の時間の指導法 ・特別活動の指導法	○	特別活動と総合的な学習の時間	2	◎	◎	※1	2	
	・教育の方法と技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	○	教育の方法と技術	2	◎	◎	※1	2	
	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	○	生徒・進路指導の理論と方法	2	◎	◎	※1	2	
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	―	教育相談（中・高）	3	◎	◎		2	
教育実践に関する科目	教育実習	○	学校体験	2	◎	◎	※1	1	
		○	教育実習Ⅰ	4	◎	◎	※1	1	事前・事後指導含む
		○	教育実習Ⅱ	4	◎	◎	※1	2	
		○	教育実習Ⅲ	4	◎		※1	2	
	教職実践演習	○	教職実践演習（中・高）	4	◎	◎	※1	2	

≪教育職員免許法施行規則第66条の6で定める科目≫全ての免許課程共通

免許法上の科目区分	本学での開講科目							必要単位
	資格共通科目	科目名	履修年次 表記された学年での履修が望ましい	必修◎ 中学	必修◎ 高校	履修制限	単位	
第66条の6で定める科目	―	日本国憲法	1	◎	◎		2	2単位取得
	―	スポーツ科学A・B・C	1	▽	▽		各1	このうちから2単位を取得
	―	健康科学（講義・実技）	1	▽	▽		2	
	―	Sophomore English AⅠ・Ⅱ、BⅠ・Ⅱ	2	◎	◎		各1	合計4単位取得
	―	基礎情報科学Ⅰ・Ⅱ	1	◎	◎		各2	ⅠとⅡで4単位取得

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目（「スポーツ科学A・B・C」と「健康科学」（講義・実技）は、対象学科と開講年度を必ず確認してください。）
※1 教職課程履修登録者のみ履修可能。（人数制限をする場合がある）

共通資格科目は、上限単位数を超えて履修登録できます。

5．学芸員資格課程（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）

1．学芸員について

博物館学芸員とは、博物館（美術館、資料館、郷土館、動物園、水族館等も含む）において、博物館法第４条第３項、第４項に規定されている資料の収集、保管、展示および調査研究、その他これと関連する事業について専門的事項をつかさどる職員のことです。

2．取得方法について

博物館学芸員の資格認定を希望する者は、本課程に登録して「必修科目」10科目19単位を修得すれば、卒業と同時に学芸員資格が取得できます。

3．資格取得の証明について

学芸員資格課程の所定の単位修得者には、「資格取得証明書」を、卒業時に大学が発行します。

4．履修方法について

学芸員資格を取得するためには計画的に履修する必要があります。

（1）本課程を履修する場合は、４月または11月に「学芸員ガイダンスⅠ」に出席し、学芸員資格課程登録を行ってください。

（2）実習希望年度の前年度11月に「学芸員ガイダンスⅡ」に出席し、博物館実習の申込を行ってください。

（3）本課程の登録を取り消したい場合は、学生支援課にて必ず取消手続きをしてください。

5．実習について

（1）「博物館実習Ⅰ・Ⅱ」は、講義（事前･事後指導）と実務実習がセットになっています。

（2）実務実習に行くためには、前年度の11月に行われる「学芸員ガイダンスⅡ」に出席する必要があります。

（3）実務実習に行くためには、学年始めに実施する健康診断を受けることが必要です。

（4）実習館園によっては「博物館実習Ⅰ・Ⅱ」以外の科目をすべて履修済み（または履修中）でないと応募できない場合もありますので、計画的に履修しましょう。

6．課程履修費について

本課程に登録するためには学芸員資格課程履修費5,000円（2025年度現在）を「博物館実習Ⅰ・Ⅱ」を履修する年度の10月に納入してください。登録を取り消した場合でも課程履修費は返還できません。

7．課程科目一覧表

本学における学芸員資格課程科目は別表３のとおりです。

「博物館概論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館情報・メディア論」「博物館教育論」「博物館経営論」は、課程登録者以外は人数により履修制限を行う事があります。

8．その他

ガイダンスの詳細や書類の申込期間の連絡など学芸員資格に関することは、全て e-pass でお知らせします。必ず自分で確認してください。不明な点はそのままにせず、お問合せください。

別表３　学芸員資格課程科目（総合心理学科、子ども教育学科、国際学科　適用）

授業科目				履修年次	単位数		授業方法	備考
区分	分野・系	法令上の教科目	本学での開講科目		必修	選択		
学芸員課程科目	必修科目	博物館概論	博物館概論	2・3	2		講義	
		博物館資料論	博物館資料論	2・3	2		〃	
		博物館資料保存論	博物館資料保存論	2・3	2		〃	
		博物館教育論	博物館教育論	2・3	2		〃	
		生涯学習概論	生涯学習概論	2・3・4	2		〃	
		博物館情報・メディア論	博物館情報・メディア論	2・3・4	2		〃	
		博物館経営論	博物館経営論	2・3	2		〃	
		博物館展示論	博物館展示論	2・3	2		〃	
		博物館実習	博物館実習Ⅰ	3・4	1		実習	
		〃	博物館実習Ⅱ	3・4	2		〃	

◇学芸員資格課程科目（総合心理学科・子ども教育学科・国際学科）

科目区分		共通資格科目	授業科目	単位	必修	履修年次 表記された学年での履修が望ましい	履修制限	備考
学芸員課程科目	必修科目	○	博物館概論	2	◎	2・3	△	
		○	博物館資料論	2	◎	2・3	△	
		○	博物館資料保存論	2	◎	2・3	△	
		○	博物館教育論	2	◎	2・3	△	
		○	生涯学習概論	2	◎	2・3・4		
		○	博物館情報・メディア論	2	◎	2・3・4	△	
		○	博物館経営論	2	◎	2・3	△	
		○	博物館展示論	2	◎	2・3		
		○	博物館実習Ⅰ	1	◎	3・4	※	※ 学芸員資格課程登録者に限る
		○	博物館実習Ⅱ	2	◎	3・4	※	

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
△ 人数制限する場合あり
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

共通資格科目およびp.27に掲載されている科目は、上限単位数を超えて履修登録できます。

６．司書資格課程（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）

１．司書について

「司書」は、図書館法でいう「図書館に置かれる専門的職員」のことで、国家資格です。「司書」は、地方公共団体（都道府県、市区町村）の公立図書館をはじめ、国・公・私立大学図書館、学校図書館、その他各種の図書館の図書館業務に従事しています。現在、インターネットその他の高度情報通信ネットワークを通じて、多様な情報を入手し共有し活用し、あらゆる分野の発展に向けて情報の発信が行われています。このようなデジタル社会のなかにあって、利用者が求める情報・資料を、効果的に収集し創造し整理し提供するサービスの担い手が「司書」です。また、利用者からの読書相談に応じて、地域社会の読書活動の推進につとめるとともに、レファレンスサービスや情報サービスなどを提供し、利用者の生涯学習を積極的に支援します。

２．取得方法について

司書の資格取得を希望する学生は、本課程に登録して「必修科目」13科目22単位と「選択科目」２科目４単位以上を修得すれば、卒業と同時に司書資格が取得できます。

３．資格取得の証明について

司書資格課程の所定の単位修得者には、図書館法施行規則第８条により、卒業時に「資格取得証明書」を大学が発行します。

４．履修方法について

本課程ガイダンスに必ず出席し、司書資格課程登録をしてください。なお、本課程の登録を取り消したい場合は、学生支援課にて必ず取消手続きをしてください。

５．実習について

実習はありません。

６．課程履修費について

課程履修の費用は、当面無料です。

７．課程科目一覧表

本学における司書資格課程科目は、別表４のとおりです。
「生活のなかの図書館」「図書・図書館史」は１年次に履修できますので、司書の資格取得を希望する学生は、できる限り１年次に受講してください。

別表４　司書資格課程科目（総合心理学科、子ども教育学科、国際学科　適用）

授業科目				履修年次	単位数		授業方法	備考
区分	分野・系	法令上の教科目	本学での開講科目		必修	選択		
司書課程科目	甲群（必修科目）	生涯学習概論	生涯学習概論	2･3･4	2		講義	
		図書館概論	生活のなかの図書館	1･2･3･4	2		〃	
		図書館情報技術論	図書館情報技術論	2･3･4	2		〃	
		図書館制度・経営論	図書館制度・経営論	3・4	2		〃	
		図書館サービス概論	生涯学習社会と図書館サービス	2･3･4	2		〃	
		情報サービス論	情報サービス論	3・4	2		〃	
		情報資源組織論	情報資源組織論	3・4	2		〃	
		情報資源組織演習	情報資源組織演習Ⅰ	3・4	1		演習	
		〃	情報資源組織演習Ⅱ	3・4	1		〃	
		児童サービス論	子どもの読書支援	3・4	2		講義	
		情報サービス演習	情報サービス演習Ⅰ	3・4	1		演習	
		〃	情報サービス演習Ⅱ	3・4	1		〃	
		図書館情報資源概論	図書館情報資源概論	2･3･4	2		講義	
	乙群（選択科目）	図書館サービス特論	図書館の比較文化論	2･3･4		2	講義	これらのうちより２科目を選択
		図書・図書館史	図書・図書館史	1･2･3･4		2	〃	
		図書館情報資源特論	図書館情報資源特論	2･3･4		2	〃	
		図書館基礎特論	メディア演習A	2･3･4		2	演習	

◇司書資格課程科目（総合心理学科・子ども教育学科・国際学科用）

科目区分		共通資格科目	授業科目	単位	必修	履修年次 表記された学年での履修が望ましい	履修制限	備考
司書課程科目	甲群（必修科目）	○	生涯学習概論	2	◎	2･3･4		
		○	生活のなかの図書館	2	◎	1･2･3･4		
		○	図書館情報技術論	2	◎	2･3･4	※	
		○	図書館制度・経営論	2	◎	3･4	※	
		○	生涯学習社会と図書館サービス	2	◎	2･3･4		
		○	情報サービス論	2	◎	3･4	※	
		○	情報資源組織論	2	◎	3･4	※	
		○	情報資源組織演習Ⅰ	1	◎	3･4	※	
		○	情報資源組織演習Ⅱ	1	◎	3･4	※	
		○	子どもの読書支援	2	◎	3･4		
		○	情報サービス演習Ⅰ	1	◎	3･4	※	
		○	情報サービス演習Ⅱ	1	◎	3･4	※	
		○	図書館情報資源概論	2	◎	2･3･4		
	乙群（選択科目）	○	図書館の比較文化論	2	▽	2･3･4		このうちから2科目4単位を選択
		○	図書・図書館史	2	▽	1･2･3･4		
		○	図書館情報資源特論	2	▽	2･3･4		
		ー	メディア演習A	2	▽	2･3･4	△	

※ 司書資格課程登録者に限る

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
△ 人数制限する場合あり
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

共通資格科目およびp.27に掲載されている科目は、上限単位数を超えて履修登録できます。

7．社会調査士資格（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）

１．社会調査士とは

世論調査やマーケティング調査のように、社会の情報を科学的に集めて分析することは、現代社会でもっとも求められる能力のひとつです。社会調査の手法を学び、統計や世論調査の結果を批判的に分析することのできる能力を持つと認められる資格が「社会調査士」です。調査のエキスパートとして、社会や市場から必要な情報を集める「情報収集力」、情報を正しく読み解く「分析力」、社会人として行政や企業で積極的に社会貢献する「行動力」を身につけましょう。

２．「社会調査士」資格認定

資格は、「社会調査協会」が認定します。具体的には、協会が標準カリキュラムとして認定する各大学の科目の単位を修得し、卒業時に所属大学の連絡責任者（総合心理学科・小寺敦之）を通じて協会に申請を行います。

一般社団法人　社会調査協会　http://www.jasr.or.jp

３．誰でも取得できます

標準カリキュラムの指定科目を取得すれば、誰でも卒業時に資格認定を申請できます（４．を参照）。条件によっては履修中に「キャンディデイト」を申請することもできます。

いずれも、資格認定書は社会調査協会から直接本人に送られます。資格認定申請には費用がかかります。（５．を参照）

４．社会調査士資格取得のための標準カリキュラム

社会調査士資格取得のためにはＡ～Ｇの７群で認定された授業科目の単位を修得する必要があります。申請には、Ａ～Ｇの各科目群の必要単位数を認定科目で満たす必要があります（Ｅ・Ｆはいずれか片方で可）。

「社会調査士」認定の必要単位数	本学の開講科目（開講学科）	共通資格科目
Ａ 社会調査の基本的事項に関する科目（２単位）	「社会調査の基礎」（学部共通）	○
Ｂ 調査設計と実施方法に関する科目（２単位）	「社会調査法」（学部共通）	○
Ｃ 基本的な資料とデータの分析に関する科目（２単位）	「データで読む社会」（学部共通）	○
Ｄ 社会調査に必要な統計学に関する科目（２単位）	「統計学」（学部共通） または 「心理学統計法Ⅰ」（総合心理）	○ ―
Ｅ 多変量解析の方法に関する科目（２単位）	「心理学調査実習」（総合心理）	―
Ｆ 質的な調査と分析の方法に関する科目（２単位）	「フィールド調査法」（学部共通）	○
Ｇ 社会調査を実際に経験し学習する科目（４単位）	「社会調査演習Ⅰ・Ⅱ」（学部共通）	○

５．資格認定費用

社会調査協会に次の資格認定料を納める必要があります。

・資格認定審査手数料は16,500円です。
・卒業より前に「キャンディデイト」を申請する場合も同額です。
・「キャンディデイト」を取得した場合は、卒業時に正規資格に変更する必要があり、その変更手数料が5,500円かかります。

8．認定心理士資格（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）

1．日本心理学会 認定心理士とは

心理学の専門家として仕事をするために必要な最小限の標準的基礎学力と技能を修得している、と日本心理学会が認定した人のことです。正式には「公益社団法人日本心理学会認定心理士」といいます。大学における心理学関係学科が学際性を帯びてきたことも背景に、心理学専攻者としてのアイデンティティを持ち、専門性の向上に資するために設けられた資格です。「認定心理士」資格は、法律によって一定の業務を独占的に遂行することを保証する資格ではありません。この資格は、心理学の標準的な基礎知識と基礎技術を習得していることを公益社団法人「日本心理学会」が正式に認めていることを意味する認定資格です。

2．認定心理士取得条件（概要）

（1）四年制大学を卒業して学士の単位を取得しているか、あるいは大学院修士課程（博士課程前期）を修了して修士の学位を取得していること。基本的には大学において心理学を専攻して卒業していることが期待されるが、以下に示す指定された科目を履修し単位を取得することが必要となるので、その条件を満たせば卒業学科は特に指定されない。

（2）16歳以降、少なくとも２年以上日本に滞在した経験を有する者

（3）認定心理士認定資格細則が指定する心理学関係の所定の単位を取得していること

・必要取得科目並びに単位数…以下の要件を満たし、合計36単位以上修得する。

① 基礎科目（12単位以上）　ａ４単位以上、ｃ４単位以上、ｂ・ｃ合計で８単位以上

領域		本学開講科目で該当する主な科目例
a	心理学概論	「心理学概論Ⅰ」「心理学概論Ⅱ」など
b	心理学研究法	「心理学統計法Ⅰ」「心理学統計法Ⅱ」「心理学研究法」など
c	心理学実験・実習	「心理学実験Ⅰ」「心理学実験Ⅱ」など

②選択科目（16単位以上）　ｄ～ｈの５領域中３領域が各４単位以上かつ計16単位以上

領域		該当する主な科目
d	知覚心理学、学習心理学など	「知覚・認知心理学」「学習・言語心理学」など
e	教育心理学、発達心理学など	「教育・学校心理学」「発達心理学」「青年心理学」など
f	比較心理学、生理心理学など	「神経・生理心理学」「心理学応用実習Ｂ」など
g	人格心理学、臨床心理学など	「臨床心理学概論」「心理的アセスメント」「健康心理学」など
h	社会心理学、産業心理学など	「対人社会心理学」「産業・組織心理学」など

③その他の科目（①②の合計単位数が36単位以上であれば必ずしも必要でない）

i	その他の科目、卒業論文・卒業研究に関わる科目及び複数の関連領域に関わる科目など。

（科目の中には「副次主題」として扱われるものもあり、その場合は修得単位数の１/２単位が認められる）

3．認定心理士申請資格取得のための科目履修について

認定心理士資格申請のためには、上記の要件を満たすよう、資格に必要な科目を履修していく必要があります。

資格取得に必要な履修科目や注意事項については、４月上旬の「認定心理士説明会」で説明がありますので資格取得希望者は必ず出席してください。なお、2027年より規則改正が予定されています。最新情報は説明会時あるいは担当教員に確認してください。認定心理士の上位資格として「認定心理士（心理調査）」資格があります。この資格は、心理調査に関連する専門科目を履修した認定心理士という位置づけです。詳細は、説明会時あるいは担当教員に確認してください。

4．認定心理士資格取得のための申請手続きについて

個人申請が原則です。資格取得希望者が、大学卒業後、通常個人で申請します。

９．公認心理師資格（総合心理学科）

１．公認心理師について

公認心理師とは、登録を受け、公認心理師の名称を用いて、保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、次に掲げる行為を行うことを業とする者をいう。

（１）心理に関する支援を要する者の心理状態を観察し、その結果を分析すること

（２）心理に関する支援を要する者に対し、その心理に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うこと

（３）心理に関する支援を要する者の関係者に対し、その相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うこと

（４）心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供を行うこと

２．公認心理師試験の実施について

公認心理師試験に合格した者は、公認心理師となる資格を有する。試験は、毎年１回以上、文部科学省及び厚生労働省が行う。なお、公認心理師となる資格を有する者が公認心理師となるには、公認心理師登録簿に登録を受けなければならない。

３．受験資格について

（１）大学において心理学その他の公認心理師となるために必要な科目を修めて卒業し、かつ、大学院において必要な科目を修めてその課程を修了した者

（２）大学において心理学その他の公認心理師となるために必要な科目を修めて卒業し、卒業後、文部科学省令及び厚生労働省令で定めた施設において、一定の期間以上、心理に関する支援を要する者に対し援助等を行う行為の業務に従事した者

４．大学においての必要な科目について

公認心理師資格指定科目一覧に示した必要な科目（25科目）を計画的に全て修得すること。

５．「心理演習」の履修条件について

「心理演習」の内容とは、①心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能の習得、②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、④多職種連携及び地域連携、⑤公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、等である。「心理演習」は原則として３年次後期に履修するものとする。「心理演習」を履修するには、以下の（１）～（３）の条件を満たしている必要がある。

（１）総合心理学科に限る。

（２）「心理演習」履修のための先修条件は以下の通り。

指定科目群：「心理学概論Ⅰ」「心理学概論Ⅱ」「臨床心理学概論」「精神疾患とその治療」の４科目。

選択科目群：「福祉心理学」「教育・学校心理学」「司法・犯罪心理学」「産業・組織心理学」「健康・医療心理学」の５科目。

＜登録申請時＞　以下の①②を満たすこと。

①**「指定科目群」**４科目すべてを単位修得していること（当該年度「前期」・「後期」に履修予定であってもよい）。

※当該年度とは、履修予定である「心理演習」の開講年度をさす。

②**「選択科目群」**５科目の中で、最低２科目を単位修得していること（当該年度「前期」・「後期」に履修予定であってもよい）。

＜**「心理演習」開講時（後期）**＞　以下の①②を満たすこと

①**「指定科目群」**４科目すべてを単位修得していること（当該年度「後期」に履修予定であってもよい)。

※＜登録申請時＞に履修予定とした「前期」の指定科目が、１科目でも単位不認定となった場合は、先修条件を満たしていないことになり、当該年度の「心理演習」は受講できない。

②**「選択科目群」**５科目の中で、最低２科目を単位修得していること（当該年度「後期」に履修予定であってもよい)。

（３）「演習実習カード」を提出していること

６.「心理実習」の履修条件について

「心理実習」の内容とは、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の５つの分野において、施設見学等による実習を行い、

①心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、②多職種連携及び地域連携、③公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解等、についての指導を受ける。また、学内において、事前指導及び事後指導等を行う。「心理実習」は原則として４年次前期に履修するものとする。「心理実習」を履修するには、以下の（１）～（５）の条件を満たしている必要がある。

（１）総合心理学科に限る。

（２）先修条件①②を満たしていること。

①**指定科目群**４科目すべての単位を修得していること。

②**選択科目群**５科目のうち、最低２科目の単位を修得していること。

（３）「心理演習」の単位を修得していること。

（４）心理実習費を納入していること。

（５）「演習実習カード」を提出していること。

７．心理実習経費について

「心理実習」に要する諸経費として、20,000円（2025年度現在）を４年次４月に納入すること（詳細は e-pass にて告知する)。なお、心理実習を辞退又は欠席した場合でも、心理実習経費は返還しない。

８．その他

（１）ガイダンスの詳細や「演習実習カード」提出学生への連絡及び心理実習経費等は、e-pass で知らせるので、必ず確認をすること。

（２）本学大学院（臨床心理学領域）に進学を希望する場合、「大学院（臨床心理学領域）内部推薦制度」が設けられているので、内部推薦制度に関するガイダンス等に出て、詳細を確認すること。

公認心理師資格指定科目一覧

2026年度以降　入学生用

	省令で定める科目	配当年次	本学での開講授業科目	備考
	①公認心理師の職責	3	公認心理師の職責	
Ⅰ	②心理学概論	1	心理学概論Ⅰおよび 心理学概論Ⅱ	２科目とも履修しなければならない
	③臨床心理学概論	1	臨床心理学概論	
	④心理学研究法	2	心理学研究法	
	⑤心理学統計法	2	心理学統計法Ⅰ	
	⑥心理学実験	2	心理学実験Ⅰ	
Ⅱ	⑦知覚・認知心理学	1	知覚・認知心理学	
	⑧学習・言語心理学	2	学習・言語心理学	
	⑨感情・人格心理学	2	感情・人格心理学	
	⑩神経・生理心理学	2	神経・生理心理学	
	⑪社会・集団・家族心理学	2	社会・集団・家族心理学	
	⑫発達心理学	1	発達心理学	
	⑬障害者・障害児心理学	2	障害者・障害児心理学	
Ⅲ	⑭心理的アセスメント	2	心理的アセスメント	
	⑮心理学的支援法	3	心理学的支援法	
Ⅳ	⑯健康・医療心理学	2	健康・医療心理学	
	⑰福祉心理学	2	福祉心理学	
	⑱教育・学校心理学	2	教育・学校心理学	
	⑲司法・犯罪心理学	2	司法・犯罪心理学	
	⑳産業・組織心理学	2	産業・組織心理学	
Ⅴ	㉑人体の構造と機能及び疾病	1	人体の構造と機能及び疾病	
	㉒精神疾患とその治療	2	精神疾患とその治療	
	㉓関係行政論	3	関係行政論	
Ⅲ	㉔心理演習（注１）	3	心理演習	
	㉕心理実習（注２）	4	心理実習	

（注１）15人以下のクラスの演習である。

（注２）15人以下のクラスの実習である。保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の５分野に関する施設で80時間以上の実習を行う。

10. 准学校心理士資格（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）

１．准学校心理士とは

「学校心理士」は、学校等をフィールドとした心理教育の専門的援助に関わる資格です。学校生活におけるさまざまな問題について、アセスメント・コンサルテーション・カウンセリングなどを通して、子ども自身、子どもを取り巻く保護者や教師、学校に対して、「学校心理学」の専門的知識と技能をもって、心理教育的援助サービスを行うことのできる者に対して、一般社団法人学校心理士認定運営機構が認定する資格です。**「准学校心理士」**は，学校心理士に準ずる資格です。「准学校心理士」は、大学卒業後、学校心理士対象の研修を受講し、通常より短い実務経験期間（３年間）で「学校心理士」資格を受験することができます。

２．准学校心理士取得条件（申請条件の概要）

申請時に、当該機構から准学校心理士申請加盟校として認定を受けた大学（学部・学科）に**在籍**しており、申請年度に卒業を予定している者で、以下の①基礎資格条件（ＡあるいはＢ）と②それぞれに必要な科目を取得して卒業する予定であることが申請条件となります。①～③を満たしたものに資格が認定されます。

・基礎資格：Ａタイプ（学校教員・保育士類型：教職課程・保育士課程カリキュラム）

① 教員免許または保育士資格を取得して卒業するもの

② 「教育心理学」「発達心理学」「教育相談（幼児理解や保育相談 支援等の関連科目も含む）」
「特別支援教育（障害児保育等の関連科目）」の**４科目の内３科目以上取得**していること

・基礎資格：Ｂタイプ（相談支援機関専門職類型：公認心理師資格カリキュラム）

① 文科省及び厚労省が確認する公認心理師資格カリキュラム対応大学学部を卒業するもの

② 「教育・学校心理学」「発達心理学」「障害者・障害児心理学」「福祉心理学」
「心理的アセスメント」「心理学的支援法」の**６科目すべてを取得**していること

申請書類の審査

③ 「准学校心理士資格認定委員会」が行う**書類審査に合格**したもの

３.【学科別】准学校心理士資格のために必要な取得科目について

総合心理学科・国際学科：Ａタイプ（中・高教職課程を履修している学生）

「教育心理学」「発達心理学」「教育相談（中・高）」「特別支援教育」から３科目６単位以上

総合心理学科：Ｂタイプ（公認心理師資格を目指す学生）

「教育・学校心理学」「発達心理学」「障害者・障害児心理学」「福祉心理学」
「心理的アセスメント」「心理学的支援法」の６科目14単位

子ども教育学科：Ａタイプ（幼稚園免許または保育士資格課程を履修している学生）

「教育心理学」「子どもの心理と発達Ⅰ」「教育相談（子ども）」「特別支援保育論」から３科目６単位以上

４．学校心理士受験資格と資格の有効期間について

准学校心理士は、資格取得後（卒業後）３年間の専門的な実務経験（学校、幼稚園、保育所、教育相談所、児童相談所等）と研修会への出席により、学校心理士への受験資格が与えられます。

准学校心理士の資格有効期間は３年です。なお上記の受験資格は取得後６年までです。また、有効期間は１回に限り更新（３年間）する事も可能です。

５．資格の取得方法と認定について

申請条件を満たす資格取得希望者は、卒業年次（４年生）の７月に申請を行い、その後書類審査に合格したものは11月に資格取得の手続きを行います。申請等の手続きはすべて大学から機構に対して一括で行います。資格は卒業時に授与されます。なお、資格申請にあたっては審査・登録料、年会費等の費用がかかります。

資格取得に必要な条件や注意事項については、４月上旬の「准学校心理士説明会」で説明がありますので参加してください。なお資格取得を希望する４年生は必ず説明会には出席してください。

１１．社会福祉主事任用資格（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）

１．社会福祉主事について

福祉事務所や児童相談所などの公立の福祉機関で働く社会福祉の専門職のことです。

２．取得方法について

厚生労働大臣が指定した社会福祉に関する科目のうちの最低３科目を履修すれば、卒業と同時に「社会福祉主事任用資格」を取得できます（本学で履修できる科目は下の表の通りです。）。なお、「社会福祉主事」は、公務員であることが前提となるので、公務員試験に合格しなければ資格を活かすことができません。

３．履修方法について

下記の表中の本学での開講科目から最低３科目を履修してください。資格取得のための実習はありません。

本学で「Ⅰ」「Ⅱ」となっている科目は、２科目とも履修しなければ、必要な指定科目の１科目分とは認められません。

（2026年度以降入学者）

厚生労働大臣の指定する科目名	本学での開講科目	単位
社会福祉概論	社会福祉	2
児童福祉論	子ども家庭福祉	2
社会学	社会学概論Ⅰ（※）	2
	社会学概論Ⅱ（※）	2
心理学	心理学概論Ⅰ（※）	2
	心理学概論Ⅱ（※）	2
教育学	教育学概論Ⅰ（※）	2
	教育学概論Ⅱ（※）	2
法学	法学	2

（※）ⅠとⅡの両科目を取得しなければなりません。

12. 日本語教育基礎課程（総合心理学科／子ども教育学科／国際学科）

※「登録日本語教員」試験準備課程

１．日本語教育基礎課程について

日本語教育基礎課程は、日本語を外国語として教えるために必要な知識・能力を習得させることを目的とした課程です。本課程を修了すると日本語教員になるための基礎を身につけることができます。

国は日本語教員の国家資格（「登録日本語教員」）を創設し、2024年度から実施を開始しました。これに伴い、これまでの日本語教員資格では、2029年4月以降、認定日本語教育機関として指定された国内の日本語学校等で教えることはできなくなりました。2029年4月以降、認定日本語教育機関で日本語教員をするためには、国が実施する試験と実践研修（教育実習）を受けて合格する必要があります。本課程はそれらに向けた準備学習課程としての役割を果たします。

なお、認定日本語教育機関ではない日本語教育機関（国内の一部の日本語教室や海外の教育機関）で教える場合は、必ずしも登録日本語教員の資格を求められません。また、本課程の履修をせずに登録日本語教員の資格を取る方法もあります。

２．課程修了要件について

日本語教育基礎課程の修了を希望する者は、本課程の「必修科目」10科目20単位と「選択科目」４科目８単位以上を修得すれば、「課程修了証明書」が受けられます。

３．課程修了の証明について

既定の単位を修得した者には「課程修了証明書」を卒業時に大学が発行します。

４．履修方法について

本課程ガイダンスに必ず出席し、日本語教育基礎課程登録をしてください。「日本語教育法ＡⅠ」の初回授業に出席した場合はガイダンスに出席する必要はありません。なお、本課程の登録を取り消したい場合は、学生支援課にて必ず取消手続きをしてください。

５．実習について

実習はありません。

６．課程履修費について

課程履修費は必要ありません。

別表５　日本語教育基礎課程科目（総合心理学科・子ども教育学科・国際学科 適用）

授業科目				履修年次	単位数		授業方法	備考
区分	分野・系		名称		必修	選択		
日本語教育基礎課程科目	必修科目		日本語教育法AⅠ	1・2	2		講義	◇日本語教育法Dは、日本語教育法Bを履修済み、または同時履修の場合のみ履修可
			日本語教育法AⅡ	1・2	2		〃	
			日本語教育法BⅠ	2・3	2		〃	
			日本語教育法BⅡ	2・3	2		〃	
			日本語教育法CⅠ	2・3	2		〃	
			日本語教育法CⅡ	2・3	2		〃	
			日本語教育法DⅠ	2・3・4	2		〃	
			日本語教育法DⅡ	2・3・4	2		〃	
			日本語教育法EⅠ	2・3・4	2		〃	
			日本語教育法EⅡ	2・3・4	2		〃	
	選択必修科目	日本文化・社会	日本史概説	1・2		2	講義	このうちから4単位以上を選択
			英語で紹介する日本A	1・2		2	〃	
			英語で紹介する日本B	1・2		2	〃	
			日本文化入門A	1・2		2	〃	
			日本文化入門B	1・2		2	〃	
			ポップカルチャー論	2・3		2	〃	
		異文化理解	異文化間コミュニケーション入門	1・2		2	講義	このうちから4単位以上を選択
			多様性の社会思想	1・2		2	〃	
			比較文化論	2・3		2	〃	
			多文化社会論	2・3		2	〃	
			グローバル時代のコミュニケーション	2・3・4		2	〃	
			宗教と国際社会	2・3・4		2	〃	

◇日本語教育基礎課程（総合心理学科・子ども教育学科・国際学科 適用）

科目区分			共通資格科目	授業科目	単位	必修	履修年次 表記された学年での履修が望ましい	履修制限	備考
日本語教育基礎課程科目	必修科目		○	日本語教育法ＡⅠ	2	◎	1・2		※ 日本語教育法ＤⅠ/ＤⅡは、日本語教育法ＢⅠ/ＢⅡの少なくともどちらか一方を履修済み、または同時履修の場合のみ履修可
			○	日本語教育法ＡⅡ	2	◎	1・2		
			○	日本語教育法ＢⅠ	2	◎	2・3		
			○	日本語教育法ＢⅡ	2	◎	2・3		
			○	日本語教育法ＣⅠ	2	◎	2・3		
			○	日本語教育法ＣⅡ	2	◎	2・3		
			○	日本語教育法ＤⅠ	2	◎	2・3・4	※	
			○	日本語教育法ＤⅡ	2	◎	2・3・4	※	
			○	日本語教育法ＥⅠ	2	◎	2・3・4		
			○	日本語教育法ＥⅡ	2	◎	2・3・4		
	選択必修科目	日本文化・社会	ー	日本史概説	2	▽	1・2		このうちから4単位以上を選択
			ー	英語で紹介する日本A	2	▽	1・2		
			ー	英語で紹介する日本B	2	▽	1・2		
			ー	日本文化入門A	2	▽	1・2		
			ー	日本文化入門B	2	▽	1・2		
			ー	ポップカルチャー論	2	▽	2・3		
		異文化理解	ー	異文化間コミュニケーション入門	2	▽	1・2		このうちから4単位以上を選択
			ー	多様性の社会思想	2	▽	1・2		
			ー	比較文化論	2	▽	2・3		
			ー	多文化社会論	2	▽	2・3		
			ー	グローバル時代のコミュニケーション	2	▽	2・3・4		
			ー	宗教と国際社会	2	▽	2・3・4		

◎ 必修科目
▽ 選択必修科目
※ 備考欄または表外に履修条件が記載されている

共通資格科目およびp.27に掲載されている科目は、上限単位数を超えて履修登録できます。

海外留学・研修について

１．全学科対象の留学制度

２．海外英語実習

３．国際学科の留学

１．全学科対象の留学制度

１．留学制度について

本学では国際社会で活躍できる人材の育成を目標として、全学科を対象とした３種類の留学制度を設けています。出願にはTOEFL等スコアにおいて、所定の条件を満たす必要がありますので、留学希望者は計画的に準備を進めてください。

留学に関する詳細については、『留学ハンドブック』をよく読んでください。その上で分からないことは、アドバイザーや留学アドバイザー、または国際交流センターに相談してください。

１～３月に出発するプログラムは前年５月に、８～10月に出発するプログラムは前年10～11月に、それぞれ募集要項を掲示します。留学先応募条件や選考スケジュール等詳細は、募集要項で確認してください。

国際学科の留学制度については、後述の「３．国際学科の留学」を参照してください。

① 協定校留学：学内選考を経て、本学が交換留学協定を結んだ大学へ留学します。

種別	国・地域	大学・研修先	期間	出願可能学年	募集人数
協定校	イタリア	サレント大学	9月－翌2月または6月	１－３年	1
			3月－6月または翌2月	２・３年	1
	韓国	中央大学校	9月－12月または翌6月	１－３年	1
			3月－6月または12月	２・３年	1
		梨花女子大学校	9月－12月または翌6月	１－３年	2
			3月－6月または12月	２・３年	1
		建国大学校	9月－12月または翌6月	１－３年	2
			3月－6月または12月	２・３年	1
		釜山外国語大学校	9月－12月または翌6月	１－３年	1
			3月－6月または12月	２・３年	1
	台湾	國立政治大學	9月－翌1月または6月	１－３年	1
	タイ	チュラロンコーン大学	８月－翌５月	１・２年	1
	トルコ	イエディテペ大学	9月－翌1月または6月	１－３年	1

② 推薦校留学：学内選考を経て、本学によって選定された学校のプログラムへ参加します。

種別	国	大学・研修先	期間	出願可能学年	募集人数
推薦校	アメリカ	オレゴン大学	９月－翌３月	１・２年	5
			９月－翌６月	１・２年	5
		センテナリー大学	8月－12月または翌5月	１－３年	5
	オーストラリア	ニューカッスル大学	10月－翌６月	１・２年	5
			３月－11月	２・３年	5
		メルボルン・プログラム	２月－８月	２・３年	5
	ドイツ	ケルン・ビジネス・スクール※	8月－12月または翌6月	１－３年	5
			2月－6月または12月	２・３年	5

※留学までに2学期以上経済学関連の授業を履修していること

③認定校留学：協定校や推薦校以外の大学へ自ら出願し、入学許可を得た場合、本学への申請により適当と認められれば、正規の留学として扱われます。ただし、短期大学、コミュニティ・カレッジおよび語学の習得を目的とした留学は、認定校留学として申請できません。各希望大学への出願や渡航手続きなどは、全て個人で直接行います。

２．単位認定について

上記３種類の留学制度で修得した単位は、本学外国留学規程に則り、所定の手続きと審査により、30単位を上限として本学の単位として認定が可能です。また、留学期間は在学期間に含まれますので、留学時期・期間や履修状況にもよりますが、原則として４年間で卒業することができます。

ただし、本学の留学制度を利用せず、休学して留学する場合は、本学での単位認定および４年間での卒業はできません。

３．学納金および奨学金について

留学中の学費納入は下記の通りです。

協定校留学	本学の授業料等納付金を納めることにより、留学先の授業料が免除されます。
推薦校留学	本学および留学先それぞれに授業料等納付金を納めます。 ただし、本学に納入すべき納付金のうち授業料及び教育充実費の２分の１を減額とします。
認定校留学	本学および留学先それぞれに授業料等納付金を納めます。

・協定校留学・推薦校留学は、選考によって東洋英和女学院大学留学奨励奨学金（20万円～90万円）が支給されます。詳細は巻末の支給要項を参照してください。

・総合型選抜自己推薦［言語・外国語検定活用］で入学した者が協定校留学・推薦校留学・認定校留学の制度により留学した場合に限り、留学期間中の本学の授業料・教育充実費・施設設備資金が免除されます。

※留学に関することは、アドバイザーおよび留学アドバイザー、国際交流センターに相談してください。また、巻末の外国留学規程および『留学ハンドブック』を参照してください。

２．海外英語実習

本学では、実践的な英語力の習得を目的とした科目として「海外英語実習」を設置しています。詳細は、e-pass でお知らせします。

注）４年生は、応募前に事前に相談してください（履修登録ができない場合があります）。

参加および履修に際しての注意事項は次のとおりです。

①　募集説明会に出席し、指定された期日までに応募書類を国際交流センターに提出の上、面接を受けること。
②　参加可否の最終決定は、研修校が行います。
③　研修に関する事務手続きを、各自の責任において行うこと。
④　参加者対象のオリエンテーションに必ず出席すること。
⑤　履修登録は、参加決定後、自動登録されます。
（注）履修登録上限単位数には含まれません。
⑥　履修の取消はできません。
⑦　４月の健康診断を必ず受けること。
⑧　参加費用は自己負担です。
⑨　教職員による引率はありません。
⑩　成績評価は「認定」（２単位）となります。

３．国際学科の留学

１．国際学科の留学について

国際学科では、希望者は学科の専門教育課程の一環として、２年次後期の語学留学に参加することが可能です。ただし、学業成績や留学準備への取り組みに問題がないことが条件となります。留学先および活動内容は、教員の指導のもと、各学生の希望に応じて決めていきます。

留学先および活動内容は以下のとおりです。全学科対象の留学プログラムに参加する場合は、前述「１．全学科対象の留学制度」を参照してください。

留学に関する詳細については、『留学ハンドブック』をよく読んでください。その上でわからないことは、アドバイザーや留学アドバイザー、または国際交流センターに相談してください。語学留学の募集要項は、11月に公開します。留学先や応募条件等の詳細は、募集要項で確認してください。

留学先　（全学科対象の留学制度については、前述「１．全学科対象の留学制度」を参照）

国・地域	留学先	活動内容	言語
カナダ	ヴィクトリア大学ＥＬＣ	語学	英語
	オタワ大学ＯＬＢＩ	語学	
	ブリティッシュ・コロンビア大学ＥＬＩ	語学	
オーストラリア	ニューカッスル大学ＬＣ	語学	
	ホーソン・メルボルン	語学	
スペイン	サラマンカ大学インターナショナル・コース	語学	スペイン語
ドイツ	ライプチヒ大学ヘルダー研究所インターダフ	語学	ドイツ語
フランス	パリ・カトリック学院ＩＬＣＦ	語学	フランス語
韓国	梨花女子大学校言語教育院	語学	韓国語
台湾	國立政治大學華語文教學中心　※	語学	中国語
タイ	タイ・プログラム（チュラロンコーン大学）	語学＋ボランティア	タイ語

※留学先の学事暦により、募集を休止または一部コーススケジュールを変更する場合があります（派遣前年の10月頃に決定）。

２．単位認定について

国際学科の留学は、専門課程の一環として実施され、その期間は在学期間に含まれます。履修状況にもよりますが、原則として４年間で卒業することが可能です。

留学先で履修した科目は、帰国後所定の手続きと審査を経て、合計30単位を上限に本学の単位として認定されます。留学先での授業時間数に応じて本学の単位数に換算されます。授業時間数に応じた単位の換算方法は次の通りです。

語学・実技科目の場合：22.5時間の授業により１単位を認定
講義科目の場合：11.25時間の授業により１単位を認定

留学先で学科指定のボランティア活動に参加して単位修得を希望する場合は、45時間以上の活動を行い、留学アドバイザーの指導に従って「活動内容と活動時間の証明」と「活動レポート」を提出します。活動時間が45時間以上90時間未満は１単位、90時間以上135時間未満は２単位のように、原則として45時間の活動毎に１単位、最大４単位まで自由選択科目の単位として修得できます。

３．履修について

①英語関連科目の履修

英語コミュニケーション能力の育成を重視する国際学科の方針に沿って、本学科の留学希望者は、１年次前期に英語関連科目のうち次の単位を修得しなければなりません。

・「English for Study Abroad B」を１年次のうちに履修・単位修得

１年次に「English for Study Abroad B」の単位を修得できなかった場合、２年次前期に再履修可能ですが、留学前に単位を修得する見込みがなければ、原則として語学留学に参加することができませんので十分注意してください。

・「Freshman English（ＡⅠ、ＢⅠ）」、計２単位修得

２年次後期に留学する場合、２年次後期必修の英語関連科目（「Sophomore English ＡⅡ、ＢⅡ」）については、次のように単位認定または履修します。

・留学先で英語科目を履修した場合

留学先で履修した英語科目の授業時間をもとに、これら２年次後期必修の英語関連科目の単位が認定されるため、通常それらの科目の履修は不要です。

・留学先で英語科目を履修しなかった場合

帰国後の審査で一定の英語力があると認められれば、留学先で履修した他の外国語等の授業時間をもとに、これら２年次後期必修の英語関連科目の単位が認定されるため、それらの科目の履修は不要です（ただし課題等を課すことがある）。審査で一定の英語力があると認められない場合には、３年次後期にこれらの科目の履修が必要になります。

②「留学準備講座」の履修

国際学科の語学留学に参加する学生は、必ず２年次前期に「留学準備講座」の授業を履修し、単位を修得しなくてはなりません。

③ゼミナール科目の履修

ゼミナール科目については、次のように履修してください。

・２年次後期に留学する場合は、留学先で修得した単位を「基礎ゼミナールⅡ」に振り替えるため、帰国後の履修は不要です。

なお、３年次のゼミは２年次の後期に申込みの手続きを行ないますので、e-pass や学科からの連絡に注意してください。

４．学納金および奨学金について

留学期間中は、本学および留学先のそれぞれに授業料等納付金を納めます。ただし、本学に納入すべき納付金のうち授業料及び教育充実費の２分の１を減額とします。

留学費用は留学先や期間等によって異なりますので、詳細は『留学ハンドブック』の「留学プログラムについて」を参照した上で、国際交流センターに確認してください。

５．その他の注意事項

①国際学科の留学オリエンテーションと留学アドバイジングにすべて出席すること。

②アドバイザーおよび留学アドバイザーの指導を必ず受けること。

③４月の健康診断を必ず受けること。

④修得単位数が１年前期に 15 単位以上修得済みで、GPA が 1.8 以上であること。

⑤巻末の「外国留学における安全管理に関する申合せ」を熟読し、それに従うこと。

⑥受入可否の最終決定は、留学先の各受入機関が行います。

⑦プログラム参加にあたっての大学指定事項（指定便での往復渡航等）に従うこと。

单位互换制度

単位互換制度について

単位互換制度とは、この制度に参加する大学が提供する科目を履修し、それを本学の単位として認定してもらうという制度です。この制度においては、各参加大学から、人文科学（哲学、歴史、芸術等）、社会科学（法律・政治・経済等）、自然科学（物理・化学・医学・工学等）のほぼ全分野にわたる科目が提供されています。自分の専攻を深めるため、あるいは自分の大学に無い分野の科目を学ぶためなど、学生の皆さんの幅広い関心と興味に応じた履修の機会が大幅に広がることが期待されます。

本学は、横浜市内大学間単位互換制度に参加しています。本学学生は、本学の定める範囲内において、参加する大学から提供される単位互換科目を履修することができます。互換科目はそれぞれの参加校で定められており、年度の初めに公示されます。

なお、本学が他大学から受け入れる学生は女子に限定しています。

１．横浜市内大学間単位互換制度とは

横浜市内に所在する14の大学は、2001年１月に「横浜市内大学間学術・教育交流協議会」を設立しました。この協議会は、大学における教育・研究の質的向上、地域社会との連携、国公私立大学の特色ある多様な発展が求められている中で、370万の人口を抱える国際都市・横浜に位置する諸大学が、それぞれの設置母体・歴史・学部構成の多様性を生かしつつ、大学間の相互交流・協力関係を確立し、大学諸制度の整備に係る情報を共有し、多様な学習需要に対応した教育機会を提供することをめざしています。単位互換制度は、学生の教育機会の豊富化を図り、主体的な学習意欲を高めていくために、本協議会が2001年４月から開始した最初の事業です。2025年度現在の参加校は、横浜市内の次の12大学です。

神奈川大学	関東学院大学	國學院大學	鶴見大学
桐蔭横浜大学	東京都市大学	東洋英和女学院大学	フェリス女学院大学
明治学院大学	横浜国立大学	横浜商科大学	横浜市立大学

２．出願手続きについて

（１）出願資格

本学の学生は１年次後期から、本学の履修単位上限の範囲内で出願できます。

ただし、卒業年次の学生は、本学開講科目により卒業に必要な単位を充足することを条件とします。

（２）出願方法

原則、下記期間中に本学の学生支援課窓口で出願を受付けます。詳細は別途お知らせします。

〈前期・通年科目〉４月上旬

〈後期科目〉６月下旬

（３）提出書類

１）「横浜市内大学間単位互換履修生登録書」・「横浜市内大学間単位互換履修生授業科目履修出願書」

２）写真２枚

（４）授業料等

授業料は実習・教材費等特別にかかる費用が必要な場合を除いて無料です。

（５）履修許可および仮受講

受け入れ大学の選考結果は、本学から掲示により出願者へ通知します。前期科目・通年科目については、出願後履修許可が通知される前に授業が開始されます。この間は、その単位互換科目を仮受講することができます。

３．単位互換履修生の取扱い

上記の出願手続きを完了した学生は、受け入れ大学における「単位互換履修生」（国立大学においては、「特別聴講学生」）となります。

（１）単位互換履修生は、履修を許可された科目を受講することができ、所定の試験に合格すれば単位の認定を受けることができます。

（２）授業・試験については、すべて受け入れ大学の定める方法に従ってください。なお、本学と受け入れ大学の定期試験の日程が重なった場合、原則として受け入れ大学の定期試験を優先し、本学で追試験を受験してください。

（３）履修期間中は、受け入れ大学の定める範囲内において、図書館など受け入れ大学の施設を利用することができます。

（４）受け入れ大学から、前期科目・通年科目については４月下旬以降、後期科目については７月下旬以降に履修許可通知とともに、「単位互換履修生証」が交付されます。受け入れ大学の授業受講、試験受験、施設利用時には、常に携帯するようにしてください。

（５）休講等の通知について

受け入れ大学によっては大学独自のホームページ等で休講情報を単位互換履修生に公開している大学もあり、履修許可時に利用方法等の案内があります。

４．単位の認定について

単位互換科目は、本学にて卒業に必要な単位（自由選択科目）として認定されます。

５．注意事項

（１）履修希望者は、出願に当たってはしっかりした履修計画を立て、履修許可が出た後に履修を取り止めることのないよう、各自心がけてください。

（２）やむを得ない事情によって、履修を取り止める場合は、本学学生支援課にて所定の手続きをとってください。

（３）卒業年次の学生は、卒業に必要な単位を本学開講科目により取得することを前提に単位互換科目を履修してください。単位互換科目の単位認定時期が遅いことによる卒業判定への影響を考慮した措置です。

（４）単位互換科目は、履修登録上限単位数に含まれます。（上限半期24単位）

2026年３月31日　印刷
2026年４月１日　発行

非　売　品

発行者　東洋英和女学院大学
神奈川県横浜市緑区三保町32番地
電話　（045）922-5511（代表）
印　刷　株式会社　野毛印刷社
神奈川県横浜市南区新川町1-2
電話　（045）252-2511（代表）